

学校教育専修

開設科目	学校教育総合研究 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	西村正登他				

授業の概要 わが国の学校教育の諸問題を教育学、障害児教育、幼児教育の各分野から総合的に考察し、今後の課題について検討する。 / 検索キーワード 学校、教育

授業の一般目標 (1) 教育哲学、教育史、教育方法学、教育社会学、教育制度、社会教育についての概要と課題を理解する。(2) 障害児教育や障害児心理についての概要と課題を理解する。(3) 幼児教育についての概要と課題を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 教育哲学、教育史、教育方法学、教育社会学、教育制度、社会教育、障害児教育、幼児教育 についての概要と課題が理解できる。 思考・判断の観点： 1 . 各専門分野の学習を通して、学校教育に対する思考力や判断力を高めることができる。 関心・意欲の観点： 1 . 各専門分野の学習を通して、学校教育に対する関心や意欲を高めることができる。 態度の観点： 1 . 日常生活の中で学校教育の諸問題について主体的に考えることができる。

授業の計画(全体) 教育哲学、教育史、教育方法学、教育社会学、教育制度、社会教育、障害児教育、幼児教育の各分野を専門の教員が分担して授業する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーションと教育哲学
- 第 2 回 項目 教育哲学
- 第 3 回 項目 教育史
- 第 4 回 項目 教育史
- 第 5 回 項目 教育方法学
- 第 6 回 項目 教育方法学
- 第 7 回 項目 教育社会学
- 第 8 回 項目 教育社会学
- 第 9 回 項目 教育制度
- 第 10 回 項目 教育制度
- 第 11 回 項目 障害児教育
- 第 12 回 項目 障害児教育
- 第 13 回 項目 幼児教育
- 第 14 回 項目 幼児教育
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 各授業担当の教員が評価したものを総合して平均値を出す。

教科書・参考書 教科書： 使用しない。各教員がプリント等を準備する。 / 参考書： 使用しない。

メッセージ 授業には欠席しないようにして下さい。

連絡先・オフィスアワー 各授業担当の教員

開設科目	教育哲学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	西村正登				

授業の概要 シュプランガーの生涯と教育哲学について学習し、理解を深める。特にシュプランガーの教育哲学を構成する要素を分析した上で、それらが体系的にどのように構築されているのかについて考察する、また、教育学の固有性がどのような点にあるのかについても理解を深め、教育の本質的な意味について探究する。/ 検索キーワード シュプランガー、教育哲学、教育学の固有性

授業の一般目標 1. シュプランガーの生涯について学習し、理解する。 2. シュプランガーの教育哲学について学習し、体系的に理解する。 3. 教育学の固有性について理解し、考察を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. シュプランガーの生涯について理解できる。 2. シュプランガーの教育哲学を体系的に理解できる。 3. 教育学の固有性について理解できる。 思考・判断の観点： 1. シュプランガーの生涯からその生き方を学び、考察を深める。 2. シュプランガーの教育哲学を通して、教育の本質的な意味についての考察を深める。 関心・意欲の観点： 1. シュプランガーの生涯や教育哲学から、人物研究への関心や意欲を高める。 態度の観点： 1. 教育哲学研究に対する意欲的な態度を形成する。 技能・表現の観点： 1. 授業を通して考察したことを表現する能力を高める。

授業の計画(全体) シュプランガーの生涯と教育哲学を関連させながら理解できるように、両者のバランスをとってシラバスを構成し、授業計画を立てた。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 シュプランガーの生涯(1) 内容 誕生～青年期
- 第2回 項目 シュプランガーの生涯(2) 内容 ベルリン大学学生期
- 第3回 項目 シュプランガーの生涯(3) 内容 ライプツヒ時代
- 第4回 項目 シュプランガーの生涯(4) 内容 ベルリン大学教授期
- 第5回 項目 シュプランガーの生涯(6) 内容 独裁政治の時代
- 第6回 項目 シュプランガーの生涯(7) 内容 チュービンゲン時代
- 第7回 項目 シュプランガー教育学の哲学的構造(1) 内容 精神科学的教育学の哲学的構造
- 第8回 項目 シュプランガー教育学の哲学的構造(2) 内容 主観的精神、客観的精神、規範的精神の相違
- 第9回 項目 シュプランガー教育学の哲学的構造(3) 内容 6つの価値類型と個性類型
- 第10回 項目 シュプランガー教育学の哲学的構造(4) 内容 基礎陶冶・職業陶冶・一般陶冶
- 第11回 項目 教育学の自律と固有性(1) 内容 ヘルバルト教育学の批判
- 第12回 項目 教育学の自律と固有性(2) 内容 ナトルプ教育学の批判
- 第13回 項目 教育学の自律と固有性(3) 内容 教育学の固有性とは何か
- 第14回 項目 教育学の自律と固有性(4) 内容 教育学の学問としての自律
- 第15回 項目 まとめ 内容 授業の整理とまとめ

成績評価方法(総合) 毎時間、院生に分担してレポートさせ、それを基にしながら全員で討論を深めていく。筆記試験は行わないが、授業でのレポートと理解力、表現力等を総合的に判断して評価する。

教科書・参考書 教科書：シュプランガーの教育学・倫理学・宗教学に関する研究、山置スアムツァ。ヲタセツシタオナミ、二 楸軌藐 罐札鴉拭 1998

メッセージ 授業ではレポーターを決めて毎時間発表してもらいます。レポーターはテキスト以外の関連文献もよく調べてプリントにまとめて下さい。

連絡先・オフィスアワー masaton@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 A棟 3階 教育哲学研究室

開設科目	教育史特論	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	福田修				

授業の概要 古代から現代までを視野におき，日本の現代教育の諸問題との関連を踏まえ，特に近代の教育の歴史的展開を考える．文献講読． / 検索キーワード 日本教育，近代，歴史的展開

授業の一般目標 日本の教育の歴史的構造・展開を理解する．

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本の教育の歴史的構造・展開が説明できる． 思考・判断の観点：授業で取り上げた問題について，自分の考えをわかりやすく論理的に説明できる． 関心・意欲の観点：教育問題を歴史的に考察しようとする． 態度の観点：教育について継続的に考え議論を積み上げることができる．

授業の計画（全体） 文献を講読する．

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標，進め方．テキストの指定．評価方法
- 第 2 回 項目 講読 1 授業外指示 テキストの予習 授業記録 レジюме
- 第 3 回 項目 講読 2 授業外指示 テキストの予習 授業記録 レジюме
- 第 4 回 項目 講読 3 授業外指示 テキストの予習 授業記録 レジюме
- 第 5 回 項目 講読 4 授業外指示 テキストの予習 授業記録 レジюме
- 第 6 回 項目 講読 5 授業外指示 テキストの予習 授業記録 レジюме
- 第 7 回 項目 講読 6 授業外指示 テキストの予習 授業記録 レジюме
- 第 8 回 項目 講読 7 授業外指示 テキストの予習 授業記録 レジюме
- 第 9 回 項目 講読 8 授業外指示 テキストの予習 授業記録 レジюме
- 第 10 回 項目 講読 9 授業外指示 テキストの予習 授業記録 レジюме
- 第 11 回 項目 講読 10 授業外指示 テキストの予習 授業記録 レジюме
- 第 12 回 項目 講読 11 授業外指示 テキストの予習 授業記録 レジюме
- 第 13 回 項目 講読 12 授業外指示 テキストの予習 授業記録 レジюме
- 第 14 回 項目 まとめ 授業記録 レジюме
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 毎回の発表内容を評価する．欠席回数が授業実施回数の 3 分の 1 以上に及んだ場合は単位は認められない．

教科書・参考書 教科書：第 1 回目の授業で指定する．

開設科目	教育メディア特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	林徳治				

授業の概要 授業での児童生徒と教師間におけるコミュニケーション活動の改善をめざした「わかる」、「楽しい」、「役に立つ」授業づくりにおける教育メディアの意義や役割を学び、効果的な教材開発を通じた授業づくりについて教育実践学の見地より探究する。具体的な項目は以下の通りである。1. 教育メディアの特性を理解し、各々の教材作成ができる 2. 授業の分析(数量的、質的)ができる 3. プレゼンテーション技術(表現伝達)について改善できる 4. 改善された授業設計、訓練方法、評価について実践できる。

授業の一般目標 教授・学習過程(授業)において、教授者・学習者間での相互理解を深める授業設計や評価方法について習得する。とくに教育メディアの意義や役割、特徴について理解し情報機器など今日的な教育メディアを効果的に活用した教材開発を通し授業設計-実施-評価による授業技術を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 教授学習過程におけるコミュニケーションの定義 コミュニケーション改善のための基本的な要素の分析 コミュニケーション能力の評価の観点 思考・判断の観点: 論理的、批判的な思考力と判断力 妥協、受容能力 オーディエンス能力 イメージマッピングによる評価能力
関心・意欲の観点: 教育メディアに対する興味関心 態度の観点: 自発的、独創的に取り組む姿勢
技能・表現の観点: メディアを利用したプレゼンテーションの実施・評価を通しての実践力

授業の計画(全体) 授業(コミュニケーション)における教育メディアの意義や役割を習得した上で、主にプレゼンテーション技術の習得をめざした自己表現伝達技術の設計・実施・評価を行う。このプロセスを通してメディア利用の教材開発手法、プレゼンテーション訓練方法(マイクロプレゼンテーション)、評価方法・内容について習得する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 教育方法・技術の意義と役割 内容 教育方法の歴史と今日的課題
- 第2回 項目 教授学習過程(教育的コミュニケーション) 内容 3方向のコミュニケーション
- 第3回 項目 教育メディアの意義と役割 内容 教育メディアの特徴
- 第4回 項目 コミュニケーション分析 内容 言語、非言語、メディア
- 第5回 項目 授業の構成 内容 行動主義と構成主義
- 第6回 項目 授業分析 内容 フランダースのカテゴリー分析
- 第7回 項目 授業分析 内容 教師の発問
- 第8回 項目 授業の評価 内容 ポートフォリオ
- 第9回 項目 授業事例による分析1 内容 小学校
- 第10回 項目 授業事例による分析2 内容 中・高等学校
- 第11回 項目 教員研修事例による分析 内容 現職教員研修
- 第12回 項目 プレゼンテーション演習1 内容 設計、強制連結法
- 第13回 項目 プレゼンテーション演習2 内容 マイクロプレゼンテーション
- 第14回 項目 プレゼンテーション演習3 内容 評価
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、発表(プレゼン)や授業内での製作作業、教員への発信(質問等)、出席等を総合して評価する。

教科書・参考書 教科書: 情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術, 林徳治, ぎょうせい, 2000年; 情報教育の理論と実践, 林徳治, 実教出版, 2002年; 必携! 相互理解を深めるコミュニケーション実践学, 林徳治、沖裕貴, ぎょうせい, 2000年

連絡先・オフィスアワー E-mail hayashi9@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター 1階

開設科目	教育制度特論	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	佐々木司				

授業の概要 教育制度について、毎回指定文献（和文・英文）をすべての参加者が読んできて議論する。主にアメリカと日本の学校を取り扱う。

授業の一般目標 教育制度の諸課題を把握し、それを踏まえた上で自分なりの教育制度改革案を作成・発表する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 日本の学校の特徴 1
- 第 3 回 項目 日本の学校の特徴 2
- 第 4 回 項目 日本の組織の特徴 1
- 第 5 回 項目 日本の組織の特徴 2
- 第 6 回 項目 義務教育制度 1
- 第 7 回 項目 義務教育制度 2
- 第 8 回 項目 学校選択制度 1
- 第 9 回 項目 学校選択制度 2
- 第 10 回 項目 学校選択制度 3
- 第 11 回 項目 学校評価制度 1
- 第 12 回 項目 学校評価制度 2
- 第 13 回 項目 まとめ 1
- 第 14 回 項目 まとめ 2
- 第 15 回 項目 まとめ 3

メッセージ 授業の詳細については、第 1 回目の授業（オリエンテーション）で詳しく伝える。相当量の予習を前提としている。

開設科目	国際理解教育特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	石井由理				

授業の概要 国際理解教育の用語、歴史、理念、含まれる事項、実践事例等について講義する。文献やビデオ、エクササイズを用いて受講者が批判的思考ができるように支援する。 / 検索キーワード 国際理解教育、ユネスコ、異文化理解

授業の一般目標 国際理解教育の理念や誕生の背景、現状について知る。メディアが伝える他文化に関する情報に対して、批判的な視点をもって判断をできる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：国際理解教育についての知識を広げる。国際理解教育の複雑さについて理解する。地球システムの中にいる自分を認識する。思考・判断の観点：国際理解教育について自分の意見をもつことができる。批判的思考ができる。関心・意欲の観点：国際理解教育の視点をもって自分の生活スタイルに関心をもってみつめなおす。授業で紹介された事例以外にも自分で関心のある分野を発展的に研究する。態度の観点：ユネスコの提唱する「平和の文化」に参加しようとする態度をもつ。技能・表現の観点：討議に参加し、自分の意見を論理的に述べるができる。自分の関心のあるテーマを見つけ、調査し、レポートにまとめることができる。

授業の計画(全体) 国際理解教育とは、定まった定義があるのではなく、時代や場所によって様々な変遷をとげるものだということを、文献や映像を通して学ぶ。また、自分もその変遷の中にいる参加者だという自己認識を、討議やエクササイズを通して高める。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 国際理解教育とは何か 内容 授業説明国際理解教育に関連のある概念
- 第2回 項目 国際理解教育という概念の形成 内容 国際理解教育の成り立ちについての講義
- 第3回 項目 ユネスコと国際理解教育 内容 国際理解教育の成り立ちについての講義
- 第4回 項目 ユネスコと国際理解教育 内容 国際理解教育の成り立ちについての講義
- 第5回 項目 ユネスコと国際理解教育 内容 1960年代の社会背景
- 第6回 項目 ユネスコと国際理解教育 内容 1970年代の時代背景と1974年国際教育勧告
- 第7回 項目 ユネスコと国際理解教育 内容 1974年勧告後の各国の実践努力
- 第8回 項目 ユネスコと国際理解教育 内容 1980年代プルントラント委員会
- 第9回 項目 1990年代から現在 内容 1990年代の社会背景
- 第10回 項目 1990年代から現在 内容 コソボの学校
- 第11回 項目 1990年代の教育政策 内容 ノルウェー、イギリス、日本の例
- 第12回 項目 マスメディアと国際理解教育 内容 ルワンダでの虐殺
- 第13回 項目 マスメディアと国際理解教育 内容 日本の事例映画の例
- 第14回 項目 マスディアと国際理解教育 内容 映画の例
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 中間および期末のレポートによる

教科書・参考書 教科書：プリント等を使用 / 参考書：南北問題と開発教育, 田中治彦, 亜紀書房, 1994年; 異文化コミュニケーション教育, 青木順子, 溪水社, 1999年; 国際理解教育, 永井滋郎, 第一学習社, 1989年; イギリスのグローバル教育, 木村一子, 勁草書房, 2001年

連絡先・オフィスアワー 教育学部2階200-(1)室 オフィスアワーは初回授業時に伝達

開設科目	特別支援教育特論	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	松田信夫				

授業の概要 特別支援学校並びに小学校・中学校の特別支援学級に在籍する知的障害児と肢体不自由児を中心とした教育の意義、教育史、制度、教育課程等について、その今日的課題と今後の展望を含めつつ講義する。学校教育現場等での具体的な指導事例や取り組みの内容について視聴覚機器等で紹介しつつ、理論と実践の高度な融合をはかる。

授業の一般目標 実践事例との融合をはかることで、知的障害児と肢体不自由児を中心とした教育における現状と課題についての実践的知識を獲得させ、特別な支援を必要とする児童生徒への教育、福祉、雇用等をめぐる現状と課題を総合的に理解させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1．特別支援教育の概念、歴史、教育課程等について、実践的知識をもとに説明できる。 2．特別支援教育の基本原則である「個に応じた指導」について、実践的知識をもとに説明できる。 思考・判断の観点： 1．特別支援教育における歴史と現状をふまえて、実践的知識をもとに今後の課題を指摘できる。 関心・意欲の観点： 1．障害児の生涯を見通した教育について、実践的知識をもとに、学校教育段階における望ましい指導のあり方を探求する態度を身につける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第 2 回 項目 成長と教育～発達に則した適切な課題～ 内容 主に知的障害児の成長・発達に及ぼす環境の影響について、3つの理論とそれらの論争を紹介し、現代の教育思想的立脚点（ヴィゴツキーの教育的思想）について解説する。文献「訪問教育におけるA児の歩行指導」（「発達の遅れと教育」455号）、「学校生活での不適応状態の改善をめざして」（「山口特殊教育臨床」4号）を紹介する。
- 第 3 回 項目 文献の解説と討論 内容 (1) ヴィゴツキーの教育的思想の視点より、文献「訪問教育におけるA児の歩行指導」（知的障害を伴う重度の肢体不自由児への指導事例）、「学校生活での不適応状態の改善をめざして」（知的障害を伴う自閉症児）をそれぞれ解説する。(2) 質疑応答と協議をする。
- 第 4 回 項目 教科・領域を合わせた指導の現状と展望 内容 知的障害児への指導形態としてわが国で実践が積み重ねられてきた「領域・教科を合わせた指導形態」のひとつの「生活単元学習」の具体と指導上の課題について説明する。文献「ぼくら川の探検隊」（「障害児の総合的な学習の時間」）、「街探検からたい焼きづくりへ」（「障害児の総合的な学習の時間」）を紹介する。
- 第 5 回 項目 文献の解説と討論 内容 (1) 知的障害児に対する生活単元学習の指導における課題について、文献「ぼくら川の探検隊」「街探検からたい焼きづくりへ」をそれぞれ解説する。(2) 質疑応答と協議をする。
- 第 6 回 項目 個別の指導計画の現状と展望 内容 個別の指導計画の具体と指導上の課題について説明する。文献「弱視生徒の自立活動個別指導計画」（「特別支援教育」3号）、「自閉症児A君（知的障害を伴う）の朝の着替えにおける支援について」（「発達の遅れと教育」538号）を紹介する。
- 第 7 回 項目 文献の解説と討論 内容 (1) 個別の指導計画に基づく指導上の課題の視点より、「弱視生徒の自立活動個別指導計画」「自閉症児A君（知的障害を伴う）の朝の着替えにおける支援について」をそれぞれ解説する。(2) 質疑応答と協議をする。
- 第 8 回 項目 交流及び共同学習（交流学习）の現状と展望 内容 知的障害児と通常児童との「交流及び共同学習」の具体と指導上の課題について説明する。文献「ニコニコ通信を主軸にした校内交流の展開」（「発達の遅れと教育」466号）、「友だちになるために」（「発達の遅れと教育」466号）を紹介する。

- 第 9 回 項目 文献の解説と討論 内容 (1) 知的障害児と通常児童との「交流及び共同学習」の指導上の課題の視点より、文献「ニコニコ通信を主軸にした校内交流の展開」「友だちになるために」をそれぞれ解説する。(2) 質疑応答と協議をする。
- 第 10 回 項目 LD、ADHD 等のある児童生徒への教育的支援の現状と展望 内容 LD、ADHD 等のある児童生徒への教育的支援の具体と指導上の課題について説明する。文献「LD・ADHD・高機能自閉症の子どもの指導ガイド」(独立行政法人国立特殊教育総合研究所)より 2 事例を紹介する。
- 第 11 回 項目 文献の解説と討論 内容 (1) LD、ADHD 等のある児童生徒への指導上の課題の視点より、文献「LD・ADHD・高機能自閉症の子どもの指導ガイド」からの 2 事例をそれぞれ解説する。(2) 質疑応答と協議をする。
- 第 12 回 項目 知的障害者・肢体不自由者の就労(雇用)の現状と展望 内容 知的障害者・肢体不自由者の就労(雇用)の現状と課題について説明する。文献「障害者の雇用継続を目指して」(「障害者とともに働く」9号)、「障害者と共に働いて思うこと」(「障害者とともに働く」9号)を紹介する。
- 第 13 回 項目 文献の解説と討論 内容 (1) 知的障害者・肢体不自由者の就労(雇用)の課題の視点より、文献「障害者の雇用継続を目指して」「障害者と共に働いて思うこと」をそれぞれ解説する。(2) 質疑応答と協議をする。
- 第 14 回 項目 山口県内の事業所における障害者雇用 内容 山口県内の事業所における知的障害者・肢体不自由者雇用について、11 事業所の実践を視聴覚機器映像を用いて紹介し、障害者雇用を展開させるためのハード面・ソフト面での支援のあり方を解説、協議する。
- 第 15 回 項目 講義の総括 内容 全体的な内容についての協議と質疑応答

成績評価方法(総合) (1) 教員からの質疑に的確に回答できること、(2) 教員より示された課題に後日的確に対応できること、以上の観点をもとに評価する。なお、特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

連絡先・オフィスアワー matsuda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 2 階 オフィスアワー：随時

開設科目	特別支援教育指導法特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松田信夫				

授業の概要 特別支援学校並びに小学校・中学校の特別支援学級に在籍する知的障害児と肢体不自由児を中心とした指導の実際について、実践事例をもとに検討し、個に応じた指導の望ましいあり方について、その今日的課題と今後の展望を含めつつ講義する。なお、指導事例や取り組みの内容については視聴覚機器等で具体的に紹介しつつ、理論と実践との高度な融合をはかる。

授業の一般目標 知的障害児に対する言語指導の理論的背景と実践事例について理解させ、知的障害児と肢体不自由児に対する授業の分析と個別の指導計画、LD等のある児童生徒への教育的支援も含めつつ、指導における現状と課題についての実践的知識を獲得させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 障害児指導法の基本原理である「個に応じた指導」の具体について、実践的知識をもとに説明できる。 2. 実践的知識をもとに、「個に応じた指導」に基づいた学習計画案を作成できる。 思考・判断の観点： 1. 障害児指導法の歴史と現状をふまえて、実践的知識をもとに今後の課題を指摘できる。 関心・意欲の観点： 1. 特別支援教育の指導事例に接し、実践的知識をもとに、知的障害児、自閉症児等を中心とした児童生徒への望ましい指導のあり方を探求する態度を身につける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第 2 回 項目 言語指導（1） 内容 1960年代からの主に知的障害児に対する言語指導の歴史の変遷と、言語の三つの特質について紹介し、対人交渉を通しての言語獲得について解説する。
- 第 3 回 項目 言語指導（2） 内容 言語は前後の状況（文脈）との関わりの中で出現し理解されること、並びに、文脈の知識により言語行動は円滑に進むことについて解説する。
- 第 4 回 項目 言語研究論文の解説（1） 内容 吉水ちひろ（1989）の研究を解説する。
- 第 5 回 項目 言語研究論文の解説（2） 内容 知的障害児に対する言語指導を実施した長崎勤（1991）の研究を解説する。
- 第 6 回 項目 言語指導（3） 内容 言語指導の理論的背景となるルーティン、スクリプトの概念について解説する。
- 第 7 回 項目 言語研究論文の解説（3） 内容 知的障害児に対する言語指導を実施した松田・植田（1999）によるホットケーキ作りを通したコミュニケーション指導の研究を、視聴覚記録をもとに解説する。
- 第 8 回 項目 LD・ADHD 児への指導（1） 内容 理論的内容を中心に解説する。
- 第 9 回 項目 LD・ADHD 児への指導（2） 内容 指導的内容を中心に解説する。
- 第 10 回 項目 授業分析（1） 内容 知的障害児と肢体不自由児に対する授業分析を実施した松田ら（1991）による教師の指導力量の変化の研究を、視聴覚記録をもとに解説する。
- 第 11 回 項目 授業分析（2） 内容 知的障害児と肢体不自由児に対する授業分析を実施した松田ら（1993）による教師の指導力量の変化の研究を、視聴覚記録をもとに解説する。
- 第 12 回 項目 授業分析（3） 内容 現職教員（大学院生）による実践記録をもとに、授業分析実施の具体、教師の指導力量の向上の具体について協議する。
- 第 13 回 項目 個別の指導計画（1） 内容 知的障害児と肢体不自由児に対する個別の指導計画作成の歴史的経緯、意義、実践事例について解説する。
- 第 14 回 項目 個別の指導計画（2） 内容 知的障害児と肢体不自由児に対する個別の指導計画作成の実践事例、課題、今後の展望、「個別的教育支援計画」との関連性について解説する。
- 第 15 回 項目 講義の総括 内容 全体的な内容についての協議と質疑応答

成績評価方法(総合) (1) 教員からの質疑に的確に回答できること、(2) 教員より示された課題に後日的確に対応できること、以上の観点をもとに評価する。なお、特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

連絡先・オフィスアワー matsuda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階 オフィスアワー：随時

開設科目	特別支援教育心理学特論 I	区分	演習と講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	松岡勝彦				

授業の概要 知的障害、自閉性障害、LD、ADHD、アスペルガー障害等の発達障害、脳性まひ等の肢体不自由並びに病弱の児童生徒の心理的、行動的特徴について学ぶ。そのうえで、こういった人たちの支援に有効な技法、目標設定の方法、データの収集方法、評価の方法等について知る。授業には、学術図書、研究論文、実践事例集等を使用し、ディスカッションを重視する。

授業の一般目標 知的障害、自閉性障害、LD、ADHD、アスペルガー障害等の発達障害、脳性まひ等の肢体不自由並びに病弱の児童生徒の心理的、行動的特徴、さまざまな指導技法、目標設定の方法、データの収集方法、評価の方法等について習得することを目標とする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 障害のある児童生徒の心理的、行動的特徴ならびに支援のあり方（1）
- 第 2 回 項目 障害のある児童生徒の心理的、行動的特徴ならびに支援のあり方（2）
- 第 3 回 項目 障害のある児童生徒の心理的、行動的特徴ならびに支援のあり方（3）
- 第 4 回 項目 障害のある児童生徒の心理的、行動的特徴ならびに支援のあり方（4）
- 第 5 回 項目 障害のある児童生徒の心理的、行動的特徴ならびに支援のあり方（5）
- 第 6 回 項目 小まとめ（1）
- 第 7 回 項目 障害のある児童生徒の目標設定、データ収集方法、評価のあり方（1）
- 第 8 回 項目 障害のある児童生徒の目標設定、データ収集方法、評価のあり方（2）
- 第 9 回 項目 障害のある児童生徒の目標設定、データ収集方法、評価のあり方（3）
- 第 10 回 項目 障害のある児童生徒の目標設定、データ収集方法、評価のあり方（4）
- 第 11 回 項目 障害のある児童生徒の目標設定、データ収集方法、評価のあり方（5）
- 第 12 回 項目 小まとめ（2）
- 第 13 回 項目 教育現場における障害のある児童生徒への支援の実際（1）
- 第 14 回 項目 教育現場における障害のある児童生徒への支援の実際（2）
- 第 15 回 項目 総まとめ、受講生による授業評価

開設科目	特別支援教育心理学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉田一成				

開設科目	障害児臨床心理学特論 I	区分	講義と演習	学年	修士 2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	松岡勝彦				

授業の概要 障害のある生徒の職業指導の現場と課題について総合的に検討する。

授業の一般目標 障害のある生徒の就労状況について把握し、就労を実現するための方法論について知る。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 わが国における障害のある人たちの就労状況 (1)
- 第 2 回 項目 わが国における障害のある人たちの就労状況 (2)
- 第 3 回 項目 わが国における障害のある人たちの就労状況 (3)
- 第 4 回 項目 援助付き就労 (1)
- 第 5 回 項目 援助付き就労 (2)
- 第 6 回 項目 援助付き就労 (3)
- 第 7 回 項目 援助付き就労 (4)
- 第 8 回 項目 援助付き就労 (5)
- 第 9 回 項目 障害のある人の自立 (1)
- 第 10 回 項目 障害のある人の自立 (2)
- 第 11 回 項目 障害のある人の自立 (3)
- 第 12 回 項目 障害のある人の自立 (4)
- 第 13 回 項目 障害のある人の自立 (5)
- 第 14 回 項目 障害のある人の自立 (6)
- 第 15 回 項目 まとめと課題

開設科目	障害児臨床心理学特論 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉田一成				

開設科目	障害児教育特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松田信夫				

授業の概要 特別支援学校並びに小学校・中学校の特別支援学級に在籍する知的障害児と肢体不自由児を中心とした教育の意義、教育史、制度、教育課程等について、その今日的課題と今後の展望を含めつつ講義する。学校教育現場等での具体的な指導事例や取り組みの内容について視聴覚機器等で紹介しつつ、理論と実践の高度な融合をはかる。

授業の一般目標 実践事例との融合をはかることで、知的障害児と肢体不自由児を中心とした教育における現状と課題についての実践的知識を獲得させ、特別な支援を必要とする児童生徒への教育、福祉、雇用等をめぐる現状と課題を総合的に理解させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1．特別支援教育の概念、歴史、教育課程等について、実践的知識をもとに説明できる。 2．特別支援教育の基本原則である「個に応じた指導」について、実践的知識をもとに説明できる。 思考・判断の観点： 1．特別支援教育における歴史と現状をふまえて、実践的知識をもとに今後の課題を指摘できる。 関心・意欲の観点： 1．障害児の生涯を見通した教育について、実践的知識をもとに、学校教育段階における望ましい指導のあり方を探求する態度を身につける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第 2 回 項目 成長と教育～発達に則した適切な課題～ 内容 主に知的障害児の成長・発達に及ぼす環境の影響について、3つの理論とそれらの論争を紹介し、現代の教育思想的立脚点（ヴィゴツキーの教育的思想）について解説する。文献「訪問教育におけるA児の歩行指導」（「発達の遅れと教育」455号）、「学校生活での不適応状態の改善をめざして」（「山口特殊教育臨床」4号）」を紹介する。
- 第 3 回 項目 文献の解説と討論 内容 (1) ヴィゴツキーの教育的思想の視点より、文献「訪問教育におけるA児の歩行指導」（知的障害を伴う重度の肢体不自由児への指導事例）、「学校生活での不適応状態の改善をめざして」（知的障害を伴う自閉症児）をそれぞれ解説する。(2) 質疑応答と協議をする。
- 第 4 回 項目 教科・領域を合わせた指導の現状と展望 内容 知的障害児への指導形態としてわが国で実践が積み重ねられてきた「領域・教科を合わせた指導形態」のひとつの「生活単元学習」の具体と指導上の課題について説明する。文献「ぼくら川の探検隊」（「障害児の総合的な学習の時間」）、「街探検からたい焼きづくりへ」（「障害児の総合的な学習の時間」）を紹介する。
- 第 5 回 項目 文献の解説と討論 内容 (1) 知的障害児に対する生活単元学習の指導における課題について、文献「ぼくら川の探検隊」「街探検からたい焼きづくりへ」をそれぞれ解説する。(2) 質疑応答と協議をする。
- 第 6 回 項目 個別の指導計画の現状と展望 内容 個別の指導計画の具体と指導上の課題について説明する。文献「弱視生徒の自立活動個別指導計画」（「特別支援教育」3号）、「自閉症児A君（知的障害を伴う）の朝の着替えにおける支援について」（「発達の遅れと教育」538号）を紹介する。
- 第 7 回 項目 文献の解説と討論 内容 (1) 個別の指導計画に基づく指導上の課題の視点より、「弱視生徒の自立活動個別指導計画」「自閉症児A君（知的障害を伴う）の朝の着替えにおける支援について」をそれぞれ解説する。(2) 質疑応答と協議をする。
- 第 8 回 項目 交流及び共同学習（交流学习）の現状と展望 内容 知的障害児と通常児童との「交流及び共同学習」の具体と指導上の課題について説明する。文献「ニコニコ通信を主軸にした校内交流の展開」（「発達の遅れと教育」466号）、「友だちになるために」（「発達の遅れと教育」466号）を紹介する。

- 第 9 回 項目 文献の解説と討論 内容 (1) 知的障害児と通常児童との「交流及び共同学習」の指導上の課題の視点より、文献「ニコニコ通信を主軸にした校内交流の展開」「友だちになるために」をそれぞれ解説する。(2) 質疑応答と協議をする。
- 第 10 回 項目 LD、ADHD 等のある児童生徒への教育的支援の現状と展望 内容 LD、ADHD 等のある児童生徒への教育的支援の具体と指導上の課題について説明する。文献「LD・ADHD・高機能自閉症の子どもの指導ガイド」(独立行政法人国立特殊教育総合研究所)より 2 事例を紹介する。
- 第 11 回 項目 文献の解説と討論 内容 (1) LD、ADHD 等のある児童生徒への指導上の課題の視点より、文献「LD・ADHD・高機能自閉症の子どもの指導ガイド」からの 2 事例をそれぞれ解説する。(2) 質疑応答と協議をする。
- 第 12 回 項目 知的障害者・肢体不自由者の就労(雇用)の現状と展望 内容 知的障害者・肢体不自由者の就労(雇用)の現状と課題について説明する。文献「障害者の雇用継続を目指して」(「障害者とともに働く」9号)、「障害者と共に働いて思うこと」(「障害者とともに働く」9号)を紹介する。
- 第 13 回 項目 文献の解説と討論 内容 (1) 知的障害者・肢体不自由者の就労(雇用)の課題の視点より、文献「障害者の雇用継続を目指して」「障害者と共に働いて思うこと」をそれぞれ解説する。(2) 質疑応答と協議をする。
- 第 14 回 項目 山口県内の事業所における障害者雇用 内容 山口県内の事業所における知的障害者・肢体不自由者雇用について、11 事業所の実践を視聴覚機器映像を用いて紹介し、障害者雇用を展開させるためのハード面・ソフト面での支援のあり方を解説、協議する。
- 第 15 回 項目 講義の総括 内容 全体的な内容についての協議と質疑応答

成績評価方法(総合) (1) 教員からの質疑に的確に回答できること、(2) 教員より示された課題に後日的確に対応できること、以上の観点をもとに評価する。なお、特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

連絡先・オフィスアワー matsuda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 2 階 オフィスアワー：随時

開設科目	障害児教育特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	松田信夫				
<p>授業の概要 受講者がこれまで主体的に関心をもち、あるいは学校教育現場等で取り組み続けてきた内容に関する専門的文献(例「特殊教育学研究」「発達障害研究」「教育心理学研究」等)をもとに、その内容を詳細に発表し、全員で討論する。この学習活動を通し、障害児への教育的指導の具体について演習する。</p> <p>授業の一般目標 実践事例との融合をはかることで、特別支援教育における現状と課題についての実践的知識を獲得させ、特別な支援を必要とする児童生徒への教育をめぐる現状と課題を総合的に理解させる。</p> <p>授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 障害児指導の基本原則である「個に応じた指導」について、実践的知識をもとに、その具体を説明できる。 思考・判断の観点: 1. 障害児指導の課題を指摘し、実践的知識をもとに、その改善策を講じることができる。 関心・意欲の観点: 1. 特別支援教育の指導事例に接し、実践的知識をもとに、知的障害児、自閉症児、肢体不自由児等への望ましい指導のあり方を探求する態度を身につける。</p> <p>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 授業外指示 シラバスを読んでおくこと</p> <p>第2回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 自閉性障害を伴う子どもの相互作用成立要因に関する分析的研究 (2) 質疑応答</p> <p>第3回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 注意欠陥・多動性障害及びその疑いのある児童生徒への教育的対応 (2) 質疑応答</p> <p>第4回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 自閉症児におけるまなざしからの心の読みとり (2) 質疑応答</p> <p>第5回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 注意欠陥・多動性障害及びその疑いのある児童生徒に関する調査 (2) 質疑応答</p> <p>第6回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 自閉症児における共感獲得表現助詞「ね」の使用の欠如 (2) 質疑応答</p> <p>第7回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 多動性障害と診断された小学校1年生男児の入院治療 (2) 質疑応答</p> <p>第8回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 言語・コミュニケーションの発達と心の理解 (2) 質疑応答</p> <p>第9回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 注意欠陥・多動性障害への教育的アプローチ (2) 質疑応答</p> <p>第10回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 発達障害児のコミュニケーション指導における情動的交流遊びの役割 (2) 質疑応答</p> <p>第11回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 注意欠陥・多動性障害への教育的アプローチ (2) 質疑応答</p> <p>第12回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 自閉症幼児における鏡像認知 (2) 質疑応答</p> <p>第13回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 重症児施設訪問教育における集団指導の効果 (2) 質疑応答</p> <p>第14回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: ある重度精神遅滞を伴う自閉症者の就労後の発達の変容 (2) 質疑応答</p> <p>第15回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 重症心身障害者の期待に「ゆらし」刺激が及ぼす影響 (2) 質疑応答</p> <p>成績評価方法(総合) (1) レジюмеをもとに具体的、論理的に発表すること、(2) 教員からの質疑に的確に回答できること、(3) 教員より示された課題に後日的確に対応できること、以上の観点をもとに評価する。なお、特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p>					

連絡先・オフィスアワー matsuda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階 オフィスアワー：随時

開設科目	障害児教育指導法特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松田信夫				

授業の概要 特別支援学校並びに小学校・中学校の特別支援学級に在籍する知的障害児と肢体不自由児を中心とした指導の実際について、実践事例をもとに検討し、個に応じた指導の望ましいあり方について、その今日的課題と今後の展望を含めつつ講義する。なお、指導事例や取り組みの内容については視聴覚機器等で具体的に紹介しつつ、理論と実践との高度な融合をはかる。

授業の一般目標 知的障害児に対する言語指導の理論的背景と実践事例について理解させ、知的障害児と肢体不自由児に対する授業の分析と個別の指導計画、LD等のある児童生徒への教育的支援も含めつつ、指導における現状と課題についての実践的知識を獲得させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 障害児指導法の基本原理である「個に応じた指導」の具体について、実践的知識をもとに説明できる。 2. 実践的知識をもとに、「個に応じた指導」に基づいた学習計画案を作成できる。 思考・判断の観点： 1. 障害児指導法の歴史と現状をふまえて、実践的知識をもとに今後の課題を指摘できる。 関心・意欲の観点： 1. 特別支援教育の指導事例に接し、実践的知識をもとに、知的障害児、自閉症児を中心とした児童生徒への望ましい指導のあり方を探求する態度を身につける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第 2 回 項目 言語指導（1） 内容 1960年代からの主に知的障害児に対する言語指導の歴史の変遷と、言語の三つの特質について紹介し、対人交渉を通しての言語獲得について解説する。
- 第 3 回 項目 言語指導（2） 内容 言語は前後の状況（文脈）との関わりの中で出現し理解されること、並びに、文脈の知識により言語行動は円滑に進むことについて解説する。
- 第 4 回 項目 言語研究論文の解説（1） 内容 吉水ちひろ（1989）の研究を解説する。
- 第 5 回 項目 言語研究論文の解説（2） 内容 知的障害児に対する言語指導を実施した長崎勤（1991）の研究を解説する。
- 第 6 回 項目 言語指導（3） 内容 言語指導の理論的背景となるルーティン、スクリプトの概念について解説する。
- 第 7 回 項目 言語研究論文の解説（3） 内容 知的障害児に対する言語指導を実施した松田・植田（1999）によるホットケーキ作りを通したコミュニケーション指導の研究を、視聴覚記録をもとに解説する。
- 第 8 回 項目 LD・ADHD 児への指導（1） 内容 理論的内容を中心に解説する。
- 第 9 回 項目 LD・ADHD 児への指導（2） 内容 指導的内容を中心に解説する。
- 第 10 回 項目 授業分析（1） 内容 知的障害児と肢体不自由児に対する授業分析を実施した松田ら（1991）による教師の指導力量の変化の研究を、視聴覚記録をもとに解説する。
- 第 11 回 項目 授業分析（2） 内容 知的障害児と肢体不自由児に対する授業分析を実施した松田ら（1993）による教師の指導力量の変化の研究を、視聴覚記録をもとに解説する。
- 第 12 回 項目 授業分析（3） 内容 現職教員（大学院生）による実践記録をもとに、授業分析実施の具体、教師の指導力量の向上の具体について協議する。
- 第 13 回 項目 個別の指導計画（1） 内容 知的障害児と肢体不自由児に対する個別の指導計画作成の歴史的経緯、意義、実践事例について解説する。
- 第 14 回 項目 個別の指導計画（2） 内容 知的障害児と肢体不自由児に対する個別の指導計画作成の実践事例、課題、今後の展望、「個別的教育支援計画」との関連性について解説する。
- 第 15 回 項目 講義の総括 内容 全体的な内容についての協議と質疑応答

成績評価方法(総合) (1)教員からの質疑に的確に回答できること、(2)教員より示された課題に後日的確に対応できること、以上の観点をもとに評価する。なお、特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

連絡先・オフィスアワー matsuda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階 オフィスアワー：随時

開設科目	障害児教育心理学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	松岡勝彦				

授業の概要 知的障害、自閉性障害、LD、ADHD、アスペルガー障害等の発達障害、脳性まひ等の肢体不自由並びに病弱の児童生徒の心理的、行動的特徴について学ぶ。そのうえで、こういった人たちの支援に有効な技法、目標設定の方法、データの収集方法、評価の方法等について知る。授業には、学術図書、研究論文、実践事例集等を使用し、ディスカッションを重視する。

授業の一般目標 知的障害、自閉性障害、LD、ADHD、アスペルガー障害等の発達障害、脳性まひ等の肢体不自由並びに病弱の児童生徒の心理的、行動的特徴、さまざまな指導技法、目標設定の方法、データの収集方法、評価の方法等について習得することを目標とする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 障害のある児童生徒の心理的、行動的特徴ならびに支援のあり方（1）
- 第 2 回 項目 障害のある児童生徒の心理的、行動的特徴ならびに支援のあり方（2）
- 第 3 回 項目 障害のある児童生徒の心理的、行動的特徴ならびに支援のあり方（3）
- 第 4 回 項目 障害のある児童生徒の心理的、行動的特徴ならびに支援のあり方（4）
- 第 5 回 項目 障害のある児童生徒の心理的、行動的特徴ならびに支援のあり方（5）
- 第 6 回 項目 小まとめ（1）
- 第 7 回 項目 障害のある児童生徒の目標設定、データ収集方法、評価のあり方（1）
- 第 8 回 項目 障害のある児童生徒の目標設定、データ収集方法、評価のあり方（2）
- 第 9 回 項目 障害のある児童生徒の目標設定、データ収集方法、評価のあり方（3）
- 第 10 回 項目 障害のある児童生徒の目標設定、データ収集方法、評価のあり方（4）
- 第 11 回 項目 障害のある児童生徒の目標設定、データ収集方法、評価のあり方（5）
- 第 12 回 項目 小まとめ（2）
- 第 13 回 項目 教育現場における障害のある児童生徒への支援の実際（1）
- 第 14 回 項目 教育現場における障害のある児童生徒への支援の実際（2）
- 第 15 回 項目 総まとめ、受講生による授業評価

開設科目	障害児教育心理学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	松岡勝彦				

授業の概要 知的障害、自閉性障害、LD、ADHD、アスペルガー障害等（肢体不自由を含む）の児童生徒に対して、問題解決の心理学（応用行動分析）の立場から具体的な支援のあり方について検討する。さまざまな指導技法や評価方法等が実際の教育、家庭（地域）等の現場でどのように適用されているのかについて学習する。主として、先の現場で行われている実践研究が掲載された論文集を用い、授業の前半は受講生によるプレゼンテーション（質疑の時間も設定する）、後半は重要なポイントの解説およびディスカッションを積極的に取り入れる。

授業の一般目標 知的障害、自閉性障害、LD、ADHD、アスペルガー障害等（肢体不自由を含む）の児童生徒への支援方法を習得すること、教育、家庭（地域）等の現場でいかに応用されているのかを知ること、これらを踏まえ、受講生が上記のような現場において適切な支援ができるための基礎力を身につけることを目標とする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 障害のある児童生徒への支援事例（主として教育現場における実践 1）
- 第 2 回 項目 障害のある児童生徒への支援事例（主として教育現場における実践 2）
- 第 3 回 項目 障害のある児童生徒への支援事例（主として教育現場における実践 3）
- 第 4 回 項目 障害のある児童生徒への支援事例（主として教育現場における実践 4）
- 第 5 回 項目 障害のある児童生徒への支援事例（主として教育現場における実践 5）
- 第 6 回 項目 障害のある児童生徒への支援事例（主として教育現場における実践 6）
- 第 7 回 項目 障害のある児童生徒への支援事例（主として教育現場における実践 7）
- 第 8 回 項目 小まとめ 1（教育現場における課題と今後の展望）
- 第 9 回 項目 障害のある児童生徒への支援事例（主として家庭や地域等における実践 1）
- 第 10 回 項目 障害のある児童生徒への支援事例（主として家庭や地域等における実践 2）
- 第 11 回 項目 障害のある児童生徒への支援事例（主として家庭や地域等における実践 3）
- 第 12 回 項目 障害のある児童生徒への支援事例（主として家庭や地域等における実践 4）
- 第 13 回 項目 障害のある児童生徒への支援事例（主として家庭や地域等における実践 5）
- 第 14 回 項目 小まとめ 2（家庭等日常場面における課題と今後の展望）
- 第 15 回 項目 総まとめ、受講生による授業評価

開設科目	障害児教育心理学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉田一成				

開設科目	障害児教育心理学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉田一成				

開設科目	障害児職業指導特論	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松岡勝彦				

授業の概要 障害のある生徒の職業指導の現場と課題について総合的に検討する。

授業の一般目標 障害のある生徒の就労状況について把握し、就労を実現するための方法論について知る。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 わが国における障害のある人たちの就労状況 (1)
- 第 2 回 項目 わが国における障害のある人たちの就労状況 (2)
- 第 3 回 項目 わが国における障害のある人たちの就労状況 (3)
- 第 4 回 項目 援助付き就労 (1)
- 第 5 回 項目 援助付き就労 (2)
- 第 6 回 項目 援助付き就労 (3)
- 第 7 回 項目 援助付き就労 (4)
- 第 8 回 項目 援助付き就労 (5)
- 第 9 回 項目 障害のある人の自立 (1)
- 第 10 回 項目 障害のある人の自立 (2)
- 第 11 回 項目 障害のある人の自立 (3)
- 第 12 回 項目 障害のある人の自立 (4)
- 第 13 回 項目 障害のある人の自立 (5)
- 第 14 回 項目 障害のある人の自立 (6)
- 第 15 回 項目 まとめと課題

開設科目	幼児教育方法特論	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	原 昭徳				

授業の概要 近代以降現代に至るまでの我が国の幼児教育の歴史と方法を概観し、倉橋惣三の業績を中心に子どもの接し方や環境構成、保育の形態等の幼児の教育方法を論じる

連絡先・オフィスアワー 研究室 402 室 電話・ファックス:083-933-5441 kuwahara@yamaguchi-u.ac.jp
OH:随時

開設科目	幼児臨床心理特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	白石敏行				

授業の概要 幼児期におけるカウンセリングマインドの必要性およびその意義について講義する。 / 検索キーワード 幼児, 臨床心理学, カウンセリング, カウンセリングマインド

授業の一般目標 幼児教育(学校教育)におけるカウンセリングマインドの必要性について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 幼児期の保育臨床に関する諸課題を説明することができる。 関心・意欲の観点: 他者との討議に積極的に参加することができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 授業記録 レジюме
- 第2回 項目 保育における心理臨床の今日的課題(1) 授業記録 レジюме
- 第3回 項目 保育における心理臨床の今日的課題(2) 授業記録 レジюме
- 第4回 項目 カウンセリングの理論と方法(1) 授業記録 レジюме
- 第5回 項目 カウンセリングの理論と方法(2) 授業記録 レジюме
- 第6回 項目 カウンセリングの理論と方法(3) 授業記録 レジюме
- 第7回 項目 保育におけるカウンセリングの実際(1) 授業記録 レジюме
- 第8回 項目 保育におけるカウンセリングの実際(2) 授業記録 レジюме
- 第9回 項目 保育におけるカウンセリングの実際(3) 授業記録 レジюме
- 第10回 項目 保護者に対するカウンセリング的アプローチ(1) 授業記録 レジюме
- 第11回 項目 保護者に対するカウンセリング的アプローチ(2) 授業記録 レジюме
- 第12回 項目 保育とカウンセリングマインド(1) 授業記録 レジюме
- 第13回 項目 保育とカウンセリングマインド(2) 授業記録 レジюме
- 第14回 項目 保育とカウンセリングマインド(3) 授業記録 レジюме
- 第15回 項目 まとめ 授業記録 レジюме

成績評価方法(総合) 出席、授業への参加、および学期末のレポートをもとに総合的に評価する。

メッセージ 幼児期の子どもに関心のある方の受講を望みます。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: (083)933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 随時

開設科目	保育内容特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	某				

授業の概要 環境による教育という幼児教育の発想を講義し、実際に保育参加することで確認する。 / 検索キーワード 保育内容 保育参加

授業の一般目標 1. 援助の実験を体験し、幼児教育を理解する。 2. 発見学習環境の調整に興味・関心を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 環境や援助活動を分析する視点を深める。 思考・判断の観点： 1. 子どもを中心に考察し、自分の見解を論理的に述べる力を身につける。 関心・意欲の観点： 1. 発見学習環境への関心を深め、援助の発想を身につける。 態度の観点： 1. 積極的に講義や保育参加に取り組むことができる。 技能・表現の観点： 1. 考察した結果を文章や口答で適切に表現できる。

授業の計画(全体) 授業は講義の後、3回保育参加をする形式で進行する。各論として、環境による教育を確認し、発見学習活動の援助を確認し、保育者の資質を確認する。まとめとして、保育環境の調整の視点を確認する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 環境による教育 内容 各論として、幼児教育を概説し、幼児教育は、指導(命令・干渉・制限)しない教育であるから、保育者は裏方として後方に引き、環境が前面に出て、幼児に働きかけるように配慮されていることを解説する。また、保育参加の方法を支持する。
- 第2回 項目 保育参加(1) 内容 朝から昼まで保育参加し、子どもと一緒に遊びながら、環境構成をチェックする。
- 第3回 項目 保育参加(2) 内容 20歳児として保育参加し、子どもとの関わりの中で発見学習環境をチェックする。
- 第4回 項目 保育参加(3) 内容 保育の流れを理解して、異年齢児との交流を図り、異年齢児の交流環境のチェックをする。
- 第5回 項目 発見学習活動の援助 内容 各論として、発見学習を概説し、学習環境は幼児の内面の創造的活動衝動を引き出すことを主にしなくてはならないというキンダーガルテン(子どもの園)の創始者、フレーベルの発想を解説する。
- 第6回 項目 保育参加(4) 内容 子どもの内面に内在する創造活動衝動に焦点を当て、保育参加しながら、子どもの創造活動をチェックする。
- 第7回 項目 保育参加(5) 内容 子どもの造形衝動に焦点を当て、保育参加しながら、子どもの造形活動をチェックする。
- 第8回 項目 保育参加(6) 内容 子どもの表現衝動に焦点を当て、保育参加しながら、子どもの表現活動をチェックする。
- 第9回 項目 保育者の資質 内容 各論として、教師と保育者の違いを概説し、「遊ぶ大人」として子どもと一緒に試行錯誤しながら活動する体験の積み重ねの意義を解説する。
- 第10回 項目 保育参加(7) 内容 子どもが、必要とする時に必ず傍にいる保育者の活動に焦点を当て、保育参加しながら、保育者が保育の流れをどのようにしているかをチェックする。
- 第11回 項目 保育参加(8) 内容 子どもが、良い、悪い、と判断する活動に焦点を当て、保育参加しながら、子どもの価値基準のゆらぎをチェックする。
- 第12回 項目 保育参加(9) 内容 子どもが、試行錯誤しながら体験を積み重ねている活動に焦点を当て、保育参加しながら、子どもが示す創造的退行現象をチェックする。
- 第13回 項目 保育環境の調整 内容 まとめとして、子どもが自由に自発的に自己の内面の創造性を表現する活動として遊びを理解し、楽しさにこだわって遊ぶことが保育環境の調整の基準になることを解説する。

第14回 項目まとめ 内容 総まとめとして、フレーベルの教育遊具とモンテッソーリ教具を比較し、保育教材の視点を分析する。

第15回 項目まとめ 内容 総まとめとして、現代の保育材の状況を概説し、保育材選定の基準を確認する。

成績評価方法(総合) 1. 授業の開始時に毎回、出席状況表を提示し、記録して提出する。 2. 講義や保育参加の中で、適宜質問し、理解度について評価する。

教科書・参考書 教科書：学生からの質問に応じ、適宜指示する。 / 参考書：学生からの質問に応じ、適宜読み方の視点を指示する。 <http://froebel.child.edu.yamaguchi-u.ac.jp>

メッセージ 保育参加をお願いする園にあわせて時間帯を変更することがあります。

連絡先・オフィスアワー メール：froebel@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部4階 オフィスアワー：火曜日 12:00～15:00

開設科目	学校教育総合研究 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	福田廣・名島潤慈・田邊敏明・大石英史・木谷秀勝・恒吉徹三				

授業の概要 日本における学校教育の諸問題について、各担当教官の専門領域の観点から、現代の研究動向を踏まえて、総合的に検討する。 / 検索キーワード 学校教育、心理学、教育相談

授業の一般目標 各担当教官がそれぞれの立場で論じる今日の学校教育の諸問題に関して、理解を深め、自己の観点に立って検討・消化する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 臨床心理学の観点から (I) 内容 名島潤慈
- 第 2 回 項目 臨床心理学の観点から (II) 内容 名島潤慈
- 第 3 回 項目 臨床心理学の観点から (III) 内容 名島潤慈 授業外指示 レポート
- 第 4 回 項目 臨床心理学の観点から (I) 内容 大石英史
- 第 5 回 項目 臨床心理学の観点から (II) 内容 大石英史 授業外指示 レポート
- 第 6 回 項目 臨床心理学の観点から (I) 内容 木谷秀勝
- 第 7 回 項目 臨床心理学の観点から (II) 内容 木谷秀勝 授業外指示 レポート
- 第 8 回 項目 教育心理学の観点から (I) 内容 田邊敏明
- 第 9 回 項目 教育心理学の観点から (II) 内容 田邊敏明
- 第 10 回 項目 教育心理学の観点から (III) 内容 田邊敏明 授業外指示 レポート
- 第 11 回 項目 臨床心理学の観点から (I) 内容 恒吉徹三
- 第 12 回 項目 臨床心理学の観点から (II) 内容 恒吉徹三 授業外指示 レポート
- 第 13 回 項目 学習心理学の観点から (I) 内容 福田 廣
- 第 14 回 項目 学習心理学の観点から (II) 内容 福田 廣
- 第 15 回 項目 学習心理学の観点から (III) 内容 福田 廣 授業外指示 レポート

成績評価方法 (総合) 各担当教官から提出されたレポート評価を中心に、全体としての評価を算出する。

教科書・参考書 教科書 : 特に指定されたものはなし。 / 参考書 : その都度指示されます。

メッセージ 学校教育総合研究 II は、心理学関係の教官が担当します。

連絡先・オフィスアワー 福田 廣 : 083-933-5455, hfukuda@yamaguchi-u.ac.jp 名島潤慈 : 083-933-5465, najima@yamaguchi-u.ac.jp 田邊敏明 : 083-933-5453, ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp 大石英史 : 083-933-5454, eohishi@yamaguchi-u.ac.jp 木谷秀勝 : 083-933-5464, kiya@yamaguchi-u.ac.jp 恒吉徹三 : 083-933-5446, whiteowl@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	教育哲学特論演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	西村正登				

授業の概要 シュプランガーの教育の3つの概念について学び、教育の本質について考察する。また、学校教育の方法原理について学習し、理解する。さらに、シュプランガーの教員養成論の形成過程とその内容をプロイセン文部省や教員連盟との政治的な関係の中で把握し、近代ドイツ教員養成史の中に位置づけながら、その意義と限界について考察する。/ 検索キーワード シュプランガー、教育の3つの概念、学校教育の方法原理、教員養成論

授業の一般目標 1. シュプランガー教育学の3つの概念について学び、理解する。 2. 学校教育の方法原理について学び、理解する。 3. シュプランガーの教員養成論の形成過程について学び、理解する。 4. シュプランガーの教員養成論の内容について学び、理解する。 5. シュプランガーの教員養成論の意義と限界について考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. シュプランガー教育学の3つの概念について理解できる。 2. 学校教育の方法原理について理解できる。 3. シュプランガーの教員養成論の形成過程について理解できる。 4. シュプランガーの教員養成論の内容について理解できる。 思考・判断の観点: 1. シュプランガー教育学の3つの概念を通して、教育の本質についての考察を深めることができる。 2. シュプランガーの教員養成論の意義と限界について考察を深めることができる。 関心・意欲の観点: 1. シュプランガーの教員養成論を通して、教員養成に対する関心や意欲を高めることができる。 態度の観点: 1. 教育を哲学的に考察する態度を高めることができる。 技能・表現の観点: 1. 授業で学んだことを討論し、自分の考えを表現する技能を高めることができる。

授業の計画(全体) 前期の教育哲学特論で学んだシュプランガーの教育哲学を基礎にして、学校教育論や教員養成論のような実践的問題を中心にシラバスを構成し、授業計画を立てた。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 シュプランガーの教育の3つの概念(1) 内容 発達の援助
- 第2回 項目 シュプランガーの教育の3つの概念(2) 内容 文化財の伝達
- 第3回 項目 シュプランガーの教育の3つの概念(3) 内容 良心の覚醒
- 第4回 項目 学校教育の方法原理(1) 内容 郷土科の原理
- 第5回 項目 学校教育の方法原理(2) 内容 共同社会的教育の原理
- 第6回 項目 学校教育の方法原理(3) 内容 内界覚醒の原理
- 第7回 項目 シュプランガーにおける教員養成論の形成過程(1) 内容 プロイセン文部省との関係
- 第8回 項目 シュプランガーにおける教員養成論の形成過程(2) 内容 国民学校教員団体との関係
- 第9回 項目 シュプランガーにおける教員養成論の形成過程(3) 内容 シュプランガーのギムナジウム教員養成論と国民学校教員養成論の相違
- 第10回 項目 シュプランガーの教員養成論(1) 内容 陶冶の概念
- 第11回 項目 シュプランガーの教員養成論(2) 内容 学問・技術・陶冶
- 第12回 項目 シュプランガーの教員養成論(3) 内容 総合大学・工科大学・教育者養成大学
- 第13回 項目 シュプランガーの教員養成論(4) 内容 教育者養成大学のカリキュラム
- 第14回 項目 シュプランガーの教員養成論(5) 内容 教育者養成大学における理論と実践の統合
- 第15回 項目 まとめ 内容 授業の整理とまとめ

成績評価方法(総合) 筆記試験は行わないが、院生が分担して毎時間レポートし、討論しながら授業を進めていく。レポートの内容と表現力を中心にして評価を行う。

教科書・参考書 教科書: シュプランガーの教育学・倫理学・宗教学に関する研究, 山豊スアムツァ。ヲタセツシタオナミ, 二 楸軌蕨 罐札鷗拭 1998

メッセージ 毎時間レポーターにまとめて発表してもらいますので、発表する内容に関連した文献もよく調べておいて下さい。

連絡先・オフィスアワー masaton@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 A 棟 3 階 教育哲学研究室

開設科目	教育史特論演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	福田修				

授業の概要 日本の近代公教育の特質を明らかにし、現代との連続・非連続の問題を考える。 / 検索キーワード 日本近代公教育

授業の一般目標 日本の近代公教育の特質についての深い理解を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本の近代公教育の特質について説明できる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の進め方、テキスト、評価方法について。
- 第 2 回 項目 講読
- 第 3 回 項目 講読
- 第 4 回 項目 講読
- 第 5 回 項目 講読
- 第 6 回 項目 講読
- 第 7 回 項目 講読
- 第 8 回 項目 講読
- 第 9 回 項目 講読
- 第 10 回 項目 講読
- 第 11 回 項目 講読
- 第 12 回 項目 講読
- 第 13 回 項目 講読
- 第 14 回 項目 講読
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書：第1回目の授業で指示する。

開設科目	教育メディア特論演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	林徳治				

授業の概要 プリント教材、OHP、ビデオ、パソコンなどさまざまな教材教具としての教育メディアを活用した教材開発やプレゼンテーション技術(表現伝達能力)の演習を通して実践力を習得する。プレゼンテーションの訓練法としてマイクロプレゼンテーションを実施する。さらにパソコンを利用したマルチメディア教材の開発やホームページによる遠隔学習用Web教材の作成を行う。

授業の一般目標 1. パソコンなど各種教育メディアを活用した教材作成ができる 2. 自己表現術としての効果的なプレゼンテーションができる 3. インターネットを利用したWeb学習を体験し、遠隔学習の特徴を理解できる 4. 遠隔講義を体験し、その特性を理解できる

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育メディアを活用した教材設・評価計能力 思考・判断の観点：論理的、批判的な思考力と判断力 受容・妥協能力 討議能力 内在化した思想を外化、課題解決に向けて連結する能力 関心・意欲の観点：教育メディアに対する興味関心 態度の観点：自発的、独創的に取り組む姿勢 技能・表現の観点：メディアを利用したプレゼンテーションの実施・評価を通しての実践力

授業の計画(全体) 1. プレゼンテーション技術について 2. マイクロプレゼンテーションの設計-実施-評価演習 3. 遠隔講義の計画-実施-評価 4. パソコンなど各種教育メディアを活用した教材作成演習

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 教材の意義と役割
- 第2回 項目 教材開発のための設計1 内容 聴き手のレディネス
- 第3回 項目 教材開発のための設計2 内容 到達目標
- 第4回 項目 教材開発のための設計3 内容 教材のプロセス
- 第5回 項目 教材作成1 内容 素材収集(画像等)
- 第6回 項目 教材作成2 内容 パワーポイントなどを利用した制作
- 第7回 項目 教材作成3 内容 パワーポイントなどを利用した制作
- 第8回 項目 教材作成4 内容 パワーポイントなどを利用した制作
- 第9回 項目 教材作成5 内容 パワーポイントなどを利用した制作・修正
- 第10回 項目 プレゼンテーション演習1 内容 マイクロプレゼンテーション
- 第11回 項目 プレゼンテーション演習2 内容 オーディエンスによる評価
- 第12回 項目 プレゼンテーション演習3 内容 教材の改善
- 第13回 項目 プレゼンテーション演習4 内容 改善された教材
- 第14回 項目 プレゼンテーションの相互評価 内容 評価の観点
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 小テスト/授業内レポート, 宿題/授業外レポート, 発表(プレゼン)や授業内での製作作業, 出席等を総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術, 林徳治, ぎょうせい, 2000年; 情報教育の理論と実践, 林徳治, 実教出版, 2002年; 必携! 相互理解を深めるコミュニケーション実践学, 林徳治・沖裕貴, ぎょうせい, 2007年

メッセージ 本科目は、教育メディア特論を履修した者が望ましい。

連絡先・オフィスアワー E-mail hayashi9@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター 1階

開設科目	教育方法学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	杉山緑				

授業の概要 近年の教育方法学研究に関する文献を購読し、受講者全員でディスカッションする。話題提供のため受講者は輪番でレポートする。

授業の一般目標 現代教育方法学の研究動向と課題について理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 学習した内容を的確に表現できる。 思考・判断の観点： 1 . 学習した内容を論理的に整理できる。 関心・意欲の観点： 1 . 教育方法学の諸課題について関心を広げる。 態度の観点： 1 . 討論において積極的に発言できる。

授業の計画(全体) 現代教育方法学研究の動向ならびにテキストに使用する文献の意義について概説する。続いて、受講者が分担して内容について報告・討論を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 目標・ねらい、授業方法、評価方法等について説明する。
- 第 2 回 項目 文献読解 1
- 第 3 回 項目 文献読解 2
- 第 4 回 項目 文献読解 3
- 第 5 回 項目 文献読解 4
- 第 6 回 項目 文献読解 5
- 第 7 回 項目 文献読解 6
- 第 8 回 項目 文献読解 7
- 第 9 回 項目 文献読解 8
- 第 10 回 項目 文献読解 9
- 第 11 回 項目 文献読解 1 0
- 第 12 回 項目 文献読解 1 1
- 第 13 回 項目 文献読解 1 2
- 第 14 回 項目 文献読解 1 3 授業外指示 報告集作成のための資料作り。
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 報告集作成。

成績評価方法(総合) レポート内容、発表意欲・態度等を総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書：未定, ; オリエンテーション時に指定する。 / 参考書：なし

メッセージ 事前の学習と講義中の発言がなにより大切です。積極的な取組を期待します。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 3 F 電話：0 8 3 - 9 3 3 - 5 4 5 2 メール：ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日 1 0 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0

開設科目	教育制度特論演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	佐々木司				

授業の概要 教育制度について、各自調査研究を行い発表する。

授業の一般目標 自分が設定したテーマ、計画に従って調査研究を遂行し、課題や改革案を論理的に提示する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション、テーマの検討
- 第2回 項目 テーマの決定、調査研究の方法 検討
- 第3回 項目 調査方法の決定・スケジュールリング
- 第4回 項目 報告と討議
- 第5回 項目 報告と討議
- 第6回 項目 報告と討議
- 第7回 項目 中間まとめ
- 第8回 項目 報告と討議
- 第9回 項目 報告と討議
- 第10回 項目 報告と討議
- 第11回 項目 プレゼンテーション準備
- 第12回 項目 プレゼンテーション準備
- 第13回 項目 プレゼンテーション準備
- 第14回 項目 発表
- 第15回 項目 反省

メッセージ 授業の詳細については、第1回目の授業(オリエンテーション)で詳しく伝える。調査研究・発表というひとつのプロジェクトを遂行する意志がある者を受講者として想定している。

開設科目	教育社会学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田中理絵				

授業の概要 現実の教育現象および教育問題に関して、受講者の興味関心に従ってテーマを設定し、文献講読を行う。/ 検索キーワード 教育問題

授業の一般目標 教育現象に関する社会学的研究方法の基礎を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 学術用語、先行研究へ精通 思考・判断の観点： 正しい論理性を習得 関心・意欲の観点： 熱意を持って参加してほしい 態度の観点： 日頃から関連事象に関する情報についてアンテナを張り巡らしてほしい 技能・表現の観点： 正確な読解に基づく的確なプレゼンテーションを展開できる

授業の計画（全体） 教育事象に関する書籍・論文を受講者全員で読解していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 担当教員紹介、講義内容の説明、分担決めなど
- 第2回 項目 演習(1)
- 第3回 項目 演習(2)
- 第4回 項目 演習(3)
- 第5回 項目 演習(4)
- 第6回 項目 演習(5)
- 第7回 項目 演習(6)
- 第8回 項目 演習(7)
- 第9回 項目 演習(8)
- 第10回 項目 演習(9)
- 第11回 項目 演習(10)
- 第12回 項目 演習(11)
- 第13回 項目 演習(12)
- 第14回 項目 演習(13)
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） (1) 演習中の発表、質疑応答の様子と (2) 課題を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書： 各自のテーマに沿った書籍・論文を適宜紹介します。 / 参考書： 各自のテーマに沿った書籍・論文を適宜紹介します。

メッセージ 大学院の授業ですので、テーマに関わる文献を自主的に講読し、独自に調査して発表する意欲が欲しい。

連絡先・オフィスアワー ta-na@yamaguchi-u.ac.jp , phone & fax : 933-5442 , 研究室：教育学部3階教育社会学研究室 , オフィスアワー：水曜の10:30-12:30

開設科目	国際理解教育特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	石井由理				

授業の概要 前期で学んだ国際理解教育の基本的な知識を、いくつかの事例についての学習を通してさらに深めるべく受講者の学習を支援する。 / 検索キーワード 国際理解教育

授業の一般目標 国際理解教育の理念や実践についての知識を深め、自分自身の意見を持つことができる。国際理解教育に含まれる地球的視野とはどのようなことかについて、その概念を理解できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：国際理解教育とは何かを理解できる 国際理解教育の地球的視野を学ぶための特定の事例についての知識を広げる。 思考・判断の観点：国際理解教育とよばれる分野の複雑さの背景を自分の意見として述べられる。 批判的な思考ができる。 関心・意欲の観点：自分の知らなかった事柄について、関心をもち、それに対する自分の意見を述べるができる。 態度の観点：自分を他者との相対関係の中で見ようとする態度を持つ。 技能・表現の観点：自分の意見を論理的に記述することができる。

授業の計画(全体) 文献を批判的に読み、ビデオなどを通してさらに事例を理解することによって、国際理解教育の考え方に関する理解を深める。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 グローバル化について
- 第3回 項目 グローバル化について
- 第4回 項目 グローバル化について
- 第5回 項目 グローバル化について
- 第6回 項目 オーストラリアの事例
- 第7回 項目 オーストラリアの事例
- 第8回 項目 オーストラリアの事例
- 第9回 項目 オーストラリアの事例
- 第10回 項目 オーストラリアの事例
- 第11回 項目 オーストラリアの事例
- 第12回 項目 多様性と普遍性
- 第13回 項目 多様性と普遍性
- 第14回 項目 多様性と普遍性
- 第15回 項目 多様性と普遍性

成績評価方法(総合) 学期末のレポートによる

教科書・参考書 教科書：初回授業に指示

連絡先・オフィスアワー 教育学部2回200 - (1) オフィスアワーは初回授業に伝達

開設科目	特別支援教育特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	松田信夫				
<p>授業の概要 受講者がこれまで主体的に関心をもち、あるいは学校教育現場等で取り組み続けてきた内容に関する専門的文献(例「特殊教育学研究」「発達障害研究」「教育心理学研究」等)をもとに、その内容を詳細に発表し、全員で討論する。この学習活動を通し、障害児への教育的指導の具体について演習する。</p> <p>授業の一般目標 実践事例との融合をはかることで、特別支援教育における現状と課題についての実践的知識を獲得させ、特別な支援を必要とする児童生徒への教育をめぐる現状と課題を総合的に理解させる。</p> <p>授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 障害児指導の基本原則である「個に応じた指導」について、実践的知識をもとに、その具体を説明できる。 思考・判断の観点: 1. 障害児指導の課題を指摘し、実践的知識をもとに、その改善策を講じることができる。 関心・意欲の観点: 1. 特別支援教育の指導事例に接し、実践的知識をもとに、知的障害児、自閉症児、肢体不自由児等への望ましい指導のあり方を探求する態度を身につける。</p> <p>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 授業外指示 シラバスを読んでおくこと</p> <p>第2回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 自閉性障害を伴う子どもの相互作用成立要因に関する分析的研究 (2) 質疑応答</p> <p>第3回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 注意欠陥・多動性障害及びその疑いのある児童生徒への教育的対応 (2) 質疑応答</p> <p>第4回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 自閉症児におけるまなざしからの心の読みとり (2) 質疑応答</p> <p>第5回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 注意欠陥・多動性障害及びその疑いのある児童生徒に関する調査 (2) 質疑応答</p> <p>第6回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 自閉症児における共感獲得表現助詞「ね」の使用の欠如 (2) 質疑応答</p> <p>第7回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 多動性障害と診断された小学校1年生男児の入院治療 (2) 質疑応答</p> <p>第8回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 言語・コミュニケーションの発達と心の理解 (2) 質疑応答</p> <p>第9回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 注意欠陥・多動性障害への教育的アプローチ (2) 質疑応答</p> <p>第10回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 発達障害児のコミュニケーション指導における情動的交流遊びの役割 (2) 質疑応答</p> <p>第11回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 注意欠陥・多動性障害への教育的アプローチ (2) 質疑応答</p> <p>第12回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 自閉症幼児における鏡像認知 (2) 質疑応答</p> <p>第13回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 重症児施設訪問教育における集団指導の効果 (2) 質疑応答</p> <p>第14回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: ある重度精神遅滞を伴う自閉症者の就労後の発達の変容 (2) 質疑応答</p> <p>第15回 項目 発表・質疑応答・コメント 内容 (1) 発表例: 重症心身障害者の期待に「ゆらし」刺激が及ぼす影響 (2) 質疑応答</p> <p>成績評価方法(総合) (1) レジューメをもとに具体的、論理的に発表すること、(2) 教員からの質疑に的確に回答できること、(3) 教員より示された課題に後日的確に対応できること、以上の観点をもとに評価する。なお、特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p>					

連絡先・オフィスアワー matsuda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階 オフィスアワー：随時

開設科目	特別支援教育心理学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	松岡勝彦				

授業の概要 知的障害、自閉性障害、LD、ADHD、アスペルガー障害等（肢体不自由を含む）の児童生徒に対して、問題解決の心理学（応用行動分析）の立場から具体的な支援のあり方について検討する。さまざまな指導技法や評価方法等が実際の教育、家庭（地域）等の現場でどのように適用されているのかについて学習する。主として、先の現場で行われている実践研究が掲載された論文集を用い、授業の前半は受講生によるプレゼンテーション（質疑の時間も設定する）、後半は重要なポイントの解説およびディスカッションを積極的に取り入れる。

授業の一般目標 知的障害、自閉性障害、LD、ADHD、アスペルガー障害等（肢体不自由を含む）の児童生徒への支援方法を習得すること、教育、家庭（地域）等の現場でいかに応用されているのかを知ること、これらを踏まえ、受講生が上記のような現場において適切な支援ができるための基礎力を身につけることを目標とする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 障害のある児童生徒への支援事例（主として教育現場における実践 1）
- 第 2 回 項目 障害のある児童生徒への支援事例（主として教育現場における実践 2）
- 第 3 回 項目 障害のある児童生徒への支援事例（主として教育現場における実践 3）
- 第 4 回 項目 障害のある児童生徒への支援事例（主として教育現場における実践 4）
- 第 5 回 項目 障害のある児童生徒への支援事例（主として教育現場における実践 5）
- 第 6 回 項目 障害のある児童生徒への支援事例（主として教育現場における実践 6）
- 第 7 回 項目 障害のある児童生徒への支援事例（主として教育現場における実践 7）
- 第 8 回 項目 小まとめ 1（教育現場における課題と今後の展望）
- 第 9 回 項目 障害のある児童生徒への支援事例（主として家庭や地域等における実践 1）
- 第 10 回 項目 障害のある児童生徒への支援事例（主として家庭や地域等における実践 2）
- 第 11 回 項目 障害のある児童生徒への支援事例（主として家庭や地域等における実践 3）
- 第 12 回 項目 障害のある児童生徒への支援事例（主として家庭や地域等における実践 4）
- 第 13 回 項目 障害のある児童生徒への支援事例（主として家庭や地域等における実践 5）
- 第 14 回 項目 小まとめ 2（家庭等日常場面における課題と今後の展望）
- 第 15 回 項目 総まとめ、受講生による授業評価

開設科目	特別支援教育心理学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉田一成				

開設科目	障害児臨床心理学特論	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉田一成				

開設科目	幼児教育方法特論演習	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	原 昭徳				

授業の概要 幼児との接し方、幼児の自主性と指導のあるべき姿、指導の原理と原則、幼児教育と小学校の連携、幼児教育と生活科の関連等の具体的な問題について演習する。

連絡先・オフィスアワー 研究室 402 室 電話・ファックス:083-933-5441 kuwahara@yamaguchi-u.ac.jp
OH:随時

開設科目	幼児臨床心理特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	白石敏行				

授業の概要 乳幼児期の発達等に関する論文を購読し，討議することを通して，乳幼児の実態や研究方法等について検討する。 / 検索キーワード 幼児，臨床心理学，演習

授業の一般目標 乳幼児期の実態および研究方法について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：乳幼児期に実態について説明することができる。 関心・意欲の観点：他者との討議に積極的に参加することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 授業記録 レジюме
- 第 2 回 項目 文献購読（1）
- 第 3 回 項目 文献購読（2）
- 第 4 回 項目 文献購読（3）
- 第 5 回 項目 文献購読（4）
- 第 6 回 項目 文献購読（5）
- 第 7 回 項目 実験・調査の方法（1）
- 第 8 回 項目 実験・調査の方法（2）
- 第 9 回 項目 実験・調査の計画
- 第 10 回 項目 実験・調査の実施（1）
- 第 11 回 項目 実験・調査の実施（2）
- 第 12 回 項目 実験・調査の分析（1）
- 第 13 回 項目 実験・調査の分析（2）
- 第 14 回 項目 実験・調査の分析（3）
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席、授業でも質疑応答、論文のプレゼンテーション等をもとに総合的に評価する。

メッセージ 幼児期の子どもを理解したい方の受講を望みます。前期に「幼児臨床心理特論」を履修し、単位を取得していること。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：(083)933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	保育内容特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	原昭徳・白石敏行				

授業の概要 3人の教官によるオムニバス形式で保育内容について検討し、保育を論じる / 検索キーワード
保育内容 特論演習

授業の一般目標 幼児教育、幼児心理の観点で保育内容を検討できる

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 幼児教育・幼児心理・保育内容の基礎知識を応用することができる
思考・判断の観点： 1. 幼児教育・幼児心理・保育内容の3観点で総合的に考察することができる

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 言葉を中心とした保育内容（1）
- 第3回 項目 言葉を中心とした保育内容（2）
- 第4回 項目 言葉を中心とした保育内容（3）
- 第5回 項目 言葉を中心とした保育内容（4）
- 第6回 項目 言葉を中心とした保育内容（5）
- 第7回 項目 言葉を中心とした保育内容（6）
- 第8回 項目 言葉を中心とした保育内容（7）
- 第9回 項目 幼児期の人間関係の発達と意義（1） 内容 幼児期の友だち関係の発達過程
- 第10回 項目 幼児期の人間関係の発達と意義（2） 内容 幼児期の友だち関係とそれ以降の対人関係の影響（1）
- 第11回 項目 幼児期の人間関係の発達と意義（3） 内容 幼児期の友だち関係とそれ以降の対人関係の影響（2）
- 第12回 項目 幼児期の人間関係の発達と意義（4） 内容 友だち関係に問題をかかえた幼児に対する支援（1）
- 第13回 項目 幼児期の人間関係の発達と意義（5） 内容 友だち関係に問題をかかえた幼児に対する支援（2）
- 第14回 項目 幼児期の人間関係の発達と意義（6） 内容 友だち関係に問題をかかえた幼児に対する支援（3）
- 第15回 項目 幼児期の人間関係の発達と意義（7） 内容 まとめ

成績評価方法（総合） 毎回授業の最初に出席調査票を配布し、出席状況を確認する。幼児教育・保育内容・幼児心理の各分野終了時にレポートを課す。

教科書・参考書 教科書：各分野において適宜指示する。 / 参考書：各分野において適宜指示する。

連絡先・オフィスアワー 原昭徳 研究室402室 電話・ファックス：083-933-5441

kuwahara@yamaguchi-u.ac.jp OH:随時 白石敏行 研究室404室 電話・ファックス：083-933-5330
t-shira@yamaguchi-u.ac.jp Oh:随時

開設科目	学校教育実践研究	区分	講義	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	吉田一成他				

授業の概要 学校教育に関する諸問題を教育学、心理学、障害児教育、幼児教育、情報教育、国際理解教育等の観点から実践的に考察する。 / 検索キーワード 学校、教育、実践

授業の一般目標 (1) 学校教育に関する諸問題を実践的な観点から理解する。(2) 学校教育の諸問題について関心をもち、主体的に考えることができる。(3) 学校教育の諸問題を実践的な観点から研究する方法を学び、理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 学校教育に関する諸問題を実践的な観点から理解できる。

思考・判断の観点: 1. 学校教育の諸問題を実践的な観点から思考し、判断することができる。 関心・

意欲の観点: 1. 教育についての実践的な関心を広げ、問題意識を高めることができる。 態度の観点:

1. 教育についての実践的な態度を養い、高めることができる。

成績評価方法 (総合) 各担当教員が評価したものを総合して平均値を出す。

教科書・参考書 教科書: 使用しない。各授業担当教員が準備する。 / 参考書: 使用しない。

メッセージ 授業には欠席しないようにして下さい。

連絡先・オフィスアワー 各授業担当の教員

備考 集中授業

開設科目	学校教育実践研究	区分	講義	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	吉田一成他				

授業の概要 学校教育に関する諸問題を教育学、心理学、障害児教育、幼児教育、情報教育、国際理解教育等の観点から実践的に考察する。 / 検索キーワード 学校、教育、実践

授業の一般目標 (1) 学校教育に関する諸問題を実践的な観点から理解する。(2) 学校教育の諸問題について関心をもち、主体的に考えることができる。(3) 学校教育の諸問題を実践的な観点から研究する方法を学び、理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 学校教育に関する諸問題を実践的な観点から理解できる。

思考・判断の観点: 1. 学校教育の諸問題を実践的な観点から思考し、判断することができる。 関心・

意欲の観点: 1. 教育についての実践的な関心を広げ、問題意識を高めることができる。 態度の観点:

1. 教育についての実践的な態度を養い、高めることができる。

成績評価方法 (総合) 各担当教員が評価したものを総合して平均値を出す。

教科書・参考書 教科書: 使用しない。各授業担当教員が準備する。 / 参考書: 使用しない。

メッセージ 授業には欠席しないようにして下さい。

連絡先・オフィスアワー 各授業担当の教員

備考 集中授業

開設科目	教育方法学特論演習	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	杉山緑				

授業の概要 現代教育方法学の諸対象の中から受講者自身が設定したテーマについて資料収集・調査等を行い、レポート及びディスカッションする。

授業の一般目標 設定したテーマを追求することを通して教育方法学的研究力量を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 学習内容について説明できる。 思考・判断の観点： 1. 学習内容を自己の視点で論理的に整理できる。 関心・意欲の観点： 1. 教育方法学研究の動向と今日の課題について関心を広げる。 態度の観点： 1. 提示された課題に対して意欲的に発言できる。

授業の計画(全体) 教育方法学特論において学んだ内容をさらに深めるために、受講者が各自テーマを設定し、報告・討論する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 受講者によるレポート・討論1
- 第3回 項目 受講者によるレポート・討論2
- 第4回 項目 受講者によるレポート・討論3
- 第5回 項目 受講者によるレポート・討論4
- 第6回 項目 受講者によるレポート・討論5
- 第7回 項目 受講者によるレポート・討論6
- 第8回 項目 中間まとめ
- 第9回 項目 受講者によるレポート・討論7
- 第10回 項目 受講者によるレポート・討論8
- 第11回 項目 受講者によるレポート・討論9
- 第12回 項目 受講者によるレポート・討論10
- 第13回 項目 受講者によるレポート・討論11
- 第14回 項目 受講者によるレポート・討論12
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) レポート内容、発表態度等を総合的に評価する。欠席が3分の1を超えた場合には単位認定を行わない。

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：なし

メッセージ 本演習の受講については、教育方法学特論を受講済みであることを条件とします。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部3F 電話：083-933-5452 メール：
ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	教育社会学特論演習	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田中理絵				

授業の概要 現実の教育現象および教育問題に関して、受講者の興味関心に従ってテーマを設定し、文献講読を行う。/ 検索キーワード 教育問題、学校、子ども、発達

授業の一般目標 教育社会学的研究を結実させるために必要な知識・研究手法を習得すること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：適切な学術用語・研究方法の習得 思考・判断の観点：客観的・実証的な思考方法 関心・意欲の観点：子ども・学校問題への恒常的かつ強い関心・意欲 態度の観点：積極的研究態度 技能・表現の観点：プレゼンテーション、レポートの技術

授業の計画（全体） 教育社会学的研究を結実させるために必要な理論・研究方法を習得。

成績評価方法（総合） 毎回のレポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書：受講生の関心にしたがって、最初の回でいくつか候補を提示する。その中から選定。/ 参考書：適宜伝える。

メッセージ 大学院の授業ですので、テーマに関わる文献を自主的に講読し、独自に調査して発表する意欲が欲しい。

連絡先・オフィスアワー 教育社会学研究室（933-5442）水曜 10:30-12:00 ほか、適宜（ただしアポイントを必要とする）

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	石井由理				

授業の概要 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について検討する。

授業の一般目標 ”研究テーマに関連する論文を講読し、比較検討する際の基本的技法を理解する。研究テーマの位置づけや方法論について、主体的に考える姿勢を身につける。”

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。 思考・判断の観点：内外の論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点：研究テーマの位置づけについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の

観点：論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

授業の計画（全体） 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について、討論を交えながら検討する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション、文献紹介 内容 授業の方向性について説明

第2回 項目 文献講読

第3回 項目 文献講読

第4回 項目 文献講読

第5回 項目 文献講読

第6回 項目 文献講読

第7回 項目 文献講読

第8回 項目 文献講読

第9回 項目 文献講読

第10回 項目 文献講読

第11回 項目 文献講読

第12回 項目 文献講読

第13回 項目 文献講読

第14回 項目 文献講読

第15回 項目 文献講読

成績評価方法（総合） 授業中に課したレジュメとレポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書：国際理解教育の理論的実践的指針の構築に関する総合的研究, 中西晃他, 非売品, 1998年

メッセージ 問題意識をもって参加してください。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	桑原昭徳				

授業の概要 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について検討する。

授業の一般目標 ”研究テーマに関連する論文を講読し、比較検討する際の基本的技法を理解する。研究テーマの位置づけや方法論について、主体的に考える姿勢を身につける。”

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。 思考・判断の観点：内外の論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点：研究テーマの位置づけについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の

観点：論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

授業の計画（全体） 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について、討論を交えながら検討する。

成績評価方法（総合） 出席、発表等をもとに総合的には評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	佐々木司				

授業の概要 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する論文を講読し、比較検討する際の基本的技法を理解する。研究テーマの位置づけや方法論について、主体的に考える姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。 思考・判断の観点：内外の論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点：研究テーマの位置づけについて、主体的に考えることができる。 態度の観点：積極的な姿勢で授業に参加している。 技能・表現の観点：論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

授業の計画（全体） 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について、討論を交えながら検討する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 授業についての概要説明、研究テーマの検討
- 第2回 項目 研究テーマの検討
- 第3回 項目 先行研究のレビュー
- 第4回 項目 研究テーマの検討
- 第5回 項目 研究テーマの検討、調査研究方法の検討
- 第6回 項目 調査研究について発表
- 第7回 項目 調査研究について発表
- 第8回 項目 調査研究について発表
- 第9回 項目 調査研究について発表
- 第10回 項目 調査研究について発表
- 第11回 項目 調査研究について発表
- 第12回 項目 調査研究について発表
- 第13回 項目 調査研究について発表
- 第14回 項目 調査研究について発表
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 毎回、受講学生は研究の進ちょく状況、自身が成し得たことを資料に基づいて発表する。主としてこの発表に基づいて評価する。

メッセージ 第1回目の授業で概要を説明する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	杉山緑				

授業の概要 現代教育方法学の諸対象の中から、受講生各自が研究対象を設定し、資料収集・レポート等を行い受講生全員で検討・討議する。

授業の一般目標 受講生各自が設定したテーマについて資料収集・精読・報告することを通して教育方法学研究の方法論を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 研究内容について説明できる。 思考・判断の観点： 1 . 研究内容を自己の視点によって論理的に整理できる。

授業の計画(全体) まず、現代教育方法学研究の動向について概説する。続いて、受講生が自ら研究テーマを設定し、研究する。その成果を報告・討論する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業方法、評価方法等について説明する。
- 第 2 回 項目 現代教育方法学の研究動向
- 第 3 回 項目 受講生のこれまでの学習・研究 成果の報告 1 内容 受講生がこれまでに行ってきた研究について報告する。
- 第 4 回 項目 受講生のこれまでの学習・研究 成果の報告 2 内容 同上 授業外指示 研究テーマの設定準備
- 第 5 回 項目 研究テーマの設定
- 第 6 回 項目 受講生による研究成果の報告(1)
- 第 7 回 項目 受講生による研究成果の報告(2)
- 第 8 回 項目 受講生による研究成果の報告(3)
- 第 9 回 項目 受講生による研究成果の報告(4)
- 第 10 回 項目 受講生による研究成果の報告(5)
- 第 11 回 項目 受講生による研究成果の報告(6)
- 第 12 回 項目 受講生による研究成果の報告(7)
- 第 13 回 項目 受講生による研究成果の報告(8)
- 第 14 回 項目 研究成果のまとめ(1)
- 第 15 回 項目 研究成果のまとめ(2)

成績評価方法(総合) レポート内容、発表態度等を総合的に評価する。

メッセージ 授業においては同じ研究者として対応します。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 3 F 電話：083 - 933 - 5452 メール：
ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日 10:00 ~ 12:00

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	田中理絵				

授業の概要 修士論文作成に向けて基礎的研究土台を固める。そのために、修士1年生では、優れた論文・書籍を読み込み、先行研究の精査、学術修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について検討する。また学術用語の習得を目標とする。 / 検索キーワード 仮説・検証、先行研究、分析力、読解力

授業の一般目標 研究土台を固め、修士論文のテーマおよび研究方法を決定する。研究テーマの位置づけや方法論について主体的に考える姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：学術用語の習得、先行研究の精査・検証。 思考・判断の観点：正しい論理性を習得する。内外の論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。 関心・意欲の観点：日常生活の中で、研究テーマに係わるあらゆる事象にアンテナを張り巡らす。 態度の観点：熱意を持って研究テーマを追究する態度を要する。 技能・表現の観点：1)正しい論文の書き方を1年生の間に習得する。2)論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく読み手に説明できる。

授業の計画(全体) 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について、討論を交えながら検討する。

成績評価方法(総合) 平素の演習態度とプレゼンテーション能力、データ収集能力を総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書：各自のテーマに沿った書籍・論文を適宜紹介します。 / 参考書：各自のテーマに沿った書籍・論文を適宜紹介します。

メッセージ 修士の2年間はあっという間に過ぎます。2年生になったら修士論文の作成に没頭しなければなりませんので、1年生の間に、基礎的知識・データ・研究方法を習得しておきましょう。

連絡先・オフィスアワー 水曜日2コマ目。ただし、アポイントを取れば適宜可能です。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	白石敏行				

授業の概要 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について検討する。 / 検索キーワード 幼児、保育、発達

授業の一般目標 研究テーマに関連する論文を講読し、比較検討する際の基本的技法を理解する。研究テーマの位置づけや方法論について、主体的に考える姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。 思考・判断の観点：内外の論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点：研究テーマの位置づけについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の

観点：論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

授業の計画(全体) 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について、討論を交えながら検討する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション

第2回 項目 文献講読(1)

第3回 項目 文献講読(2)

第4回 項目 文献講読(3)

第5回 項目 文献講読(4)

第6回 項目 文献講読(5)

第7回 項目 研究方法の検討(1)

第8回 項目 研究方法の検討(2)

第9回 項目 研究方法の検討(3)

第10回 項目 文献講読(6)

第11回 項目 文献講読(7)

第12回 項目 文献講読(8)

第13回 項目 文献講読(9)

第14回 項目 まとめ(1)

第15回 項目 まとめ(2)

成績評価方法(総合) 出席、課題の報告等をもとに総合的に評価する。

メッセージ 修士論文で乳幼児期の子どもおよび彼らを取り巻く環境について追究する人を望みます。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：(083)933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	西村正登				

授業の概要 修士論文の研究テーマを設定し、研究に必要な文献調査を行い、主要な文献を解釈しながら読み進めていく。各自まとめたものを発表しながら討議し、教育哲学研究の方法を学ぶ。 / 検索キーワード 研究テーマ、文献調査、教育哲学研究

授業の一般目標 1. 修士論文の研究テーマを決める。 2. 研究に必要な文献調査を行う。 3. 主要な文献を解釈しながらまとめ、研究発表する。 4. 研究を進めながら教育哲学の研究方法を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 教育哲学の研究方法が理解できる。 思考・判断の観点： 1. 主要な文献を解釈しながらまとめ、研究発表することができる。 関心・意欲の観点： 1. 研究を進めながら教育学研究への関心や意欲を高めることができる。 態度の観点： 1. 問題意識をもって文献を調査し、研究テーマを設定し、探究していくことができる。 技能・表現の観点： 1. 文献を解釈しながらまとめ、適切な表現を使ってプレゼンテーションすることができる。

授業の計画(全体) 修士論文の研究テーマを設定し、文献調査しながら研究を進め、まとめたものを発表し、討議しながら授業を進めていく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 研究テーマの設定(1)
- 第2回 項目 研究テーマの設定(2)
- 第3回 項目 文献調査(1)
- 第4回 項目 文献調査(2)
- 第5回 項目 研究発表と討議(1)
- 第6回 項目 研究発表と討議(2)
- 第7回 項目 研究発表と討議(3)
- 第8回 項目 研究発表と討議(4)
- 第9回 項目 研究発表と討議(5)
- 第10回 項目 研究発表と討議(6)
- 第11回 項目 研究発表と討議(7)
- 第12回 項目 研究発表と討議(8)
- 第13回 項目 研究発表と討議(9)
- 第14回 項目 研究発表と討議(10)
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 研究への意欲と態度、研究発表の内容と表現力、授業への出席状況等を総合的に判断して評価する。

教科書・参考書 教科書： 使用しない。 / 参考書： 研究の内容に応じて受講者が準備する。発表者は研究の内容をまとめたプリントを準備する。

メッセージ 教育や研究に対する問題意識をしっかりとって、研究テーマを設定して下さい。

連絡先・オフィスアワー masaton@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 A棟3階 教育哲学研究室

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	林徳治				

授業の概要 マルチメディア教材(児童生徒、教師用)の開発および評価 遠隔学習用Web教材の開発および評価

授業の一般目標 パソコンを活用した教材を開発し評価できる。遠隔学習用Web教材を学習し、その特徴を知る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: マルチメディアの定義と特徴を理解する。教材の評価内容・方法について習得する。 思考・判断の観点: 学習者の思考に応じた教材の構成について習得する。 関心・意欲の観点: ITを利用した学習について関心を持ち、意欲的に学習参画、教材開発に取り組みことができる。 技能・表現の観点: プレゼンテーションソフト、表計算ソフト、WEB作成のプログラムを利用して教材開発ができる。

授業の計画(全体) IT技術の教育利用について、その特徴を習得し、効果的な学習方法や教材開発を行うことができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 情報機器などの科学的理解1 内容 インターネット利用
- 第2回 項目 情報機器などの科学的理解2 内容 インターネット利用
- 第3回 項目 情報機器などの科学的理解3 内容 プレゼンテーションソフト利用
- 第4回 項目 情報機器などの科学的理解4 内容 プレゼンテーションソフト利用
- 第5回 項目 実践力1 内容 教材の開発
- 第6回 項目 実践力2 内容 教材の開発
- 第7回 項目 実践力3 内容 教材の開発
- 第8回 項目 実践力4 内容 教材の開発
- 第9回 項目 情報の責任1 内容 個人情報
- 第10回 項目 情報の責任2 内容 情報モラル
- 第11回 項目 自己表現・伝達1 内容 マイクロプレゼンテーションの実施
- 第12回 項目 自己表現・伝達2 内容 マイクロプレゼンテーションの実施
- 第13回 項目 自己表現・伝達3 内容 マイクロプレゼンテーションの評価
- 第14回 項目 自己表現・伝達4 内容 マイクロプレゼンテーションの改善
- 第15回 項目 まとめ 内容 レポート作成

成績評価方法(総合) IT等情報機器の科学的理解、情報の収集・選択・処理・伝達の実践力、情報社会に参画する態度や責任の観点から総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー E-mail hayashi@edu.yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター1階

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	福田修				

授業の概要 修士論文作成に直結する課題について、教育史の立場から指導を行う。/ 検索キーワード 修士論文、教育史

授業の一般目標 教育史の研究方法を理解し、専門的な学術論文が作成できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育史の研究方法が説明できる。 思考・判断の観点：収集した資料について多面的に検討し、客観的な分析ができる。 関心・意欲の観点：教育に関する関心を深め、専門的な課題意識を高めることができる。 態度の観点：ひとつの課題について、視野を深めながら長期的に追求することができる。 技能・表現の観点：検証結果を精緻かつ明解に文章表現できる。

授業の計画（全体）7月までにテーマを設定し、先行研究を整理し仮説を立てて資料の調査に入る。

授業計画（授業単位）/ 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 テーマ設定(1) 内容 テーマを選択する 授業外指示 テーマを考える
- 第2回 項目 テーマ設定(2) 内容 テーマを選択する 授業外指示 テーマを考える
- 第3回 項目 テーマ設定(3) 内容 テーマを選択する 授業外指示 テーマを考える
- 第4回 項目 テーマ設定(4) 内容 テーマを選択する 授業外指示 テーマを考える
- 第5回 項目 先行研究調査(1) 内容 先行研究の調査と収集 授業外指示 先行研究を調査し収集する
- 第6回 項目 先行研究調査(2) 内容 先行研究の調査と収集 授業外指示 先行研究を調査し収集しておく
- 第7回 項目 課題の絞込み(1) 内容 先行研究の検討 授業外指示 先行研究の検討をしておく
- 第8回 項目 課題の絞込み(2) 内容 先行研究の検討 授業外指示 先行研究の検討をしておく
- 第9回 項目 課題の絞込み(3) 内容 先行研究の検討 授業外指示 先行研究の検討をしておく
- 第10回 項目 課題の絞込み(4) 内容 先行研究の検討 授業外指示 先行研究の検討をしておく
- 第11回 項目 課題の絞込み(5) 内容 先行研究の検討 授業外指示 先行研究の検討をしておく
- 第12回 項目 課題の絞込み(6) 内容 課題を絞り込む 授業外指示 課題を絞り込む
- 第13回 項目 課題の絞込み(7) 内容 課題を絞り込む 授業外指示 課題を絞り込む
- 第14回 項目 課題の絞込み(8) 内容 課題を絞り込む 授業外指示 課題を絞り込む
- 第15回 項目 テーマ・課題の決定 内容 テーマ・課題の決定

成績評価方法（総合）毎回の発表内容を中心に評価する。

教科書・参考書 教科書：なし

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	松岡勝彦				

授業の概要 障害児心理学（応用行動分析学）に関連する受講生の課題について近年のわが国における研究動向を踏まえながら検討する。

授業の一般目標 障害児心理学（応用行動分析学）の研究動向についておさえる。

授業の計画（全体） 関連領域における先行研究のレビューを行い、修士論文作成のための基礎資料を収集する。その上で自らの課題を見つけ、研究計画（デザイン）の検討を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 研究論文のレビュー (1)
- 第2回 項目 研究論文のレビュー (2)
- 第3回 項目 研究論文のレビュー (3)
- 第4回 項目 研究論文のレビュー (4)
- 第5回 項目 研究論文のレビュー (5)
- 第6回 項目 研究論文のレビュー (6)
- 第7回 項目 研究論文のレビュー (7)
- 第8回 項目 研究論文のレビュー (8)
- 第9回 項目 研究論文のレビュー (9)
- 第10回 項目 研究論文のレビュー (10)
- 第11回 項目 まとめ (1)
- 第12回 項目 まとめ (2)
- 第13回 項目 受講生の課題検討 (1)
- 第14回 項目 受講生の課題検討 (2)
- 第15回 項目 受講生の課題検討 (3)

成績評価方法（総合） 授業態度、授業への参加、課題遂行度などについて総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	松田信夫				

授業の概要 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する論文を講読し、比較検討する際の基本的技法を理解する。研究テーマの位置づけや方法論について、主体的に考える姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。 思考・判断の観点：内外の論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点：研究テーマの位置づけについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の

観点：論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

授業の計画（全体） 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について、討論を交えながら検討する。

成績評価方法（総合）（1）レジュメに沿い、論理的に説明すること、（2）教員からの質疑に的確に回答できること、（3）教員より示された課題に後日的確に対応できること、以上の観点をもとに評価する。なお、特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

連絡先・オフィスアワー matsuda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階 オフィスアワー：随時

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	吉田一成				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	石井由理				

授業の概要 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備実験や予備調査の計画を立て、それに基づいて予備実験や予備調査を行い、その結果について検討する。 / 検索キーワード 国際理解教育

授業の一般目標 ”研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、実験や調査の計画立案がある程度できる。研究テーマに関連する実験や調査の基本的な方法論が理解でき、それを適切に実践できる能力を身につける。”

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマに関連する実験や調査の基本的な方法論が理解できる。

思考・判断の観点： 研究テーマに関連する実験や調査の妥当な方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点： 研究テーマに関する実験、調査の計画立案について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究テーマに関連した実験や調査を適切に実践できる基本的な能力を身につける。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備実験や予備調査の計画立案を行い、それに基づいて予備実験や予備調査を行い、その結果を適宜まとめていく。計画立案の仕方、実験・調査の基本的な方法、得られた結果やその整理の仕方について、討論を交えながら、適宜検討し、本実験や本調査の研究計画立案に向けての準備をする。また、実験・調査の基本的な方法について習得する。主として文献の講読を通して国際社会における人権の認識と国際理解教育との関連を学

成績評価方法（総合） レジюмеおよび発表による

連絡先・オフィスアワー 教育学部2階200 - (1)室 事前のアポイントメントにより随時

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	原昭徳				

授業の概要 研究テーマに関する予備実験や予備調査の結果を踏まえて、本実験や本調査の研究計画を立案し、それに基づいて本実験や本調査を実施し、得られた結果の整理を行う。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文や予備実験や予備調査の結果を踏まえて、研究テーマに関する実験や調査の計画立案ができる。研究テーマに関する実験や調査を適切に実践できる能力を身につける。また、得られた結果の適切な整理の仕方を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマに関する実験や調査の方法論が理解できる。 思考・判断の観点：研究テーマに関する実験や調査の妥当な方法論や得られた結果の適切な整理の仕方について考えることができる。 関心・意欲の観点：研究計画の遂行について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：研究テーマに関する実験や調査を適切に実践できる能力を身につける。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関する予備実験や予備調査の結果を踏まえて、本実験や本調査の研究計画を立案し、それに基づいて本実験や本調査を実施する。そして、得られた結果の整理を行う。研究計画の立案、実験方法や結果の整理の方法については、適宜討論を交えながら、検討し、研究計画を遂行し、結果をまとめていく。

成績評価方法（総合） 出席、発表等をもとに総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	佐々木司				

授業の概要 1年次の「課題研究」を通じて行ってきた調査研究の結果を踏まえて、さらに本格的な調査研究の研究計画を立案し、それに基づいて調査研究を実施する。得られた結果の整理を行う。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文や1年次に実施した調査研究の結果を踏まえて、研究テーマに関する本格的な調査の計画立案ができる。研究テーマに関する本格的な調査を適切に実践できる能力を身につける。また、得られた結果の適切な整理の仕方を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマに関する実験や調査の方法論が理解できる。 思考・判断の観点：研究テーマに関する実験や調査の妥当な方法論や得られた結果の適切な整理の仕方について考えることができる。 関心・意欲の観点：研究計画の遂行について、主体的に考えることができる。 態度の観点：積極的な態度で授業に参加し、自らの研究結果を客観的に見つめ、改善すべき点を改善していこうとする態度を身につけている。 技能・表現の観点：研究テーマに関する実験や調査を適切に実践できる能力を身につける。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関して行った1年次の調査研究の結果を踏まえて、より本格的な調査研究の計画を立案し、それに基づいて調査研究を実施する。そして、得られた結果の整理を行う。研究計画の立案、実験方法や結果の整理の方法については、適宜討論を交えながら、検討し、研究計画を遂行し、結果をまとめていく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 授業についての概要説明、研究計画の検討
- 第2回 項目 研究計画の検討、決定
- 第3回 項目 調査研究について発表
- 第4回 項目 調査研究について発表
- 第5回 項目 調査研究について発表
- 第6回 項目 調査研究について発表
- 第7回 項目 調査研究について発表
- 第8回 項目 調査研究について発表
- 第9回 項目 調査研究について発表
- 第10回 項目 調査研究について発表
- 第11回 項目 調査研究について発表
- 第12回 項目 調査研究について発表
- 第13回 項目 調査研究について発表
- 第14回 項目 調査研究について発表
- 第15回 項目 まとめ、反省

成績評価方法（総合） 毎回、受講学生は研究の進ちょく状況、自分が成し得たことを資料に基づいて発表する。主としてこの発表に基づいて評価する。

メッセージ 第1回目の授業で概要を説明する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	杉山緑				

授業の概要 現代教育方法学の諸対象の中から、受講生各自が研究対象を設定し、資料収集・レポートを行い受講者全員で検討・討議する。

授業の一般目標 受講生各自が設定したテーマについて資料収集・精読・報告することを通して教育方法学研究の方法論を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 研究内容について説明できる。 思考・判断の観点： 1 . 研究内容を自己の視点によって論理的に整理できる。

授業の計画(全体) 1年次に引き続き、受講生が設定したテーマについて報告・討論する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業方法、評価 方法等について 説明する。

第 2 回 項目 研究テーマの設定・確認

第 3 回 項目 研究成果の報告・討論(1)

第 4 回 項目 研究成果の報告・討論(2)

第 5 回 項目 研究成果の報告・討論(3)

第 6 回 項目 研究成果の報告・討論(4)

第 7 回 項目 研究成果の報告・討論(5)

第 8 回 項目 中間まとめ

第 9 回 項目 研究成果の報告・討論(6)

第10回 項目 研究成果の報告・討論(7)

第11回 項目 研究成果の報告・討論(8)

第12回 項目 研究成果の報告・討論(9)

第13回 項目 研究成果の報告・討論(10)

第14回 項目 研究成果のまとめ(1)

第15回 項目 研究成果のまとめ(2)

成績評価方法(総合) レポート内容、発表態度等を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：なし

メッセージ 授業においては同じ研究者として対応します。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部3F 電話083-933-5452 メール：
ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	田中理絵				

授業の概要 研究テーマに関する予備調査の結果を踏まえ、本調査の研究計画を立案し、それに基づいて調査を実施し、得られた結果の整理を行う。 / 検索キーワード 仮説・検証、先行研究、分析力、読解力

授業の一般目標 1) 研究課題を解明するための調査・研究を計画通りに実施する。 2) 研究テーマに関連する国内外の論文の講読によって、調査結果を理論的に解釈できる。 3) 調査・研究結果を踏まえて、的確な論文構成をたてることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 学術用語の習得、先行研究の精査・検証。 思考・判断の観点： 正しい論理性を習得する。研究テーマに関連する実験や調査の妥当な方法論について考えることができる。 関心・意欲の観点： 日常生活の中で、研究テーマに係わるあらゆる事象にアンテナを張り巡らす。研究テーマに関する実験、調査の計画立案について、主体的に考えることができる。 態度の観点： 熱意を持って研究テーマを追究する態度を要する。 技能・表現の観点： 正しい論文の書き方を1年生の間に習得しておく

授業の計画(全体) 修士論文の研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、本調査を実施する。その結果を適宜討論を交えながらまとめていき、修士論文の土台を作り上げる。

成績評価方法(総合) 平素の演習態度とプレゼンテーション能力、データ収集能力を総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書： 各自のテーマに沿った書籍・論文を適宜紹介します。 / 参考書： 各自のテーマに沿った書籍・論文を適宜紹介します。

メッセージ 修士論文作成のため、これまで身につけてきた学術用語・研究方法・視角を統合して分析・考察を行うこと。地道に研究を進めること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日2コマ目。ただし、アポイントを取れば適宜可能です。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	白石敏行				

授業の概要 研究テーマに関する予備実験や予備調査の結果を踏まえて、本実験や本調査の研究計画を立案し、それに基づいて本実験や本調査を実施し、得られた結果の整理を行う。 / 検索キーワード 幼児、保育、発達

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文や予備実験や予備調査の結果を踏まえて、研究テーマに関する実験や調査の計画立案ができる。研究テーマに関する実験や調査を適切に実践できる能力を身につける。また、得られた結果の適切な整理の仕方を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマに関する実験や調査の方法論が理解できる。 思考・判断の観点：研究テーマに関する実験や調査の妥当な方法論や得られた結果の適切な整理の仕方について考えることができる。 関心・意欲の観点：研究計画の遂行について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：研究テーマに関する実験や調査を適切に実践できる能力を身につける。

授業の計画(全体) 修士論文の研究テーマに関する予備実験や予備調査の結果を踏まえて、本実験や本調査の研究計画を立案し、それに基づいて本実験や本調査を実施する。そして、得られた結果の整理を行う。研究計画の立案、実験方法や結果の整理の方法については、適宜討論を交えながら、検討し、研究計画を遂行し、結果をまとめていく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション

第2回 項目 文献講読(1)

第3回 項目 文献講読(2)

第4回 項目 文献講読(3)

第5回 項目 文献講読(4)

第6回 項目 文献講読(5)

第7回 項目 研究方法の検討(1)

第8回 項目 研究方法の検討(2)

第9回 項目 研究方法の検討(3)

第10回 項目 文献講読(6)

第11回 項目 文献講読(7)

第12回 項目 文献講読(8)

第13回 項目 文献講読(9)

第14回 項目 まとめ(1)

第15回 項目 まとめ(2)

成績評価方法(総合) 出席、課題の報告等をもとに総合的に評価する。

メッセージ 修士論文で乳幼児期の子どもおよび彼らを取り巻く環境について追究する人を望みます。1年次の「課題研究」の単位を取得していること。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：(083)933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	西村正登				

授業の概要 全体構想に従って、各章、各節ごとに文章化しながら修士論文を作成していく。/ 検索キーワード 修士論文、論文作成

授業の一般目標 1. 各章、各節ごとに作成した論文を修正しながら修士論文を仕上げていく。 2. まとめた論文を研究発表し、全員で討議しながら各自の研究を深めていく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 論文の書き方や作法を理解できる。 思考・判断の観点: 1. 筋道を立てて論理的に考え、判断することができる。 関心・意欲の観点: 1. 論文を書きながら、自分の研究テーマに対する関心や意欲をさらに高めることができる。 態度の観点: 1. 筋道を立てて論理的に論文を書くことができる。 技能・表現の観点: 1. 文章によって論旨を明確に表現することができる。

授業の計画(全体) 各自が各章、各節ごとにまとめて研究発表し、全員でそれを討議しながら授業を進めていく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 研究テーマの確認と発表者の決定
- 第 2 回 項目 研究発表と討議(1)
- 第 3 回 項目 研究発表と討議(2)
- 第 4 回 項目 研究発表と討議(3)
- 第 5 回 項目 研究発表と討議(4)
- 第 6 回 項目 研究発表と討議(5)
- 第 7 回 項目 研究発表と討議(6)
- 第 8 回 項目 研究発表と討議(7)
- 第 9 回 項目 研究発表と討議(8)
- 第 10 回 項目 研究発表と討議(9)
- 第 11 回 項目 研究発表と討議(10)
- 第 12 回 項目 研究発表と討議(11)
- 第 13 回 項目 研究発表と討議(12)
- 第 14 回 項目 研究発表と討議(13)
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 研究への意欲と態度、研究発表の内容と表現力、授業への出席状況等を総合的に判断して評価する。

教科書・参考書 教科書: 使用しない。/ 参考書: 研究発表の内容に応じて必要な参考書とプリントを発表者が準備する。

メッセージ 毎時間の積み重ねが修士論文作成につながっていくよう、1時間1時間を大切にしてください。

連絡先・オフィスアワー masaton@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 A 棟 3 階 教育哲学研究室

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	林徳治				

授業の概要 マルチメディア教材（児童生徒、教師用）の開発および評価 遠隔学習用Web教材の開発および評価

授業の一般目標 パソコンを活用したマルチメディア教材を開発し実証できる 遠隔学習用Web教材を開発し実証できる

連絡先・オフィスアワー E-mail hayashi@edu.yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター 1階

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	福田修				

授業の概要 修士論文作成に直結する課題について教育史の分野から研究指導する。 / 検索キーワード 修士論文

授業の一般目標 教育史の研究方法を理解し、専門的な学術論文が作成できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育史の研究方法が説明できる。 思考・判断の観点：収集した資料について多面的に検討し、客観的な分析ができる。 関心・意欲の観点：教育に関する関心を深め、専門的な課題意識を高めることができる。 態度の観点：ひとつの課題について、視野を深めながら長期的に追究することができる。 技能・表現の観点：検証結果を精緻かつ明解に文章表現できる。

授業の計画（全体）7月までにテーマを設定し、先行研究の整理し仮説を立て資料の調査に入る。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 仮説の設定 内容 仮説を設定する 授業外指示 仮説を設定しておく
- 第2回 項目 資料調査と収集(1) 内容 収集した資料を発表する 授業外指示 資料を収集しまとめる
- 第3回 項目 資料調査と収集(2) 内容 収集した資料を発表する 授業外指示 資料を収集しまとめる
- 第4回 項目 資料調査と収集(3) 内容 収集した資料を発表する 授業外指示 資料を収集しまとめる
- 第5回 項目 仮説の検討(1) 内容 仮説を検討する 授業外指示 収集した資料で仮説を検討しておく
- 第6回 項目 資料調査と収集(4) 内容 収集した資料を発表する 授業外指示 資料を収集しまとめる
- 第7回 項目 資料調査と収集(5) 内容 収集した資料を発表する 授業外指示 資料を収集しまとめる
- 第8回 項目 資料調査と収集(6) 内容 収集した資料を発表する 授業外指示 資料を収集しまとめる
- 第9回 項目 仮説の検討(2) 内容 仮説を検討する 授業外指示 収集した資料で仮説を検討しておく
- 第10回 項目 資料調査と収集(7) 内容 収集した資料を発表する 授業外指示 資料を収集しまとめる
- 第11回 項目 資料調査と収集(8) 内容 収集した資料を発表する 授業外指示 資料を収集しまとめる
- 第12回 項目 資料調査と収集(9) 内容 収集した資料を発表する 授業外指示 資料を収集しまとめる
- 第13回 項目 資料調査と収集(10) 内容 収集した資料を発表する 授業外指示 資料を収集しまとめる
- 第14回 項目 仮説の検討(3) 内容 仮説を検討する 授業外指示 収集した資料で仮説を検討しておく
- 第15回 項目 論文の構成 内容 論文構成を検討する 授業外指示 論文構成を考えておく

成績評価方法（総合）毎回の発表内容を中心に評価する。

教科書・参考書 教科書：なし

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	松岡勝彦				

授業の概要 障害児心理学（応用行動分析学）に関連する先行研究についてレビューを行い、研究デザインの立案、データの収集を行う。

授業の一般目標 障害児心理学（応用行動分析学）に関連する先行研究について概観し、研究デザインやデータの収集方法について習得すること。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 先行研究のレビュー (1)
- 第2回 項目 先行研究のレビュー (2)
- 第3回 項目 先行研究のレビュー (3)
- 第4回 項目 先行研究のレビュー (4)
- 第5回 項目 先行研究のレビュー (5)
- 第6回 項目 研究デザインの立案 (1)
- 第7回 項目 研究デザインの立案 (2)
- 第8回 項目 研究デザインの立案 (3)
- 第9回 項目 研究デザインの立案 (4)
- 第10回 項目 研究デザインの立案 (5)
- 第11回 項目 データの収集方法 (1)
- 第12回 項目 データの収集方法 (2)
- 第13回 項目 データの収集方法 (3)
- 第14回 項目 データの収集方法 (4)
- 第15回 項目 データの収集方法 (5)

成績評価方法（総合） 研究課題の進捗状況、プレゼンテーションなどについて総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	松田信夫				

授業の概要 研究テーマに関する予備調査の結果を踏まえて、本調査の研究計画を立案し、それに基づいて本調査を実施し、得られた結果の整理を行う。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文や予備調査の結果を踏まえて、研究テーマに関する調査の計画立案ができる。研究テーマに関する調査を適切に実践できる能力を身につける。また、得られた結果の適切な整理の仕方を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマに関する調査の方法論が理解できる。 思考・判断の観点：研究テーマに関する調査の妥当な方法論や得られた結果の適切な整理の仕方について考えることができる。 関心・意欲の観点：研究計画の遂行について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：研究テーマに関する調査を適切に実践できる能力を身につける。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関する予備調査の結果を踏まえて、本調査の研究計画を立案し、それに基づいて本調査を実施する。そして、得られた結果の整理を行う。研究計画の立案、調査方法や結果の整理の方法については、適宜討論を交えながら、検討し、研究計画を遂行し、結果をまとめていく。

成績評価方法（総合）（1）レジュメに沿い、論理的に説明すること、（2）教員からの質疑に的確に回答できること、（3）教員より示された課題に後日的確に対応できること、以上の観点をもとに評価する。なお、特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

連絡先・オフィスアワー matsuda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階 オフィスアワー：随時

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	吉田一成				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	石井由理				

授業の概要 研究テーマに関する予備実験や予備調査の結果を踏まえて、本実験や本調査の研究計画を立案し、それに基づいて本実験や本調査を実施し、得られた結果の整理を行う。

授業の一般目標 ”研究テーマに関連する国内外の論文や予備実験や予備調査の結果を踏まえて、研究テーマに関する実験や調査の計画立案ができる。研究テーマに関する実験や調査を適切に実践できる能力を身につける。また、得られた結果の適切な整理の仕方を身につける。”

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマに関する実験や調査の方法論が理解できる。 思考・判断の観点：研究テーマに関する実験や調査の妥当な方法論や得られた結果の適切な整理の仕方について考えることができる。 関心・意欲の観点：研究計画の遂行について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：研究テーマに関する実験や調査を適切に実践できる能力を身につける。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関する予備実験や予備調査の結果を踏まえて、本実験や本調査の研究計画を立案し、それに基づいて本実験や本調査を実施する。そして、得られた結果の整理を行う。研究計画の立案、実験方法や結果の整理の方法については、適宜討論を交えながら、検討し、研究計画を遂行し、結果をまとめていく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション、文献の選定
- 第 2 回 項目 文献講読
- 第 3 回 項目 文献講読
- 第 4 回 項目 文献講読
- 第 5 回 項目 文献講読
- 第 6 回 項目 文献講読
- 第 7 回 項目 文献講読
- 第 8 回 項目 文献講読
- 第 9 回 項目 文献講読
- 第 10 回 項目 文献講読
- 第 11 回 項目 文献講読
- 第 12 回 項目 文献講読
- 第 13 回 項目 文献講読
- 第 14 回 項目 文献講読
- 第 15 回 項目 文献講読

成績評価方法（総合） 授業中に行うレジュメを用いた演習による。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	原昭徳				

授業の概要 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備実験や予備調査の計画を立て、それに基づいて予備実験や予備調査を行い、その結果について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、実験や調査の計画立案がある程度できる。研究テーマに関連する実験や調査の基本的な方法論が理解でき、それを適切に実践できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマに関連する実験や調査の基本的な方法論が理解できる。

思考・判断の観点： 研究テーマに関連する実験や調査の妥当な方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点： 研究テーマに関する実験、調査の計画立案について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究テーマに関連した実験や調査を適切に実践できる基本的な能力を身につける。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備実験や予備調査の計画立案を行い、それに基づいて予備実験や予備調査を行い、その結果を適宜まとめていく。計画立案の仕方、実験・調査の基本的な方法、得られた結果やその整理の仕方について、討論を交えながら、適宜検討し、本実験や本調査の研究計画立案に向けての準備をする。また、実験・調査の基本的な方法について習得する。

成績評価方法（総合） 出席、発表等をもとに総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	佐々木司				

授業の概要 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、調査研究の計画を立て、それに基づいて予備調査を行い、その結果について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、実験や調査の計画立案がある程度できる。研究テーマに関連する実験や調査の基本的な方法論が理解でき、それを適切に実践できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマに関連する調査研究の基本的な方法論が理解できる。

思考・判断の観点： 研究テーマに関連する調査研究の妥当な方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点： 研究テーマに関する調査研究の計画立案について、主体的に考えることができる。

態度の観点： 積極的な姿勢で授業に参加するとともに、自らの研究を客観的に捉えようとする姿勢を身につけている。 技能・表現の観点： 研究テーマに関連した実験や調査を適切に実践できる基本的な能力を身につけている。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、調査研究の計画立案を行い、それに基づいて調査研究を行い、その結果を適宜まとめていく。計画立案の仕方、調査研究の基本的方法、得られた結果やその整理の仕方について、討論を交えながら、適宜検討し、調査研究の計画立案に向けた準備をする。また、調査研究の基本的方法について習得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 授業についての概要説明、研究計画の検討
- 第2回 項目 研究計画の検討
- 第3回 項目 研究計画の検討、決定
- 第4回 項目 調査研究について発表
- 第5回 項目 調査研究について発表
- 第6回 項目 調査研究について発表
- 第7回 項目 調査研究について発表
- 第8回 項目 調査研究について発表
- 第9回 項目 調査研究について発表
- 第10回 項目 調査研究について発表
- 第11回 項目 調査研究について発表
- 第12回 項目 調査研究について発表
- 第13回 項目 調査研究について発表
- 第14回 項目 調査研究について発表
- 第15回 項目 まとめ、反省

成績評価方法（総合） 毎回、受講学生は研究の進ちょく状況、自身が成し得たことを資料に基づいて発表する。主としてこの発表に基づいて評価する。

メッセージ 第1回目の授業で概要を説明する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	杉山緑				

授業の概要 前期に引き続き、現代教育方法学の諸対象の中から、受講者各自が設定した研究対象について資料収集・レポートを行い受講者全員で検討・討論する。

授業の一般目標 前期に設定した研究テーマの深化を図る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 研究内容について説明できる。 思考・判断の観点： 1 . 研究内容を自己の視点によって論理的に整理できる。

授業の計画(全体) 前期同様に受講生の報告・討論を行う。最後に各自の研究のまとめを行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション・研究テーマの確認
- 第 2 回 項目 受講生による研究成果の報告・討議(1)
- 第 3 回 項目 受講生による研究成果の報告・討議(2)
- 第 4 回 項目 受講生による研究成果の報告・討議(3)
- 第 5 回 項目 受講生による研究成果の報告・討議(4)
- 第 6 回 項目 受講生による研究成果の報告・討議(5)
- 第 7 回 項目 受講生による研究成果の報告・討議(6)
- 第 8 回 項目 中間まとめ
- 第 9 回 項目 受講者による研究成果の報告・討議(7)
- 第 10 回 項目 受講生による研究成果の報告・討議(8)
- 第 11 回 項目 受講生による研究成果の報告・討議(9)
- 第 12 回 項目 受講生による研究成果の報告・討議(10)
- 第 13 回 項目 受講生による研究成果の報告・討議(11)
- 第 14 回 項目 受講生による研究成果の報告・討議(12)
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) レポート内容、発表態度等を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：なし,,

メッセージ 修士論文につながる授業なので、そのことを意識した学習を行うこと。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 3 F 電話：083-933-5452 メール：
ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	田中理絵				

授業の概要 修士論文作成に向けて基礎的研究土台を固める。そのために、修士1年生では、優れた論文・書籍を読み込み、先行研究の精査、学術用語の習得を目標とする。 / 検索キーワード 仮説・検証、先行研究、分析力、読解力

授業の一般目標 1) 研究土台を固め、修士論文のテーマおよび研究方法を決定する。 2) 研究課題を解明するための調査・研究計画をたてる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：学術用語の習得、先行研究の精査・検証。 思考・判断の観点：正しい論理性を習得する。研究テーマに関連する実験や調査の妥当な方法論について考えることができる。 関心・意欲の観点：日常生活の中で、研究テーマに係わるあらゆる事象にアンテナを張り巡らす。研究テーマに関する実験、調査の計画立案について、主体的に考えることができる。 態度の観点：熱意を持って研究テーマを追究する態度を要する。 技能・表現の観点：正しい論文の書き方を1年生の間に習得しておく

授業の計画(全体) 修士論文の研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備実験や予備調査の計画立案を行い、それに基づいて予備実験や予備調査を行い、その結果を適宜まとめていく。計画立案の仕方、調査方法、結果やその整理の仕方について、討論を交えながら適宜検討し、本調査の研究計画立案に向けての準備をする。

成績評価方法(総合) 平素の演習態度とプレゼンテーション能力、データ収集能力を総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書：各自のテーマに沿った書籍・論文を適宜紹介します。 / 参考書：各自のテーマに沿った書籍・論文を適宜紹介します。

メッセージ 修士の2年間はあっという間に過ぎます。2年生になったら修士論文の作成に没頭しなければなりませんので、1年生の間に、基礎的知識・データ・研究方法を習得しておきましょう。

連絡先・オフィスアワー 水曜日2コマ目。ただし、アポイントを取れば適宜可能です。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	白石敏行				

授業の概要 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備実験や予備調査の計画を立て、それに基づいて予備実験や予備調査を行い、その結果について検討する。 / 検索キーワード 幼児、保育、発達

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、実験や調査の計画立案がある程度できる。研究テーマに関連する実験や調査の基本的な方法論が理解でき、それを適切に実践できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマに関連する実験や調査の基本的な方法論が理解できる。

思考・判断の観点： 研究テーマに関連する実験や調査の妥当な方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点： 研究テーマに関する実験、調査の計画立案について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究テーマに関連した実験や調査を適切に実践できる基本的な能力を身につける。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備実験や予備調査の計画立案を行い、それに基づいて予備実験や予備調査を行い、その結果を適宜まとめていく。計画立案の仕方、実験・調査の基本的な方法、得られた結果やその整理の仕方について、討論を交えながら、適宜検討し、本実験や本調査の研究計画立案に向けての準備をする。また、実験・調査の基本的な方法について習得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション

第2回 項目 文献講読（1）

第3回 項目 文献講読（2）

第4回 項目 文献講読（3）

第5回 項目 文献講読（4）

第6回 項目 文献講読（5）

第7回 項目 研究方法の検討（1）

第8回 項目 研究方法の検討（2）

第9回 項目 研究方法の検討（3）

第10回 項目 文献講読（6）

第11回 項目 文献講読（7）

第12回 項目 文献講読（8）

第13回 項目 文献講読（9）

第14回 項目 まとめ（1）

第15回 項目 まとめ（2）

成績評価方法（総合） 出席、課題の報告等をもとに総合的に評価する。

メッセージ 修士論文で乳幼児期の子どもおよび彼らを取り巻く環境について追究する人を望みます。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：(083)933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	西村正登				

授業の概要 修士課程1年前期で行った研究を発展させ、深めていく。文献をさらに読み進めながらまとめたものを発表し、それについて全員で討議しながら教育の本質について考察を深めていく。また、修士論文の全体構想を立て、章立てと節立てを行う。 / 検索キーワード 文献解釈、研究発表、討議

授業の一般目標 1. 文献を解釈しながらまとめ、研究発表を行う。 2. 研究発表したものを全員で討議しながら議論を深める。 3. 修士論文の全体構想を立て、章立てと節立てを行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 教育哲学の専門的な用語や概念が理解できる。 思考・判断の観点: 1. 文献を解釈しながらまとめ、研究発表を行うことができる。 2. 修士論文の全体構想を立て、章立てと節立てを行うことができる。 関心・意欲の観点: 1. 研究を進めながら、研究テーマへの関心や意欲を高めることができる。 態度の観点: 1. 研究発表したものを全員で討議しながら深めることができる。 技能・表現の観点: 1. 文献を解釈したものをまとめ、適切な表現を使ってプレゼンテーションすることができる。

授業の計画(全体) 教育哲学の専門用語や概念を理解しながら、各自研究を進め、まとめたものを発表しながら全員で討議を深めていく。そして、修士論文の全体構想を立て、章立てや節立てを行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 授業の全体計画と発表者の決定
- 第2回 項目 研究発表と討議(1)
- 第3回 項目 研究発表と討議(2)
- 第4回 項目 研究発表と討議(3)
- 第5回 項目 研究発表と討議(4)
- 第6回 項目 研究発表と討議(5)
- 第7回 項目 研究発表と討議(6)
- 第8回 項目 研究発表と討議(7)
- 第9回 項目 研究発表と討議(8)
- 第10回 項目 研究発表と討議(9)
- 第11回 項目 研究発表と討議(10)
- 第12回 項目 修士論文の構想(1)
- 第13回 項目 修士論文の構想(2)
- 第14回 項目 修士論文の構想(3)
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 研究への意欲と態度、研究発表の内容と表現力、授業への出席状況等を総合的に判断して評価する。

教科書・参考書 教科書: 使用しない。 / 参考書: 研究発表の内容に応じて発表者が準備する。各自、研究内容をまとめたプリントを準備する。

メッセージ 毎回の研究発表の積み重ねが修士論文の作成につながっていくよう、1時間1時間を大切にしてください。

連絡先・オフィスアワー masaton@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 A棟3階 教育哲学研究室

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	林徳治				

授業の概要 修士論文作成に向けて、各自の修論テーマに応じた論文の章構成、先行研究のレビュー、実証方法、分析方法、評価方法などについて指導・助言する。

授業の一般目標 修士論文作成に向けて、各自の修論テーマに応じた研究支援を行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：課題テーマについての知識を習得し、論理的に探究できる 思考・判断の観点：課題テーマについて、客観的な観点からクリティカルな考え方ができる。 関心・意欲の観点：課題テーマについて、グローバルな視点から概観でき、関連事項について主体的に取り組むことができる。 態度の観点：課題テーマについて、より深く探究する姿勢や態度を培うことができる。 技能・表現の観点：課題テーマについて、適切な教材開発技術や統計手法について応用できる。

授業の計画(全体) 各位が設定した修論テーマについて論理的な構成ができ、探究し、成果について執筆できる能力を習得する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 課題テーマの設定1 内容 理由および新規性、仮説、期待される成果など
- 第2回 項目 課題テーマの設定2 内容 理由および新規性、仮説、期待される成果など
- 第3回 項目 先行研究のサーベイ1 内容 収集
- 第4回 項目 先行研究のサーベイ2 内容 選択
- 第5回 項目 課題構成1 内容 章、節の構成
- 第6回 項目 課題構成2 内容 章、節の構成
- 第7回 項目 実証1 内容 内容、方法
- 第8回 項目 実証2 内容 内容、方法
- 第9回 項目 教育データ処理 内容 表計算ソフト利用
- 第10回 項目 教育データ分析 内容 統計ソフト利用
- 第11回 項目 教育データ整理 内容 図表ソフト利用
- 第12回 項目 結果の整理
- 第13回 項目 考察
- 第14回 項目 今後の課題
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 課題テーマについて、経緯、目的、方法、実証、結果、考察の各内容について検証する。

連絡先・オフィスアワー E-mail hayashi@edu.yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター1階

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	福田修				

授業の概要 修士論文作成に直結する課題について教育史の分野から研究指導する。 / 検索キーワード 修士論文, 教育史

授業の一般目標 教育史の研究方法を理解し, 専門的な学術論文が作成できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 教育史の研究方法が説明できる。 思考・判断の観点: 収集した資料について多面的に検討し, 客観的な分析ができる。 関心・意欲の観点: 教育に関する関心を深め, 専門的な課題意識を高めることができる。 態度の観点: ひとつの課題について, 視野を深めながら長期的に追究することができる。 技能・表現の観点: 検証結果を精緻かつ明解に文章表現できる。

授業の計画(全体) 12月までに資料の調査を終え, 資料の分析を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 論文の構成(1) 内容 論文構成を検討する 授業外指示 論文構成を考えておく
- 第2回 項目 論文の構成(2) 内容 論文構成を検討する 授業外指示 論文構成を考えておく
- 第3回 項目 論文の構成(3) 内容 論文構成を検討する 授業外指示 論文構成を考えておく
- 第4回 項目 論文の構成(4) 内容 論文構成を検討する 授業外指示 論文構成を考えておく
- 第5回 項目 各章の概要(1) 内容 概要を検討する 授業外指示 概要を作成する
- 第6回 項目 各章の概要(2) 内容 概要を検討する 授業外指示 概要を作成する
- 第7回 項目 各章の概要(3) 内容 概要を検討する 授業外指示 概要を作成する
- 第8回 項目 各章の概要(4) 内容 概要を検討する 授業外指示 概要を作成する
- 第9回 項目 論文の構成(5) 内容 論文構成を検討する 授業外指示 論文構成を考えておく
- 第10回 項目 各章の概要(5) 内容 概要を検討する 授業外指示 概要を作成する
- 第11回 項目 各章の概要(7) 内容 概要を検討する 授業外指示 概要を作成する
- 第12回 項目 各章の概要(8) 内容 概要を検討する 授業外指示 概要を作成する
- 第13回 項目 各章の概要(9) 内容 概要を検討する 授業外指示 概要を作成する
- 第14回 項目 論文の構成(6) 内容 論文構成を検討する 授業外指示 論文構成を考えておく
- 第15回 項目 論文の構成(7) 内容 論文構成を検討する 授業外指示 論文構成を考えておく

成績評価方法(総合) 毎回の発表内容を中心に評価する。

教科書・参考書 教科書: なし

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	松岡勝彦				

授業の概要 障害児心理学（応用行動分析学）や特別支援教育に関連する受講生の課題について近年の研究動向を踏まえながら検討する。

授業の一般目標 障害児心理学（応用行動分析学）の研究動向や今後の課題について学習する。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 研究論文のレビュー(1)
- 第2回 項目 研究論文のレビュー(2)
- 第3回 項目 研究論文のレビュー(3)
- 第4回 項目 研究論文のレビュー(4)
- 第5回 項目 研究論文のレビュー(5)
- 第6回 項目 特別支援教育の現状(1)
- 第7回 項目 特別支援教育の現状(2)
- 第8回 項目 特別支援教育の現状(3)
- 第9回 項目 特別支援教育の現状(4)
- 第10回 項目 特別支援教育の現状(5)
- 第11回 項目 今後の課題(1)
- 第12回 項目 今後の課題(2)
- 第13回 項目 今後の課題(3)
- 第14回 項目 まとめ(1)
- 第15回 項目 まとめ(2)

成績評価方法（総合） 授業態度、授業への参加、課題遂行度、プレゼンテーションなどについて総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	松田信夫				

授業の概要 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備調査の計画を立て、それに基づいて予備調査を行い、その結果について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、調査の計画立案がある程度できる。研究テーマに関連する調査の基本的な方法論が理解でき、それを適切に実践できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマに関連する調査の基本的な方法論が理解できる。 思考・判断の観点： 研究テーマに関連する調査の妥当な方法論について考えることができる。 関心・意欲の観点： 研究テーマに関する調査の計画立案について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究テーマに関連した調査を適切に実践できる基本的な能力を身につける。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備調査の計画立案を行い、それに基づいて予備調査を行い、その結果を適宜まとめていく。計画立案の仕方、調査の基本的な方法、得られた結果やその整理の仕方について、討論を交えながら、適宜検討し、本調査の研究計画立案に向けての準備をする。また、調査の基本的な方法について習得する。

成績評価方法（総合）（１）レジュメに沿い、論理的に説明すること、（２）教員からの質疑に的確に回答できること、（３）教員より示された課題に後日的確に対応できること、以上の観点をもとに評価する。なお、特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

連絡先・オフィスアワー matsuda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階 オフィスアワー：随時

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	吉田一成				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	石井由理				

授業の概要 本実験や本調査で得られた結果をまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等についても習得する。 / 検索キーワード 国際理解教育

授業の一般目標 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現する方法論が理解できる。 思考・判断の観点： 研究結果から得られる見解を適切に考えることができる。

関心・意欲の観点： 研究をまとめることについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる。

授業の計画（全体） 本実験や本調査で得られた結果を最終的にまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等について習得する。

成績評価方法（総合） 提出された小論文の内容による

連絡先・オフィスアワー 教育学部2階200 - (1) 事前の予約により随時

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	桑原昭徳				

授業の概要 本実験や本調査で得られた結果をまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等についても習得する。

授業の一般目標 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現する方法論が理解できる。 思考・判断の観点： 研究結果から得られる見解を適切に考えることができる。

関心・意欲の観点： 研究をまとめることについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる。

授業の計画（全体） 本実験や本調査で得られた結果を最終的にまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等について習得する。

成績評価方法（総合） 出席、発表等をもとに総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	佐々木司				

授業の概要 本実験や本調査で得られた結果をまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等についても習得する。

授業の一般目標 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現する方法論が理解できる。 思考・判断の観点： 研究結果から得られる見解を適切に考えることができる。

関心・意欲の観点： 研究をまとめることについて、主体的に考えることができる。 態度の観点： 積極的な姿勢で授業に参加し、研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現しようとする態度を身につけている。 技能・表現の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる。

授業の計画（全体） 本実験や本調査で得られた結果を最終的にまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等について習得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 修士論文完成までの計画立案
- 第 2 回 項目 執筆分を発表
- 第 3 回 項目 執筆分を発表
- 第 4 回 項目 執筆分を発表
- 第 5 回 項目 執筆分を発表
- 第 6 回 項目 執筆分を発表
- 第 7 回 項目 執筆分を発表
- 第 8 回 項目 執筆分を発表
- 第 9 回 項目 執筆分を発表
- 第 10 回 項目 修正
- 第 11 回 項目 修正
- 第 12 回 項目 修正
- 第 13 回 項目 口頭発表に向けた準備
- 第 14 回 項目 口頭発表に向けた準備
- 第 15 回 項目 まとめ、反省

成績評価方法（総合） 毎回、受講学生は修士論文の一部を執筆してきて、それを発表する。主としてこの発表に基づいて評価する。

メッセージ 第1回目の授業で概要を説明する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	杉山緑				

授業の概要 現代教育方法学の諸対象の中から、受講者各自が研究対象を設定し、資料収集・レポート等を行い受講者全員で検討・討議する。最後にそれまでの研究内容を報告書としてまとめる。

授業の一般目標 前期に引き続き、各自が設定した研究テーマを深化し、最後に総括する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 研究内容について説明できる。 思考・判断の観点： 1 . 研究内容について自己の視点から論理的に整理できる。

授業の計画（全体） 受講生各自の研究テーマをさらに深め、2年間のまとめを行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究成果の報告・まとめ（1）
- 第 3 回 項目 研究成果の報告・まとめ（2）
- 第 4 回 項目 研究成果の報告・まとめ（3）
- 第 5 回 項目 研究成果の報告・まとめ（4）
- 第 6 回 項目 研究成果のまとめ（5）
- 第 7 回 項目 研究成果の報告・まとめ（6）
- 第 8 回 項目 研究成果のまとめ（7）
- 第 9 回 項目 研究成果のまとめ（8）
- 第 10 回 項目 研究成果のまとめ（9）
- 第 11 回 項目 研究成果のまとめ（10）
- 第 12 回 項目 研究報告書の作成（1）
- 第 13 回 項目 研究報告書の作成（2）
- 第 14 回 項目 研究報告書の作成（3）
- 第 15 回 項目 研究発表（試験）

成績評価方法（総合） 報告内容、発表態度等、ならびに最終の口頭試問による試験の結果を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：なし

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部3F 電話：083-933-5452 メール：
ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	田中理絵				

授業の概要 調査・研究で得られた結果をまとめ、修士論文として結実させる。また、口頭試問に備え、プレゼンの仕方等についても注意する。 / 検索キーワード 社会化、子ども、学校

授業の一般目標 修士論文作成

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育社会学的研究視点から、データを分析する。学術用語、研究方法、分析の妥当性。 思考・判断の観点：研究結果から得られる見解を適切に考えることができる。

態度の観点：修士論文作成のため積極的・意欲的に臨む。 技能・表現の観点：論文としての水準を保っている。研究結果を的確に表現できる。

授業の計画（全体）データの分析、理論的考察、結果の的確な文章化。プレゼン方法の検討。

成績評価方法（総合）修士論文として一定水準に達しているか。

教科書・参考書 参考書：その都度指示する。

メッセージ 有益なデータ及び知見を、社会および教育現場へ還元できるレベルの研究を行って欲しい。

連絡先・オフィスアワー 教育社会学研究室 (933-5442) 随時（ただし、アポを必ず取ること）

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	白石敏行				

授業の概要 本実験や本調査で得られた結果をまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等についても習得する。 / 検索キーワード 幼児、保育、発達

授業の一般目標 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現する方法論が理解できる。 思考・判断の観点： 研究結果から得られる見解を適切に考えることができる。

関心・意欲の観点： 研究をまとめることについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる。

授業の計画（全体） 本実験や本調査で得られた結果を最終的にまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等について習得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション

第2回 項目 文献講読（1）

第3回 項目 文献講読（2）

第4回 項目 文献講読（3）

第5回 項目 文献講読（4）

第6回 項目 文献講読（5）

第7回 項目 研究方法の検討（1）

第8回 項目 研究方法の検討（2）

第9回 項目 研究方法の検討（3）

第10回 項目 文献講読（6）

第11回 項目 文献講読（7）

第12回 項目 文献講読（8）

第13回 項目 文献講読（9）

第14回 項目 まとめ（1）

第15回 項目 まとめ（2）

成績評価方法（総合） 出席、課題の報告等をもとに総合的に評価する。

メッセージ 修士論文で乳幼児期の子どもおよび彼らを取り巻く環境について追究する人を望みます。前期の「課題研究」の単位を取得していること。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：(083)933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	西村正登				

授業の概要 各章、各節ごとに執筆しながら修士論文を完成する。 / 検索キーワード 修士論文、論文構成、論文作成

授業の一般目標 1. 各章、各節ごとに論文を執筆し、修正しながら書き上げていく。 2. 研究したものをまとめて発表する。 3. 論文全体のバランスを考えて修士論文を完成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 教育哲学の専門用語や概念が理解できる。 2. 論文構成の仕方、注や参考文献の書き方が理解できる。 思考・判断の観点: 1. 筋道を立てて論理的に思考し、判断することができる。 関心・意欲の観点: 1. 論文の作成を通して、自分の研究テーマへの関心をさらに高めることができる。 態度の観点: 1. 筋道を立てて論理的に論文を書くことができる。 技能・表現の観点: 1. 論旨を明確に表現することができる。

授業の計画(全体) 各自が論文としてまとめたものを研究発表し、全員で討議しながら授業を進めていく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 修士論文作成上の要点
- 第2回 項目 研究発表と討議(1)
- 第3回 項目 研究発表と討議(2)
- 第4回 項目 研究発表と討議(3)
- 第5回 項目 研究発表と討議(4)
- 第6回 項目 研究発表と討議(5)
- 第7回 項目 研究発表と討議(6)
- 第8回 項目 研究発表と討議(7)
- 第9回 項目 研究発表と討議(8)
- 第10回 項目 研究発表と討議(9)
- 第11回 項目 研究発表と討議(10)
- 第12回 項目 研究発表と討議(11)
- 第13回 項目 研究発表と討議(12)
- 第14回 項目 研究発表と討議(13)
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 研究への意欲と態度、研究発表の内容と表現力、授業への出席状況等を総合的に判断して評価する。

教科書・参考書 教科書: 使用しない。 / 参考書: 研究発表の内容に応じて発表者が参考書とプリントを準備する。

メッセージ 毎時間の積み重ねが修士論文作成につながっていくよう、1時間1時間を大切にしてください。

連絡先・オフィスアワー masaton@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 A棟3階 教育哲学研究室

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	林徳治				

授業の概要 修士論文作成に向けて、各自の修論テーマに応じた論文の章構成、先行研究のレビュー、実証方法、分析方法、評価方法などについて指導・助言する。

授業の一般目標 修士論文作成に向けて、各自の修論テーマに応じた研究支援を行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：課題テーマについての知識を習得し、論理的に探究できる 思考・判断の観点：課題テーマについて、客観的な観点からクリティカルな考え方ができる。 関心・意欲の観点：課題テーマについて、グローバルな視点から概観でき、関連事項について主体的に取り組むことができる。 態度の観点：課題テーマについて、より深く探究する姿勢や態度を培うことができる。 技能・表現の観点：課題テーマについて、適切な教材開発技術や統計手法について応用できる。

授業の計画(全体) 各位が設定した修論テーマについて論理的な構成ができ、探究し、成果について執筆できる能力を習得する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 先行研究の検証1
- 第2回 項目 先行研究の検証2
- 第3回 項目 研究方法の検証1
- 第4回 項目 研究方法の検証2
- 第5回 項目 研究内容の検証1
- 第6回 項目 研究内容の検証2
- 第7回 項目 実証データの検証1
- 第8回 項目 実証データの検証2
- 第9回 項目 実証データの検証3
- 第10回 項目 結果の検証1
- 第11回 項目 結果の検証2
- 第12回 項目 結果の検証3
- 第13回 項目 考察の検証
- 第14回 項目 全体構成のチェック
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 課題テーマについて、経緯、目的、方法、実証、結果、考察の各内容について検証する。

連絡先・オフィスアワー E-mail hayashi@edu.yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター1階

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	福田修				

授業の概要 修士論文作成に直結する課題について教育史の分野から研究指導する。 / 検索キーワード 修士論文, 教育史

授業の一般目標 教育史の研究方法を理解し, 専門的な学術論文が作成できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 教育史の研究方法が説明できる。 思考・判断の観点: 収集した資料について多面的検討し, 客観的な分析ができる。 関心・意欲の観点: 脅威に関する関心を深め, 専門的な課題意識を高めることができる。 態度の観点: ひとつの課題について, 視野を深めながら長期的に追究することができる。 技能・表現の観点: 検証結果を精緻かつ明解に文章表現できる。

授業の計画(全体) 資料をもとに論文を執筆する

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- | | | | | | | |
|------|----|---------|----|-----------|-------|-----------|
| 第1回 | 項目 | 内容の検討1 | 内容 | 執筆内容を検討する | 授業外指示 | 論文を執筆しておく |
| 第2回 | 項目 | 内容の検討2 | 内容 | 執筆内容を検討する | 授業外指示 | 論文を執筆しておく |
| 第3回 | 項目 | 内容の検討3 | 内容 | 執筆内容を検討する | 授業外指示 | 論文を執筆しておく |
| 第4回 | 項目 | 内容の検討4 | 内容 | 執筆内容を検討する | 授業外指示 | 論文を執筆しておく |
| 第5回 | 項目 | 内容の検討5 | 内容 | 執筆内容を検討する | 授業外指示 | 論文を執筆しておく |
| 第6回 | 項目 | 内容の検討6 | 内容 | 執筆内容を検討する | 授業外指示 | 論文を執筆しておく |
| 第7回 | 項目 | 内容の検討7 | 内容 | 執筆内容を検討する | 授業外指示 | 論文を執筆しておく |
| 第8回 | 項目 | 内容の検討8 | 内容 | 執筆内容を検討する | 授業外指示 | 論文を執筆しておく |
| 第9回 | 項目 | 内容の検討9 | 内容 | 執筆内容を検討する | 授業外指示 | 論文を執筆しておく |
| 第10回 | 項目 | 内容の検討10 | 内容 | 執筆内容を検討する | 授業外指示 | 論文を執筆しておく |
| 第11回 | 項目 | 内容の検討11 | 内容 | 執筆内容を検討する | 授業外指示 | 論文を執筆しておく |
| 第12回 | 項目 | 内容の検討12 | 内容 | 執筆内容を検討する | 授業外指示 | 論文を執筆しておく |
| 第13回 | 項目 | 内容の検討13 | 内容 | 執筆内容を検討する | 授業外指示 | 論文を執筆しておく |
| 第14回 | 項目 | 内容の検討14 | 内容 | 執筆内容を検討する | 授業外指示 | 論文を執筆しておく |
| 第15回 | 項目 | 内容の検討15 | 内容 | 執筆内容を検討する | 授業外指示 | 論文を執筆しておく |

成績評価方法(総合) 毎回の発表内容を中心に評価する。

教科書・参考書 教科書: なし

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士 2 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	松岡勝彦				

授業の概要 障害児心理学（応用行動分析学）に関連する実験的・臨床的研究を行う。ここでは、データの収集と結果のまとめに重点を置く。

授業の一般目標 データの収集・分析方法、論文執筆などについて習得すること。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 データの収集方法 (1)
- 第 2 回 項目 データの収集方法 (2)
- 第 3 回 項目 データの収集方法 (3)
- 第 4 回 項目 データの収集方法 (4)
- 第 5 回 項目 データの収集方法 (5)
- 第 6 回 項目 データの収集方法 (6)
- 第 7 回 項目 データの収集方法 (7)
- 第 8 回 項目 データの収集方法 (8)
- 第 9 回 項目 データの収集方法 (9)
- 第 10 回 項目 データの収集方法 (10)
- 第 11 回 項目 結果のまとめと論文作成 (1)
- 第 12 回 項目 結果のまとめと論文作成 (2)
- 第 13 回 項目 結果のまとめと論文作成 (3)
- 第 14 回 項目 結果のまとめと論文作成 (4)
- 第 15 回 項目 結果のまとめと論文作成 (5)

成績評価方法（総合） 研究課題の進捗状況、プレゼンテーションなどについて総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	松田信夫				

授業の概要 本調査で得られた結果をまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等についても習得する。

授業の一般目標 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現する方法論が理解できる。 思考・判断の観点： 研究結果から得られる見解を適切に考えることができる。

関心・意欲の観点： 研究をまとめることについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる。

授業の計画（全体） 本調査で得られた結果を最終的にまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等について習得する。

成績評価方法（総合）（１）レジュメに沿い、論理的に説明すること、（２）教員からの質疑に的確に回答できること、（３）教員より示された課題に後日的確に対応できること、以上の観点をもとに評価する。

なお、特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

連絡先・オフィスアワー matsuda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階 オフィスアワー：随時

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	吉田一成				

学校臨床心理学専修

開設科目	学校教育総合研究 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	西村正登他				

授業の概要 わが国の学校教育の諸問題を教育学、障害児教育、幼児教育の各分野から総合的に考察し、今後の課題について検討する。 / 検索キーワード 学校、教育

授業の一般目標 (1) 教育哲学、教育史、教育方法学、教育社会学、教育制度、社会教育についての概要と課題を理解する。(2) 障害児教育や障害児心理についての概要と課題を理解する。(3) 幼児教育についての概要と課題を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 教育哲学、教育史、教育方法学、教育社会学、教育制度、社会教育、障害児教育、幼児教育 についての概要と課題が理解できる。 思考・判断の観点： 1 . 各専門分野の学習を通して、学校教育に対する思考力や判断力を高めることができる。 関心・意欲の観点： 1 . 各専門分野の学習を通して、学校教育に対する関心や意欲を高めることができる。 態度の観点： 1 . 日常生活の中で学校教育の諸問題について主体的に考えることができる。

授業の計画(全体) 教育哲学、教育史、教育方法学、教育社会学、教育制度、社会教育、障害児教育、幼児教育の各分野を専門の教員が分担して授業する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーションと教育哲学
- 第 2 回 項目 教育哲学
- 第 3 回 項目 教育史
- 第 4 回 項目 教育史
- 第 5 回 項目 教育方法学
- 第 6 回 項目 教育方法学
- 第 7 回 項目 教育社会学
- 第 8 回 項目 教育社会学
- 第 9 回 項目 教育制度
- 第 10 回 項目 教育制度
- 第 11 回 項目 障害児教育
- 第 12 回 項目 障害児教育
- 第 13 回 項目 幼児教育
- 第 14 回 項目 幼児教育
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 各授業担当の教員が評価したものを総合して平均値を出す。

教科書・参考書 教科書： 使用しない。各教員がプリント等を準備する。 / 参考書： 使用しない。

メッセージ 授業には欠席しないようにして下さい。

連絡先・オフィスアワー 各授業担当の教員

開設科目	国際理解教育特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	石井由理				

授業の概要 国際理解教育の用語、歴史、理念、含まれる事項、実践事例等について講義する。文献やビデオ、エクササイズを用いて受講者が批判的思考ができるように支援する。 / 検索キーワード 国際理解教育、ユネスコ、異文化理解

授業の一般目標 国際理解教育の理念や誕生の背景、現状について知る。メディアが伝える他文化に関する情報に対して、批判的な視点をもって判断をできる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：国際理解教育についての知識を広げる。国際理解教育の複雑さについて理解する。地球システムの中にいる自分を認識する。思考・判断の観点：国際理解教育について自分の意見をもつことができる。批判的思考ができる。関心・意欲の観点：国際理解教育の視点をもって自分の生活スタイルに関心をもってみつめなおす。授業で紹介された事例以外にも自分で関心のある分野を発展的に研究する。態度の観点：ユネスコの提唱する「平和の文化」に参加しようとする態度をもつ。技能・表現の観点：討議に参加し、自分の意見を論理的に述べるができる。自分の関心のあるテーマを見つけ、調査し、レポートにまとめることができる。

授業の計画(全体) 国際理解教育とは、定まった定義があるのではなく、時代や場所によって様々な変遷をとげるものだということを、文献や映像を通して学ぶ。また、自分もその変遷の中にいる参加者だという自己認識を、討議やエクササイズを通して高める。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 国際理解教育とは何か 内容 授業説明国際理解教育に関連のある概念
- 第2回 項目 国際理解教育という概念の形成 内容 国際理解教育の成り立ちについての講義
- 第3回 項目 ユネスコと国際理解教育 内容 国際理解教育の成り立ちについての講義
- 第4回 項目 ユネスコと国際理解教育 内容 国際理解教育の成り立ちについての講義
- 第5回 項目 ユネスコと国際理解教育 内容 1960年代の社会背景
- 第6回 項目 ユネスコと国際理解教育 内容 1970年代の時代背景と1974年国際教育勧告
- 第7回 項目 ユネスコと国際理解教育 内容 1974年勧告後の各国の実践努力
- 第8回 項目 ユネスコと国際理解教育 内容 1980年代プルントラント委員会
- 第9回 項目 1990年代から現在 内容 1990年代の社会背景
- 第10回 項目 1990年代から現在 内容 コソボの学校
- 第11回 項目 1990年代の教育政策 内容 ノルウェー、イギリス、日本の例
- 第12回 項目 マスメディアと国際理解教育 内容 ルワンダでの虐殺
- 第13回 項目 マスメディアと国際理解教育 内容 日本の事例映画の例
- 第14回 項目 マスディアと国際理解教育 内容 映画の例
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 中間および期末のレポートによる

教科書・参考書 教科書：プリント等を使用 / 参考書：南北問題と開発教育, 田中治彦, 亜紀書房, 1994年; 異文化コミュニケーション教育, 青木順子, 溪水社, 1999年; 国際理解教育, 永井滋郎, 第一学習社, 1989年; イギリスのグローバル教育, 木村一子, 勁草書房, 2001年

連絡先・オフィスアワー 教育学部2階200-(1)室 オフィスアワーは初回授業時に伝達

開設科目	教育メディア特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	林徳治				

授業の概要 授業での児童生徒と教師間におけるコミュニケーション活動の改善をめざした「わかる」、「楽しい」、「役に立つ」授業づくりにおける教育メディアの意義や役割を学び、効果的な教材開発を通じた授業づくりについて教育実践学の見地より探究する。具体的な項目は以下の通りである。1. 教育メディアの特性を理解し、各々の教材作成ができる 2. 授業の分析(数量的、質的)ができる 3. プレゼンテーション技術(表現伝達)について改善できる 4. 改善された授業設計、訓練方法、評価について実践できる。

授業の一般目標 教授・学習過程(授業)において、教授者・学習者間での相互理解を深める授業設計や評価方法について習得する。とくに教育メディアの意義や役割、特徴について理解し情報機器など今日的な教育メディアを効果的に活用した教材開発を通じ授業設計-実施-評価による授業技術を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 教授学習過程におけるコミュニケーションの定義 コミュニケーション改善のための基本的な要素の分析 コミュニケーション能力の評価の観点 思考・判断の観点: 論理的、批判的な思考力と判断力 妥協、受容能力 オーディエンス能力 イメージマッピングによる評価能力
関心・意欲の観点: 教育メディアに対する興味関心 態度の観点: 自発的、独創的に取り組む姿勢
技能・表現の観点: メディアを利用したプレゼンテーションの実施・評価を通しての実践力

授業の計画(全体) 授業(コミュニケーション)における教育メディアの意義や役割を習得した上で、主にプレゼンテーション技術の習得をめざした自己表現伝達技術の設計・実施・評価を行う。このプロセスを通してメディア利用の教材開発手法、プレゼンテーション訓練方法(マイクロプレゼンテーション)、評価方法・内容について習得する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 教育方法・技術の意義と役割 内容 教育方法の歴史と今日的課題
- 第2回 項目 教授学習過程(教育的コミュニケーション) 内容 3方向のコミュニケーション
- 第3回 項目 教育メディアの意義と役割 内容 教育メディアの特徴
- 第4回 項目 コミュニケーション分析 内容 言語、非言語、メディア
- 第5回 項目 授業の構成 内容 行動主義と構成主義
- 第6回 項目 授業分析 内容 フランダースのカテゴリー分析
- 第7回 項目 授業分析 内容 教師の発問
- 第8回 項目 授業の評価 内容 ポートフォリオ
- 第9回 項目 授業事例による分析1 内容 小学校
- 第10回 項目 授業事例による分析2 内容 中・高等学校
- 第11回 項目 教員研修事例による分析 内容 現職教員研修
- 第12回 項目 プレゼンテーション演習1 内容 設計、強制連結法
- 第13回 項目 プレゼンテーション演習2 内容 マイクロプレゼンテーション
- 第14回 項目 プレゼンテーション演習3 内容 評価
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、発表(プレゼン)や授業内での製作作業、教員への発信(質問等)、出席等を総合して評価する。

教科書・参考書 教科書: 情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術, 林徳治, ぎょうせい, 2000年; 情報教育の理論と実践, 林徳治, 実教出版, 2002年; 必携! 相互理解を深めるコミュニケーション実践学, 林徳治、沖裕貴, ぎょうせい, 2000年

連絡先・オフィスアワー E-mail hayashi9@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター 1階

開設科目	教育心理学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	某				

授業の概要 個性をめぐるいくつかの理論を紹介し、個性化と社会化について考察する。これを踏まえて、各自が今日の社会における様々な現象について論評し、討論する。

授業の一般目標 教育における個性概念を批判的に検討できるようになる。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：「個性」概念について批判的に理解できるようになる。

授業の計画（全体） 講義及びレポートに基づく討論

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 授業のねらい
- 第2回 項目 個性をめぐる今日の状況
- 第3回 項目 個性についての理論1
- 第4回 項目 個性についての理論2
- 第5回 項目 個性についての理論3
- 第6回 項目 個性を育てることとは
- 第7回 項目 個性化と社会化
- 第8回 項目 各自の課題設定と検討
- 第9回 項目 課題への取り組み 内容 レポート作成
- 第10回 項目 課題への取り組み 内容 レポート作成
- 第11回 項目 発表・討論1
- 第12回 項目 発表・討論2
- 第13回 項目 発表・討論3
- 第14回 項目 発表・討論4
- 第15回 項目 全体のまとめ

成績評価方法（総合） レポートおよび討論

教科書・参考書 教科書：テキストは使用しない / 参考書：「個性」を煽られる子どもたち、土井隆義、岩波書店、2004年

開設科目	人格心理学特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田邊敏明				

授業の概要 児童・生徒の発達援助の方法としての人格心理学の理論について詳述し、特に子どもの心をどのように見ていくかについて具体的に提言する。 / 検索キーワード 多面的な見方

授業の一般目標 児童の問題行動を明らかにするため、幅広い見方を修得し考察を深めていく。特に、心の地盤や土台、から抱えたり守ったりする必要性、さらには強さの感化、心の調和と統合、しなやかさと揺れや遊びの必要性について触れていく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：子どもの心の発達には重要なポイントがあることを理解する。
 思考・判断の観点：子どもの不適応行動を見ていく上で、さまざまな見方があることを理解する。 関心・意欲の観点：さまざまな心理療法の考えの中で自分はどの療法の考えに依拠して探求していくかが主張できる。 態度の観点：実際の事例で自分は実際にどのような心の見立てをするかシミュレーションできる。

授業の計画(全体) 心理臨床家として基本となる心の見方、態度が身に付くような講義にする。特に虐待児やボーダーラインパーソナリティーに対応できるような心の見方を身に付けていく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 悩める心の見方 - 喩えからの提言
- 第2回 項目 心を抱えるということ
- 第3回 項目 心を抱える必要性について - 境界例を中心に
- 第4回 項目 矛盾する心の統合 - Aと反Aの統合
- 第5回 項目 心における光と影の統合
- 第6回 項目 心の成長における枠と支えのせめぎ合い
- 第7回 項目 父性と母性 - 日本的母性と父性
- 第8回 項目 現代人の心の成長における強化の役割
- 第9回 項目 心の調和について - 統合失調症と離人症が示すもの
- 第10回 項目 心の余裕(遊び)について - 家族における揺れとホメオスタシス
- 第11回 項目 心のしなやかさと柔らかさ - アサーショントレーニングについて
- 第12回 項目 自閉症児の心の世界について
- 第13回 項目 心理療法における受動性と能動性
- 第14回 項目 心理療法における知性と感情 - 認知行動療法と来談者中心療法
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 授業中のディスカッションへ参加する態度を重視する。また発表を義務づけ、その準備状況や内容も評価する。

メッセージ 心を多面的に見られるような柔軟な視点をもっていただきたい。

連絡先・オフィスアワー E-mail ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 火曜日 18:00~19:00

開設科目	心理学研究法特論	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	福田廣				

授業の一般目標 心理学研究における方法論の課題について論考する。

開設科目	臨床心理学特論 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	名島潤慈				

授業の概要 教育臨床・病院臨床・産業臨床など、さまざまな臨床場面において問題となるさまざまな事柄について考究する。そのさい、できるだけ具体的な臨床事例を呈示しながら講義する。また、いろいろな心理療法の特性についても講義する。 / 検索キーワード 臨床心理学。心理テスト。心理療法。

授業の一般目標 査定にしろ援助・介入にしろ、臨床心理学の基礎的・実践的な部分に焦点をあてる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：臨床場面におけるさまざまな問題について深く理解できる。 思考・判断の観点：臨床場面におけるさまざまな問題についてどのように対処したらよいかを判断できる。

関心・意欲の観点：臨床心理学に強い関心を抱く。 態度の観点：授業に真面目に出席する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 臨床心理学における専門性と倫理。諸外国の臨床心理士。
- 第 2 回 項目 インテイク面接における諸問題と対応。
- 第 3 回 項目 心理療法面接における諸問題と対応。
- 第 4 回 項目 心理テストの活用の仕方について。
- 第 5 回 項目 教育臨床場面における不適応行動の理解と対応（ 1 ） 内容 学校・学業・友人関係に関する問題。
- 第 6 回 項目 教育臨床場面における不適応行動の理解と対応（ 2 ） 内容 自己破壊・他者破壊に関する問題。
- 第 7 回 項目 教師の心の健康の問題と対応 内容 抑うつ・自殺・不祥事・停職など。
- 第 8 回 項目 セラピスト - クライアント関係における諸問題と対応。
- 第 9 回 項目 臨床場面における夢の利用について。
- 第 10 回 項目 臨床場面における絵の利用について。
- 第 11 回 項目 臨床場面におけるイメージの利用について。
- 第 12 回 項目 他の専門職・専門機関との連携上の諸問題と対応。
- 第 13 回 項目 臨床援助チームにおけるリーダーシップの問題と対応。
- 第 14 回 項目 臨床事例研究。
- 第 15 回 項目 臨床事例研究。

成績評価方法（総合） レポート、授業態度、出席などから総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書：新版 心理臨床家の手引、鑓幹八郎・名島潤慈編著、誠信書房、2000 年；臨床場面における夢の利用、名島潤慈、誠信書房、2003 年

メッセージ レポートがたくさんあります。がんばって下さい。

連絡先・オフィスアワー Email:najima@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5465

開設科目	臨床心理査定演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	木谷秀勝				

授業の概要 心理アセスメントに関して、特に発達面を重視した発達検査、知能検査、臨床描画法等の実施方法やその解釈について、事例を紹介しながら議論を行う / 検索キーワード 臨床心理学 アセスメント 発達

授業の一般目標 心理アセスメントを中心にして、カウンセリングにおける基本的な視点について議論する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：専門的知識と高度な理解を習得する。 思考・判断の観点：心理臨床に必要な思考や判断を習得する。 関心・意欲の観点：心理臨床に対する深い関心を養う。

授業の計画（全体） 自験例を中心にして、事例検討を通して議論を深める。

成績評価方法（総合） 演習での積極的な態度を評価に入れる。

開設科目	学校教育総合研究 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	福田廣・名島潤慈・田邊敏明・大石英史・木谷秀勝・恒吉徹三				

授業の概要 日本における学校教育の諸問題について、各担当教官の専門領域の観点から、現代の研究動向を踏まえて、総合的に検討する。 / 検索キーワード 学校教育、心理学、教育相談

授業の一般目標 各担当教官がそれぞれの立場で論じる今日の学校教育の諸問題に関して、理解を深め、自己の観点に立って検討・消化する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 臨床心理学の観点から (I) 内容 名島潤慈
- 第 2 回 項目 臨床心理学の観点から (II) 内容 名島潤慈
- 第 3 回 項目 臨床心理学の観点から (III) 内容 名島潤慈 授業外指示 レポート
- 第 4 回 項目 臨床心理学の観点から (I) 内容 大石英史
- 第 5 回 項目 臨床心理学の観点から (II) 内容 大石英史 授業外指示 レポート
- 第 6 回 項目 臨床心理学の観点から (I) 内容 木谷秀勝
- 第 7 回 項目 臨床心理学の観点から (II) 内容 木谷秀勝 授業外指示 レポート
- 第 8 回 項目 教育心理学の観点から (I) 内容 田邊敏明
- 第 9 回 項目 教育心理学の観点から (II) 内容 田邊敏明
- 第 10 回 項目 教育心理学の観点から (III) 内容 田邊敏明 授業外指示 レポート
- 第 11 回 項目 臨床心理学の観点から (I) 内容 恒吉徹三
- 第 12 回 項目 臨床心理学の観点から (II) 内容 恒吉徹三 授業外指示 レポート
- 第 13 回 項目 学習心理学の観点から (I) 内容 福田 廣
- 第 14 回 項目 学習心理学の観点から (II) 内容 福田 廣
- 第 15 回 項目 学習心理学の観点から (III) 内容 福田 廣 授業外指示 レポート

成績評価方法 (総合) 各担当教官から提出されたレポート評価を中心に、全体としての評価を算出する。

教科書・参考書 教科書：特に指定されたものはなし。 / 参考書：その都度指示されます。

メッセージ 学校教育総合研究 II は、心理学関係の教官が担当します。

連絡先・オフィスアワー 福田 廣：083-933-5455, hfukuda@yamaguchi-u.ac.jp 名島潤慈：083-933-5465, najima@yamaguchi-u.ac.jp 田邊敏明：083-933-5453, ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp 大石英史：083-933-5454, eohishi@yamaguchi-u.ac.jp 木谷秀勝：083-933-5464, kiya@yamaguchi-u.ac.jp 恒吉徹三：083-933-5446, whiteowl@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	教育心理学特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田邊敏明				

授業の概要 学校において、教師、児童、生徒が生み出す諸現象を分析し、教科指導、および生徒指導・進路指導を行う上で実際に役立つ知見を実習を通して得る。特に現在学校現場で問題とされていることの解決に向けて、その対策を示したい。 / 検索キーワード 教科指導、スクールカウンセラー

授業の一般目標 現代の学校が立ち向かっている問題について具体的な対応策が描けるような授業でありたい。たとえば、それは学力低下問題であったり、また子どもたちに見られる意欲の減退であったり、さらにはいじめ、不登校、さらには虐待を受けた子どもへのケアであったりする。それら問題のさなかにいる子どもに寄り添えるような、そして心の育ちに貢献できるような方法を考えていきたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現在の学校現場が抱えている問題点を認識する。 思考・判断の観点：学校現場が抱えている問題点を、社会的な変化や、その影響を受けた親の観点とか、さまざまな角度から考えていく。 関心・意欲の観点：問題点に関して、臨床心理学的にどのような解決法が可能であるか、自分なりの答えを打ち出す。 態度の観点：実際に心理臨床家としてどのような行動や態度を示していけばよいかをイメージすることができる。

授業の計画（全体） 現代の学校現場が抱えるさまざまな問題点をあげ、それら一つひとつについて臨床心理学的に対策を考え、考察を深める。特に学校の教育相談の立場や、スクールカウンセラーの立場から、問題の解決にどのように貢献できるかを考えていく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 現在学校で問題になっていることから
- 第 2 回 項目 スクールカウンセラーの仕事 1
- 第 3 回 項目 スクールカウンセラーの仕事 2
- 第 4 回 項目 学力低下における要因について
- 第 5 回 項目 学習におけるカウンセリングマインドについて
- 第 6 回 項目 教師とスクールカウンセラーの違い 怠学についての見解の違い
- 第 7 回 項目 教師とスクールカウンセラーの違い 2 集団と個別 ショートタームとロングタームの見方
- 第 8 回 項目 学校コーディネーター（キーパーソン）の役割
- 第 9 回 項目 相談とカウンセリング - 指示的姿勢と受容的姿勢 -
- 第 10 回 項目 不登校児への知識的対応と感情的対応
- 第 11 回 項目 見守る姿勢と働きかける姿勢
- 第 12 回 項目 密室カウンセリングと開放的カウンセリング
- 第 13 回 項目 不登校児への訪問面接
- 第 14 回 項目 いじめにおける集団力学
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合）各自に関連する研究の発表を義務づける。そして発表の準備状況や内容を評価する。また授業へ参加する態度も重要な評価対象となる。

メッセージ 単に学校現場の問題点をあげるだけに終わらず、それらの一つひとつに対して自分の視点をもって解決していく姿勢を求めたい。

連絡先・オフィスアワー E-mail ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 火曜日 18:00～19:00

開設科目	発達心理学特論	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	福田廣				

開設科目	社会心理学特論	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	某				

授業の概要 自己の認識から評価、表現の過程を、「自己過程」としてとらえて、その過程に見られる様々な現象を理論的に考察する。

授業の一般目標 人間の自己表現の背景を理解する

授業の到達目標 / その他の観点：人間の自己肯定の重さを理解する

授業の計画（全体） 講義を行う

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 自己過程とは
- 第 2 回 項目 自己に対する注意の焦点化 自己過程の構造
- 第 3 回 項目 自己に対する注意の焦点化
- 第 4 回 項目 私的自己と公的自己
- 第 5 回 項目 自己の姿の把握
- 第 6 回 項目 自己知覚理論
- 第 7 回 項目 自己に関する知識の構造化
- 第 8 回 項目 セルفسキーマの機能
- 第 9 回 項目 自己の姿に対する評価
- 第 10 回 項目 社会的比較過程
- 第 11 回 項目 S E M 理論
- 第 12 回 項目 自己呈示 1
- 第 13 回 項目 自己呈示 2
- 第 14 回 項目 自己開示
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） レポートによる

教科書・参考書 教科書： 使用しない

開設科目	心理統計法演習	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	福田廣				

授業の概要 心理学研究（特に、実証的、因果論的アプローチによる）を行う際に必要な、基本的な研究計画、測定、心理統計法にかかわる諸問題について、国内外の文献を用いて論考する。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 研究パラダイム
- 第 2 回 項目 心理測定とは
- 第 3 回 項目 記述統計（ 1 ）
- 第 4 回 項目 記述統計（ 2 ）
- 第 5 回 項目 統計的検定（ 1 ）
- 第 6 回 項目 統計的検定（ 2 ）
- 第 7 回 項目 統計的検定（ 3 ）
- 第 8 回 項目 相関と回帰（ 1 ）
- 第 9 回 項目 相関と回帰（ 2 ）
- 第 10 回 項目 因子分析（ 1 ）
- 第 11 回 項目 因子分析（ 2 ）
- 第 12 回 項目 さまざまな多変量解析（ 1 ）
- 第 13 回 項目 さまざまな多変量解析（ 2 ）
- 第 14 回 項目 そのほかの統計的問題（ 1 ）
- 第 15 回 項目 そのほかの統計的問題（ 2 ）

開設科目	心理療法特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	恒吉徹三				

授業の概要 講義では、面接者とクライアントの関係をいかに理解するかについて講義する。講義は、毎回学生によるプレゼンテーションを行い、議論を深めていく。/ 検索キーワード 心理療法、面接者とクライアント関係、対象関係論。

授業の一般目標 心理臨床場面における、面接者とクライアントの関係を理解する視点について学ぶ。特に、対象関係論の観点からクライアントと面接者の関係の理解の方法や視点について学ぶことを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：心理療法の基本的な概念を説明できる。 思考・判断の観点：面接者と来談者の関係についての基本的な理解ができる。

授業の計画(全体) 心理療法の実践に関わる場合の、クライアント理解の視点について講義する。対象関係論の概要についてまず講義をし、その後の週には毎回受講生のプレゼンテーションの後に討論を行いながら、解説をを加えていく。これにより、講義自体をより相互的なものとする。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 精神分析学の基本概念 内容 オリエンテーション・精神分析の基礎について
- 第2回 項目 対象関係論概説(1) 内容 精神分析学の基礎的概念と対象関係論の基礎的事項
- 第3回 項目 対象関係論概説(2) 内容 対象関係論のとらえかた
- 第4回 項目 対象関係論概説(3) 内容 対象関係論の学派
- 第5回 項目 対象関係論(1) 内容 受講生によるプレゼンテーション
- 第6回 項目 対象関係論(2) 内容 受講生によるプレゼンテーション
- 第7回 項目 対象関係論(3) 内容 受講生によるプレゼンテーション
- 第8回 項目 対象関係論(4) 内容 受講生によるプレゼンテーション
- 第9回 項目 対象関係論(5) 内容 受講生によるプレゼンテーション
- 第10回 項目 対象関係論(6) 内容 受講生によるプレゼンテーション
- 第11回 項目 対象関係論(7) 内容 受講生によるプレゼンテーション
- 第12回 項目 対象関係論(8) 内容 受講生によるプレゼンテーション
- 第13回 項目 対象関係論(9) 内容 受講生によるプレゼンテーション
- 第14回 項目 対象関係論(10) 内容 受講生によるプレゼンテーション
- 第15回 項目 講義のまとめと総合討論 内容 講義全体の振り返りと総合的な討論

成績評価方法(総合) 講義では、受講生によるプレゼンテーションを行い、これをもって成績評価を行う。さらに、発表後に発表当日の討論を踏まえてさらに要約をレポートとして提出する。これらにより、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：Learning from Life, Patrick Casement, Routledge, 2006年 / 参考書：精神分析事典, 小此木啓吾編集代表, 岩崎学術出版社, 2002年; 患者から学ぶ, パトリック・ケースメント(松木訳), 岩崎学術出版社, 1991年; さらに患者から学ぶ, パトリック・ケースメント(矢崎訳), 岩崎学術出版社, 1995年; 対象関係論の基礎, 松木邦裕編・監訳, 新曜社, 2003年; あやまちから学ぶ, パトリック・ケースメント(松木訳), 岩崎学術出版社, 2004年; オールアバウト・メラニークライン, 松木邦裕編, 至文堂, 2004年; 精神分析学事典(岩崎学術出版社)も参考にしてほしい。

メッセージ 心理療法は、面接者とクライアントの対話を通して自己理解を深める場でもあるので、議論への積極的な参加を期待したい。

開設科目	臨床心理学特論 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	大石英史				

授業の概要 現代の思春期・青年期における臨床的テーマとして、不登校・ひきこもり問題および摂食障害を取り上げ、その発症のメカニズムや援助方法について、個人、家族、地域社会を視野に入れながら考えていく。

授業の一般目標 現代の思春期・青年期における臨床的テーマとして、不登校・ひきこもり問題および摂食障害を取り上げ、その発症のメカニズムや援助方法について、個人、家族、地域社会を視野に入れながら考えていく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 不登校の実態
- 第 3 回 項目 いじめと不登校
- 第 4 回 項目 発達の観点からみた不登校
- 第 5 回 項目 不登校のタイプ
- 第 6 回 項目 不登校の背景要因
- 第 7 回 項目 現代社会病理としての不登校
- 第 8 回 項目 軽度発達障害と不登校
- 第 9 回 項目 不登校の臨床心理学的援助 思春期まで
- 第 10 回 項目 不登校の臨床心理学的援助 - 思春期以降
- 第 11 回 項目 不登校の臨床心理学的援助 - 母親面接
- 第 12 回 項目 不登校の事例研究
- 第 13 回 項目 虐待と不登校
- 第 14 回 項目 不登校と家庭内暴力
- 第 15 回 項目 県内不登校支援ネットワーク

教科書・参考書 教科書：社会的ひきこもり, 斎藤環, PHP 新書, 1998 年；不登校を解く, 高岡健他, ミネルヴァ書房, 1998 年；不登校児の理解と援助, 小林正幸, 金剛出版, 2003 年

開設科目	臨床心理査定演習 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	名島潤慈				

授業の概要 臨床的な心理査定の理論・技法について考究する。 / 検索キーワード 臨床心理学。査定。評価。アセスメント。心理テスト。投映法。

授業の一般目標 心理査定のやり方を具体的に習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：臨床的な心理査定とは何かということ深く理解できる。 思考・判断の観点：どのような場面でどのような心理テストを用いたらよいかをきちんと判断できる。 関心・意欲の観点：心理査定というテーマを意欲的に考究する。 態度の観点：真面目に出席する。

授業の計画(全体) 臨床心理査定に関する基礎的な事柄を中心にして講義する。また、さまざまな投映法を実際に施行してみることによって、投映法の意義や限界を会得してもらう。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 臨床心理査定概論。心理査定における倫理。テスト契約。
- 第 2 回 項目 面接による心理査定。
- 第 3 回 項目 質問紙法による心理査定。
- 第 4 回 項目 投映法による心理査定(1) バウムテスト。
- 第 5 回 項目 投映法による心理査定(2) 誘発線技法。
- 第 6 回 項目 投映法による心理査定(3) 人物画・家族画。
- 第 7 回 項目 投映法による心理査定(4) TAT・RT。
- 第 8 回 項目 投映法による心理査定(5) 夢。
- 第 9 回 項目 心理テストの組み合わせの仕方について。
- 第 10 回 項目 心理査定における治療的側面について。
- 第 11 回 項目 クロッパー法ロールシャッハテストのスコアリング。
- 第 12 回 項目 クロッパー法ロールシャッハテストの解釈。
- 第 13 回 項目 クロッパー法ロールシャッハテストの RPRS(ロールシャッハ予後評定尺度)について。
- 第 14 回 項目 心理査定の事例研究。
- 第 15 回 項目 心理査定の事例研究。

成績評価方法(総合) レポート、授業態度、出席などから総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：必要な論文はコピーして配布する。

メッセージ 最終レポートの題目は、「新しい投映法を何か一つ考案して、それを実際に被検者に適用して、その臨床的妥当性を検討する。テストは、既存の投映法をもとにして発展させたものでもよい」というものです。がんばって下さい。

連絡先・オフィスアワー Email:najima@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5465

開設科目	臨床心理面接特論 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	木谷秀勝				

授業の概要 参加者が実施した実際の事例を報告してもらい、事例を通して面接で生じやすい問題点を具体的に検討する

授業の一般目標 事例報告を通して、より深いクライアント理解を進める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 専門的な知識や理解をさらに臨床的に深める。 思考・判断の観点： 今、ここでの判断力を習得する。 関心・意欲の観点： クライアントへの深い関心を習得する。

授業の計画（全体） 事例報告とそのスーパーヴィジョンを行う。

開設科目	臨床心理基礎実習	区分	実験・実習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	名島潤慈・田邊敏明・大石英史・木谷秀勝・恒吉徹三				

授業の概要 心理臨床場面における実践上の基本的な事柄について具体的に学ぶ。心理臨床家としての倫理や心理面接場面における傾聴的態度など、ロールプレイや資料に基づいて体験的に学習する。 / 検索キーワード 臨床心理士、専門性、倫理、インテイク、ロールプレイ

授業の一般目標 心理臨床場面における実践上の基本的態度や知識を具体的に修得し、心理臨床家としての倫理や心理面接場面における基本的態度などについて、体験的に理解を深める。

授業の計画(全体) 心理臨床場面における実践上の基本的態度や事項に関して具体的に修得し、心理臨床家としての基本的な倫理や心理面接における基本的態度などについて、体験的に理解を深める。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 臨床心理士の専門性と倫理 内容 名島・田邊・大石・木谷・恒吉
- 第2回 項目 心理臨床に関する法律 内容 名島・田邊・大石・木谷・恒吉
- 第3回 項目 社会資源の理解と活用 内容 名島・田邊・大石・木谷・恒吉
- 第4回 項目 電話受付とその対応 内容 恒吉・名島・田邊・大石・木谷
- 第5回 項目 紹介と面接記録 内容 恒吉・名島・田邊・大石・木谷
- 第6回 項目 インテイク面接への展開 内容 恒吉・名島・田邊・大石・木谷
- 第7回 項目 インテイク面接(1) 内容 木谷・恒吉・名島・田邊・大石
- 第8回 項目 インテイク面接(2) 内容 木谷・恒吉・名島・田邊・大石
- 第9回 項目 インテイク面接(3) 内容 木谷・恒吉・名島・田邊・大石
- 第10回 項目 ロールプレイ(1) 内容 大石・木谷・恒吉・名島・田邊
- 第11回 項目 ロールプレイ(2) 内容 大石・木谷・恒吉・名島・田邊
- 第12回 項目 ロールプレイ(3) 内容 大石・木谷・恒吉・名島・田邊
- 第13回 項目 学校臨床の実際(1) 内容 田邊・大石・木谷・恒吉・名島
- 第14回 項目 学校臨床の実際(2) 内容 田邊・大石・木谷・恒吉・名島
- 第15回 項目 学校臨床の実際(3) 内容 田邊・大石・木谷・恒吉・名島

成績評価方法(総合) 小テスト / 授業内レポート = 40~60% 授業態度や授業への参加度 = 20~40% 演習 = 20~40% 出席 = 20~40%

教科書・参考書 教科書: テーマごとに資料を配付する。 / 参考書: そのつど指示する。

メッセージ 具体的な実践上の諸課題について体験的に学びますので、積極的に参加してください。

連絡先・オフィスアワー 名島潤慈: 083-933-5465, najima@yamaguchi-u.ac.jp 田邊敏明: 083-933-5453, ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp 大石英史: 083-933-5454, eohishi@yamaguchi-u.ac.jp 木谷秀勝: 083-933-5464, kiya@yamaguchi-u.ac.jp 恒吉徹三: 083-933-5446, whiteowl@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	障害児心理学特論	区分	講義	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	家族心理学特論	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	名島潤慈・田邊敏明				

授業の概要 家族の歴史や形態、家族成員間の関係（夫婦関係・親子関係・兄弟関係など）、家族の病理性、家族療法、家族機能の査定法について考究する。/ 検索キーワード 家族、家族成員、家族の歴史と発達、家族への介入

授業の一般目標 家族というものがどういう特徴や機能を有しているのか、不健全な家族を査定したり介入したりするための方法はどのようなものなのかといった事柄を受講者が理解できるようにする。

成績評価方法（総合） 2人の教官へのレポートの内容や出席などによって評価する。

教科書・参考書 参考書：必要な資料・論文などはそのつど配付する。

連絡先・オフィスアワー 名島潤慈：083-933-5465, najima@yamaguchi-u.ac.jp 田邊敏明：083-933-5453, ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	臨床心理面接特論 II	区分	講義と演習	学年	修士 2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	大石英史				

授業の概要 フォーカシングおよび間主観的アプローチの実際とその意義、適用上の留意点等を、スクールカウンセリングの立場から体験的に学ぶ。

授業の一般目標 演習と講義を通して、フォーカシングおよび間主観的アプローチについて学習し修得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 フォーカシングとは何か？
- 第 2 回 項目 心理臨床のなかのフォーカシング
- 第 3 回 項目 フォーカシングとフェルト・センス
- 第 4 回 項目 フォーカシング実習
- 第 5 回 項目 フォーカシング実習
- 第 6 回 項目 心理面接における非言語的相互作用 心理臨床における間主観的な場
- 第 7 回 項目 心理臨床における間主観的な場
- 第 8 回 項目 「間」の相互性とその臨床援助的活用
- 第 9 回 項目 間主観的体験の臨床的援助活用
- 第 10 回 項目 間主観的体験を活かした心理療法 1
- 第 11 回 項目 間主観的体験を活かした心理療法 2
- 第 12 回 項目 フォーカシングの学校臨床への適用 1
- 第 13 回 項目 フォーカシングの学校臨床への適用 2
- 第 14 回 項目 フォーカシングの学校臨床への適用 3
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 参考書：クライエント中心療法と体験過程療法, 村山正治, ナカニシヤ出版, 2002 年; パーソンセンタードカウンセリングの実際, デイブ・メアーンズ, コスモライブラリー, 2000 年

開設科目	臨床心理基礎実習	区分	実験・実習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	名島潤慈・田邊敏明・大石英史・木谷秀勝・恒吉徹三				

授業の概要 講義や事例検討を通して、心理臨床場面における実践上の基本的な事柄を具体的に学ぶ。/
検索キーワード 危機介入、メタファー、現象学、精神科、発達障害、事例検討

授業の一般目標 心理臨床場面における実践上の基本的態度や事項に関して具体的に修得し、心理面接場面における基本的態度などについて、体験的に理解を深める。

授業の計画(全体) 心理臨床場面における実践上の基本的態度や事柄を具体的に修得し、心理面接における基本的態度などについて、体験的に理解を深める。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 心理臨床における危機介入 内容 名島・田邊・大石・木谷・恒吉
- 第2回 項目 事例検討(1) 内容 名島・田邊・大石・木谷・恒吉
- 第3回 項目 事例検討(2) 内容 名島・田邊・大石・木谷・恒吉
- 第4回 項目 メタファーを用いた心理療法 内容 田邊・大石・木谷・恒吉・名島
- 第5回 項目 事例検討(3) 内容 田邊・大石・木谷・恒吉・名島
- 第6回 項目 事例検討(4) 内容 田邊・大石・木谷・恒吉・名島
- 第7回 項目 現象学的接近 内容 大石・木谷・恒吉・名島・田邊
- 第8回 項目 事例検討(5) 内容 大石・木谷・恒吉・名島・田邊
- 第9回 項目 事例検討(6) 内容 大石・木谷・恒吉・名島・田邊
- 第10回 項目 精神科領域での心理臨床 内容 恒吉・名島・田邊・大石・木谷
- 第11回 項目 事例検討(7) 内容 恒吉・名島・田邊・大石・木谷
- 第12回 項目 事例検討(8) 内容 恒吉・名島・田邊・大石・木谷
- 第13回 項目 発達障害の理解 内容 木谷・恒吉・名島・田邊・大石
- 第14回 項目 事例検討(9) 内容 木谷・恒吉・名島・田邊・大石
- 第15回 項目 基礎実習のまとめと全体討論 内容 名島・田邊・大石・木谷・恒吉

成績評価方法(総合) 小テスト/授業内レポート = 40~60% 授業態度や授業への参加度 = 20~40% 出席 = 20~40%

教科書・参考書 教科書: 特には指定しません。/ 参考書: 各担当者により、適宜資料を配布します。

メッセージ 具体的な実践上の諸課題について体験的に学ぶので、積極的に参加してください。

連絡先・オフィスアワー 名島潤慈: 083-933-5465, najima@yamaguchi-u.ac.jp 田邊敏明: 083-933-5453, ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp 大石英史: 083-933-5454, eohishi@yamaguchi-u.ac.jp 木谷秀勝: 083-933-5464, kiya@yamaguchi-u.ac.jp 恒吉徹三: 083-933-5446, whiteowl@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	臨床心理実習	区分	実験・実習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	名島潤慈・田邊敏明・大石英史・木谷秀勝・恒吉徹三				

授業の概要 心理臨床の実際場面で実習を行う。本実習においては、2種類の実習を行う。(1) 山口大学教育学部附属「心理教育相談室」で実際にケースを担当し、面接の進め方について指導を行う。(2)「山口県精神保健福祉センター」において実習を行う。/ 検索キーワード 実習、心理臨床、面接、相談、セラピー

授業の一般目標 心理臨床の実際場面で実習を行い、ケースを担当し、面接の進め方について学習を行う。特に、臨床場面における具体的な面接相談において、基本的方針を確認し、心理臨床家として直面する諸問題への対処の仕方について学ぶ。また、外部の臨床機関(山口県精神保健福祉センター)における実習を通して、さまざまなクライアントについて理解を深める。

授業の計画(全体) (1)「心理教育相談室」における実習では、同相談室に依頼されたケースを担当し、指導教官のスーパーヴィジョンを受けながら面接を経験するなかで、心理臨床のあり方を学習する。(2)「山口県精神保健福祉センター」における実習では、毎週(木曜日)1日(9時間)同センターを訪問し、5週間にわたるクライアントとの接触を通して、心理臨床場面の実際について、センターの担当臨床心理士の指導も受けながら理解を深める。

成績評価方法(総合) 宿題/授業外レポート = 40~60% 出席 = 40~60%

教科書・参考書 教科書: 特には指定しません。/ 参考書: 担当者により、資料が配布される場合がある。

メッセージ 「実習」としての意義を理解し、積極的に参加して下さい。

連絡先・オフィスアワー 名島潤慈: 083-933-5465, najima@yamaguchi-u.ac.jp 田邊敏明: 083-933-5453, ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp 大石英史: 083-933-5454, eohishi@yamaguchi-u.ac.jp 木谷秀勝: 083-933-5464, kiya@yamaguchi-u.ac.jp 恒吉徹三: 083-933-5446, whiteowl@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	学校教育実践研究	区分	講義	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田廣・名島潤慈・田邊敏明・大石英史・木谷秀勝・恒吉徹三				

授業の概要 大学院生が心理教育相談室や小・中・高・養護学校などで行っている教育・臨床経験をもとにして、学校教育上の諸問題を総合的に考察する。／検索キーワード 学校教育

授業の一般目標 教育・臨床実践を通して、学校教育上の諸問題について、対処と改善方法について考えを深める。

授業の計画(全体) 院生各自が心理教育相談室や小・中・高・養護学校などで行っている教育実践・臨床実践の経験を深め、学校教育におけるさまざまな問題についての対処を考えていく。そして、各自が考えたことをレポートにまとめ、全体発表会において討議する。レポートにまとめるテーマとしては、例えば、「いじめと学校教育」「不登校と学校教育」「自殺予防と学校教育」「教育相談体制と学校教育」などが挙げられよう。

成績評価方法(総合) 院生各自がまとめたレポートをもとにして全体発表会を行い、そこでの討議に基づいて、各教官は院生各自の発表を評価する。

連絡先・オフィスアワー 福田 廣 : 083-933-5455, hfukuda@yamaguchi-u.ac.jp 名島潤慈 : 083-933-5465, najima@yamaguchi-u.ac.jp 田邊敏明 : 083-933-5453, ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp 大石英史 : 083-933-5454, eohishi@yamaguchi-u.ac.jp 木谷秀勝 : 083-933-5464, kiya@yamaguchi-u.ac.jp 恒吉徹三 : 083-933-5446, whiteowl@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	臨床心理実習	区分	実験・実習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	名島潤慈・田邊敏明・大石英史・木谷秀勝・恒吉徹三				

授業の概要 心理臨床心理の実際場面での実習を行う。本実習においては、以下の2種類の実習を行う。(1) 山口大学教育学部附属「心理教育相談室」で実際にケースを担当し、面接・相談の進め方等について指導を行う。(2) 病院実習として以下の2施設の中、どちらかを選択して実習する。[A] 山口大学医学部附属病院「精神科神経科」 [B] 山口県「小郡まきはら病院」/ 検索キーワード 実習、心理臨床、面接、相談、セラピー

授業の一般目標 心理臨床心理の実際場面での実習を行い、ケースを担当し、相談・面接の進め方について学習する。特に、臨床場面における具体的な事例に直面しながら、基本的方針を確認し、心理臨床家として経験する諸問題への対処の仕方について学ぶ。また、病院実習として、実際の精神科病院で実習を行い、さまざまなクライアントについて理解を深める。

授業の計画(全体) (1)「心理教育相談室」における実習では、同相談室に依頼されたケースを担当し、指導教官のスーパーヴィジョンを受けながら面接相談を経験する中で、心理臨床のあり方を学習する。(2) 病院実習においては、「医学部附属病院」か「小郡まきはら病院」のどちらかにおいて、1週間(5日間: 1日9時間)集中的に実習を行い、同病院の医師や臨床心理士の指導を受けながら、さまざまなクライアントの実態について理解を深める。

成績評価方法(総合) 宿題/授業外レポート = 40~60% 出席 = 40~60%

教科書・参考書 教科書: 特には指定しません。/ 参考書: 担当者により指示がある場合がある。

メッセージ 本来の「実習」としての意義を理解し、積極的に参加して下さい。

連絡先・オフィスアワー 名島潤慈: 083-933-5465, najima@yamaguchi-u.ac.jp 田邊敏明: 083-933-5453, ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp 大石英史: 083-933-5454, eohishi@yamaguchi-u.ac.jp 木谷秀勝: 083-933-5464, kiya@yamaguchi-u.ac.jp 恒吉徹三: 083-933-5446, whiteowl@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	大石英史				

授業の概要 臨床心理学に関する基礎的な学習を行う。具体的には各自が興味をもっているテーマに関する文献を講読し、指導教官と学生の間でディスカッションを行う。

授業の一般目標 臨床心理学に関する基礎的学習を達成する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 関心領域について
- 第2回 項目 関心領域について
- 第3回 項目 関心領域について
- 第4回 項目 関心領域確定のための文献講読
- 第5回 項目 関心領域確定のための文献講読
- 第6回 項目 関心領域確定のための文献講読
- 第7回 項目 関心領域確定のための文献講読
- 第8回 項目 関心領域確定のための文献講読
- 第9回 項目 関心領域確定のための文献講読
- 第10回 項目 関心領域確定のための文献講読
- 第11回 項目 関心領域確定のための文献講読
- 第12回 項目 関心領域確定のための文献講読
- 第13回 項目 関心領域確定のための文献講読
- 第14回 項目 関心領域の確定
- 第15回 項目 関心領域の確定

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	木谷秀勝				

授業の概要 前期・後期を通して、児童精神医学とその関連領域の重要な文献の講読を行う。

授業の一般目標 児童へのカウンセリングだけでなく、児童精神医学を含めた多面的なアプローチの可能性について議論する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：専門的な知識の獲得をめざす 思考・判断の観点：子どもの心の問題への多面的な思考と、速やかで適切な判断力を形成する。 関心・意欲の観点：子どもの心の世界の複雑さに十分な関心をもつようになることをめざす。

授業の計画（全体） 演習形式で、重要な論文を講読する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	田邊敏明				

授業の概要 自分の興味ある研究テーマについて、先行研究を紹介・発表してディスカッションを重ね、まだ明らかにされていない点を見つける。そして後の修士論文につなげられるような研究計画をイメージする。 / 検索キーワード 創造的意欲

授業の一般目標 自分の興味あるテーマについて、先行研究を理解し、まだ明らかにされていない点を見い出して、それを解明するような研究計画を立てる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：先行研究について理解し、またどのような点が明らかになっていないかを見つける。 思考・判断の観点：先行研究で明らかになっていない点を、どのような研究計画を立てれば明らかにできるのかをイメージできる。 関心・意欲の観点：まだ明らかになっていない点を解明することに、積極果敢にチャレンジする。 態度の観点：自分の興味あるテーマについて、幅広い観点から考察する。

授業の計画(全体) 自分の興味あるテーマについて、先行研究を発表したり、ディスカッションを重ね、明らかになっていない点を見い出す。そしてそれを解明できるような研究計画を立てる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 テーマについての見解1
- 第2回 項目 テーマについての見解2
- 第3回 項目 先行研究の発表とディスカッション1
- 第4回 項目 先行研究の発表とディスカッション2
- 第5回 項目 先行研究の発表とディスカッション3
- 第6回 項目 先行研究の発表とディスカッション4
- 第7回 項目 先行研究の発表とディスカッション5
- 第8回 項目 先行研究で明らかにされていない点の発見1
- 第9回 項目 先行研究で明らかにされていない点の発見2
- 第10回 項目 研究計画案1
- 第11回 項目 研究計画案2
- 第12回 項目 研究計画案3
- 第13回 項目 研究実施のシミュレーション
- 第14回 項目 研究実施のシミュレーション2
- 第15回 項目 修士論文への展望

成績評価方法(総合) そのテーマにおいてまだ明らかになっていない点を解明しようとする意欲を重視する。またそのための発表の資料準備、授業中のディスカッションに向かう態度も評価対象となる。

メッセージ 困難なテーマにも積極果敢に挑む姿勢を求めたい。

連絡先・オフィスアワー E mail: ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372, オフィスアワー火曜日 18:00 ~ 19:00

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	恒吉徹三				

授業の概要 演習は、受講者の発表を中心にすすめる。あらかじめ研究課題として各受講生が設定しているテーマについて発表し議論を深めながら、当該研究分野を概観していく。特に、臨床心理学分野での研究について取り上げること。その際には、研究の理解を深めるだけでなく、心理臨床においてどのような貢献ができるかも視野に入れてすすめていく。/ 検索キーワード テーマ、問題意識の明確化、文献展望

授業の一般目標 受講者が取り組む臨床心理学分野の研究テーマを設定することが目標である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：臨床心理学の基礎的な知識および研究方法について基礎的な理解できる。 思考・判断の観点：臨床心理学的に事象をとらえることができる。 関心・意欲の観点：自らの研究に積極的に取り組む 技能・表現の観点：臨床心理学的観点から自らの関心を記述し表現できる。

授業の計画（全体） まず、各自が関心のある臨床心理学の分野の文献を提示し、自らの研究テーマを設定することを目標にプレゼンテーションを行う。これにより、研究テーマを明確にするための議論を重ねる。さらに、今年度後期の問題の明確化へとつなげていく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 研究テーマの探索 (1) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第2回 項目 研究テーマの探索 (2) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第3回 項目 研究テーマの探索 (3) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第4回 項目 研究テーマの探索 (4) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第5回 項目 研究テーマの探索 (5) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第6回 項目 研究テーマの設定 (1) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第7回 項目 研究テーマの設定 (2) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第8回 項目 研究テーマの設定 (3) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第9回 項目 研究テーマの設定 (4) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第10回 項目 研究テーマのレビュー (1) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第11回 項目 研究テーマのレビュー (2) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第12回 項目 研究テーマのレビュー (3) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第13回 項目 研究テーマのレビュー (4) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第14回 項目 研究テーマのレビュー (5) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第15回 項目 研究テーマのレビュー (6) 内容 プレゼンテーションと討論

成績評価方法（総合） 各自の担当した発表内容により評価する。ただし、講義実施回数の3分の2以上の出席が評価の前提であり、3回以上の欠席がある場合には減点の対象とする。

教科書・参考書 教科書：指定しない / 参考書：必要に応じて示す

メッセージ 積極的な取り組みを期待します。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	名島潤慈				

授業の概要 院生自身が関心を抱いている臨床心理学的なテーマについて深く広く考究する。 / 検索キーワード 臨床心理学。心理テスト。心理療法。

授業の一般目標 臨床心理学的なものの見方を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：臨床心理学の基礎を理解できる。 思考・判断の観点：臨床心理学的なものの見方や考え方ができる。 関心・意欲の観点：自分が関心を抱いた研究テーマに対して積極的・意欲的に取り組むことができる。 態度の観点：真面目に授業に出席して、積極的に発言する。 技能・表現の観点：自分が言いたいことを的確に表現できる。

授業の計画（全体） 修士論文を作成するための基盤作りをする。

成績評価方法（総合） レポート、授業態度、発表、出席などから総合的に評価する。

メッセージ レポート発表がたくさんありますので、がんばってください。

連絡先・オフィスアワー Email:najima@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5465

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	福田廣				

授業の一般目標 修士論文作成に必要な諸能力を涵養する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	大石英史				

授業の概要 臨床心理学に関する応用的な学習を行う。

授業の一般目標 臨床心理学に関する応用的な学習を達成する。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 修士論文の研究方法に関する文献講読
- 第 2 回 項目 修士論文の研究方法に関する文献講読
- 第 3 回 項目 修士論文の研究方法に関する文献講読
- 第 4 回 項目 修士論文の研究方法に関する文献講読
- 第 5 回 項目 修士論文の調査・実験計画
- 第 6 回 項目 修士論文の調査・実験計画
- 第 7 回 項目 修士論文の調査・実験計画
- 第 8 回 項目 修士論文の調査・実験計画
- 第 9 回 項目 修士論文の調査・実験
- 第 10 回 項目 修士論文の調査・実験
- 第 11 回 項目 修士論文の調査・実験
- 第 12 回 項目 修士論文の調査・実験
- 第 13 回 項目 修士論文の調査・実験
- 第 14 回 項目 修士論文の調査・実験
- 第 15 回 項目 修士論文の調査・実験

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	木谷秀勝				

授業の概要 前期・後期を通して、児童精神医学とその関連領域の重要な文献の講読を行う

授業の一般目標 主に修士論文にテーマに関連した論文を講読して、専門的分野への理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：深い知識と理解をめざす 思考・判断の観点：客観的な判断力を形成する。 関心・意欲の観点：より高い学問的関心と意欲を培う。

授業の計画（全体） 論文の講読を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	田邊敏明				

授業の概要 修士論文の作成に直結するような課題について論考し、発表とディスカッションを続ける中で、具体的な研究計画に従って研究を進めていく。

授業の一般目標 修士論文の作成に直結するような課題について論考し、発表とディスカッションを続ける中で、具体的な研究計画に従って研究を進めていく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分の興味あるテーマについての文献を読み、研究の流れをつかむ。思考・判断の観点：従来の研究で、どの点が解明されていないかを、自分の関心と関わらせながら、明らかにしていく。関心・意欲の観点：従来の研究で解明されていない点を、さらに深く追求する意欲を持つ。態度の観点：従来の研究で解明されていない点を、粘り強く追求していく態度が求められる。

授業の計画（全体） 修士論文の作成に直結するような課題について論考し、発表とディスカッションを続ける中で、具体的な研究計画に従って研究を進めていく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 研究の具体的な計画 1
- 第 2 回 項目 研究の具体的な計画 2
- 第 3 回 項目 研究の具体的な計画 3
- 第 4 回 項目 研究の具体的な計画 4
- 第 5 回 項目 研究の具体的な計画 5
- 第 6 回 項目 研究の実施 1
- 第 7 回 項目 研究の実施 2
- 第 8 回 項目 研究の実施 3
- 第 9 回 項目 研究の実施 4
- 第 10 回 項目 研究の実施 5
- 第 11 回 項目 研究の実施 6
- 第 12 回 項目 結果の分析 1
- 第 13 回 項目 結果の分析 2
- 第 14 回 項目 結果の分析 3
- 第 15 回 項目 まとめと展望

成績評価方法（総合） 毎回発表するレジュメの内容と研究テーマに対する意欲の深まり、さらに発表する姿勢から総合評価する。

メッセージ 研究テーマについて深く探求する意欲を求めます。

連絡先・オフィスアワー E-mail:ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 372 オフィスアワー 火曜日 18:00 ~ 19:00

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	恒吉徹三				

授業の概要 演習は、受講者の発表を中心にすすめる。前セメスターまでの間に明確にされ、かつ予備的研究の実施によって具体的となった研究課題について、データ収集を行い、目的に沿って結果を整理する。この結果を発表し、討論を行う。特に、データ収集に際する人権や倫理的な点についても十分に検討する。 / 検索キーワード 研究手法、データ収集、結果の整理

授業の一般目標 研究課題を明確にしたうえで、さらに予備的な研究(調査、観察などにより)を当該分野においてすすめる。その上でさらに、課題にそった研究手法や実施計画を再検討することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：心理学および臨床心理学について十分に理解できている。 思考・判断の観点：事象を臨床心理学の観点からとらえることができる。 関心・意欲の観点：自らの研究テーマに対する関心を維持し、積極的に取り組む。 技能・表現の観点：臨床心理学的観点から自らの関心を記述し表現できる。

授業の計画(全体) 各自が設定した課題について発表し、研究テーマを明確にするための議論を重ねる点は、前期と同様である。この過程で問題をより明確にし、予備的な研究に取り組む。そのうえで、さらに問題の明確化と研究の実施計画をより実際に検討する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 問題と目的の検討(1) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第2回 項目 問題と目的の検討(2) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第3回 項目 方法論の検討(1) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第4回 項目 方法論の検討(2) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第5回 項目 方法論の検討(3) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第6回 項目 方法論の検討(4) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第7回 項目 方法論の検討(5) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第8回 項目 予備的研究の検討(1) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第9回 項目 予備的研究の検討(2) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第10回 項目 方法論の再検討(1) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第11回 項目 方法論の再検討(2) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第12回 項目 本研究の実施とデータの間検討(1) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第13回 項目 本研究の実施とデータの間検討(2) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第14回 項目 本研究の実施とデータの間検討(3) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第15回 項目 本研究の実施とデータの間検討(4) 内容 プレゼンテーションと討論

成績評価方法(総合) 毎回のプレゼンテーション内容と議論によって評価する。3分の2以上の出席を前提に評価は行い、2回以上の欠席は減点の対象とする。

教科書・参考書 教科書：指定しない / 参考書：必要に応じて示す

メッセージ 自らの研究テーマをより深めてほしい。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	名島潤慈				

授業の概要 修士論文の完成に向けて、院生自身が関心を抱いている臨床心理学的なテーマについていっそう深く絞り込む。 / 検索キーワード 臨床心理学。心理テスト。心理療法。

授業の一般目標 臨床心理学的なものを見方を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分の研究テーマの内容を十分に理解している。 思考・判断の観点：研究テーマに適った考え方ができる。 関心・意欲の観点：研究テーマを深く考究することに積極的に取り組む。 態度の観点：真面目に授業に出席して、積極的に発言する。 技能・表現の観点：自分が言いたいことを的確に表現できる。

授業の計画（全体） 修士論文を完成させるための具体的な作業を行う。

成績評価方法（総合） レポート、授業態度、発表、出席などから総合的に評価する。

メッセージ 修士論文の完成年度です。気を入れて取り組みましょう。

連絡先・オフィスアワー Email:najima@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5465

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	福田廣				

授業の一般目標 修士論文作成に必要な諸能力を涵養する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	大石英史				

授業の概要 臨床心理学に関する基礎的な学習を行う。

授業の一般目標 臨床心理学に関する基礎的な学習を達成する。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 関心領域のテーマ設定
- 第2回 項目 関心領域のテーマ設定
- 第3回 項目 関心領域の文献講読
- 第4回 項目 関心領域の文献講読
- 第5回 項目 関心領域の文献講読
- 第6回 項目 関心領域の文献講読
- 第7回 項目 関心領域の文献講読
- 第8回 項目 関心領域の文献講読
- 第9回 項目 関心領域の文献講読
- 第10回 項目 関心領域の文献講読
- 第11回 項目 関心領域の文献講読
- 第12回 項目 関心領域の文献講読
- 第13回 項目 関心領域の文献講読
- 第14回 項目 修士論文のテーマ設定
- 第15回 項目 修士論文のテーマ設定

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	木谷秀勝				

授業の概要 前期・後期を通して、児童精神医学とその関連領域の重要な文献の講読を行う

授業の一般目標 前期の続きを行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期と同じ 思考・判断の観点：前期と同じ 関心・意欲の観点：前期と同じ

授業の計画（全体） 前期と同じ

成績評価方法（総合） 前期と同じ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	田邊敏明				

授業の概要 前期に引き続き、修士論文の作成に直結するような課題について、調べたり、ディスカッションを行い、深く追求する。 / 検索キーワード 創造的意欲

授業の一般目標 前期で明らかになった点をさらに発展させ、修士論文の作成に直結するような課題について、調べたり、ディスカッションを行い、さらに深く追求していく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分の興味あるテーマについて文献を読み、従来の研究の流れをつかむ。 思考・判断の観点：従来の研究で、どの点が明らかにされていないかを、自分の関心と関わらせながら、明らかにしていく。 関心・意欲の観点：従来の研究で、明らかにされていない点を、さらに深く追求していく意欲をもつ。 態度の観点：従来の研究で、明らかにされていない点を、粘り強く追求していく態度が求められる。

授業の計画（全体） 前期で明らかになった点をさらに発展させ、修士論文の作成に直結するような課題について、調べたり、ディスカッションを行い、さらに深く追求していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 従来の研究についての考察 1
- 第 2 回 項目 従来の研究についての考察 2
- 第 3 回 項目 従来の研究についての考察 3
- 第 4 回 項目 従来の研究についての考察 4
- 第 5 回 項目 研究テーマについての具体的検討 1
- 第 6 回 項目 研究テーマについての具体的検討 2
- 第 7 回 項目 研究テーマについての具体的検討 3
- 第 8 回 項目 研究テーマについての具体的検討 4
- 第 9 回 項目 研究テーマについての具体的検討 5
- 第 10 回 項目 研究の具体的な計画 1
- 第 11 回 項目 研究の具体的な計画 2
- 第 12 回 項目 研究の具体的な計画 3
- 第 13 回 項目 研究の具体的な計画 4
- 第 14 回 項目 研究の具体的な計画 5
- 第 15 回 項目 まとめと展望

成績評価方法（総合） 毎回発表するレジュメの内容と研究テーマに対する意欲の深まり、さらに発表する姿勢から総合的に評価する。

メッセージ 研究テーマについて深く探求する意欲を求めます。

連絡先・オフィスアワー E-mail:ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 372 オフィスアワー 火曜日 18:00 ~ 19:00

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	恒吉徹三				

授業の概要 演習の進行は、前期と同様に、受講者の発表を中心にすすめる。各受講者の研究課題について発表し議論を深めながらすすめる。前期の講義で概観した当該研究分野について、さらに理解を深める。臨床心理学分野での研究の位置付けや、心理臨床においてどのような貢献ができるかも視野に入れてすすめていくこと。/ 検索キーワード 問題意識の明確化、予備的調査、研究手法の検討

授業の一般目標 受講者が設定した研究課題について、問題と目的を明確にする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：心理学および臨床心理学の知識について十分に理解ができる。

思考・判断の観点：事象を臨床心理学的な観点からとらえることができる。 関心・意欲の観点：自らの研究に対して関心を維持し、積極的に取り組むことができる。 技能・表現の観点：臨床心理学的観点から自らの関心を記述し表現できる。

授業の計画（全体） まず、各自が設定した課題について発表し、さらに研究テーマを明確にするための議論を重ねる。その上で、研究の問題と目的を明確にする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 研究テーマの再検討 (1) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第 2 回 項目 研究テーマの再検討 (2) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第 3 回 項目 問題の明確化 (1) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第 4 回 項目 問題の明確化 (2) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第 5 回 項目 問題の明確化 (3) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第 6 回 項目 問題の明確化 (4) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第 7 回 項目 問題の明確化 (5) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第 8 回 項目 問題の明確化 (6) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第 9 回 項目 問題の明確化 (7) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第 10 回 項目 問題の明確化 (8) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第 11 回 項目 問題の明確化 (9) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第 12 回 項目 問題の明確化 (10) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第 13 回 項目 目的の明確化 (1) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第 14 回 項目 目的の明確化 (2) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第 15 回 項目 目的の明確化 (3) 内容 プレゼンテーションと討論

成績評価方法（総合） 授業内でのプレゼンテーションの内容と議論とによって評価する。講義回数分の3分の2以上の出席を前提とする。2回以上の欠席がある場合には減点の対象とする。

教科書・参考書 教科書：指定しない / 参考書：必要に応じて示す

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	名島潤慈				

授業の概要 院生自身が関心を抱いている臨床心理学的なテーマについて深く広く考究する。 / 検索キーワード 臨床心理学。心理テスト。心理療法。

授業の一般目標 臨床心理学的なものの見方を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：臨床心理学の基礎を理解できる。 思考・判断の観点：臨床心理学的なもの見方や考え方ができる。 関心・意欲の観点：自分が関心を抱いた研究テーマに対して積極的・意欲的に取り組むことができる。 態度の観点：真面目に授業に出席して、積極的に発言する。 技能・表現の観点：自分が言いたいことを的確に表現できる。

授業の計画（全体） 修士論文を作成するための基盤作りをする。

成績評価方法（総合） レポート、授業態度、発表、出席などから総合的に評価する。

メッセージ レポート発表がたくさんありますので、がんばってください。

連絡先・オフィスアワー Email:najima@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5465

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	福田廣				

授業の一般目標 修士論文作成に必要な諸能力を涵養する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	大石英史				

授業の概要 臨床心理学に関する応用的学習を継続するとともに、各自の関心領域を絞り込み、それを修士論文として完成させる。

授業の一般目標 臨床心理学に関する各自の関心領域を絞り込み、それを修士論文として完成させる。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 修士論文の作成
- 第2回 項目 修士論文の作成
- 第3回 項目 修士論文の作成
- 第4回 項目 修士論文の作成
- 第5回 項目 修士論文の作成
- 第6回 項目 修士論文の作成
- 第7回 項目 修士論文の作成
- 第8回 項目 修士論文の作成
- 第9回 項目 修士論文の作成
- 第10回 項目 修士論文の作成
- 第11回 項目 修士論文の作成
- 第12回 項目 修士論文の作成
- 第13回 項目 修士論文の作成
- 第14回 項目 修士論文の作成
- 第15回 項目 修士論文の作成

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	木谷秀勝				

授業の概要 前期・後期を通して、児童精神医学とその関連領域の重要な文献の講読を行う

授業の一般目標 前期と同じ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期と同じ 思考・判断の観点：前期と同じ 関心・意欲の観点：前期と同じ

授業の計画（全体） 前期と同じ

成績評価方法（総合） 前期と同じ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	田邊敏明				

授業の概要 修士論文の課題について論考し、前期で立てた研究計画を実際に遂行していく。そして学校現場に役立つ視点や、学校臨床心理士としての役割遂行に関わるような視点から考察していく。 / 検索キーワード 創造的意欲

授業の一般目標 修士論文の課題について論考し、前期で立てた研究計画を実際に遂行していく。そして学校現場に役立つ視点や、学校臨床心理士としての役割遂行に関わるような視点から考察していく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分の興味あるテーマについての文献を読み、研究の流れをつかむ。 思考・判断の観点：従来の研究で、どの点が解明されていないかを、自分の関心と関わらせながら、明らかにしていく。 関心・意欲の観点：従来の研究で解明されていない点を、深く追求する意欲をもつ。 態度の観点：従来の研究で解明されていない点を粘り強く追求していく態度が求められる。

授業の計画(全体) 修士論文の課題について論考し、前期で立てた研究計画を実際に遂行していく。そして学校現場に役立つ視点や、学校臨床心理士としての役割遂行に関わるような視点から考察していく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 研究結果の考察1
- 第2回 項目 研究結果の考察2
- 第3回 項目 研究結果の考察3
- 第4回 項目 研究結果の考察4
- 第5回 項目 研究結果の考察5
- 第6回 項目 研究結果の考察6
- 第7回 項目 研究結果の考察7
- 第8回 項目 修士論文の執筆指導1
- 第9回 項目 修士論文の執筆指導2
- 第10回 項目 修士論文の執筆指導3
- 第11回 項目 修士論文の執筆指導4
- 第12回 項目 研究の発展に関する考察1
- 第13回 項目 研究の発展に関する考察2
- 第14回 項目 研究の発展に関する考察3
- 第15回 項目 まとめと展望

成績評価方法(総合) 毎回発表するレジюмеの内容と研究テーマに対する意欲の深まり、発表する姿勢から評価する。

メッセージ 研究テーマについて深く探求する意欲を求めます。

連絡先・オフィスアワー E-mail: ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 372 オフィスアワー 火曜日 18:00 ~ 19:00

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	恒吉徹三				

授業の概要 演習は、受講者の発表を中心にすすめる。自ら実施した調査データ結果に基づいて考察を行い、研究課題の取り組みについてのまとめを行う。特に、臨床心理学分野での研究の位置付け、心理臨床への貢献についても視野に入れてすすめていく。/ 検索キーワード 結果の考察、研究を意味付ける、心理臨床への貢献

授業の一般目標 受講者が設定した研究課題について、収集したデータの整理検討を行い、結果について深く考察をする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：心理学および臨床心理学の知識について十分に理解できる。 思考・判断の観点：事象を心理学の観点からとらえることができる。 関心・意欲の観点：自らの研究テーマへの関心を深め、さらに積極的に研究に取り組む。 技能・表現の観点：臨床心理学的観点から自らの関心を記述し表現できる。

授業の計画(全体) まず、各自が設定した課題について発表し、実際にデータ収集を行い、収集したデータを整理し、結果について議論することにより、考察を深めていく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 データの収集についての検討(1) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第2回 項目 データ収集についての検討(2) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第3回 項目 データ収集についての検討(3) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第4回 項目 データ収集についての検討(4) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第5回 項目 データ収集についての検討(5) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第6回 項目 データの整理(1) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第7回 項目 データの整理(2) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第8回 項目 データの整理(3) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第9回 項目 結果の検討(1) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第10回 項目 結果の検討(2) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第11回 項目 結果の検討(3) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第12回 項目 結果の検討(4) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第13回 項目 結果の検討(5) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第14回 項目 考察の検討(1) 内容 プレゼンテーションと討論
- 第15回 項目 考察の検討(2) 内容 プレゼンテーションと討論

成績評価方法(総合) 毎回の授業でのプレゼンテーションの内容により評価する。授業回数の3分の2以上の出席が前提である。また、2回以上の欠席は減点の対象とする。

教科書・参考書 教科書：指定しない / 参考書：必要に応じてしめす

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	名島潤慈				

授業の概要 修士論文の完成に向けて、研究テーマに沿った調査・分析・考察を行う。/ 検索キーワード
臨床心理学。心理テスト。心理療法。

授業の一般目標 修士論文を完成させるための具体的な作業を行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマの詳細についてよく理解している。研究テーマに関する過去の諸研究についてよく知っている。 思考・判断の観点：問題点をどう乗り越えていくかの思考や判断ができる。 関心・意欲の観点：研究テーマを具体的な形にしていくことに対して意欲的に取り組む。 態度の観点：真面目に授業に出席して、積極的に発言する。 技能・表現の観点：自分が言いたいことを的確に表現できる。

授業の計画（全体） 修士論文を完成させるための具体的な作業を行う。

成績評価方法（総合） レポート、授業態度、発表、出席などから総合的に評価する。

メッセージ 修士論文の仕上げの時期です。一步一步着実に研究を進めていって下さい。

連絡先・オフィスアワー Email:najima@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5465

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	福田廣				

授業の一般目標 修士論文作成に必要な諸能力を涵養する。

国語教育専修

開設科目	国語科教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤原マリ子				

授業の概要 今日の国語科教育が抱える諸問題のうちから、各自の研究テーマに沿った課題について発表し、全員で討議を加え、各自の研究の深化をはかる。 / 検索キーワード 国語科教育

授業の一般目標 (1) 国語科教育が抱える今日的課題について認識を深め、自分の見解をまとめて適切に発表 する技能を身につける。(2) 先行研究に学びつつ、広い視野から学習改善の方途を探る態度を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 今日の国語科教育が抱える課題についてその背景を理解し、説明することができる。 思考・判断の観点： 1 問題点について広い視野から考察し、検討することができる。 関心・意欲の観点： 1 国語科教育の今日的課題について深い関心をもち、実際の授業改善に活かす意欲をもつ。 態度の観点： 1 様々な問題について主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 1 考察の結果を口答や文章で適切に表現することができる。

授業の計画(全体) 国語科が抱える多様な問題について、各自の研究テーマに沿った観点からそれぞれ課題を選び、順次、ゼミ形式で、発表、自由討議により検討を加えてゆく。

成績評価方法(総合) 授業中の担当課題の発表、自由討議への参加の状況により評価する。

教科書・参考書 教科書： 特に使用せず。 / 参考書： 授業中に随時、紹介する。

メッセージ 国語科教育の諸問題に幅広い関心をもち、主体的に授業に参加することを望む。

開設科目	国語科教育特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岸本憲一良				

授業の概要 国語科教育における諸課題について、各自の見解を踏まえて発表し、検討する。

授業の一般目標 国語科教育における諸課題について、調査、研究を行い、発表、討議を通して認識を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：国語科教育の諸課題について理解し、説明することができる。

思考・判断の観点：各課題について多角的に考察し、自分なりの考えを述べることができる。 関心・

意欲の観点：国語科教育における課題に関心をもつことができる。 態度の観点：積極的に調査、研究にあたることができる。 技能・表現の観点：調査結果や自己の見解を適切に表現することができる。

授業の計画（全体）国語科教育の諸課題について調査、研究を行い、発表、討議を通して認識を深める。

成績評価方法（総合）各自の発表の内容、討議への参加により、総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書：授業の中で、随時紹介する。

開設科目	国語科教育特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤原マリ子				

授業の概要 国語科教育の理論や実践に関する先行研究論文や実践記録等を参照しつつ、今日的課題の解決に努める。各自の研究テーマに沿って課題を選択し、模擬授業やレジメの作成・発表を行う。自由討議を経て、研究の深化を図る。 / 検索キーワード 国語科教育

授業の一般目標 (1) 発表・自由討議を経て、広い視野を培い、各自の研究を深める。(2) 研究成果を、実際の学習指導の改善に活かす方途を探る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 国語科教育の諸問題の背景について説明できる。 思考・判断の観点： 1 問題点を指摘し、考察を加えることができる。 関心・意欲の観点： 1 国語科の諸問題に深い関心を持ち、実際の学習改善に活かす強い 意欲をもつ。 態度の観点： 1 広い視野から、課題を検討することができる。 技能・表現の観点： 1 自己の見解を文章や口答で、適切に表現することができる。

授業の計画(全体) 国語科の諸問題について、各自の研究テーマに沿った課題を決定し、各自が分担して、ゼミ形式で発表・討議・批評を行ってゆく。

成績評価方法(総合) 授業中の発表および自由討議への参加状況から評価する。

教科書・参考書 参考書： 授業中に随時、紹介する。

メッセージ 明確な目的意識をもって、主体的に授業に参加することを望む。

連絡先・オフィスアワー mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国語科教育特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岸本憲一良				

授業の概要 国語科教育において各自が問題意識をもつ事柄について調査、研究を行い、各自の見解を踏まえて発表し、検討する。

授業の一般目標 国語科教育において各自が問題意識をもつ事柄について調査、研究を行い、発表、討議を通して認識を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：国語科教育において各自が問題意識をもつ事柄について理解し、説明することができる。 思考・判断の観点：国語科教育において各自が問題意識をもつ事柄について考察し、自分なりの考えを述べるすることができる。 関心・意欲の観点：国語科教育において各自が問題意識をもつ事柄について、意欲的に探求することができる。 態度の観点：積極的に調査、研究にあたることができる。 技能・表現の観点：調査結果や自己の見解を適切に表現することができる。

授業の計画（全体） 国語科教育の諸課題について調査、研究を行い、発表、討議を通して認識を深める。

成績評価方法（総合） 各自の発表の内容、討議への参加により、総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書：各自のテーマに応じて、随時紹介する。

開設科目	国語学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	有元光彦				

授業の概要 現代日本語文法の基本的項目を、いわゆる「学校文法」と比較しつつ、斬新な観点から考察していく。 / 検索キーワード 日本語、文法、教育、教材

授業の一般目標 (1) 現代日本語文法の基本的項目を客観的に考察できる。(2) 文法教育教材の開発に高い関心を示し、主体的に考えることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 現代日本語文法の基本的項目を体系的に分析できる。 関心・意欲の観点： 1 . 文法教育教材の開発に新たな観点から参加することができる。

授業の計画 (全体) 現代日本語文法の基本的事項を、特定の記述書を参照しつつ、分析・議論していく。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 シラバスの説明

第 2 回 項目 研究態度 (1)

第 3 回 項目 研究態度 (2)

第 4 回 項目 文法研究 (1)

第 5 回 項目 文法研究 (2)

第 6 回 項目 文法研究 (3)

第 7 回 項目 文法研究 (4)

第 8 回 項目 文法研究 (5)

第 9 回 項目 文法研究 (6)

第 10 回 項目 文法研究 (7)

第 11 回 項目 文法研究 (8)

第 12 回 項目 文法研究 (9)

第 13 回 項目 発展 (1) 内容 問題点・課題

第 14 回 項目 発展 (2) 内容 教材開発準備

第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 (総合) (1) 授業中の議論への参加度を評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： 授業中に指示する。 / 参考書： 授業中に適宜指示する。

メッセージ 先入観を捨ててください。

連絡先・オフィスアワー arimoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階 445 室

開設科目	国語学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	有元光彦				

授業の概要 本授業は、前期開講の「国語学特論 I」を踏まえて、斬新な観点からの文法教育教材を開発することを目的とする。受講生自らが開発した教材のプレゼンテーション及びそれに対する議論が中心となる。 / 検索キーワード 日本語、方言、教育、教材

授業の一般目標 (1) 新しい観点からの文法教育教材を創造できる。(2) 提示された教材に対し、主体的に討議できる。(3) 文法教育教材の開発に高い関心を示す。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点： 1 . 斬新な観点からの文法教育教材を段階的に組み立てることができる。 2 . 提示された教材に対し、論理的に討議できる。 関心・意欲の観点： 1 . 文法教育教材の開発に意欲的に参加できる。

授業の計画 (全体) 各自が作成した文法教育教材を提示し、それに対して議論を重ねていく。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 シラバスの説明
- 第 2 回 項目 教材開発準備 (1) 内容 目的、目標、ツール
- 第 3 回 項目 教材開発準備 (2) 内容 研究計画
- 第 4 回 項目 教材開発準備 (3)
- 第 5 回 項目 教材開発 (1) 内容 発表
- 第 6 回 項目 教材開発 (2) 内容 発表
- 第 7 回 項目 教材開発 (3) 内容 発表
- 第 8 回 項目 教材開発 (4) 内容 発表
- 第 9 回 項目 教材開発 (5) 内容 発表
- 第 10 回 項目 教材開発 (6) 内容 発表
- 第 11 回 項目 教材開発 (7) 内容 発表
- 第 12 回 項目 教材開発 (8) 内容 発表
- 第 13 回 項目 教材開発 (9) 内容 発表
- 第 14 回 項目 教材開発 (10) 内容 発表
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 問題点、課題、展望

成績評価方法 (総合) (1) 教材開発結果・発表の仕方を評価する。(2) 授業中の議論への参加度を評価する。
なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：教科書はなし。 / 参考書：授業中に適宜指示する。

メッセージ 先入観を捨ててください。

連絡先・オフィスアワー arimoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階 445 室

開設科目	国語学特論 III	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中野伸彦				

授業の概要 国語史上における近世語、主として江戸語に関わる問題点について、いくつかのテーマをとりあげて考えていく。受講者にも、それぞれが興味を持ったテーマについての調査を行ってもらい、その結果の発表とそれに対する討議を行ないながら、授業を進めていく。 / 検索キーワード 国語史、江戸語

授業の一般目標 国語史上の近世語について、理解を深めながら、日本語を歴史的に見ることへの関心を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：国語史上の近世語に関わる問題点について理解できる。 思考・判断の観点：日本語について、歴史的に考えていくことができる。 関心・意欲の観点：日本語を歴史的に見ることに興味を持つことができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 国語史上の江戸語（1）
- 第 3 回 項目 国語史上の江戸語（2）
- 第 4 回 項目 国語史上の江戸語（3）
- 第 5 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（1）
- 第 6 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（2）
- 第 7 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（3）
- 第 8 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（4）
- 第 9 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（5）
- 第 10 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（6）
- 第 11 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（7）
- 第 12 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（8）
- 第 13 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（9）
- 第 14 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（10）
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 授業時の発表やそれについての討論への参加状況により評価する。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：n_nakano@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階

開設科目	国語学特論演習 III	区分	演習	学年	修士 2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中野伸彦				

授業の概要 演習形式で、近世の国語資料を読みながら、そこにあらわれた問題について考えていく。/
 検索キーワード 近世語、資料についての調査

授業の一般目標 資料を基に、歴史的観点から、日本語について考えていく方法を身につける。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：資料に基づいて、歴史的観点から日本語について自ら考えることができる 関心・意欲の観点：歴史的観点から、日本語について考えていくことに興味を持つことができる。

授業の計画（全体）受講生の発表及びそれに対する討議という形で授業を進めていく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要、発表の分担決め
- 第 2 回 項目 発表とそれについての討議（ 1 ）
- 第 3 回 項目 発表とそれについての討議（ 2 ）
- 第 4 回 項目 発表とそれについての討議（ 3 ）
- 第 5 回 項目 発表とそれについての討議（ 4 ）
- 第 6 回 項目 発表とそれについての討議（ 5 ）
- 第 7 回 項目 発表とそれについての討議（ 6 ）
- 第 8 回 項目 発表とそれについての討議（ 7 ）
- 第 9 回 項目 発表とそれについての討議（ 8 ）
- 第 10 回 項目 発表とそれについての討議（ 9 ）
- 第 11 回 項目 発表とそれについての討議（ 1 0 ）
- 第 12 回 項目 発表とそれについての討議（ 1 1 ）
- 第 13 回 項目 発表とそれについての討議（ 1 2 ）
- 第 14 回 項目 発表とそれについての討議（ 1 3 ）
- 第 15 回 項目 発表とそれについての討議（ 1 4 ）

成績評価方法（総合）授業時の発表やそれについての討論への参加状況により評価する。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：n_nakano@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階

開設科目	国文学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉村誠				

授業の概要 古典文学と教材についての講義を行う。古典教材として古典をとらえたばあい、そのねらいは何か、どのようなことに注意を払うべきかを具体的なテキストを中心に考える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 古典文学の概要 1
- 第 2 回 項目 古典文学の概要 2
- 第 3 回 項目 古典文学の概要 3
- 第 4 回 項目 古典文学の概要 4
- 第 5 回 項目 文学研究と教材研究 1
- 第 6 回 項目 文学研究と教材研究 2
- 第 7 回 項目 文学研究と教材研究 3
- 第 8 回 項目 文学研究と教材研究 4
- 第 9 回 項目 教材化するにあたっての諸注意 1
- 第 10 回 項目 教材化するにあたっての諸注意 2
- 第 11 回 項目 教材化するにあたっての諸注意 3
- 第 12 回 項目 教材化するにあたっての諸注意 4
- 第 13 回 項目 各論 1
- 第 14 回 項目 各論 2
- 第 15 回 項目 各論 3

開設科目	国文学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉村誠				

授業の概要 古典文学教材を中心に、受講者の個々の興味や疑問点のあるところを対象とした演習形式の授業を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 受講者の問題意識確定
- 第 2 回 項目 受講者の問題意識確定
- 第 3 回 項目 受講者の問題意識確定
- 第 4 回 項目 問題への取り組み
- 第 5 回 項目 問題への取り組み
- 第 6 回 項目 問題への取り組み
- 第 7 回 項目 問題の解決
- 第 8 回 項目 問題の解決
- 第 9 回 項目 問題の解決
- 第 10 回 項目 発表
- 第 11 回 項目 発表
- 第 12 回 項目 発表
- 第 13 回 項目 最終まとめ
- 第 14 回 項目 最終まとめ
- 第 15 回 項目 最終まとめ

開設科目	国文学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林 恒徳				

授業の概要 「平家物語」をとりあげる。「平家物語」は琵琶法師などの「語り」を通して生成し展開を遂げ、後に「読む」という形でも享受されるようになった作品である。 本年は、合戦を中心にした物語を収める巻7の章段群と「灌頂巻」ほか、女性の物語と言うべき章段群とを取り上げる。 / 検索キーワード 語り物 「平家」の女性たち 合戦

授業の一般目標 1) 古典教育の初期の段階で、扱われることが多い本作品への理解を深め、古典への読解力を高める。 2) 本作品は、語りを通して成立した作品であり、音読、朗読に耐えうる文体を備えている。そこで、音読についても意を用いたい。

授業の計画(全体) 前半・巻7の北陸路の合戦章段群とも言うべき物語を読解・考察する。 後半! 「平家物語」には、意外とも言えるほど、女性の物語が印象的に語られる。その女性の物語に焦点を当てる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「平家物語」概説 内容 本作品の素材となった歴史的出来事について解説し、歴史と物語との関係について考える。
- 第 2 回 項目 「平家物語」概説 内容 テキストに用いる「覚一本平家物語」について解説する。
- 第 3 回 項目 「平家物語」巻7の位置 内容 物語全体の中で巻7に収める章段群が占める位置を解説する。
- 第 4 回 項目 同上 内容 同上
- 第 5 回 項目 合戦の描き方 内容 「火打合戦」「倶利伽藍落」「真盛」などの章段を読んで、語り手(作者)の方法意識を考察する。
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上
- 第 7 回 項目 物語のその後の展開を概説する 内容 一門の都落ちから滅びに至るまでの物語の展開を解説する。
- 第 8 回 項目 (予備)
- 第 9 回 項目 「平家物語」の女性たち 内容 物語の中での女性たちの位置・役割について考える。
- 第 10 回 項目 「灌頂巻」の物語と作品全体での位置 内容 建礼門院徳子を主人公とする数章段の意味を考察する。
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上
- 第 12 回 項目 巻9「小宰相身投」 内容 小宰相局と通盛の物語。本文を読みつつ、考察する。
- 第 13 回 項目 巻1「祇王」 内容 平清盛の横暴ぶりを語ろうとする意図を含む白拍子たちの物語を考える。
- 第 14 回 項目 維盛、清盛の妻たち 内容 夫の死を受け止められない女たち(妻たち)の物語を解説する。
- 第 15 回 項目 能楽の素材 内容 前回の維盛、清盛の妻を主人公とする舞台作品をとりあげて、「平家物語」の後世への影響の一端を考える。 授業記録 ビデオ映像を利用する。

教科書・参考書 教科書：新日本古典文学大系 平家物語 上、梶原 正昭・/山下 宏明 校注、岩波書店、1991年；新日本古典文学大系 平家物語 下、梶原 正昭・/山下 宏明 校注、岩波書店、1993年 / 参考書：平家物語、石母田正、岩波新書、1957年；平家物語の女性たち、永井路子、文藝春秋、1979年

開設科目	国文学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林 恒徳				

授業の概要 前期「国文学特論 II」を承けて、「平家物語」を取り上げ、受講生のレポートを中心に進める。作品の音読にも、特に注意したい。 / 検索キーワード 音読 語り物

授業の一般目標 1) 古典教育の初期に教材として取り上げられる本作品への理解を深め、読解力を高める。 2) 音読を通して、作品の理解を深め、音読を楽しむことが出来る。

授業の計画(全体) 初めに、前期の講義を振りかえり、資料参考書等の紹介・解説をし、その上で受講生のレポートを中心に展開する。途中で木下順二の戯曲作品「子午線の祀り」を紹介し、その舞台を映像で確認する。原典の持つリズム、表現を可能な限り生かした作品であり、音読に充分耐え得ることを確認する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 前期の国文学特論 II の確認(レポートの準備として)
- 第 2 回 項目 同上 内容 資料・参考書の紹介
- 第 3 回 項目 レポートの準備 内容 レポートの対象となる章段の選択
- 第 4 回 項目 受講生レポート
- 第 5 回 項目 同上
- 第 6 回 項目 同上
- 第 7 回 項目 同上
- 第 8 回 項目 同上
- 第 9 回 項目 同上
- 第 10 回 項目 木下順二作「子午線の祀り」の紹介 内容 作品の一部を音読する。
- 第 11 回 項目 「子午線の祀り」の舞台をビデオ映像で鑑賞する。
- 第 12 回 項目 受講生レポート
- 第 13 回 項目 同上
- 第 14 回 項目 同上
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 全体的な評価を試みる。

成績評価方法(総合) 授業中のレポートに基づいて評価する。

教科書・参考書 教科書: 新日本古典文学大系 平家物語 上, 梶原 正昭・/山下 宏明 校注, 岩波書店, 1991 年; 新日本古典文学大系 平家物語 下, 梶原 正昭・/山下 宏明 校注, 岩波書店, 1993 年; 適宜、資料を配布する。

開設科目	国文学特論 III	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村上林造				

授業の概要 小説を読むための前提となる基本的な知識を解説し、作品を客観的に分析する方法とともに、主体的に作品を把握する姿勢を身につける。

授業の一般目標 小説読解上での基本的知識をもち、自己の作品に対する価値観を相対的に見る姿勢を獲得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：近代小説理解のうえでの基本的な前提となる知識を持つ。 思考・判断の観点：作品に対して主体的に向かい合う中で、自分自身の価値観を意識化しようとする姿勢をもつ。 技能・表現の観点：自己の作品理解を口頭やレポートで表現することができる。

授業の計画（全体）時間の許す限りなるべく多彩な論点、作家、作品を選んで、議論の幅を広げるよう、留意したい。

成績評価方法（総合）授業中での発表と、学期末のレポートを総合的に評価する。

開設科目	国文学特論演習 III	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村上林造				

授業の概要 近代小説の中から幾つかを選び、その作品についての討議を中心として授業を進める。学生諸君自身の解釈をもとに、主体的な姿勢で授業に参加することを求める。

授業の一般目標 客観的作品分析をもとにして、小説が表現していることを正確に把握する力を養うとともに、その作品が、読者である自分自身にとってどういう意味をもつのか、主体的に受け止める姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 小説分析のための基本的な知識を身につける。 思考・判断の観点： 作品の意味を自分の問題意識と重ねて主体的に考える思考態度を身につける。 技能・表現の観点： 自分の解釈や感動を口頭やレポートで表現することができる。

授業の計画（全体） なるべく多様な作家と作品を取り上げ、受講生諸君の視野を広められるよう、配慮したい。

成績評価方法（総合） 授業内レポート、授業外レポート、授業態度や授業への参加度を総合的に評価する

開設科目	漢語漢文学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	南部英彦				

授業の概要 中国の歴史・文学・思想のいずれかの領域にわたる漢文資料を選読していく。 / 検索キーワード 中国の歴史・文学・思想

授業の一般目標 中国の古代(唐代以前)に焦点を合わせ、文献を通して、その時代の文学・思想、科学技術、文化の実態等を考察する。併せて、レジメを作成することを通して、漢文資料を精読するためのより深い知識を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：資料読解に当たり、十分な知識・情報を得、それを自分なりに十分理解しているか。 思考・判断の観点：資料読解に当たり、十分に自分の思考を駆使・展開できているか。

授業の計画(全体) 1 ガイダンス 2～15 中国漢文もしくは日本漢文に関する基本文献の講読 レジメ作成の仕方については、授業中に指示する。 授業で用いる文献(テキスト)は、最初の授業時に発表する。

成績評価方法(総合) 基本的には、レジメ発表の内容と、それに対する討議の姿勢とを勘案して行う。場合によっては、学期末にレポートを書いてもらうこともある。

教科書・参考書 教科書：テキストを授業中に配布する。

メッセージ 漢和辞典を一冊用意されたい。

開設科目	漢語漢文学特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	南部英彦				

授業の概要 中国の歴史・文学・思想のいずれかの領域にわたる漢文資料を選読していく。 / 検索キーワード 中国の歴史・文学・思想

授業の一般目標 中国古典の中で特異な地位を占める史書、文学書、思想書を精読し、時代性や思想構造及び表現形式の特徴を考察する。併せて、生の漢文資料に触れることで、辞書類を駆使することで、自力で漢文が読めるようになることを、実感としてつかむ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：発表に当たり、資料読解に必要な知識・情報を得、それに基づいて自分なりの理解が得られているか。 思考・判断の観点：発表に当たり、綿密な資料の読解に基づいた自分なりの思考が展開できているか。

授業の計画(全体) 1ガイダンス 2～3レジメ作成のための予備的解説 4～15 担当制による講読 レジメの作成の仕方は、授業中に指示する。場合によっては、レポートを課すことがある。 授業で用いる文献(テキスト)は、最初の授業時に発表する。

成績評価方法(総合) 授業中でのレジメによる発表と他の受講者に対する討議の姿勢を勘案して行う。

教科書・参考書 教科書：授業中にテキストを配布する。 / 参考書：授業中に指示する。

メッセージ 漢和辞典を一冊用意されたい。

開設科目	国語科教育実践研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	藤原マリ子・岸本恵一良				

授業の概要 課題研究で取り組んでいるテーマを主とした授業実践を、附属小学校や中学校で実施する。/
検索キーワード 学習指導案

授業の一般目標 ・国語科教育理論と実践との融合を図り、学習指導改善の一助とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分の研究課題を客観的に理解する。 思考・判断の観点：自分の研究課題を実践化するための工夫ができる。 関心・意欲の観点：どのようにすれば、理論と実践が融合できるか興味・関心を持つことができる。 態度の観点：積極的に実践化に向け取り組むことができる。 技能・表現の観点：授業実践に於いて、適切に言語活動を行うことができる。

授業の計画（全体） 各自の研究課題に基づき学習指導案を立案し、全員で討議・検討して改善を図る。附属小・中学校等での実践の後も、全員で検討を加え、よりよい学習指導案の作成に努める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 指導案作成 討議
- 第3回 項目 指導案作成 討議
- 第4回 項目 指導案作成 討議
- 第5回 項目 指導案作成 討議
- 第6回 項目 指導案作成 討議
- 第7回 項目 附属学校での実践 討議
- 第8回 項目 附属学校での実践 討議
- 第9回 項目 附属学校での実践 討議
- 第10回 項目 附属学校での実践 討議
- 第11回 項目 附属学校での実践 討議
- 第12回 項目 附属学校での実践 討議
- 第13回 項目 討議
- 第14回 項目 討議
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 授業実践の結果により評価する。

開設科目	国語科教育支援実践研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	藤原マリ子・岸本恵一良				

授業の概要 学校教育現場または学校以外の教育関連機関等で、社会教育、ボランティア活動等の教育支援活動を行う。

授業の一般目標 日本の学校や社会に興味・関心を抱き、積極的に学ぼうとする態度を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本の学校や社会に興味・関心を抱き、積極的に理解をしようとする。 思考・判断の観点：日本の学校や社会について、自国の文化や風習等の違いについて深く考えることができる。 関心・意欲の観点：日本の学校や社会について、積極的に興味・関心を抱くことができる。 態度の観点：日本の学校や社会について、積極的に自分の研究に生かそうとすることができる。

授業の計画（全体） 日本の学校や社会施設等を訪問し、日本の教育や文化について学ぶ。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	藤原マリ子				

授業の概要 修士論文作成に向けて、必要な支援を行う。研究テーマに関連する論文を講読し、理解を深めるとともに、各自が設定したテーマに基づき発表を行い、全員で討議を加えて課題理解の深化を図る。
/ 検索キーワード 国語科教育・論文の書き方

授業の一般目標 (1) 先行文献を講読し、内容や方法論を理解することができる。(2) 各自が設定したテーマに基づき、問題点を洗い出し、調査・検討を加え、論文にまとめる研究の基礎的技能を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマに関して、学界の研究の現状と課題について説明できる。 思考・判断の観点：研究課題について、多角的観点から考察することができる。 関心・意欲の観点：研究課題について強い関心と問題意識を持つことができる。 態度の観点：主体的に研究に取り組むことができる。 技能・表現の観点：自己の見解を口頭や文章で適切に表現する事ができる。

授業の計画(全体) 各自が設定したテーマに基づき調査・考察して発表し、全員で自由に討議を加えて、各自の理解の深化を図る。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 授業内容および授業の進め方について
- 第2回 項目 演習発表 内容 演習発表・討議
- 第3回 項目 同上 内容 同上
- 第4回 項目 同上 内容 同上
- 第5回 項目 同上 内容 同上
- 第6回 項目 同上 内容 同上
- 第7回 項目 同上 内容 同上
- 第8回 項目 同上 内容 同上
- 第9回 項目 同上 内容 同上
- 第10回 項目 同上 内容 同上
- 第11回 項目 同上 内容 同上
- 第12回 項目 同上 内容 同上
- 第13回 項目 同上 内容 同上
- 第14回 項目 同上 内容 同上
- 第15回 項目 同上 内容 同上

成績評価方法(総合) 発表や授業への参加状況により評価する。

教科書・参考書 参考書：授業中に随時、必要文献を紹介する。

メッセージ 問題意識をもって意欲的に研究活動に取り組んでください。

連絡先・オフィスアワー mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	藤原マリ子				

授業の概要 修士論文作成に向けて、必要な支援を行う。先行論文を参考に、各自の研究テーマを決定し、発表・討議を経て、課題の深化を図る。/ 検索キーワード 国語科教育

授業の一般目標 (1) 修士論文作成に向けて、各自の研究課題を決定する。(2) 先行研究の概要を把握する。(3) 発表と討議を通じて、広い視野から考察し問題解決にあたる研究態度を培う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自の課題の先行研究の概要を説明できる。思考・判断の観点：課題について、幅広い視点から問題点を指摘することができる。関心・意欲の観点：主体的な問題意識をもって課題に取り組むことができる。態度の観点：積極的かつ意欲的に課題解決に取り組むことができる。技能・表現の観点：自己の見解を口頭や文章で発表することができる。

授業の計画(全体) 授業はゼミ形式で、発表および自由討議により実施する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 授業の内容、すすめ方を説明 授業外指示 各自の研究を進めること
- 第2回 項目 演習発表 内容 発表・討議 授業外指示 同上
- 第3回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第4回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第5回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第6回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第7回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第8回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第9回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第10回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第11回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第12回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第13回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第14回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上
- 第15回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 同上

成績評価方法(総合) 発表および自由討議への参加状況により評価する。

メッセージ 積極的に研究活動に取り組んでください。

連絡先・オフィスアワー mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	藤原マリ子				

授業の概要 修士論文作成に必要な支援を行う。ゼミ形式で、発表と自由討議により、各自の課題の深化を図る。 / 検索キーワード 国語科教育

授業の一般目標 (1) 研究の基本的技能を修得し、修士論文の枠組みを示すことができる。(2) 国語科教育の理論を実際の授業改善に活かす視点を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自の課題について先行研究の概要を説明できる。思考・判断の観点：問題点について、広い視野から考察し検討することができる。関心・意欲の観点：国語科教育の諸問題について深い関心を持ち、実際の授業改善に活かす意欲を持つ。態度の観点：研究に意欲的に取り組むことができる。技能・表現の観点：自己の見解を口頭や文章で適切に表現することができる。

授業の計画(全体) 発表および自由討議・批評により、各自の課題を深めてゆく。

成績評価方法(総合) 発表および討議への参加状況により総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書：授業中に随時、必要文献を紹介する。

メッセージ 主体的に研究活動に取り組んでください。

連絡先・オフィスアワー mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	藤原マリ子				

授業の概要 修士論文作成に向けて、各自の課題に応じた支援を行う。ゼミ形式で発表・討議・批評を繰り返すことにより、各自のテーマの深化を図り、論文の完成を促す。

授業の一般目標 (1) 資料収集・調査方法、問題解決の方法、論文の書き方、発表の仕方等の、研究の基本的技能を身につけ、修士論文を完成させる。(2) 国語科教育理論を実際の授業改善に役立てる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の研究課題の先行研究の概要を説明できる。 思考・判断の観点： 問題点について、広い視野から考察し、検討を加えることができる。 関心・意欲の観点： 国語科の諸問題について深い関心を持ち、実際の授業改革に活かす意欲をもつ。 態度の観点： 様々な問題について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 自己の見解を口頭や文章で適切に表現することができる。

授業の計画(全体) ゼミ形式で、発表と自由討議により、各自の課題を深める。

成績評価方法(総合) 授業中の発表および討議への参加状況により評価する。

教科書・参考書 参考書： 随時、授業中に紹介する。

メッセージ 各自の研究課題に意欲的に取り組んでください。

開設科目	課題研究	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	岸本 憲一良				

授業の概要 国語科教育の分野において、問題意識をもって研究・調査にあたり、考察を加えて発表する。

授業の一般目標 自己の研究分野に関する考察を発表することができる。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点： 諸氏の論をそのまま受け止めるのではなく、自分なりに考察を加えることができる。

授業の計画（全体） 自己の研究分野に関する調査・研究を進め、発表する。

成績評価方法（総合） 発表内容、レポート、出席状況等、総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岸本 憲一良				

授業の概要 国語科教育の分野に関して、調査・研究したことについて発表し、討議する。

授業の一般目標 自己の研究分野に関して意欲的に研究を進め、考察を加えて発表するとともに、討議に参加することができる。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点： 自己の研究成果及び考察について発表し、研究の方向を探究することができる。

授業の計画（全体） 調査・研究結果、考察等について発表し、討議する。

成績評価方法（総合） 発表内容、討議への参加、出席状況等により、総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	吉村誠				

授業の概要 修士論文作成の基礎的な準備を行う。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 修士論文作成のための対象選択
- 第2回 項目 研究方法
- 第3回 項目 本文読解1
- 第4回 項目 本文読解2
- 第5回 項目 本文読解3
- 第6回 項目 本文読解4
- 第7回 項目 本文読解5
- 第8回 項目 本文読解6
- 第9回 項目 背景となる時代性の把握1
- 第10回 項目 背景となる時代性の把握2
- 第11回 項目 背景となる時代性の把握3
- 第12回 項目 背景となる時代性の把握4
- 第13回 項目 背景となる時代性の把握5
- 第14回 項目 背景となる時代性の把握6
- 第15回 項目 背景となる時代性の把握7

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	吉村誠				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	吉村誠				

授業の概要 修士論文執筆のための基礎的な研究を行う

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 対象周辺のテキストの基礎読解力 1
- 第 2 回 項目 対象周辺のテキストの基礎読解力 2
- 第 3 回 項目 対象周辺のテキストの基礎読解力 3
- 第 4 回 項目 対象周辺のテキストの基礎読解力 4
- 第 5 回 項目 対象周辺のテキストの基礎読解力 5
- 第 6 回 項目 対象周辺のテキストの基礎読解力 6
- 第 7 回 項目 対象周辺のテキストの基礎読解力 7
- 第 8 回 項目 対象周辺のテキストの基礎読解力 8
- 第 9 回 項目 研究方法の習得 1
- 第 10 回 項目 研究方法の習得 2
- 第 11 回 項目 研究方法の習得 3
- 第 12 回 項目 研究方法の習得 4
- 第 13 回 項目 研究方法の習得 5
- 第 14 回 項目 研究方法の習得 6
- 第 15 回 項目 研究方法の習得 7

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	吉村誠				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	村上 林造				

授業の概要 基礎的なテキストを読み発表する (1)～(15)

授業の一般目標 国語科教育の基礎的なテキストを読み、考えを深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：国語科教育の基礎的なテキストを読み、理解する。 思考・判断の観点：国語科教育の基礎的なテキストを読み、自分の考えと対比して考える。 関心・意欲の観点：国語科教育の基礎的なテキストを読み、実践上の課題を見つけようとする ことができる。 態度の観点：国語科教育の基礎的なテキストと読み、自分の研究に生かしていこうと することができる。

授業の計画(全体) 演習形式で行う。テキストを読み、発表する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーシ ョン
- 第 2 回 項目 テキストを讀 み、発表する
- 第 3 回 項目 テキストを讀 み、発表する
- 第 4 回 項目 テキストを讀 み、発表する
- 第 5 回 項目 テキストを讀 み、発表する
- 第 6 回 項目 テキストを讀 み、発表する
- 第 7 回 項目 テキストを讀 み、発表する
- 第 8 回 項目 テキストを讀 み、発表する
- 第 9 回 項目 テキストを讀 み、発表する
- 第 10 回 項目 テキストを讀 み、発表する
- 第 11 回 項目 テキストを讀 み、発表する
- 第 12 回 項目 テキストを讀 み、発表する
- 第 13 回 項目 テキストを讀 み、発表する
- 第 14 回 項目 テキストを讀 み、発表する
- 第 15 回 項目 テキストを讀 み、発表する

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	村上 林造				

授業の概要 修士論文の作成に直結する課題について研究し発表する (1)～(15)

授業の一般目標 国語科教育についての研究と実践について深く学ぶことができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：修士論文に関わる基礎的な知識を得ることができる。 思考・判断の観点：自身の研究課題について、深く考えることができる。 関心・意欲の観点：理論と実践の融合について、意欲的に取り組むことができる。 態度の観点：研究について、前向きに取り組むことができる。

授業の計画(全体) 修士論文に向けて、自身が取り組んでいる研究課題について発表し、討議する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 3 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 4 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 5 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 6 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 7 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 8 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 9 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 10 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 11 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 12 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 13 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 14 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 15 回 項目 研究課題について発表し、討議する

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	村上 林造				

授業の概要 自分の研究課題について、研究の深まりを発表する。

授業の一般目標 国語科教育についての研究と実践について深く学ぶことができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究の基礎的な知識を得ることができる。 思考・判断の観点： 自身の研究課題について、深く考えることができる。 関心・意欲の観点： 理論と実践の融合について、意欲的に取り組むことができる。 態度の観点： 研究について、前向きに取り組むことができる。

授業の計画（全体） 修士論文に向けて、自身が取り組んでいる研究課題について発表し討議する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第 3 回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第 4 回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第 5 回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第 6 回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第 7 回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第 8 回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第 9 回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第 10 回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第 11 回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第 12 回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第 13 回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第 14 回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第 15 回 項目 研究課題について発表し討議する

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	村上 林造				

授業の概要 修士論文の作成に直結する課題について研究し発表する (1)～(15)

授業の一般目標 国語科教育の実践的研究について深く学ぶことができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自身の研究課題に関わることについての知識を獲得することができる。 思考・判断の観点：自身の研究課題について、深く考えることができる。 関心・意欲の観点：実践的研究について、意欲的に取り組むことができる。 態度の観点：研究について、前向きに取り組むことができる。

授業の計画(全体) 修士論文に向けて、自身が取り組んでいる研究課題について、発表し討議する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第 3 回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第 4 回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第 5 回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第 6 回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第 7 回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第 8 回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第 9 回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第 10 回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第 11 回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第 12 回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第 13 回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第 14 回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第 15 回 項目 研究課題について、発表し討議する

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	中野伸彦				

授業の概要 修士論文の作成に向けて、研究テーマに関する論文を講読する。

授業の一般目標 修士論文の作成に向けて、研究テーマに関する論文を講読し、問題点を明らかにしながら、研究テーマについて、主体的に考える姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマに関する論文を講読して、その内容を理解できる。

思考・判断の観点： 研究テーマに関する論文を比較検討し、問題点を明らかにすることができる。

授業の計画（全体） 各自が研究テーマを決定したのち、関連する論文の講読を行う。各論文についての報告・討論を通して、これまでの研究成果・残された問題点について理解を深める。

成績評価方法（総合） 報告・討論の内容により、評価を行う。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：n.nakano@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部4階

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	中野伸彦				

授業の概要 修士論文へ向けた調査の進め方について検討する。

授業の一般目標 修士論文の作成に向けて、研究テーマについて考えていく基本的方法を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の諸問題について調査を行う基本的な方法が理解できる。

思考・判断の観点：研究テーマに関する調査の妥当な方法について考えることができる。

授業の計画（全体）各自の研究テーマに沿いながら、今後の調査の方法について考えていく。報告・討論を通して、あるべき調査方法・考えの進めていき方について考察を深める。

成績評価方法（総合）報告・討論の内容により、評価を行う。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：n.nakano@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部4階

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	中野伸彦				

授業の概要 修士論文の作成に向けて、研究テーマに関する調査を進めるとともに、その調査結果について検討を加える。

授業の一般目標 修士論文の作成に向けて、研究テーマに関する調査を行うとともに、その調査結果をもとに考察を加えることができる。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点： 研究テーマに関する調査結果をもとに主体的に考察を加えることができる。

授業の計画（全体） 各自の研究テーマについての調査報告、及び、それに対する討論を通して、研究テーマについての考察を深める。

成績評価方法（総合） 報告・討論の内容により、評価を行う。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：n.nakano@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	中野伸彦				

授業の概要 研究テーマに関するこれまでの調査結果をまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方について習得する。

授業の一般目標 調査結果をもとに、研究テーマについて主体的に考察を加えることができるとともに、その研究成果を適切に表現できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点： 調査結果をもとに、主体的に考察を加えることができる。 技能・表現の観点： 調査結果やそこから得られる見解を適切に表現できる。

授業の計画（全体） 報告・討論を重ねながら、調査結果を最終的にまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方についても習得する。

成績評価方法（総合） 報告・討論の内容により、評価を行う。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：n.nakano@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部4階

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	有元光彦				

授業の概要 現代日本語文法の総合的研究を行う。 / 検索キーワード 国語学、言語学、現代日本語文法

授業の一般目標 (1) 現代日本語文法の特定のトピックを高度に分析できる。(2) 分析プロセスを精密に構築できる。(3) 研究成果を効果的に公表することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 現代日本語文法のトピックを高度に分析できる。 思考・判断の観点： 1. 研究・分析プロセスを精密に構築できる。 技能・表現の観点： 1. 研究成果を効果的に公表することができる。

授業の計画(全体) 特定のトピックについて議論していく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 シラバスの説明・研究計画
- 第 2 回 項目 研究(1)
- 第 3 回 項目 研究(2)
- 第 4 回 項目 研究(3)
- 第 5 回 項目 研究(4)
- 第 6 回 項目 研究(5)
- 第 7 回 項目 研究(6)
- 第 8 回 項目 研究(7)
- 第 9 回 項目 研究(8)
- 第 10 回 項目 研究(9)
- 第 11 回 項目 研究(10)
- 第 12 回 項目 研究(11)
- 第 13 回 項目 研究(12)
- 第 14 回 項目 研究(13)
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 今後の研究計画

成績評価方法(総合) (1) 授業への参加度を重視する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：教科書はなし。 / 参考書：授業中に適宜指示する。

メッセージ 謙虚な研究姿勢を継続してほしい。

連絡先・オフィスアワー arimoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階 445 室

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	有元光彦				

授業の概要 本授業は、受講生の専門的研究を促進することを目的とする。具体的には、受講生の研究分野に関する発表を行い、それに対する議論を展開していく。 / 検索キーワード 国語学

授業の一般目標 (1) 国語学の高度な方法論を修得できる。(2) 自身の研究をプレゼンテーションし、議論する力を身につける。(3) 専門分野に強い関心を示す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 国語学(日本語学)における高度な方法論を体系的に修得できる。 思考・判断の観点： 1 . 研究成果を適切にプレゼンテーションし、議論を展開する力を身につける。 関心・意欲の観点： 1 . 研究分野に対し強くたゆまない関心を示す。

授業の計画(全体) 修士論文の研究テーマに関連する国内外の著作・論文等を参照し、研究計画を立案する。それに基づいて、研究を遂行し、その結果を適宜まとめ、発表していく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 シラバスの説明
- 第2回 項目 研究発表(1)
- 第3回 項目 研究発表(2)
- 第4回 項目 研究発表(3)
- 第5回 項目 研究発表(4)
- 第6回 項目 研究発表(5)
- 第7回 項目 研究発表(6)
- 第8回 項目 研究発表(7)
- 第9回 項目 研究発表(8)
- 第10回 項目 研究発表(9)
- 第11回 項目 研究発表(10)
- 第12回 項目 研究発表(11)
- 第13回 項目 研究発表(12)
- 第14回 項目 研究発表(13)
- 第15回 項目 まとめ 内容 問題点、課題、展望

成績評価方法(総合) (1) 研究成果及びそのプレゼンテーションを評価する。(2) 授業中の議論への参加度を評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：教科書はなし。 / 参考書：授業中に適宜指示する。

メッセージ 研究戦略を的確に設定すること。

連絡先・オフィスアワー arimoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部4階445室

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	有元光彦				

授業の概要 現代日本語文法の総合的研究を行う。 / 検索キーワード 国語学、言語学、現代日本語文法

授業の一般目標 (1) 現代日本語文法の特定のトピックを高度に分析できる。(2) 分析プロセスを精密に構築できる。(3) 研究成果を効果的に公表することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 現代日本語文法のトピックを高度に分析できる。 思考・判断の観点： 1. 研究・分析プロセスを精密に構築できる。 技能・表現の観点： 1. 研究成果を効果的に公表することができる。

授業の計画(全体) 特定のトピックについて議論していく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 シラバスの説明・研究計画
- 第 2 回 項目 研究(1)
- 第 3 回 項目 研究(2)
- 第 4 回 項目 研究(3)
- 第 5 回 項目 研究(4)
- 第 6 回 項目 研究(5)
- 第 7 回 項目 研究(6)
- 第 8 回 項目 研究(7)
- 第 9 回 項目 研究(8)
- 第 10 回 項目 研究(9)
- 第 11 回 項目 研究(10)
- 第 12 回 項目 研究(11)
- 第 13 回 項目 研究(12)
- 第 14 回 項目 研究(13)
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 今後の研究計画

成績評価方法(総合) (1) 授業への参加度を重視する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：教科書はなし。 / 参考書：授業中に適宜指示する。

メッセージ 謙虚な研究姿勢を継続してほしい。

連絡先・オフィスアワー arimoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階 445 室

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	有元光彦				

授業の概要 本授業は、前期開講の「課題研究」に引き続き、受講生の専門的研究を促進することを目的とする。具体的には、受講生の研究分野に関する発表を行い、それに対する議論を展開していく。最終的には、それらの成果を修士論文として結実させる。また、同時に口頭発表の方法等についても習得していく。 / 検索キーワード 国語学

授業の一般目標 (1) 国語学の高度な方法論を修得できる。(2) 自身の研究をプレゼンテーションし、議論する力を身につける。(3) 専門分野に強い関心を示す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 国語学(日本語学)における高度な方法論を体系的に修得できる。 思考・判断の観点： 1 . 研究成果を適切にプレゼンテーションし、議論を展開する力を身につける。 関心・意欲の観点： 1 . 研究分野に対し強くたゆまない関心を示す。

授業の計画(全体) 多角的な研究によって得られた成果をまとめ、最終的に修士論文として結実させる。また、口頭発表等のプレゼンテーションの方法について習得する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 シラバスの説明
- 第 2 回 項目 研究発表 (1)
- 第 3 回 項目 研究発表 (2)
- 第 4 回 項目 研究発表 (3)
- 第 5 回 項目 研究発表 (4)
- 第 6 回 項目 研究発表 (5)
- 第 7 回 項目 研究発表 (6)
- 第 8 回 項目 研究発表 (7)
- 第 9 回 項目 研究発表 (8)
- 第 10 回 項目 研究発表 (9)
- 第 11 回 項目 研究発表 (10)
- 第 12 回 項目 総括 (1)
- 第 13 回 項目 総括 (2)
- 第 14 回 項目 総括 (3)
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 問題、展望

成績評価方法(総合) (1) 研究成果及びそのプレゼンテーションを評価する。(2) 授業中の議論への参加度を評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：教科書はなし。 / 参考書：授業中に適宜指示する。

メッセージ 研究戦略を的確に設定すること。

連絡先・オフィスアワー arimoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階 445 室

社会科教育専修

開設科目	社会科教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	外山英昭				

授業の概要 生徒が主体的に学ぶ討論学習などを具体的な実践事例を取り上げ、社会科の教材選択の視点や授業方法の改善の課題などを検討する。 / 検索キーワード 討論授業 歴史認識 仮説 - 検証

授業の一般目標 具体的な題材・単元を取り上げ、生徒が主体的に学び、しかも豊かな社会認識が育つためにはどのような授業方法が求められるかをさぐる。

授業の計画(全体) 各自が、具体的な題材・単元を選び、生徒が主体的に学び、豊かな社会認識が育つ授業の工夫を探る。そのために、題材・単元の内容理解を踏まえて、実践事例を分析・整理する。その上で、生徒が主体的に学んだ契機・要因を探り、そこで発揮された教師の指導性を明らかにする。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 討論授業とは
- 第 3 回 項目 実践事例の紹介 1
- 第 4 回 項目 実践事例の検討 1
- 第 5 回 項目 実践事例の紹介 2
- 第 6 回 項目 実践事例の検討 2
- 第 7 回 項目 実践事例の紹介 3
- 第 8 回 項目 実践事例の検討 3
- 第 9 回 項目 資料の選択、討論の組織化について
- 第 10 回 項目 実践事例の紹介 4
- 第 11 回 項目 実践事例の検討 4
- 第 12 回 項目 実践事例の紹介 5
- 第 13 回 項目 実践事例の検討 5
- 第 14 回 項目 実践事例の紹介 6
- 第 15 回 項目 実践事例の検討

成績評価方法(総合) (1)宿題/授業外レポート = 20% ・加藤公明(「考える日本史授業」)実践の中から、単元を選び、分析・整理した上で、演習で発表する。 ・フロアの意見を踏まえ、加筆修正する。
(2)演習 = 80%

連絡先・オフィスアワー 外山英昭 : E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育, オフィスアワー 木 5 6

開設科目	社会科教育特論 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉川幸男				

授業の概要 古今内外のさまざまな社会科授業実践における内容構成と学習過程の理論と実際について、認識論、学習論、発達論などの観点から分析検討する。

授業の一般目標 1. 学校における社会科授業実践のみならず、さまざまなメディア媒体による社会認識形成的な営みに対し、社会認識形成の視点から分析検討できるようになる。2. 上記の分析検討成果に立って、新たな社会認識教育構想への視点を提言できる。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：分析対象となる資料に対し、社会認識形成の視点から分析考察できる。 関心・意欲の観点：社会認識にかかわる対象を自ら見出し、独自の分析観点を提案できる。 態度の観点：毎回の授業に出席している。 技能・表現の観点：論点を明確にした議論可能な発表資料を作成でき、発表できる。

授業の計画（全体）本授業は演習形式であり、内容は受講者の設定する問題によって変わってくる。以下に示すものは一つの事例である。1. 社会認識形成の営み 2. 社会認識形成の機能を負うもの（古今内外の社会科授業、新聞雑誌TV等メディア媒体、博物館資料館その他）3. 社会事象提示型の授業やメディア 4. 物語構成型の授業やメディア 5. 構造分析型の授業やメディア 6. 意味付与型の授業やメディア 7. 社会事象提示型の授業やメディアの分析検討 8. 物語構成型の授業やメディアの分析検討 9. 構造分析型の授業やメディアの分析検討 10. 意味付与型の授業やメディアの分析検討 11. 各分析対象の比較検討（1）12. 各分析対象の比較検討（2）13. メディアを生かした社会認識教育の構想（1）14. メディアを生かした社会認識教育の構想（2）15. 小論文作成

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教材研究と社会 科教科論の動向
- 第 2 回 項目 教材研究と社会 科内容構成論の 動向
- 第 3 回 項目 特定教材に関する先行実践の分 析と検討（1）
- 第 4 回 項目 特定教材に関する先行実践の分 析と検討（2）
- 第 5 回 項目 特定教材に関する資料収集と検 討（1）
- 第 6 回 項目 特定教材に関する資料収集と検 討（2）
- 第 7 回 項目 教科書・資料集 等既存教材に關 する研究動向
- 第 8 回 項目 特定教材に関する教科書・資料 集等既存教材の 検討
- 第 9 回 項目 内容構成論の検 討と内容構成試 案（1）
- 第 10 回 項目 内容構成論の検 討と内容構成試 案（2）
- 第 11 回 項目 社会科単元構成 論、学習過程論 の動向（1）
- 第 12 回 項目 社会科単元構成 論、学習過程論 の動向（2）
- 第 13 回 項目 研究教材による 単元構成の検討 （1）
- 第 14 回 項目 研究教材による 単元構成の検討 （2）
- 第 15 回 項目 最終単元構成案 の作成

成績評価方法（総合）出席点、発表時の資料、最終小論文を総合して評価する

教科書・参考書 教科書：特に定めない / 参考書：設定された問題に応じて随時紹介する

メッセージ 本授業は演習であり、積極的な発表と発言が求められる。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 472 研究室，Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・該当学生に連絡

開設科目	社会科教育特論演習	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	外山英昭・吉川幸男				

授業の概要 子ども主体の学びを創造する立場からの社会科教育論を歴史的・理論的に考察するとともに、社会科授業構成、指導方法の実際について検討する / 検索キーワード 社会科教育 社会認識 授業づくり

授業の一般目標 すぐれた社会科実践者の実践を系統的に取り上げ、その実践の背後にある社会科観、子ども観を精査する。個別事例の分析検討を通して、今日求められる社会科教育のあり方を探る。

授業の計画(全体) 受講者の関心に沿って、実践者を取り上げ、その代表的な実践を検討しながら、その実践を定位づける。演習形式。

連絡先・オフィスアワー 外山英昭 : E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育, オフィスアワー 木5 6

開設科目	日本史学特論	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森下徹				

授業の概要 歴史学の方法に関する基本的な文献を輪読する。

開設科目	西洋史学特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	岩崎好成				

授業の概要 ファシズム(全体主義)をどう捉え、どう教えるかを念頭に、戦間期ドイツの歩みを政治史・軍事史・社会史的側面から検討し、ナチズムの思想・運動・体制の特質を論ずる。基本的には、文献講読方式で進める。但し、受講生の要望によるテーマ修正、変更の余地あり。/検索キーワード ファシズム、ナチス、自由民主主義、歴史研究、歴史教育

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：講読文献の内容を正確に理解できる 思考・判断の観点：講読文献の内容に関し、自分なりに批評することができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ナチズム思想論
- 第2回 項目 同
- 第3回 項目 ナチズム運動論
- 第4回 項目 同
- 第5回 項目 ワイマル共和国 期の政治思想・運動
- 第6回 項目 同
- 第7回 項目 ナチズムの「魅力」
- 第8回 項目 同
- 第9回 項目 ナチズム体制論
- 第10回 項目 同
- 第11回 項目 ファシズム(全体主義)と自由民主主義
- 第12回 項目 同
- 第13回 項目 教科書分析・批判
- 第14回 項目 同
- 第15回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書：受講生と相談の上で決定する。

メッセージ やりたいテーマ、読みたい文献を積極的に提起してほしい。

開設科目	歴史学特論演習	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	岩崎好成・森下徹				

授業の概要 「日本史学特論」「西洋史学特論」で身に付けた知見を踏まえ、資料、論文を含む様々な史料に則して、報告形式で授業を進める。史料選択に際しては、受講生の研究テーマに配慮する。

授業の一般目標 選択テーマに関する歴史認識を深め、研究方法、研究視角を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究対象に関し、これまでの研究成果を整理して提示することができる。資料を正確に読解できる。 思考・判断の観点： これまでの研究成果を分析し評価できる。資料に基づき、自らの解釈を提示できる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 テーマ選択，史料選択
- 第 3 回 項目 報告準備
- 第 4 回 項目 報告と討議
- 第 5 回 項目 同
- 第 6 回 項目 同
- 第 7 回 項目 同
- 第 8 回 項目 同
- 第 9 回 項目 同
- 第 10 回 項目 同
- 第 11 回 項目 同
- 第 12 回 項目 同
- 第 13 回 項目 同
- 第 14 回 項目 総括
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 毎回の報告，討論への取組み姿勢と内容を総合評価する。

開設科目	自然地理学特論	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	貞方昇				

授業の概要 修士課程レベルの学生にとっての、自然地理学的な見方・考え方を学ぶ。とりわけ地域の自然環境が、そこに住む人々にとってどういう意義を持つものか考えたい。 / 検索キーワード 自然環境、土地環境、風土、文化、生活

授業の一般目標 修士課程レベルの学生にとっての、自然地理学的な見方・考え方を学ぶ。

授業の計画（全体） 修士課程レベルの学生にとっての、自然地理学的な見方・考え方を学ぶ。なお、受講学生の関心領域を考慮に入れて、授業内容を構成する。

教科書・参考書 教科書：受講学生の関心を考慮に入れて、必要な教科書を選択する。

開設科目	人文地理学特論	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	荒木一視				

授業の概要 地理学や地理教育に関わる専門的知識や理論，あるいは技能について論じる。具体的な 題材については，受講者の専門的方向性を考慮する。 / 検索キーワード 人文地理学

授業の一般目標 学部での授業を踏まえてより高度な人文地理学の理論，及び教育現場での実践の上での検討を行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：地理学や地理教育に関わる専門的知識や理論，あるいは技能の理解と習得を 目指す。 思考・判断の観点：授業を通じて，人文地理学及び地理教育に対する考察を深める。

授業の計画（全体） 大学院の授業でもあり，受講者の修士論文のテーマに即して，課題論文や資料を与える。

教科書・参考書 参考書：小学生に教える「地理」，荒木一視・川田力・西岡尚也，ナカニシヤ出版，2006 年

連絡先・オフィスアワー arakih@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 4 階

開設科目	地誌学特論	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Mikhova, Dimitrina				

授業の概要 This course is rather flexible. Depends very much on the students' research interests. Some of the students get individual program of education, negotiated with the teacher. Basically it aims at exploring the world regions, their cultures and the features

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. How do we do research in Geography and what is the contribution of Geography in Social Education? International perspective.
- 第 2 回 項目 2. Kinds of regions in the world
- 第 3 回 項目 3. Regions, cultures and educational systems.
- 第 4 回 項目 4. The Greek roots of European and American (Western) culture, with perspective to education.
- 第 5 回 項目 5. How does a western child feel in a Japanese elementary school? - Talk and discussion.
- 第 6 回 項目 6. Differences in Japanese Junior High and High schools and European/American schools.
- 第 7 回 項目 7. How does a western teacher feel in a Japanese school? - Talk and discussion
- 第 8 回 項目 8. Educational systems in Europe: UK, France.
- 第 9 回 項目 9. Educational systems in Europe: France, Germany, and Italy.
- 第 10 回 項目 10. Educational systems in Europe: Eastern Europe and Russia.
- 第 11 回 項目 11. Diversity in educational approaches - general view.
- 第 12 回 項目 12. Use of Geographic Information Systems as an educational approach in Social studies.
- 第 13 回 項目 13. Globalization and education: home schooling, distance schooling through Internet, teamwork and individuality. Cultural perspectives.
- 第 14 回 項目 14. Globalization and education: the future. Discussion
- 第 15 回 項目 15. The teacher of the 21st century - international perspective. Discussion. 15. The teacher of the 21st century - international perspective. Discussion.

開設科目	地理学特論演習	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	貞方昇・荒木一視・J. ミコバ				

授業の概要 地理学で修士論文を書く学生に対し、論文作成に向けた具体的な指導を行う。

授業の一般目標 地理学で修士論文を書く学生に対し、論文作成に直接繋がる各種の具体的な指導を行う。

メッセージ 修士論文内容の準備に直接関わる内容を扱います。

開設科目	社会学特論	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	山本薫子				

授業の概要 近年の社会学における中心的な議論について文献講読を通して学ぶ。指定した文献について分担者はレジュメを用意し、ゼミ内での発表を行なう。

授業の一般目標 社会学の主要な概念・手法を学んだうえで、それらを用いながら現代社会に見られるさまざまな事象を読み解き分析する力を養う。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 476

開設科目	憲法学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松原 幸恵				

授業の概要 憲法学の基本的文献の購読を行う。

授業の一般目標 憲法問題についての知識を深める。

授業の計画(全体) 毎回、学生が報告を担当し、それに基づいて議論を行う。

成績評価方法(総合) 報告内容の出来及び出席状況によって評価する。

教科書・参考書 教科書：第1回目の授業時に相談して決める。 / 参考書：授業時に適宜紹介する。

開設科目	経済学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	来島浩				

授業の概要 日本資本主義の生成・発展・展開過程を資本蓄積と労働市場の観点より体系的に学ぶ。前半では資本主義経済の基礎理論を学び、後半では日本資本主義の検討を行なう。

授業の一般目標 日本資本主義の生成・発展・展開過程(現在まで)を、資本蓄積と労働市場の観点より検討する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 日本資本主義の生成・発展・展開について説明ができる。 思考・判断の観点: なぜ日本資本主義が後発であったにもかかわらず短期間に発展を遂げることができたか、またその後どのように展開し、現在に至ったかについて自分の意見を述べる事ができる。

授業の計画(全体) 毎回下記のテキストの報告を行い、かつ報告についての議論を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 経済の歴史と発展段階について
- 第2回 項目 資本主義の発展段階 I(原始蓄積段階)
- 第3回 項目 資本主義の発展段階 II(産業資本段階)
- 第4回 項目 資本主義の発展段階 III(独占段階)
- 第5回 項目 資本主義の生産過程
- 第6回 項目 資本の蓄積と再生産
- 第7回 項目 資本主義生産の総過程
- 第8回 項目 日本資本主義の形成過程
- 第9回 項目 日本資本主義の発展過程
- 第10回 項目 戦後日本資本主義の復興過程
- 第11回 項目 日本資本主義の高度成長過程
- 第12回 項目 日本資本主義の低成長過程
- 第13回 項目 日本資本主義のバブル過程
- 第14回 項目 日本資本主義の構造的不況過程
- 第15回 項目 日本資本主義の今後

成績評価方法(総合) 毎回の報告・議論と自分の関心のある日本資本主義の問題についてのレポートを授業の最終回に提出する。

教科書・参考書 教科書: 格差社会—何が問題なのか, 橘木俊詔, 岩波書店, 2006年

開設科目	社会科学特論演習	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	山本薫子, 来島浩, 松原				

授業の概要 近年の社会科学における中心的な議論について文献講読を通して学ぶ。指定した文献について分担者はレジュメを用意し、ゼミ内での発表を行なう。

授業の一般目標 現代社会が抱えるさまざまな問題、矛盾を読み解き、解決策を探るための実証的分析手法の習得を目指す。

授業の計画(全体) 履修者と相談のうえ、テーマおよび講読文献を決定し、毎回の発表を通じて議論を行なう。

開設科目	哲学倫理学特論	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岩本光悦				

授業の概要 現代ドイツ哲学における世界を解明する。 / 検索キーワード 世界と時間

授業の一般目標 フッサ - ルとハイデガ - における世界の概念を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 世界とは何であることを説明できる。 2. 認識と行為の根源を考え直してみる。 思考・判断の観点： 1. 授業で学んだことを取り纏め、自分の立場から批判的に検討できる。 関心・意欲の観点： 1. 人間とは何であることを考え直すことができる。 態度の観点： 1. 学生生活の中で生きる意味を考えることができる。

授業の計画 (全体) 現象学 (フッサ - ル、ハイデガ - 、ヘルト、アグィ - レ) における「生世界」と「生ける現在」の関係を明らかにする。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 フッサ - ルの生世界 1
- 第 2 回 項目 フッサ - ルの生世界 2
- 第 3 回 項目 ハイデガ - の世界 1
- 第 4 回 項目 ハイデガ - の世界 2
- 第 5 回 項目 ヘルトの世界解釈 1
- 第 6 回 項目 ヘルトの世界解釈 2
- 第 7 回 項目 アグィ - レの世界解釈 1
- 第 8 回 項目 アグィ - レの世界解釈 2
- 第 9 回 項目 世界と生ける現在 1
- 第 10 回 項目 世界と生ける現在 2
- 第 11 回 項目 カントの時間論
- 第 12 回 項目 ヘ - ゲルの時間論
- 第 13 回 項目 世界と時間 1
- 第 14 回 項目 世界と時間 2
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 (総合) 授業中の議論と最後の試験で評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを使用する。 / 参考書：フッサ - ル現象学, A.F. アグィ - レ, 法政大学出版局, 1987 年 ; プリントを配付する。

メッセージ 授業には必ず出席すること。

開設科目	宗教学特論	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岡村康夫				

授業の概要 「宗教とは何か」を宗教学的立場から明らかにする。 / 検索キーワード 宗教、仏教、キリスト教

授業の一般目標 具体的な宗教的文献を読み解きながら、「宗教とは何か」を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 仏教やキリスト教の基本的知識を獲得する。 思考・判断の観点： 「宗教とは何か」を考える。 関心・意欲の観点： 宗教に対する関心を喚起する。 態度の観点： 人生に対する真摯な態度を培う。 技能・表現の観点： 英語の読解力を養う。

授業の計画(全体) イスラームや仏教、キリスト教の文献を読み進めながら、「宗教とは何か」を考究する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第1回 項目 ガイダンス

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回 項目 総まとめ

成績評価方法(総合) 毎回のレポート報告によって評価する。

メッセージ 原典読解を中心とした授業を行う。

開設科目	哲学倫理学特論演習	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	岩本光悦・岡村康夫				

授業の概要 フッサルの『危機書』をドイツ語で読解する。 / 検索キーワード 現象学的還元

授業の一般目標 ドイツにおける現象学の代表作を読解することを通じ、現代哲学の動向の一端を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 現象学とは何であるかを説明できる。 2. 現代はどのような時代であるかを説明できる。 思考・判断の観点： 1. 授業で学んだことを取り纏め、自分なりに批判的に述べるができる。 関心・意欲の観点： 1. 哲学にかんする関心を深め、生き方に関する反省を促すことができる。 態度の観点： 1. 学生生活において人生観や世界観を考え直して試みることができる。

授業の計画(全体) フッサルの『危機書』を通して現代哲学の問題を明らかにする。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第1回 項目 演習

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

成績評価方法(総合) 授業中の議論と最後の試験とで評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを使用する。 / 参考書：ヨ - ロッパ諸学の危機と超越論的現象学, E. フッサル, 中公文庫, 1995年; プリントを配付する。

メッセージ ドイツ語でテキストを読解することに慣れよう。

開設科目	社会科教育実践研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	外山英昭・吉川幸男				

授業の概要 小・中学校の社会科教材を取り上げ、最近の専門諸科学の視点を生かした内容構成と教材開発を行う。その上で、各自独自の授業構想を立て、最終段階では、付属学校または公立学校において実際に授業を行い、社会科教育について実践的に研究する / 検索キーワード 教材開発 授業構成 実践提案

授業の一般目標 各自が、修士論文作成に向けて研究している視点を生かして、ユニークな単元を構成したり、授業を構成する。そのプランを集団で深め、実際に学校で授業を行うことで、その可能性を検討する。

授業の計画(全体) 各自が、修士論文作成に向けてどのようなテーマで何を研究しているか交流する。その研究の視点を生かして、各自、実際の授業に向けた実践的な提案を準備する。出された提案をさらに具体的な研究授業などにつなげられるよう、検討する。最終的には、付属学校か派遣学校で授業を行う。

連絡先・オフィスアワー 外山英昭 : E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育, オフィスアワー 木5 6

開設科目	社会科教育支援実践研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	来島浩・岡村康夫・Jミコバ				

授業の概要 研究テーマを深化させるための実践的な研究指導をする。

授業の一般目標 研究テーマを完成させる。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	岩本				

授業の概要 卒論を具体的に指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	岩本				

授業の概要 卒論のテ-マを決めることが出来るように指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	岩本				

授業の概要 決めたテーマの下に卒論を実際に指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	岩本				

授業の概要 卒論のテ-マを絞り込むように指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	外山				

授業の概要 修士論文作成指導 / 検索キーワード 課題の設定 文献の収集・選択 独自性

授業の一般目標 本人の研究計画に基づき、修士論文作成に向け、関連文献の購読と演習を通して、研究テーマを深める

授業の計画(全体) 研究計画の再確認の上、関連文献を整理する。その上で、研究テーマを明らかにする観点から、逐次取り上げ、分析・検討する。論文骨子をまとめ、中間報告したあと、論文を作成する。

連絡先・オフィスアワー 外山英昭 : E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科学教育, オフィスアワー 木56

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	外山				

授業の概要 修士論文作成指導 / 検索キーワード 課題の設定 文献の収集・選択 独自性

授業の一般目標 本人の研究計画に基づき、修士論文作成に向け、関連文献の購読と演習を通して、研究テーマを限定する。

授業の計画(全体) 研究計画の再確認の上、関連文献を整理する。その上で、研究テーマを明らかにする観点から、逐次取り上げ、分析・検討する。

成績評価方法(総合) 演習 = 100%

連絡先・オフィスアワー 外山英昭 : E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科学教育, オフィスアワー 木56

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	外山				

授業の概要 修士論文指導 / 検索キーワード 課題の設定 文献の収集・選択 独自性

授業の一般目標 本人の研究計画に基づき、修士論文作成に向け、関連文献の購読と演習を通して、研究テーマを限定する。章立ておよびキーワードの確定などを通して、論文の基本構想を確定する。

授業の計画(全体) 研究計画の再確認の上、関連文献を整理する。その上で、研究テーマを明らかにする観点から、逐次取り上げ、分析・検討する。

連絡先・オフィスアワー 外山英昭 : E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科学教育, オフィスアワー 木56

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	外山				

授業の概要 修士論文指導 / 検索キーワード 課題の設定 文献の収集・選択 独自性

授業の一般目標 本人の研究計画に基づき、修士論文作成に向け、関連文献の購読と演習を通して、研究テーマを限定する。

授業の計画(全体) 研究計画の再確認の上、関連文献を整理する。その上で、研究テーマを明らかにする観点から、逐次取り上げ、分析・検討する。

連絡先・オフィスアワー 外山英昭 : E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科学教育, オフィスアワー 木56

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	来島				

授業の概要 研究テーマについての指導を行う。

授業の一般目標 修士論文が書けるようにする。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	来島				

授業の概要 研究テーマについての指導をする。

授業の一般目標 修士論文が書けるようにする。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	来島				

授業の概要 研究テーマについての指導を行う。

授業の一般目標 修士論文が書けるようにする。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	来島				

授業の概要 研究テーマについての指導をする。

授業の一般目標 修士論文が書けるようにする。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	岡村				

授業の概要 修士論文作成のための指導を行う。

授業の一般目標 修士論文作成へ向け、基本テキストの読解・指導を行う。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 ガイダンス 内容 授業の進め方、テキストなどを提示する。

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回 項目 総まとめ

成績評価方法（総合） 毎回のレポート、下調べおよび最終レポートによって総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	岡村				

授業の概要 修士論文作成のための指導をする。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	岡村				

授業の概要 修士論文作成のための指導を行う。

授業の一般目標 毎回のレポート発表によって修士論文作成へ向けての指導をする。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 先行研究調査
- 第2回 項目 先行研究調査
- 第3回 項目 先行研究調査
- 第4回 項目 論文作成指導
- 第5回 項目 論文作成のための発表
- 第6回 項目 論文作成のための発表
- 第7回 項目 論文作成のための発表
- 第8回 項目 論文作成のための発表
- 第9回 項目 論文作成
- 第10回 項目 論文作成
- 第11回 項目 論文作成
- 第12回 項目 論文作成
- 第13回 項目 論文作成
- 第14回 項目 論文作成
- 第15回 項目 論文完成へ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	岡村				

授業の概要 修士論文作成のための指導を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	山本				

授業の概要 社会学の主要な概念・手法を学び、各人の選んだテーマにしたがって修士論文の作成に取り組む。

授業の一般目標 社会学の主要な概念・手法を学んだうえで、それらを用いながら現代社会に見られるさまざまな事象を読み解き分析する力を養う。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 476

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	山本				

授業の概要 社会学の主要な概念・手法を学び、各人の選んだテーマにしたがって修士論文の制作を念頭においた研究を行なう。

授業の一般目標 社会学の主要な概念・手法を学んだうえで、それらを用いながら現代社会に見られるさまざまな事象を読み解き分析する力を養う。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 476

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	山本				

授業の概要 社会学の主要な概念・手法を学び、各人の選んだテーマにしたがって修士論文の制作を念頭においた研究を行なう。

授業の一般目標 社会学の主要な概念・手法を学んだうえで、それらを用いながら現代社会に見られるさまざまな事象を読み解き分析する力を養う。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 476

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	山本				

授業の概要 社会学の主要な概念・手法を学び、各人の選んだテーマにしたがって修士論文の制作を念頭においた研究を行なう。

授業の一般目標 社会学の主要な概念・手法を学んだうえで、それらを用いながら現代社会に見られるさまざまな事象を読みとき分析する力を習得する。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 476

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	荒木				

授業の概要 調査で得られた結果をまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等についても習得する。

授業の一般目標 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現する方法論が理解できる。 思考・判断の観点： 研究結果から得られる見解を適切に考えることができる。

関心・意欲の観点： 研究をまとめることについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる。また、地図を含めた図表を有効に使う能力を体得する。

授業の計画(全体) 調査で得られた結果を最終的にまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等について習得する

成績評価方法(総合) 得られた研究成果が修士論文として十分な内容を持つか評価した上で、論文としての纏め方、中間発表会や最終審査会でのプレゼンテーションなどを含めて、総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	荒木				

授業の概要 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備調査の計画を立て、それに基づいて予備調査を行い、結果について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、実験や調査の計画立案がある程度できる。研究テーマに関連する実験や調査の基本的な方法論が理解でき、それを適切に実践できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマに関連する調査の基本的な方法論が理解できる。 思考・判断の観点： 研究テーマに関連する調査の妥当な方法論について考えることができる。 関心・意欲の観点： 研究テーマに関する調査の計画立案について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究テーマに関連した調査を適切に実践できる基本的な能力を身につける。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備調査の計画立案を行い、それに基づいて調査を行い、その結果を適宜まとめていく。計画立案の仕方、調査の基本的な方法、得られた結果やその整理の仕方について、討論を交えながら、適宜検討し、本調査の研究計画立案に向けての準備をする。また、調査の基本的な方法について習得する。

成績評価方法（総合） 立案した研究計画を科学的に理解し、わかりやすく説明することができるかを主要な評価基準とする。また、文献や調査方法・調査機器等に関する知識・理解とともに、文献調査や野外調査方法の検討など研究計画の立案に主体的に取り組もうとしたか、速やかに実質的な研究を開始することができたかも重視する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	荒木				

授業の概要 研究テーマに関する備調査の結果を踏まえて、本調査の研究計画を立案し、それに基づいて本調査を実施し、得られた結果の整理を行う。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文や予備調査の結果を踏まえて、研究テーマに関する調査の計画立案ができる。研究テーマに関する調査を適切に実践できる能力を身につける。また、得られた結果の適切な整理の仕方を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマに関連する調査の基本的な方法論が理解できる。思考・判断の観点：研究テーマに関する調査の妥当な方法論や得られた結果の適切な整理の仕方について考えることができる。関心・意欲の観点：研究計画の遂行について、主体的に考えることができる。技能・表現の観点：研究テーマに関連した調査を適切に実践できる基本的な能力を身につける。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関する予備調査の結果を踏まえて、本調査の研究計画を立案し、それに基づいて本調査を実施する。そして、得られた結果の整理を行う。研究計画の立案、調査方法や結果の整理の方法については、適宜討論を交えながら、検討し、研究計画を遂行し、結果をまとめていく。

成績評価方法（総合） データの取得状況をはじめとする研究成果の進捗状況およびそのために費やした努力や創意工夫などを、総合的に評価する。また、結果を鵜呑みにしたり固執することなく、科学的・客観的に捉えようとする姿勢をとることができるかも重要な評価項目とする。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	荒木				

授業の概要 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する論文を講読し、比較検討する際の基本的技法を理解する。研究テーマの位置づけや方法論について、主体的に考える姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。 思考・判断の観点：内外の論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点：研究テーマの位置づけについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の

観点：論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

授業の計画（全体） 修士論文のテーマに応じて個別に対応する。

成績評価方法（総合） 研究テーマに対する知識・理解や思考・判断力に加え、出席、研究への熱意や努力など、態度や意欲の観点も重視して、総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	森下				

授業の概要 修士論文作成のため、基本文献および史料群の調査を行い、テーマを決定する。

授業の一般目標 文献調査を通して、問題点の把握、分析方法、結果の検討と考察の仕方等、研究を進める上で必要となる力の基礎を養う。研究の実現可能性を判断でき、適切なテーマが設定できるようになる。

授業の計画(全体) 興味関心が社会科教育の分野の中のどのあたりにあるのかを話し合いながら、研究テーマの候補をあげ、それらに関連する文献調査を行う。毎週行うセミナーにおいて、輪番で調査した文献を発表し、質疑応答を行う。研究テーマについて理解が深まった段階で、テーマの絞り込みを行い、最終的にテーマを決定する。テーマに即して文献・史料を選定、購読する。

成績評価方法(総合) 適切なテーマを選定するためには、教員とのコミュニケーションを取りながら、自分の興味関心がどのようなところにあるのかを、自分自身でよく考えることが重要である。従って、研究テーマに対する知識・理解や思考・判断力に加え、出席、研究への熱意や努力など、態度や意欲の観点も重視して、総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	森下				

授業の概要 必要な追加調査を行なうとともにデータの解析・分析を進め、修士論文を作成する。修士論文審査会で発表を行なう。

授業の一般目標 研究内容を正しく理解し、適切に論文として纏めることができる。また、その内容をわかりやすく説明・発表できる。

授業の計画(全体) 本期の前半は、修士論文の作成に向けて、追加調査を行なうとともにデータの解析・分析を進める。後半は、論文の作成に取りかかるとともに、12月の中間発表会で研究成果を報告する。研究内容および進捗状況から、研究成果を修士論文としてまとめることができると認められたものは、1月中旬に設定される期限までに修士論文を提出し、2月に審査会で最終発表を行う。

成績評価方法(総合) 得られた研究成果が修士論文として十分な内容を持つか評価した上で、論文としての纏め方、中間発表会や最終審査会でのプレゼンテーションなどを含めて、総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	森下				

授業の概要 研究方法等について具体的な研究計画を立案し、研究を開始する。

授業の一般目標 絞り込んだ研究テーマを遂行する上での問題点を理解し、主体的に必要な史料群・先行研究を調べて準備を整え、具体的に研究を開始することができる。

授業の計画(全体) 具体的な研究計画を立案する上で必要となる文献の追加調査を行う。史料群の所在を確認し、実行可能な研究計画を立案する。立案した計画に基づき、所在目録を入手するなど環境を整え、実質的な研究を開始する。

成績評価方法(総合) 立案した研究計画を科学的に理解し、わかりやすく説明することができるかを主要な評価基準とする。また、文献や史料群に関する知識・理解とともに、文献調査や分析方法の検討など研究計画の立案に主体的に取り組もうとしたか、速やかに実質的な研究を開始することができたかも重視する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	森下				

授業の概要 研究の主体となるデータの取得・解析を押し進める。

授業の一般目標 データの取得や解析等を自ら行い、整理することができる。データの整合性や合理性を科学的・客観的に判断することができ、かつ、研究計画に反映することができる。

授業の計画(全体) 基本的には、データの取得・解析を押し進めるが、当初の研究計画とこれまでの実施状況を検討し、必要ならば研究計画を再構築する。いずれにしても、本期の後半には主要なデータが出揃うことを目標とする。

成績評価方法(総合) 立案した研究計画を科学的に理解し、わかりやすく説明することができるかを主要な評価基準とする。また、文献や史料群に関する知識・理解とともに、文献調査や分析方法の検討など研究計画の立案に主体的に取り組もうとしたか、速やかに実質的な研究を開始することができたかも重視する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	ミホバ				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点： 各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べることができる。 態度の観点： 様々な問題について、主体的に考えることができる。

授業の計画(全体) 各自が研究テーマを決定したのち、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。

成績評価方法(総合) 総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	ミホバ				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点： 各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べるができる。 態度の観点： 様々な問題について、主体的に考えることができる。

授業の計画(全体) 各自が研究テーマを決定したのち、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。

成績評価方法(総合) 総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	ミホバ				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点： 各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べるができる。 態度の観点： 様々な問題について、主体的に考えることができる。

授業の計画（全体） 各自が研究テーマを決定したのち、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。

成績評価方法（総合） 総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	ミホバ				

授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点： 各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べるができる。 態度の観点： 様々な問題について、主体的に考えることができる。

授業の計画（全体） 各自が研究テーマを決定したのち、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。

成績評価方法（総合） 総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	貞方				

授業の概要 補充調査を終えて、修士論文の作成を完了するとともに、その成果を公の場で分かりやすく説明できる。

授業の一般目標 補充調査を終えて、修士論文の文章や図表を過不足のないものに整理するとともに、その要約を図表と共に、聞き手に分かりやすく説明できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 図表と共に文章化した内容が、それまでの文献講読や調査活動の内容を十分に踏まえたものになっている。 思考・判断の観点： 修士論文の総体的な内容に、新たな独創的知見が含まれている。 技能・表現の観点： 修士論文が学術論文としての体裁を整えている。また聞き手に分かりやすい形で、要約できる。

授業の計画（全体） 補充調査を実施したうえで、修士論文の文章や図表を過不足のない適切なものにするるとともに、その要約を図表を含めて、聞き手に分かりやすく説明できる。

成績評価方法（総合） 修士論文作成途次の全研究活動を評価すると共に、公の場で聞き手に分かりやすい発表ができたかどうかを評価する。

連絡先・オフィスアワー sadakata@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	貞方				

授業の概要 研究テーマを確定し、修士論文に向けた調査計画を立て、予備的な調査を行い、その妥当性を検討する。

授業の一般目標 自分の研究テーマを確定し、内外の文献等に見られる調査方法を理解、応用して、調査計画を立てる。又、予備調査により、調査計画の妥当性を検証する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 関連分野の調査方法を十分に検討し、理解して、自分の調査計画を立てている。 思考・判断の観点： 研究目的を達成するための調査計画が、関連分野の調査方法と照らし合わせて、適切なものか否かを自ら考え、判断できている。 技能・表現の観点： 適用しようとする調査方法が、自分の技術や、おかれた研究環境の中で、適切なものであり、かつ他の人が理解しやすい結果を出せる調査となっている。

授業の計画（全体） 適切、具体的な調査計画を立て、その一部について予備的な調査を実施して、妥当性を検証する。

成績評価方法（総合） 実行可能な、妥当性のある調査計画となっているかを評価する。

連絡先・オフィスアワー sadakata@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	貞方				

授業の概要 修士論文作成に向け、綿密な調査計画のもとに、本調査を実施し、その結果をまとめる。

授業の一般目標 すでに作成された綿密な調査計画のもとに、着実に調査を実施し、その成果を文章化する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマの妥当性についてよく理解している。また関連研究の内容をよく理解した上で、調査活動を行っている。 思考・判断の観点： 調査計画に基づいて実行しつつある調査が適切であるかどうかを判断しながら、不備な点を修正している。 技能・表現の観点： 実行しつつある調査が、自分の技能として十分に咀嚼されている。自分の行っている調査を分かりやすく、聞き手に説明できる。

授業の計画（全体） すでに作成された綿密な調査計画のもとに、着実に調査を実施し、その成果、図表とともに文章化する。

成績評価方法（総合） 調査計画に基づいて、着実に調査、作文化が進みつつあるか、また調査計画の不備な点を修正して、所期の研究目的の解明に近づいているか。

連絡先・オフィスアワー sadakata@yamaguchi-u.ac.jp

備考 隔年開講

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	貞方				

授業の概要 修士論文作成に関係する内外の論文を講読し、幾つかの研究テーマを設定する。

授業の一般目標 文献調査を通して幾つかの研究テーマと問題点を抽出し、それらの問題を解決する具体的な手順を組み立てることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 修士論文作成に関係する内外の論文を講読し、問題点を抽出して、幾つかの研究テーマを設定する。 思考・判断の観点： 自分の設定した研究テーマが、妥当なものであることを関係文献との比較において検証できる思考・判断力を養う。 技能・表現の観点： 関係論文を自分の研究テーマに関係づけて、分かりやすく他の人々に紹介できる技術、話法を錬磨する。

授業の計画（全体） 自分の研究関心に即した内外の論文を読みこなし、修士論文と直接関係する幾つかの研究テーマならびに問題点を抽出し、それらの問題を解決する具体的な手順を組み立てることができるようにする。

成績評価方法（総合） 適切な研究テーマを抽出し、修士論文に独創性を持たせる問題点の把握ができたかどうかを、評価する。

連絡先・オフィスアワー sadakata@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	岩崎				

授業の概要 史料分析を続行しつつ、析出した論点を吟味し、総合化と論文化を図る。

授業の一般目標 研究を論文の形にまとめることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：史料の内容を理解できる。 思考・判断の観点：史料の内容を批判的に分析・総合できる。 技能・表現の観点：研究内容を論文化できる。

授業の計画（全体）史料の読解・分析、主要論点の吟味を繰り返しながら、総合化を図っていく。

成績評価方法（総合）論文化とそれに向けての努力の程度を評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	岩崎				

授業の概要 史料の分析結果を逐次報告・検討する。

授業の一般目標 中心史料を読破し、主要論点を抽出できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：史料の内容を理解できる。 思考・判断の観点：史料の内容を批判的に分析できる。

授業の計画（全体）必要とあらば史料をともに読みながら、内容をまとめ、また分析していく。

成績評価方法（総合）史料の読解力と分析・整理力、および取組み努力の程度を評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	岩崎				

授業の概要 重要な先行研究文献の内容を検討する。必要な史料リストを作成する。

授業の一般目標 自らの研究テーマの妥当性を再確認しつつ、必要史料の入手を含めた研究の土台づくりができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：講読文献の内容を理解できる。 思考・判断の観点：講読文献の内容を批判的に検討できる。

授業の計画（全体） 重要文献の精緻な読み込みを行う。並行して、必要史料リストを作成し、所在調査・入手に励む。

成績評価方法（総合） 文献理解度と作成リストの充実度を評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	岩崎				

授業の概要 受講生の研究テーマに関わる研究史整理を行う。

授業の一般目標 自らの研究テーマを設定・確認し、論文作成のおおよその見通しをもつことができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：講読文献の内容を理解できる。 思考・判断の観点：自らのテーマを研究史上に位置づけることができる。

授業の計画（全体） 研究テーマに関連する内外の諸文献を読破していく。

成績評価方法（総合） 文献の内容理解の程度と、研究史整理にむけての努力の程度を評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	吉川				

授業の概要 修士論文の作成に向けて、研究成果のとりまとめの段階における指導を行う。また、最終段階で修士論文に対する口頭試問を行う。

授業の一般目標 研究成果を社会科教育研究として適切な理論構成によって論文にまとめることができ、かつ、その内容をわかりやすく説明・発表できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究内容に関して、社会科教育研究の到達段階として十分な知見に達し、自らの研究の意義と課題を説明できる。 思考・判断の観点： 研究の内容を正しく理解し、その成果や結論の価値、残された課題等について社会科教育研究の視点から間主観的に思考し判断できる。

関心・意欲の観点： 研究を自省的に総括し、現到達段階において自らの力で論文を完成させようと努力することができる。 態度の観点： 社会科教育学の研究において、積極性と謙虚さをバランスよく保ち、研究者・実践者集団の中にあって対話的關係によるスタンスを取ることができる。 技能・表現の観点： 社会科教育学としての一定の視点に貫かれた論理構成をもつ論文を仕上げることができる。また中間発表会、口頭試問等において、発表時間内でわかりやすく研究成果を口述することができ、質問に対しては的確な受け答えをすることができる。

授業の計画（全体） 毎回到わり、修士論文に関連した資料を対象とした考察結果を発表し、それに対して指導と助言を行う。この過程で修士論文の理論構成を仕上げてゆく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 論文の全体構成
- 第 2 回 項目 論文の全体構成
- 第 3 回 項目 関連する研究分野の文献調査と検討
- 第 4 回 項目 関連する研究分野の文献調査と検討
- 第 5 回 項目 論文の執筆と添削
- 第 6 回 項目 論文の執筆と添削
- 第 7 回 項目 論文の執筆と添削
- 第 8 回 項目 論文の執筆と添削
- 第 9 回 項目 論文の全体構成 中間発表
- 第 10 回 項目 論文の執筆と添削
- 第 11 回 項目 論文の執筆と添削
- 第 12 回 項目 論文の執筆と添削
- 第 13 回 項目 論文の執筆と添削
- 第 14 回 項目 論文の執筆と添削
- 第 15 回 項目 論文の最終発表

成績評価方法（総合） 毎回の発表資料に対して評価を行うほか、11～12月に行われる中間発表会、1～2月に行われる口頭試問において、修士論文としてのまとめ方、発表の仕方に対しての評価を行う。

教科書・参考書 教科書： 特に定めない。 / 参考書： 随時指示する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 472 研究室，Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・該当学生に連絡

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	吉川				

授業の概要 修士論文の作成に向けて、問題関心領域に関する先行諸研究の検討など基礎的研究段階の指導を行い、研究テーマを決定する。

授業の一般目標 問題意識に応じ、一定の課題設定と研究方法によって一貫した論文を作成するための基礎的な資料収集を通して、問題点の把握、研究視点の設定等の予備考察を行い、適切なテーマが設定できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：調査した先行研究や関連文献に用いられている専門用語や概念を理解し、文献の内容を適切に把握できる。 思考・判断の観点：先行諸研究に対し、社会科教育学の視点から問題点・疑問点を的確に指摘することができ、問題意識に応じて課題を設定し、一貫した考察を行うことができる。 関心・意欲の観点：社会科教育学に関する研究課題に幅広く興味をもち、自らの問題意識に即して考えていくことができる。 態度の観点：社会科教育学の研究において、積極性と謙虚さをバランスよく保ち、研究者・実践者集団の中であって対話的關係によるスタンスを取ることができる。 技能・表現の観点：社会科教育学としての一定の視点に貫かれた論理構成をもつ発表資料を仕上げるができる。

授業の計画(全体) 毎回にわたり、問題関心領域に関連した資料を対象とした考察結果を発表し、それに対して指導と助言を行う。この過程において、研究テーマを少しずつ絞り込み、修士論文テーマと大まかな柱立てを確定してゆく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 研究課題の設定
- 第2回 項目 研究対象と研究方法の計画
- 第3回 項目 先行研究事例の調査
- 第4回 項目 先行研究事例の調査
- 第5回 項目 先行研究事例の調査
- 第6回 項目 先行研究事例の調査
- 第7回 項目 先行研究事例の調査
- 第8回 項目 先行研究の分析・検討
- 第9回 項目 先行研究の分析・検討
- 第10回 項目 先行研究の分析・検討
- 第11回 項目 先行研究の分析・検討
- 第12回 項目 先行研究の分析・検討
- 第13回 項目 先行研究の分析・検討
- 第14回 項目 研究課題に対する現状と課題
- 第15回 項目 研究課題に対する現状と課題

成績評価方法(総合) 毎回の発表内容に対して総合的に評価を行う。その際、問題関心領域に関する研究意欲、熱意など態度・行動面、その結果としての思考・判断の仕方、そこで生成される知識・理解を評価する。

教科書・参考書 教科書：特に定めない。 / 参考書：随時指示する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 472 研究室，Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・該当学生に連絡

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	吉川				

授業の概要 問題関心領域に関して基底的なフレームワークを構築する段階の指導を行い、オリジナルな研究視座、研究方法を確定する。

授業の一般目標 問題意識に応じ、自らの課題設定と研究方法によって一貫した論文を作成するためのフレームワークの構築を行うことができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマに関する社会科教育研究の現状における到達段階と課題を的確に分析し説明することができる。 思考・判断の観点：問題意識に対応して、社会科教育学の視点から課題を設定し、一貫した考察を行うことができる。 関心・意欲の観点：社会科教育学研究の研究視点と方法に関心を持ち、自分なりの研究計画の立案に意欲的に取り組むことができる。 態度の観点：社会科教育学の研究において、積極性と謙虚さをバランスよく保ち、研究者・実践者集団の中にあって対話的關係によるスタンスを取ることができる。 技能・表現の観点：社会科教育学としての一定の視点に貫かれた論理構成をもつ発表資料を仕上げることができる。

授業の計画（全体） 毎回にわたり、問題関心領域に関連した資料を対象とした考察結果を発表し、それに対して指導と助言を行う。この過程において、具体的な課題設定に応じた研究方法を立案し、試みることにより、修士論文に向けた具体的な研究計画を確定してゆく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 概念的作業枠に関する基本的文献の検討
- 第2回 項目 概念的作業枠に関する基本的文献の検討
- 第3回 項目 概念的作業枠に関する基本的文献の検討
- 第4回 項目 概念的作業枠に関する基本的文献の検討
- 第5回 項目 概念的作業枠に関する基本的文献の検討
- 第6回 項目 概念的作業枠の試案検討
- 第7回 項目 概念的作業枠の試案検討
- 第8回 項目 概念的作業枠の試案検討
- 第9回 項目 概念的作業枠の試案検討
- 第10回 項目 概念的作業枠の試案検討
- 第11回 項目 概念的作業枠の試案検討
- 第12回 項目 概念的作業枠の試案検討
- 第13回 項目 概念的作業枠の試案検討
- 第14回 項目 概念的作業枠の試案検討
- 第15回 項目 概念的作業枠の試案検討

成績評価方法（総合） 毎回の発表内容に対して総合的に評価を行う。その際、具体的な研究方法の立案や試みに対する意欲など態度・行動面、その結果としての研究課題に適合した思考・判断の仕方、そこで生成される知識・理解を評価する。

教科書・参考書 教科書：特に定めない。 / 参考書：随時指示する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 472 研究室，Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・該当学生に連絡

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	吉川				

授業の概要 修士論文の作成に向けた具体的作業段階の指導を行う。

授業の一般目標 社会科教育研究において直接の分析・考察対象となる資料(授業実践記録等を含む)の収集・調査等を自発的に行い、自らの課題設定に応じて分析・考察することができ、かつ、その作業を通して自らの論の論理整合的な構築を試みることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 収集・調査した研究対象に対し、社会科教育研究に視点からその意義や価値を問主観的に位置付けることができる。 思考・判断の観点: 収集・調査した研究対象に対し、自らの研究課題に対応した視点から論理的に一貫した分析・考察を行うことができる。 関心・意欲の観点: 終始一貫した課題意識で積極的に研究を押し進め、必要な資料の収集・調査に努力することができる。 資料・対象の分析・考察に意欲的に取り組み、結果を研究上に位置付けようと努力することができる。 態度の観点: 社会科教育学の研究において、積極性と謙虚さをバランスよく保ち、研究者・実践者集団の中であって対話的關係によるスタンスを取ることができる。 技能・表現の観点: 社会科教育学としての一定の視点に貫かれた論理構成をもつ発表資料を仕上げるることができる。

授業の計画(全体) 毎回にわたり、修士論文に関連した資料を対象とした考察結果を発表し、それに対してその考察への視角や考察のまとめ方に関する指導と助言を行う。この過程において、修士論文の全体構成を確定してゆく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 研究対象の確定
- 第2回 項目 研究対象の確定
- 第3回 項目 研究対象の確定
- 第4回 項目 概念的作業枠をもとにした研究対象の分析・検討
- 第5回 項目 概念的作業枠をもとにした研究対象の分析・検討
- 第6回 項目 概念的作業枠をもとにした研究対象の分析・検討
- 第7回 項目 概念的作業枠をもとにした研究対象の分析・検討
- 第8回 項目 概念的作業枠をもとにした研究対象の分析・検討
- 第9回 項目 概念的作業枠をもとにした研究対象の分析・検討
- 第10回 項目 概念的作業枠をもとにした研究対象の分析・検討
- 第11回 項目 分析結果をもとにした具体的な試案の作成
- 第12回 項目 分析結果をもとにした具体的な試案の作成
- 第13回 項目 分析結果をもとにした具体的な試案の作成
- 第14回 項目 分析結果をもとにした具体的な試案の作成
- 第15回 項目 分析結果をもとにした具体的な試案の作成

成績評価方法(総合) 毎回の発表内容に対して総合的に評価を行う。その際、具体的な分析・考察対象の収集・調査への取り組み方など態度・行動面、それらに対する研究課題に適合した思考・判断の仕方、そこで生成される知識・理解を評価する。

教科書・参考書 教科書: 特に定めない。 / 参考書: 随時指示する。

連絡先・オフィスアワー 研究室: 教育学部 472 研究室, Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー: 随時・該当学生に連絡

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	松原 幸恵				

授業の概要 法学の基本的な問題について考察し、課題を探る。

授業の一般目標 法学的思考を養い、そこから問題意識を喚起する。

授業の計画(全体) 学生の報告に基づいて議論を行う。

成績評価方法(総合) 報告内容の出来によって評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	松原 幸恵				

授業の概要 法学の専門的な問題について考察を発展させる。

授業の一般目標 法学の専門的知識を身につけ、分析力を高める。

授業の計画(全体) 学生の報告に基づいて議論を行う。

成績評価方法(総合) 報告内容の出来によって評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	松原 幸恵				

授業の概要 法学の基本的な問題について考察し、課題を探る。

授業の一般目標 法学的思考を養い、そこから問題意識を喚起する。

授業の計画（全体） 学生の報告に基づいて議論を行う。

成績評価方法（総合） 報告内容の出来によって評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	松原 幸恵				

授業の概要 法学の専門的な問題について考察を発展させ、論文を完成させる。

授業の一般目標 法学の専門的知識をもとに、論理を展開させる。

授業の計画(全体) 学生の報告に基づいて議論を行う。

成績評価方法(総合) 研究成果の出来によって評価する。

数学教育専修

開設科目	数学教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	関口靖広				

授業の概要 数学教育における質的研究方法について、講義する。

授業の一般目標 数学教育における質的研究方法について理解し、簡単な場合について実践できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 数学教育における質的研究方法について理解できる 技能・表現の観点： 数学教育における質的研究方法を簡単な場合について実践できる。

授業の計画（全体） 質的研究法を、その背景、理論的基礎、進め方、基本的技能について概説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 質的研究方法とは
- 第 2 回 項目 さまざまな研究手続き
- 第 3 回 項目 観察法について
- 第 4 回 項目 観察法実習 1
- 第 5 回 項目 観察法実習 2
- 第 6 回 項目 インタビューについて
- 第 7 回 項目 インタビュー実習 1
- 第 8 回 項目 インタビュー実習 2
- 第 9 回 項目 観察法実習レポート発表
- 第 10 回 項目 データ分析 1
- 第 11 回 項目 データ分析 2
- 第 12 回 項目 レポート事例紹介
- 第 13 回 項目 レポート作成作業
- 第 14 回 項目 レポート作成作業
- 第 15 回 項目 レポートについての検討会

成績評価方法（総合） 授業の参加とレポートによって評価する。

メッセージ 大学院の授業は積極的参加が絶対必要です。

連絡先・オフィスアワー 火曜日 12:50-14:20

開設科目	数学教育特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	関口靖広				

授業の概要 数学教育研究における最近の話題に関する文献を取り上げ，セミナー形式で検討する。

授業の一般目標 数学教育研究における最近の話題について理解を深める

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 数学教育研究における最近の話題について基本的な理解をする。
 思考・判断の観点： 数学教育研究における最近の話題について，考察することができる。

授業の計画（全体） 数学教育の最近の研究について，資料をもとに検討していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 2 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 3 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 4 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 5 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 6 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 7 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 8 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 9 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 10 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 11 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 12 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 13 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 14 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 15 回 項目 数学教育における研究文献の購読

成績評価方法（総合） 授業参加度

メッセージ 文献は最新のものです，受講生の関心に応じて選択する。積極的に授業に参加することが絶対条件です。

連絡先・オフィスアワー 火曜日 12:50-14:20

開設科目	数学教育特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	関口靖広				

授業の概要 数学教育におけるさまざまな研究動向について概説する。

授業の一般目標 数学教育におけるさまざまな研究動向について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 数学教育におけるさまざまな研究動向について理解する。 思考・判断の観点： 数学教育におけるさまざまな研究動向について自分なりの考察ができる。

授業の計画（全体） 数学教育におけるさまざまな研究動向について概説していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 数学教育における研究の動向
- 第 2 回 項目 理論的研究 1
- 第 3 回 項目 理論的研究 2
- 第 4 回 項目 理論的研究 3
- 第 5 回 項目 実験研究 1
- 第 6 回 項目 実験研究 2
- 第 7 回 項目 実験研究 3
- 第 8 回 項目 実験研究 4
- 第 9 回 項目 テクノロジー利用について 1
- 第 10 回 項目 テクノロジー利用について 2
- 第 11 回 項目 国際比較研究 1
- 第 12 回 項目 国際比較研究 2
- 第 13 回 項目 国際比較研究 3
- 第 14 回 項目 修士論文について
- 第 15 回 項目 質疑

成績評価方法（総合） 授業参加度

連絡先・オフィスアワー 火曜日 12:50-14:20

開設科目	数学教育特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	関口靖広				

授業の概要 数学教育の最近の研究文献についてセミナー形式で検討を行なう。

授業の一般目標 数学教育の最近の研究文献について理解し自分なりの考察ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 数学教育の最近の研究文献について理解する。 思考・判断の観点： 数学教育の最近の研究文献について自分なりの考察ができる。

授業の計画（全体） 数学教育の最近の研究文献について検討していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 2 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 3 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 4 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 5 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 6 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 7 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 8 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 9 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 10 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 11 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 12 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 13 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 14 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 15 回 項目 数学教育の研究文献の購読

成績評価方法（総合） 授業参加度

連絡先・オフィスアワー 火曜日 12:50-14:20

開設科目	代数学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	笠井伸一				

授業の概要 代数学を中心に、輪講形式で授業を行う。

授業の一般目標 授業を通して、代数的な考え方を学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：代数的な考え方。 態度の観点：発表を担当する際の準備状況。
 授業における意見発言等による参加。 技能・表現の観点：数学に関する内容の発表力、表現力。

授業の計画（全体） 輪講による発表

成績評価方法（総合） 授業態度や授業への参加度、 発表の際の知識・理解、技能・表現 出席 = 欠格条件

開設科目	代数学特論演習	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	笠井伸一				

授業の概要 代数学特論に続いて、輪講形式で授業を行う。

授業の一般目標 代数的な考え方を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：代数的な考え方。 態度の観点：発表を担当する際の準備状況。
 授業における意見発言等による参加。 技能・表現の観点：数学に関する内容の発表力、表現力。

授業の計画（全体） 輪講による発表

開設科目	代数学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	飯寄信保				

授業の概要 現代代数学の基本概念である群について学習する。特に群の表現論をテーマの中心に置き、セミナー形式授業をすすめる。 / 検索キーワード 群論 表現論

授業の一般目標 群論の基礎及び表現論を身につけ、代数的な考え方を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：代数的な考え方・抽象的な概念把握が出来るような力を養う。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 群の基本性質に関する文献を読む。
- 第 2 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 群の基本性質に関する文献を読む。
- 第 3 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 群の基本性質に関する文献を読む。
- 第 4 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 群の基本性質に関する文献を読む。
- 第 5 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 群の基本性質に関する文献を読む。
- 第 6 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 表現論の文献を読む。
- 第 7 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 表現論の文献を読む。
- 第 8 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 表現論の文献を読む。
- 第 9 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 表現論の文献を読む。
- 第 10 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 表現論の文献を読む。
- 第 11 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 表現論の文献を読む。
- 第 12 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 表現論の文献を読む。
- 第 13 回 項目 群の表現の応用 (1) 内容 表現論の文献を読む。
- 第 14 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 表現論の文献を読む。
- 第 15 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 表現論の文献を読む。

メッセージ 特に無し。

連絡先・オフィスアワー iiyori@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	幾何学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	佐藤好久				

授業の概要 幾何学の分野から選択したテーマについて解説する。今年度は、位相幾何学的観点からの代数曲線論について講義する。

授業の一般目標 代数曲線の一部の内容は、代数方程式や 2 次曲線などの項目で、高等学校でも学習する内容である。この授業により、その内容理解を深めるだけでなく、高度な数学的立場から総合的に理解できるようにする。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 2 次曲線 (その 1)
- 第 2 回 項目 2 次曲線 (その 2)
- 第 3 回 項目 2 次曲線 (その 3)
- 第 4 回 項目 射影幾何
- 第 5 回 項目 代数曲線と特異点 (その 1)
- 第 6 回 項目 代数曲線と特異点 (その 2)
- 第 7 回 項目 ベズーの定理とその応用 (その 1)
- 第 8 回 項目 ベズーの定理とその応用 (その 2)
- 第 9 回 項目 分岐被覆空間 (その 1)
- 第 10 回 項目 分岐被覆空間 (その 2)
- 第 11 回 項目 非特異代数曲線の位相幾何 (その 1)
- 第 12 回 項目 非特異代数曲線の位相幾何 (その 2)
- 第 13 回 項目 特異点をもつ代数曲線の位相幾何 (その 1)
- 第 14 回 項目 特異点をもつ代数曲線の位相幾何 (その 2)
- 第 15 回 項目 代数曲線のモデュライ

開設科目	幾何学特論演習	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	佐藤好久				

授業の概要 各自が幾何学のテーマを選択し、これにあう専門書を熟読する。その内容を発表する。特に、幾何学特論 I で講義する内容についての演習をする。

開設科目	幾何学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	佐藤好久				

授業の概要 微分位相幾何学や微分幾何学、代数幾何学の中からトピックを選んで概説をする。受講を希望する学生の要望に応じて内容を選択するが、現時点では、微分位相幾何学的曲面論について解説する予定である。

開設科目	解析学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	北本卓也				

授業の概要 解析学について学ぶ

授業の一般目標 解析学に関する理解を深める

教科書・参考書 教科書：適宜指定する。 / 参考書：適宜指定する。

備考 隔年開講

開設科目	解析学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	渡邊正				

授業の概要 解析学に係る現代的なトピックに関して、適任者が解説する。

授業の一般目標 どのような問題が研究されているのかを知る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：最新の知識を獲得する。 思考・判断の観点：最新の問題点を理解する。 態度の観点：新しい現代的な問題にチャレンジする態度をもつ。

授業の計画（全体） 集中的に担当者の計画に従う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義
- 第 2 回 項目 講義
- 第 3 回 項目 講義
- 第 4 回 項目 講義
- 第 5 回 項目 講義
- 第 6 回 項目 講義
- 第 7 回 項目 講義
- 第 8 回 項目 講義
- 第 9 回 項目 講義
- 第 10 回 項目 講義
- 第 11 回 項目 講義
- 第 12 回 項目 講義
- 第 13 回 項目 講義
- 第 14 回 項目 講義
- 第 15 回 項目 レポート試験

成績評価方法（総合） レポートによる。

開設科目	数理情報特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	北本卓也				

授業の概要 数理情報学に関わる内容を講義する

授業の一般目標 文献を読み、理解する力をつけること。

授業の計画(全体) 文献を 1 つ選択し、それを輪講する形で授業を進める。

成績評価方法(総合) 出席(50%)とレポート(50%)により行う。

教科書・参考書 教科書：適宜指定する。 / 参考書：適宜指定する。

開設科目	数理情報特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	飯寄信保				

授業の概要 数理情報科学にあらわれる数学、特に離散的な代数系についての演習をセミナー形式で行う。
 / 検索キーワード 体論 代数拡大 附値

授業の一般目標 情報においてだけでなく、数学活動において必ず現れる数についての基礎知識を充実させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 抽象的な思考と実際の現象を結びつけて考察できるような力をも身につける。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 テキスト講読及び演習 内容 離散的な代数系 についての基本的な事項について学ぶ。
- 第 2 回 項目 テキスト講読及び演習 内容 離散的な代数系 についての基本的な事項について学ぶ。
- 第 3 回 項目 テキスト講読及び演習 内容 離散的な代数系 についての基本的な事項について学ぶ。
- 第 4 回 項目 テキスト講読及び演習 内容 離散的な代数系 についての基本的な事項について学ぶ。
- 第 5 回 項目 テキスト講読及び演習 内容 離散的な代数系 についての基本的な事項について学ぶ。
- 第 6 回 項目 テキスト講読及び演習 内容 離散的な代数系 についての基本的な事項について学ぶ。
- 第 7 回 項目 テキスト講読及び演習 内容 離散的な代数系 についての基本的な事項について学ぶ。
- 第 8 回 項目 テキスト講読及び演習 内容 離散的な代数系 についての基本的な事項について学ぶ。
- 第 9 回 項目 テキスト講読及び演習 内容 離散的な代数系 についての基本的な事項について学ぶ。
- 第 10 回 項目 テキスト講読及び演習 内容 離散的な代数系 についての基本的な事項について学ぶ。
- 第 11 回 項目 テキスト講読及び演習 内容 離散的な代数系 についての基本的な事項について学ぶ。
- 第 12 回 項目 テキスト講読及び演習 内容 離散的な代数系 についての基本的な事項について学ぶ。
- 第 13 回 項目 テキスト講読及び演習 内容 離散的な代数系 についての基本的な事項について学ぶ。
- 第 14 回 項目 テキスト講読及び演習 内容 離散的な代数系 についての基本的な事項について学ぶ。
- 第 15 回 項目 テキスト講読及び演習 内容 離散的な代数系 についての基本的な事項について学ぶ。

メッセージ 特に無し

連絡先・オフィスアワー iiyori@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	数理情報特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	鷹岡亮				

授業の概要 数理情報特論 II では、数学を対象領域とした問題解決の方法に関する授業を行います。具体的には、「Mathematical Problem Solving」を題材にしながら、問題解決に関わるリソースや経験則、問題解決の制御、信念システム、問題解決の分析方法について学びます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明 内容 説明
- 第 2 回 項目 数学に関する問題解決の概観 内容 説明・討論
- 第 3 回 項目 数学的行動分析のための枠組み 内容 説明・討論
- 第 4 回 項目 数学的問題解決のリソースについて (1) 内容 説明・討論
- 第 5 回 項目 数学的問題解決のリソースについて (2) 内容 説明・討論
- 第 6 回 項目 数学的問題解決の経験則について (1) 内容 説明・討論
- 第 7 回 項目 数学的問題解決の経験則について (2) 内容 説明・討論
- 第 8 回 項目 数学的問題解決の制御について (1) 内容 説明・討論
- 第 9 回 項目 数学的問題解決の制御について (2) 内容 説明・討論
- 第 10 回 項目 数学的問題解決の信念システムについて 内容 説明・討論
- 第 11 回 項目 学習支援システムの概観 内容 説明・討論
- 第 12 回 項目 数学を題材にした学習支援システムについて 内容 説明・討論
- 第 13 回 項目 数学を題材にした解法モデルの開発 (1) 内容 個人作業・討論
- 第 14 回 項目 数学を題材にした解法モデルの開発 (2) 内容 個人作業・討論
- 第 15 回 項目 数学を題材にした解法モデルの開発 (3) 内容 個人作業・討論・評価

教科書・参考書 教科書：Mathematical Problem Solving, A.H.Schoenfeld, "Academic Press, Inc.", 1985 年 / 参考書：参考書は、授業時間内や授業HPで適時紹介する。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：ryo@yamaguchi-u.ac.jp (E-mail)

開設科目	数理情報特講	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	北本卓也				

授業の概要 数理情報学に関わる内容を講義する

授業の一般目標 文献を読み、理解する力をつけること。

授業の計画(全体) 文献を1つ選択し、それを輪講する形で授業を進める。

成績評価方法(総合) 出席(50%)とレポート(50%)により行う。

教科書・参考書 教科書：適宜指定する。 / 参考書：適宜指定する。

開設科目	数学科教育実践研究	区分	実験・実習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	関口靖広				

授業の概要 中学校現場において、現職の数学科教官と協力しながら、実践研究を行なう。

授業の一般目標 中学校現場において、簡単な課題について、実践研究を行なうことができる。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：中学校現場において、実践研究を進めることができる。 技能・表現の観点：中学校現場において実践研究の基本的な技能を活用できる。

授業の計画（全体） 中学校現場において、数学科教員と協力して実践研究を行なう。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 中学校数学教官との研究計画の話し合い
- 第 2 回 項目 中学校において実践研究
- 第 3 回 項目 中学校において実践研究
- 第 4 回 項目 中学校において実践研究
- 第 5 回 項目 中学校において実践研究
- 第 6 回 項目 中学校において実践研究
- 第 7 回 項目 中学校において実践研究
- 第 8 回 項目 中学校において実践研究
- 第 9 回 項目 中学校において実践研究
- 第 10 回 項目 中学校において実践研究
- 第 11 回 項目 中学校において実践研究
- 第 12 回 項目 中学校において実践研究
- 第 13 回 項目 中学校において実践研究
- 第 14 回 項目 中学校において実践研究
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 参加度とレポート

メッセージ 実践研究の内容については、受講生の関心に応じて決定する。

連絡先・オフィスアワー 火曜日 12:50-14:20

開設科目	数学科教育支援実践研究	区分	実験・実習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	渡邊正				

授業の概要 附属学校や地域の学校等で実践的な教育を通して、教師としての高度な素養を身につける。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 輪読
- 第 2 回 項目 輪読
- 第 3 回 項目 輪読
- 第 4 回 項目 輪読
- 第 5 回 項目 輪読
- 第 6 回 項目 輪読
- 第 7 回 項目 輪読
- 第 8 回 項目 輪読
- 第 9 回 項目 輪読
- 第 10 回 項目 輪読
- 第 11 回 項目 輪読
- 第 12 回 項目 輪読
- 第 13 回 項目 輪読
- 第 14 回 項目 輪読
- 第 15 回 項目 輪読

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	渡邊正				

授業の概要 学生の興味や能力に適した課題を与え、その課題研究に必要な基礎から学習する。

授業の一般目標 課題探求力を養成する。1. 自分の力で「本」が読めるようにする。2. 疑問を自分の力で解決しようと努力が出来る。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 輪読
- 第2回 項目 輪読
- 第3回 項目 輪読
- 第4回 項目 輪読
- 第5回 項目 輪読
- 第6回 項目 輪読
- 第7回 項目 輪読
- 第8回 項目 輪読
- 第9回 項目 輪読
- 第10回 項目 輪読
- 第11回 項目 輪読
- 第12回 項目 輪読
- 第13回 項目 輪読
- 第14回 項目 輪読
- 第15回 項目 輪読

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	渡邊正				

授業の概要 1年次前期からの継続した課題を与え、その課題研究に必要な基礎から学習する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 輪読
- 第2回 項目 輪読
- 第3回 項目 輪読
- 第4回 項目 輪読
- 第5回 項目 輪読
- 第6回 項目 輪読
- 第7回 項目 輪読
- 第8回 項目 輪読
- 第9回 項目 輪読
- 第10回 項目 輪読
- 第11回 項目 輪読
- 第12回 項目 輪読
- 第13回 項目 輪読
- 第14回 項目 輪読
- 第15回 項目 輪読

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	関口靖広				

授業の概要 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する論文を講読し、比較検討する際の基本的技法を理解する。研究テーマの位置づけや方法論について、主体的に考える姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。 思考・判断の観点：内外の論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点：研究テーマの位置づけについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の

観点：論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

授業の計画(全体) 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について、討論を交えながら検討する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第2回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第3回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第4回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第5回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第6回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第7回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第8回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第9回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第10回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第11回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第12回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第13回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第14回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第15回 項目 レポート提出

成績評価方法(総合) 授業内のレポートによって評価する。

メッセージ 大学院生各自が自ら考え、自ら進めるといふ、主体的取り組みが絶対条件です。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	関口靖広				

授業の概要 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備的研究の計画を立て、それに基づいて予備的研究を行い、その結果について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、研究の計画立案がある程度できる。研究テーマに関連する研究の基本的な方法論が理解でき、それを適切に実践できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマに関連する基本的な研究方法が理解できる。 思考・判断の観点：研究テーマに関連する研究の妥当な方法論について考えることができる。 関心・意欲の観点：研究テーマに関する研究計画立案について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：研究テーマに関連した研究を適切に実践できる基本的な能力を身につける。

授業の計画(全体) 修士論文の研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、研究の計画立案を行い、それに基づいて予備的研究を行い、その結果を適宜まとめていく。計画立案の仕方、研究方法、得られた結果やその整理の仕方について、討論を交えながら、適宜検討し、修士論文研究計画立案に向けての準備をする。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第2回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第3回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第4回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第5回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第6回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第7回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第8回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第9回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第10回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第11回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第12回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第13回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第14回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第15回 項目 レポート提出

成績評価方法(総合) レポート

メッセージ 大学院生各自が自ら考え、自ら進めるという、主体的取り組みが絶対条件です。

連絡先・オフィスアワー 火曜日 12:50-14:20

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	笠井伸一				

授業の概要 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する文献を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する文献を講読し、基本的技法を理解する。研究テーマの位置づけや方法論について、主体的に考える姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文献を講読して、その方法論や内容を理解できる。 技能・表現の観点：文献の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

授業の計画（全体） 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する文献を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について、討論を交えながら検討する。

成績評価方法（総合） 研究テーマに対する知識・理解や思考・判断力に加え、出席、研究への熱意や努力など、態度や意欲の観点も重視して、総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	笠井伸一				

授業の概要 研究テーマに関連する国内外の文献を参考に、具体的な研究計画を立案し、研究を開始する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の文献を参考に、基本的な方法論が理解でき、それを適切に実践できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：テーマに関する先行研究を把握し説明できる。研究に関する原理や得られる情報の質、長所や短所などを理解できる。 技能・表現の観点：セミナーにおいて、自らの研究を、適切な方法・表現でわかりやすくプレゼンテーションすることができる。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関連する国内外の文献を参考に、その結果を適宜まとめていく。基本的方法、結果について、討論を交えながら、習得する。

成績評価方法（総合） 科学的に理解し、わかりやすく説明することができるかを 主要な評価基準とする。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	佐藤好久				

授業の概要 修士論文の作成にあたり、各自が設定した研究テーマに関連する専門書や論文を講読する。これにより、研究テーマを理解し、必要な知識の習得、研究の方法などを指導する。また、研究テーマをより具体的なものにするように問題の観点、考え方を指導する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する専門書や論文を講読することにより、研究テーマを理解し、必要な知識や研究の方法などを習得する。また、研究テーマをより具体的なものとして見る力・考え方を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 選択した研究テーマについての基礎的概念を理解し、より一般的な、あるいは、抽象的な概念へ発展させ、論じることができる。 思考・判断の観点： 1つの概念を多方面から理解することができる。理論に見られる思考の流れを把握している。 関心・意欲の観点： 関連する周辺領域の研究内容を課題を設定して調べることができる。 技能・表現の観点： 専門書・論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

授業の計画（全体） 各自が設定した研究テーマにあう専門書・論文を熟読し、その内容と考え方などを毎週発表する。研究テーマの設定や方法論等について、討論を交えながら検討する。

成績評価方法（総合） 到達目標を考慮して、毎時間の発表や課外研究を通して総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	佐藤好久				

授業の概要 1年前期の課題研究を踏まえて、各自が設定した研究テーマに関連する専門書や論文を講読する。これにより、必要な知識の習得、問題の観点、研究の取り組み方、研究の方法などを指導する。

授業の一般目標 1年前期の課題研究に続いて、各自が設定した研究テーマにあう専門書・論文を熟読し、その内容と考え方などを発表することによって、研究テーマを完成するための予備知識や研究成果の発表のための力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 選択した研究テーマについての基礎的概念を理解し、より一般的な、あるいは、抽象的な概念へ発展させ、論じることができる。 思考・判断の観点： 1つの概念を多方面から理解することができる。理論に見られる思考の流れを把握している。 関心・意欲の観点： 関連する周辺領域の研究内容を課題を設定して調べることができる。 技能・表現の観点： 専門書・論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

授業の計画(全体) 各自が設定した研究テーマにあう専門書を熟読し、その内容と考え方などを毎週発表する。研究テーマの設定や問題点・方法論等について、あるいは、各自の研究の内容を討論を交えながら検討する。

成績評価方法(総合) 到達目標を考慮して、毎時間の発表や課外研究を通して総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	飯寄信保				

授業の概要 各研究テーマに関連する参考文献をセミナー形式で学習する。

授業の一般目標 研究課題についての基本的な知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：幅広い知識を身につけ、問題解決にその知識を適切に利用できるようにする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第2回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第3回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第4回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第5回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第6回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第7回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第8回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第9回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第10回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第11回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第12回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第13回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第14回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第15回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。

成績評価方法（総合）代数学の基本知識を幅広く身につけたかどうかを口頭試問で判定する。

メッセージ 特に無し。

連絡先・オフィスアワー iiyori@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	飯寄信保				

授業の概要 前期に身につけた知識を基に、各自のテーマについて研究する。 / 検索キーワード 群論 環論 体論 暗号

授業の一般目標 学生各自が自分のテーマに関しての研究を深める。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：研究上に現れた問題に対し、適切な方法と考察が出来るような力を養う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第1回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第2回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第3回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第4回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第5回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第6回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第7回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第8回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第9回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第10回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第11回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第12回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第13回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第14回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第15回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表

成績評価方法（総合） 積極的に研究に励んだか、また、自分の研究を深く理解しているかを口頭試問で評価する。

メッセージ 特に無し

連絡先・オフィスアワー iiyori@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	北本卓也				

授業の概要 修士論文制作に向けての指導を行う。

授業の一般目標 研究方法を学び、それを発表する技術を身につけること。

授業の計画(全体) 修士論文制作に向けての研究を行う。

成績評価方法(総合) 研究をする方法、それを発表する技術が身についたかを評価して、成績をつける。

教科書・参考書 教科書：適宜指定する。 / 参考書：適宜指定する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	北本卓也				

授業の概要 修士論文制作に向けての指導を行う。

授業の一般目標 研究方法を学び、それを発表する技術を身につけること。

授業の計画(全体) 修士論文制作に向けての研究を行う。

成績評価方法(総合) 研究をする方法、それを発表する技術が身についたかを評価して、成績をつける。

教科書・参考書 教科書：適宜指定する。 / 参考書：適宜指定する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	渡邊正				

授業の概要 1年次の時の課題研究を続ける。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 輪読
- 第2回 項目 輪読
- 第3回 項目 輪読
- 第4回 項目 輪読
- 第5回 項目 輪読
- 第6回 項目 輪読
- 第7回 項目 輪読
- 第8回 項目 輪読
- 第9回 項目 輪読
- 第10回 項目 輪読
- 第11回 項目 輪読
- 第12回 項目 輪読
- 第13回 項目 輪読
- 第14回 項目 輪読
- 第15回 項目 輪読

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	渡邊正				

授業の概要 2年次までの学習成果をまとめる。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 輪読
- 第2回 項目 輪読
- 第3回 項目 輪読
- 第4回 項目 輪読
- 第5回 項目 輪読
- 第6回 項目 輪読
- 第7回 項目 輪読
- 第8回 項目 輪読
- 第9回 項目 輪読
- 第10回 項目 輪読
- 第11回 項目 輪読
- 第12回 項目 輪読
- 第13回 項目 輪読
- 第14回 項目 輪読
- 第15回 項目 輪読

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	関口靖広				

授業の概要 研究テーマに関する予備的研究の結果を踏まえて、修士論文研究の計画を立案し、それに基づいて研究を実施し、得られた結果の整理を行う。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文や予備的研究の結果を踏まえて、研究計画立案ができる。研究テーマに関する研究を適切に実践できる能力を身につける。また、得られた結果の適切な整理の仕方を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマに関する研究の方法が理解できる。 思考・判断の観点：研究テーマに関する研究の妥当な方法論や得られた結果の適切な整理の仕方について考えることができる。 関心・意欲の観点：研究計画の遂行について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：研究テーマに関する研究を適切に実践できる能力を身につける。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関する予備的研究の結果を踏まえて、修士論文の研究計画を立案し、それに基づいて研究を実施する。そして、得られた結果の整理を行う。研究計画の立案、研究方法や結果の整理の方法については、適宜討論を交えながら、検討し、研究計画を遂行し、結果をまとめていく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 2 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 3 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 4 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 5 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 6 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 7 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 8 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 9 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 10 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 11 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 12 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 13 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 14 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 15 回 項目 レポート提出

成績評価方法（総合） レポートによって評価する。

メッセージ 大学院生各自が自ら考え、自ら進めるといふ、主体的取り組みが絶対条件です。

連絡先・オフィスアワー 火曜日 12:50-14:20

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	関口靖広				

授業の概要 研究で得られた結果をまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等についても習得する。

授業の一般目標 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現する方法が理解できる。 思考・判断の観点： 研究結果から得られる見解を適切に考えることができる。

関心・意欲の観点： 研究をまとめることについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる。

授業の計画（全体） 研究で得られた結果を最終的にまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等について習得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第2回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第3回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第4回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第5回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第6回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第7回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第8回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第9回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第10回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第11回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第12回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第13回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第14回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第15回 項目 各受講生の課題の設定と追求

成績評価方法（総合） レポート

メッセージ 大学院生各自が自ら考え、自ら進めるといふ、主体的取り組みが絶対条件です。

連絡先・オフィスアワー 12:50-14:20

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	笠井伸一				

授業の概要 研究を押し進める。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の文献の結果を、適切に実践できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 結果の良否を科学的に判断できる知識と理解力を身につける。

技能・表現の観点： セミナーにおいて、適切な方法・表現でわかりやすくプレゼンテーションすることができる。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関連する国内外の文献を参考に、その結果を適宜まとめていく。基本的な方法、結果について、適宜討論を交えながら、検討し、研究計画を遂行し、結果をまとめていく。

成績評価方法（総合） 研究成果の進捗状況およびそのために費やした努力や創意工夫などを、総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	笠井伸一				

授業の概要 修士論文を作成する。修士論文審査会で発表を行なう。

授業の一般目標 研究内容を正しく理解し、適切に論文として纏めることができる。また、その内容をわかりやすく説明・発表できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究内容に関する科学的な知識を備え、研究全般について理解できる。 技能・表現の観点： 研究成果を首尾一貫した論文として完成させることができる。

授業の計画（全体） 修士論文を完成させる。

成績評価方法（総合） 得られた研究成果が修士論文として十分な内容を持つか評価した上で、論文としての纏め方、最終審査会でのプレゼンテーションなどを含めて、総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	佐藤好久				

授業の概要 各自が設定した研究テーマに必要な専門書や論文を講読する。これにより、研究テーマを理解し、必要な知識の習得、研究の方法などを指導する。また、研究テーマをより具体的なものにするように問題の観点、考え方を指導する。各自が設定した研究テーマについて、問題点を絞り込み、修士論文が完成するように指導する。

授業の一般目標 各自が設定した研究テーマについて、問題点の絞り込みと研究方法を検討する力を身につける。修士論文を完成することができる予備知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 選択した研究テーマについての基礎的概念を理解し、より一般的な、あるいは、抽象的な概念へ発展させ、論じることができる。 思考・判断の観点： 1つの概念を多方面から理解することができる。理論に見られる思考の流れを把握している。 関心・意欲の観点： 関連する周辺領域の研究内容を課題を設定して調べることができる。 技能・表現の観点： 専門書・論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

授業の計画（全体） 各自が設定した研究テーマにあう専門書を熟読し、その内容と考え方などを毎週発表する。研究テーマの設定や問題点・方法論等について、討論を交えながら検討する。

成績評価方法（総合） 到達目標を考慮して、毎時間の発表や課外研究を通して総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	佐藤好久				

授業の概要 各自が設定した研究テーマについて研究結果をまとめ、修士論文が完成するように指導する。また、論文の書き方や発表の仕方なども指導する。

授業の一般目標 修士論文の完成を目指して、修士論文の作成する。研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 選択した研究テーマについての基礎的概念を理解し、より一般的な、あるいは、抽象的な概念へ発展させ、論じることができる。 思考・判断の観点： 1つの概念を多方面から理解することができる。理論に見られる思考の流れを把握している。 関心・意欲の観点： 関連する周辺領域の研究内容を課題を設定して調べることができる。 技能・表現の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる。

授業の計画（全体） 研究結果を最終的にまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等について習得する。

成績評価方法（総合） 到達目標を考慮して、毎時間の発表や課外研究を通して総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	飯寄信保				

授業の概要 各研究テーマに関連する参考文献をセミナー形式で学習する。 / 検索キーワード 群論 環論
暗号

授業の一般目標 研究に必要な基礎知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：幅広い知識を身につけ、問題解決にその知識を適切に利用できる
ようにする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第2回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第3回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第4回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第5回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第6回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第7回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第8回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第9回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第10回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第11回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第12回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第13回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第14回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。
- 第15回 項目 テキスト講読 内容 セミナー形式で テキストを精読 する。

メッセージ 特に無し

連絡先・オフィスアワー iiyori@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	飯寄信保				

授業の概要 前期に身につけた内容を基に各自のテーマについて研究を行う。 / 検索キーワード 群論 環論 体論 暗号

授業の一般目標 学生各自が自分のテーマに関しての研究を深める。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点： 研究上に現れた問題に対し、適切な方法と考察が出来るような力を養う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第 2 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第 3 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第 4 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第 5 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第 6 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第 7 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第 8 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第 9 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第 10 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第 11 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第 12 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第 13 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第 14 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第 15 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表

メッセージ 特に無し

連絡先・オフィスアワー iiyori@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	北本卓也				

授業の概要 修士論文制作に向けての指導を行う。

授業の一般目標 研究方法を学び、それを発表する技術を身につけること。

授業の計画(全体) 修士論文制作に向けての研究を行う。

成績評価方法(総合) 研究をする方法、それを発表する技術が身についたかを評価して、成績をつける。

教科書・参考書 教科書：適宜指定する。 / 参考書：適宜指定する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	北本卓也				

授業の概要 修士論文制作に向けての指導を行う。

授業の一般目標 研究方法を学び、それを発表する技術を身につけること。

授業の計画(全体) 修士論文制作に向けての研究を行う。

成績評価方法(総合) 研究をする方法、それを発表する技術が身についたかを評価して、成績をつける。

教科書・参考書 教科書：適宜指定する。 / 参考書：適宜指定する。

理科教育専修

開設科目	理科教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	池田幸夫				

授業の概要 理科教育の理念や哲学的背景、新しい理科学習論、評価方法などについて、理科教育学、科学史などの最近の知見を踏まえて講義する。 / 検索キーワード 理科教育

授業の一般目標 科学論・科学哲学に基づいて理科教育の諸問題を解説する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：理科教育に関わる科学論科学哲学についての基礎的な理解 思考・判断の観点：理科教育に関する諸問題を批判的に考察する 関心・意欲の観点：積極的に課題を見いだそうとする意欲 態度の観点：理科教育に関する諸問題を積極的に見いだす態度 技能・表現の観点：理科教育に関する諸問題を分析し成果を発表する技能

授業の計画（全体） 講義形式で授業を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 現在の学校理科教育の理念
- 第 2 回 項目 理科教育の基礎としての科学哲学 (1) 帰納主義
- 第 3 回 項目 理科教育の基礎としての科学哲学 (2) 反証主義
- 第 4 回 項目 理科教育の基礎としての科学哲学 (3) 洗練された反証主義
- 第 5 回 項目 理科教育の基礎としての科学哲学 (4) 相対主義
- 第 6 回 項目 戦後の理科教育の理念の変遷
- 第 7 回 項目 理科教育の目的・目標
- 第 8 回 項目 理科教育実践の具体例 (1) 観察実験の位置づけ (1)
- 第 9 回 項目 理科教育実践の具体例 (2) 振り子の等時性
- 第 10 回 項目 理科教育実践の具体例 (3) 力と運動
- 第 11 回 項目 理科授業の評価 (1) 理論・統計的方法
- 第 12 回 項目 理科教育の評価 (2) 具体的方法
- 第 13 回 項目 理科教育における最近の課題
- 第 14 回 項目 予備
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合）与えた課題について提出したレポートについて総合的な評価する。

教科書・参考書 教科書：すぐ分かる統計解析, 石村貞夫, 東京図書, 1999 年 / 参考書：授業の中で紹介する

開設科目	理科教育特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	阿部弘和				

授業の概要 現代の科学教育や科学観に大きな影響を及ぼしている中立的科学観を創出したク - ンのパラダイム理論を彼の原著を購読しながら学ぶ。また、中立的科学観に強く影響されている、グ - ルドの著作もあわせて輪読し、中立的科学観から派生する彼の生命観などを指導する。

授業の一般目標 理科教育の背景となる代表的な科学観の背景や内容、理論的枠組み、それらに基づいた理科教育のあり方などを学習、修得する。

授業の計画(全体) ク - ンおよびグ - ルドの著作を輪読し、内容のレポートを作成し発表する。発表内容について議論を導き、指導する。

成績評価方法(総合) 作成レポート、発表、出席状況を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書: 科学革命に構造, ト - マス・ク - ン, みすず書房; パンダの親指 など, S.J. グ - ルド, 早川書房

連絡先・オフィスアワー E-mail habe@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 13:00 ~ 14:30

開設科目	理科教育特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	池田幸夫・阿部弘和・某				

授業の概要 理科教育実一般について、論文購読・討論・実地研究などの方法によって学習する。 / 検索
キーワード 理科教育

授業の一般目標 理科教育の諸問題を統計的に分析する手法を修得する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：理科教育の考え方やデータ処理に関する知識理解 思考・判断の
観点：理科教育に関わる問題点を発見する力と客観的に判断できる思考力 関心・意欲の観点：積極的に
課題を認識する意欲 態度の観点：積極的に取り組む態度 技能・表現の観点：統計的手法を利用す
る技能

授業の計画（全体） パソコンを用いた実習を中心に授業を行う

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 統計的データ処理法 内容 EXCELによる統計処理方法
- 第2回 項目 統計的データ処理法 内容 EXCELによる統計処理方法
- 第3回 項目 統計的データ処理法 内容 EXCELによる統計処理方法
- 第4回 項目 統計的データ処理法 内容 EXCELによる統計処理方法
- 第5回 項目 統計的データ処理法 内容 EXCELによる統計処理方法
- 第6回 項目 統計的データ処理法 内容 EXCELによる統計処理方法
- 第7回 項目 理科教育の実践
- 第8回 項目 理科教育の実践
- 第9回 項目 理科教育の実践
- 第10回 項目 理科教育の実践
- 第11回 項目 理科教育の実践
- 第12回 項目 理科教育の実践
- 第13回 項目 理科教育の実践
- 第14回 項目 理科教育の実践
- 第15回 項目 理科教育の実践

教科書・参考書 教科書：よくわかる統計解析 / 参考書：すぐ分かる統計解析, 石村貞夫, 東京図書, 1993年

開設科目	物理学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古川浩				

授業の概要 相転移や対流現象など身の回りの秩序形成を取り上げ、ミクロとマクロにおける現象の違いや共通点を考える。 / 検索キーワード ミクロとマクロ 秩序形成 カオス

授業の一般目標 普段目にする自然現象を物理学的観点から観察・考察できる能力をもてるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：身の回りの物理現象を数理的に記述・処理する方法を学ぶ。思考・判断の観点：身の回りの種々の巨視的物理現象は共通する数理的側面をもつことを理解する。

授業の計画（全体） 輪読を基本に進める。自分の担当部分が説明できるよう予習復習が必要。

開設科目	物理学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	糸長雅弘				

授業の概要 地球大気を含めた惑星間空間に生起するさまざまな自然現象は、その大部分が太陽から放射される電磁波のエネルギーとプラズマの流れ（太陽風）に起因している。最近では、地上からの宇宙観測に止まらず、観測衛星やロケットによって、遠く大気圏外の宇宙環境を直接に探査することが日常化している。本講義では、太陽から放出されるエネルギーが地球の超高層大気と電離圏、磁気圏、惑星間空間の宇宙環境をどのように決めているかを論じる。 / 検索キーワード 宇宙、環境、太陽、太陽風、電離圏、磁気圏、放射線、宇宙天気

授業の一般目標 宇宙環境を決定するメカニズムとその背後にある物理素過程を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 宇宙環境を決定するメカニズムを説明できる。 2. メカニズムの背後にある物理素過程を説明できる。 **思考・判断の観点：** 1. 宇宙環境現象を物理的に思考できる。 2. 宇宙環境現象にどのような物理法則が関わっているか判断できる。 **関心・意欲の観点：** 1. 物の理（ものことわり）に関心を持つことができる。 2. 理科教育における宇宙環境科学の活用に意欲をもやすことができる。 **態度の観点：** 1. 物理的な問題にも粘り強く取り組むことができる。 2. 教育という視点で宇宙環境科学を考えることができる。 **技能・表現の観点：** 1. 物事を論理的に説明することができる。

授業の計画（全体） 宇宙環境を決定するメカニズムとその背後にある物理素過程の解説を中心とするが、理解の定着を図るため、一人一人指名して、受講者への質問も随時行う。毎回、講義資料を配布する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 宇宙環境科学入門
- 第 2 回 項目 太陽と太陽風
- 第 3 回 項目 太陽の活動現象
- 第 4 回 項目 電離圏
- 第 5 回 項目 電離圏の変動
- 第 6 回 項目 電波環境としての電離圏
- 第 7 回 項目 太陽風 - 磁気圏相互作用 授業外指示 授業外レポートを課す。
- 第 8 回 項目 磁気圏対流
- 第 9 回 項目 磁気圏嵐
- 第 10 回 項目 磁気圏の粒子環境
- 第 11 回 項目 地球近傍の粒子環境
- 第 12 回 項目 宇宙放射線環境
- 第 13 回 項目 宇宙天気予報
- 第 14 回 項目 宇宙環境と人間社会 授業外指示 授業外レポートを課す。
- 第 15 回 項目 レポート作成

成績評価方法（総合） 授業外レポートと出席を総合的に評価する。出席率が 80 % 未満の場合は、不合格になる。

教科書・参考書 参考書：宇宙環境科学, 恩藤忠典・丸橋克英, オーム社, 2000 年

メッセージ 「物理学特論演習 II」を併せて受講すること。

連絡先・オフィスアワー E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5350, 研究室: 教育学部 224 号室, オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50

開設科目	物理学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古川浩				

授業の概要 物理学特論 I の内容に関する代表的な原著論文を読み、統計物理学における基礎的な理論的手法を習得する。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点： 修得した知識を生かせるようになる 関心・意欲の観点： 発展的な思考が出来るようになる

開設科目	物理学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	糸長雅弘, 鷹岡亮				

授業の概要 コンピュータシミュレーションは、現代科学にとって、なくてはならない研究手段であり、宇宙環境科学においても、重要な役割を果たしている。また、シミュレーションの計算結果を目に見える形でわかりやすく表現する可視化も、その重要性が注目されている。宇宙環境科学におけるコンピュータシミュレーションと可視化について、実習を行う。 / 検索キーワード 宇宙環境科学, プログラミング, 数値計算, シミュレーション, 可視化, Java

授業の一般目標 宇宙環境科学におけるコンピュータシミュレーションと可視化の技法を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. コンピュータシミュレーションと可視化の技法を説明できる。 2. シミュレーションの結果を解釈できる。 思考・判断の観点: 1. 論理的な思考ができる。 2. シミュレーションの結果について、その妥当性を判断できる。 関心・意欲の観点: 1. いろいろなシミュレーション技法に関心を持つことができる。 2. 新たなシミュレーション技法の開発に意欲をもやすことができる。 態度の観点: 1. プログラミングの作業に粘り強く取り組むことができる。 2. 教育という視点でシミュレーションを考えることができる。 技能・表現の観点: 1. プログラムの簡潔な記述ができる。 2. 読みやすいプログラムを記述できる。

授業の計画(全体) コンピュータシミュレーションの演習を中心とするが、理解の定着を図るため、一人一人指名して、受講者への質問も随時行う。毎回、資料を配布する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 プログラミング 1(数値計算手法)
- 第 2 回 項目 プログラミング 2(太陽風の数値計算手法)
- 第 3 回 項目 プログラミング 3(太陽風のシミュレーション)
- 第 4 回 項目 プログラミング 4(電離圏の数値計算手法)
- 第 5 回 項目 プログラミング 5(電離圏のシミュレーション I)
- 第 6 回 項目 プログラミング 6(電離圏のシミュレーション II)
- 第 7 回 項目 プログラミング 7(磁気圏の数値計算手法)
- 第 8 回 項目 プログラミング 8(磁気圏のシミュレーション I)
- 第 9 回 項目 プログラミング 9(磁気圏のシミュレーション II) 授業外指示 課題を課す。
- 第 10 回 項目 プログラミング 10(Java の基本)
- 第 11 回 項目 プログラミング 11(Java による可視化)
- 第 12 回 項目 プログラミング 12(Java によるアニメーション)
- 第 13 回 項目 プログラミング 13(Java によるダブルバッファリング)
- 第 14 回 項目 プログラミング 14(Java によるマルチスレッド処理) 授業外指示 課題を課す。
- 第 15 回 項目 レポート作成

成績評価方法(総合) 課題と出席を総合的に評価する。出席率が 80% 未満の場合は、不合格になる。

メッセージ 「物理学特論 II」を併せて受講すること。自分の頭で考え、プログラミングに取り組むこと。

連絡先・オフィスアワー E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5350, 研究室: 教育学部 224 号室, オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50

開設科目	化学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	和泉研二				

授業の概要 結晶成長に関する文献講読を行なう。特に学校の実験室レベルで行える水溶液からの結晶成長に重点をおき、水溶液中の溶質の状態についても解説する。 / 検索キーワード 結晶成長、水溶液

授業の一般目標 結晶成長の機構を原子・分子レベルから理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：結晶成長の機構を説明できる。 思考・判断の観点：結晶形態の変化など巨視的に観察される現象を結晶成長の観点から考察できる。 関心・意欲の観点：身近な結晶や様々なかたちで役立っている結晶に興味をもつ。

授業の計画（全体） 授業は、教科書に沿って、講読形式で行なう。必要に応じてプリントを配付する。

成績評価方法（総合）教科書の理解度による評価、レポートによる評価、出席による評価を下記の割合で行なう。

教科書・参考書 参考書：結晶は生きている：その成長と形の変化のしくみ（ライブラリ物理の世界；3），黒田登志雄著，サイエンス社，1984年；結晶成長（応用物理学選書；2）復刊，大川章哉著，裳華房，2002年；結晶 成長、形、完全性，砂川一郎，共立出版，2003年；結晶成長，斉藤幸夫，裳華房，2002年；結晶成長，後藤芳彦，内田老鶴圃，2003年；「結晶は生きている」黒田登志雄著、サイエンス社「結晶成長」大川章哉著、裳華房

連絡先・オフィスアワー bec20@yamaguchi-u.ac.jp、研究室：教育学部 1 階

開設科目	化学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村上清文				

授業の概要 生体における機能発現に重要な生体関連物質間の相互作用や身近な界面現象について、構造・熱力学・速度論等の物理化学的観点から、学習する。小中学校の理科における指導内容にも関連させて、学習する。

授業の一般目標 物質間の相互作用とその機能や界面で起こる多様な現象についての理解を深めるとともに、学校現場における指導に役立てる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 物質間の相互作用や界面現象の諸事象を理解し、説明できる。

思考・判断の観点： 物質間の相互作用や界面現象の諸事象について物理化学的観点からの見方ができる。

関心・意欲の観点： 物質間の相互作用や界面現象の諸事象と理科教育との関わりに関心をもつ。

授業の計画（全体） 文献や資料の講読を中心として進めつつ、その中から生じた疑問や課題についての調査等を行いながら、理解を実践的に深める。化学特論演習 II とセットで実施する。

成績評価方法（総合） 授業への取り組みや課題レポートの内容によって評価する。

教科書・参考書 参考書： テキストは、いくつかの候補の中から学生の希望に応じて、選定する。

開設科目	化学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	和泉研二				

授業の概要 理科教育や日常生活に関連した結晶を具体的に取り上げ、その特性や構造を理解するとともに、実験を通して、それぞれの結晶に適した育成法や観察法を習得する。 / 検索キーワード 結晶、理科教育

授業の一般目標 結晶成長機構の基礎的理解に基づいた適切な育成法・観察法を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：具体的な結晶の構造や成長機構を説明でき、適切な育成法を説明できる。 思考・判断の観点：成長した結晶の良否を判断し、育成条件をコントロールするパラメータを、どのように調整すべきか判断できる。 関心・意欲の観点：結晶の育成を通じた理科教育に関心を持つ。 技能・表現の観点：適切な試料調整・観察・実験・記録ができる。

授業の計画（全体） 成長実験を各自で行なう。そのために必要な文献や器具・試薬についての調査や、結晶の成長の具合に応じて実験を進める。

成績評価方法（総合） 下記の観点で評価する。特に目的の結晶をうまく成長させるために、どのような手立てが必要になってくるのかを自ら追求する思考力や判断力を重視する。

教科書・参考書 教科書：実験応じてプリント配布 / 参考書：結晶：成長・形・完全性, 砂川一朗著, 共立出版, 2003 年；結晶は生きている：その成長と形の変化のしくみ (ライブラリ物理の世界；3), 黒田登志雄著, サイエンス社, 1984 年；結晶成長 (応用物理学選書；2) 復刊, 大川章哉著, 裳華房, 2002 年；結晶成長, 斉藤幸夫, 裳華房, 2002 年；結晶成長, 後藤芳彦, 内田老鶴園, 2003 年；「結晶 (成長・形・完全性)」砂川一朗著, 共立出版 「結晶は生きている」黒田登志雄著, サイエンス社 「結晶成長」大川章哉著, 裳華房

連絡先・オフィスアワー bec20@yamaguchi-u.ac.jp、研究室：教育学部 1 階

開設科目	化学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村上清文				

授業の概要 生体関連物質間の相互作用や身近な界面現象の具体例を文献講読や実習を通して学び、理論的・実験的手法を習得する。

授業の一般目標 物質間の相互作用とその機能や界面で起こる多様な現象についての理解を深めるとともに、学校現場における実地指導に役立てることができるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 物質間の相互作用や界面現象の諸事象を理解し、説明できる。

思考・判断の観点： 物質間の相互作用や界面現象の諸事象について物理化学的観点からの見方ができる。

関心・意欲の観点： 物質間の相互作用や界面現象の諸事象と理科教育との関わりに関心をもつ。 技

能・表現の観点： 演習課題の遂行によって応用技能を身につけるとともにレポートとしてまとめることができる。

授業の計画（全体） 文献や資料の講読から見いだした疑問や課題についての調査等を行いながら、理解を実践的に深める。化学特論 II とセットで実施する。

成績評価方法（総合） 授業への取り組みや課題レポートの内容によって評価する。

開設科目	生物学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	北沢千里				

授業の概要 身近におこる生命現象について、その特性や機構について学習すると共に、生物の基本的な単位である細胞や個体の各レベルにおいて動物の系統進化や種の分化について学習する。

授業の一般目標 生物の特性を理解し、その進化過程に関する知識を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：生物とは何か理解し、説明できる。 思考・判断の観点：生物の系統や種分化について考察できる。

授業の計画（全体）近年の生物学のトピックスを活用しながら、その仕組みについて解説する。また、各動物門の特徴について講義し、生物の進化について解説する。

成績評価方法（総合）レポート、発表、出席状況を総合的に判断し評価する。

教科書・参考書 参考書：随時プリント配布。

連絡先・オフィスアワー E-mail: chisak@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 13:00-14:30

開設科目	生物学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	北沢千里				

授業の概要 生物学にかかわる重要な文献や先端技術の現状に関する文献購読や実験実習等を行いながら、生物学特論 II の内容の理解を深める。

授業の一般目標 論文や著作の内容を理解し、自分自身で問題点を見つけ、それを探求する科学的態度を育成する。また、レポート作成、授業内における発表などを通じて、科学的なスキルやコミュニケーション能力を習得する。

授業の計画（全体） 随時配布された著作や論文を査読し、レポートにまとめ発表する。発表に基づき、受講者で論議し、理解を深め、また課題や問題点を明確になるように指導する。

成績評価方法（総合） レポート、発表、出席状況を総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書： 適時プリント配布。

連絡先・オフィスアワー E-mail: chisak@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 13:00-14:30

開設科目	地学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武田賢治				

授業の概要 地質構造と岩石変形組織の解析を通して地球内部でどのような変形テクトニクスがおこってきたのかを探ることができる。本講では、その解析手法と地殻のさまざまな深度レベルでの変形様式を解説する。

開設科目	地学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	千々和一豊				

授業の概要 化石燃料鉱床に関する基本的な事項を解説するとともに、燃料資源とわれわれの生活との関わりを考える。 / 検索キーワード 化石燃料、資源、エネルギー、石炭、石油

授業の一般目標 化石燃料の特徴と成因について、野外・室内実習を交えながら理解を深めるとともに、生活との関わりを確認しながら、21 世紀の課題の一つであるエネルギー問題の背景・対応を考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：化石燃料資源の特徴・成因・意義について理解し、説明できる。
関心・意欲の観点：学校教育におけるエネルギー問題の学習に有効な視点・教材を提案する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 . 化石燃料とは-燃料鉱床について
- 第 2 回 項目 2 . 炭素質岩の研究意義
- 第 3 回 項目 3 . 化石燃料とエネルギー・環境問題
- 第 4 回 項目 4 . 化石燃料の特徴・成因論 (1 . 石油)
- 第 5 回 項目 5 . 化石燃料の特徴・成因論 (2 . 石炭)
- 第 6 回 項目 6 . 有機熟成作用-Grade と Rank
- 第 7 回 項目 7 . 世界の燃料 鉱床
- 第 8 回 項目 8 . 日本の燃料 鉱床
- 第 9 回 項目 9 . 野外実習 (大嶺・宇部炭田)
- 第 10 回 項目 10 . 試料の処理 (1)
- 第 11 回 項目 11 . 試料の処理 (2)
- 第 12 回 項目 12 . 試料の鏡下観察 (1)
- 第 13 回 項目 13 . 試料の鏡下観察 (2)
- 第 14 回 項目 14 . 文献輪読 (1)
- 第 15 回 項目 15 . 文献輪読 (2)

開設科目	地学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武田賢治				

授業の概要 地学特論 I の内容をさらに深く理解するために、構造地質学・マイクロテクトクスに関連した文献講読と、実際のさまざまな変形岩を用いた構造解析法の実習を行う。

開設科目	地学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	千々和一豊				

授業の概要 有機地球科学に関する文献講読および野外観察実習より構成され、地学特論 II の内容を さらに深く理解する。 / 検索キーワード 有機地球科学、演習

授業の一般目標 有機地球科学の文献講読より、同分野の基本事項・最新の研究動向を理解するとともに、野外観察実習より地質（大地のつくり）の見方を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：有機地球科学の基本事項・研究動向を説明できる。 態度の観点：野外実習における観察ポイント、観察事項の簡潔な要約ができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 . 文献講読（ 1 ）
- 第 2 回 項目 2 . 文献講読（ 2 ）
- 第 3 回 項目 3 . 文献講読（ 3 ）
- 第 4 回 項目 4 . 文献講読（ 4 ）
- 第 5 回 項目 5 . 文献講読（ 5 ）
- 第 6 回 項目 6 . 文献講読（ 6 ）
- 第 7 回 項目 7 . 文献講読（ 7 ）
- 第 8 回 項目 8 . 野外観察実習（ 1 ）
- 第 9 回 項目 9 . 野外観察実習（ 2 ）
- 第 10 回 項目 10 . 野外観察実習（ 3 ）
- 第 11 回 項目 11 . 野外観察実習（ 4 ）
- 第 12 回 項目 12 . 野外観察実習（ 5 ）
- 第 13 回 項目 13 . 野外観察実習（ 6 ）
- 第 14 回 項目 14 . 野外観察実習（ 7 ）
- 第 15 回 項目 15 . まとめ

開設科目	理科教育実践研究	区分	その他	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	某				

授業の概要 学校現場で理科教育に関する実践を中心に授業を行う。 / 検索キーワード 理科教育実践

授業の一般目標 理科教育の具体的な課題を取り上げて、統計的に分析する実習

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：理科教育に関する知識理解 思考・判断の観点：具体的な課題を科学的に考察する思考力 関心・意欲の観点：積極的に課題を見いだそうとする意欲 態度の観点：見いだした課題を統計的手法によって解析する態度 技能・表現の観点：統計的手法を具体的な教育課題に適用する技能

授業の計画(全体) 現職教員を対象にした授業で、学校現場での活動を中心に授業を行う

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 理科教育における統計解析 - 統計検定(1) -
- 第2回 項目 理科教育における統計解析 - 統計検定(2) -
- 第3回 項目 イメージを用いた授業評価法(1)
- 第4回 項目 イメージを用いた授業評価法(2)
- 第5回 項目 附属小学校の研究授業参観
- 第6回 項目 附属中学校の研究授業参観
- 第7回 項目 理科教育に関する論文購読(1)
- 第8回 項目 理科教育に関する論文購読(2)
- 第9回 項目 理科教育に関する論文購読(3)
- 第10回 項目 理科教育に関する論文購読(4)
- 第11回 項目 理科教育に関する論文購読(5)
- 第12回 項目 教材作成(1)
- 第13回 項目 教材作成(2)
- 第14回 項目 教材作成(3)
- 第15回 項目 予備

成績評価方法(総合) レポート

開設科目	理科教育支援実践研究	区分	その他	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	野村厚志				

授業の概要 企業や社会における活動を通して、自然環境や情報に関する教育を支援する理論やシステムについて実践的に学習する。

授業の一般目標 理科教育を支援するためのトピックについて文献を読み、議論することができるようになる。

授業の計画(全体) 第1回目に、この授業で行う内容について相談し、テキストを選択する。その後、毎週テキストを読み、議論する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 はじめに：授業内容について
- 第2回 項目 テキストを読む
- 第3回 項目 テキストを読む
- 第4回 項目 テキストを読む
- 第5回 項目 テキストを読む
- 第6回 項目 テキストを読む
- 第7回 項目 テキストを読む
- 第8回 項目 テキストを読む
- 第9回 項目 テキストを読む
- 第10回 項目 テキストを読む
- 第11回 項目 テキストを読む
- 第12回 項目 テキストを読む
- 第13回 項目 テキストを読む
- 第14回 項目 テキストを読む
- 第15回 項目 まとめ

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/水曜日 13時～15時

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	古川浩				

授業の概要 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する論文を講読し、比較検討する際の基本的技法を理解する。研究テーマの位置づけや方法論について、主体的に考える姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。 思考・判断の観点：内外の論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点：研究テーマの位置づけについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。 その他の観点：修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について、討論を交えながら検討する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	古川浩				

授業の概要 研究テーマに沿って具体的な解析を推進し問題点を明らかにし、得られた結果の整理を行う。

授業の一般目標 自発的に研究を推進できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマに関する調査や解析の方法論が理解できる。 思考・判断の観点： 研究テーマに関する妥当な方法論や得られた結果の適切な整理の仕方について考えることができる。 関心・意欲の観点： 研究計画の遂行について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究テーマに関する調査や解析を適切に実践できる能力を身につける。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関する予備実験や予備調査の結果を踏まえて、本実験や本調査の研究計画を立案し、それに基づいて本実験や本調査を実施する。そして、得られた結果の整理を行う。研究計画の立案、実験方法や結果の整理の方法については、適宜討論を交えながら、検討し、研究計画を遂行し、結果をまとめていく。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	古川浩				

授業の概要 研究テーマに沿って具体的な解析を推進し、得られた結果の整理を行う。

授業の一般目標 研究の目的や結果の意義を正しく理解し、論文としてまとめる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマに関する調査や解析の方法論が遂行できる。 思考・判断の観点： 究テーマに関する妥当な方法論や得られた結果の適切な整理の仕方について考えることができる。 関心・意欲の観点： 研究計画の遂行について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究テーマに関する調査や解析を適切に実践しまとめ上げる能力を身につける。

成績評価方法 (総合) 修士論文の研究テーマに関する総仕上げを行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	古川浩				

授業の概要 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備実験や予備調査の計画を立て、それに基づいて予備実験や予備調査を行い、その結果について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、実験や調査の計画立案がある程度できる。研究テーマに関連する実験や調査の基本的な方法論が理解でき、それを適切に実践できる能力を身につける。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	池田幸夫				

授業の概要 学校理科教育全般の諸問題に関する検討をを通して、理科教育に関する認識を深める / 検索
キーワード 理科教育

授業の一般目標 理科教育に関する諸問題について分析する能力を養う

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：理科教育全般に関する知識理解 思考・判断の観点：独自の思考法に基づいて考察し分析する力の修得 関心・意欲の観点：積極的に問題を見いだす意欲 態度の観点：積極的に問題に取り組む態度 技能・表現の観点：調査したデータをまとめる統計的手法の修得と発表する技能を修得

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション

第2回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表

第3回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表

第4回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表

第5回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表

第6回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表

第7回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表

第8回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表

第9回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表

第10回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表

第11回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表

第12回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表

第13回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表

第14回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表

第15回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表

教科書・参考書 教科書：文化として学ぶ物理科学, 山下芳樹・池田幸夫, 丸善, 2003年; すぐわかる統計解析 / 参考書：授業中に紹介する

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	池田幸夫				

授業の概要 学校理科教育全般の諸問題に関する検討をを通して、理科教育に関する認識を深める / 検索
キーワード 理科教育

授業の一般目標 理科教育全般に関する諸問題を分析する能力を育成する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：理科教育に関する知識理解 思考・判断の観点：理科教育に関する諸問題を分析する思考力 関心・意欲の観点：積極的に課題を見つける意欲 態度の観点：理科教育の課題に取り組む姿勢 技能・表現の観点：データを分析する統計的手法の修得と発表する技能

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表
- 第2回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表
- 第3回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表
- 第4回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表
- 第5回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表
- 第6回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表
- 第7回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表
- 第8回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表
- 第9回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表
- 第10回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表
- 第11回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表
- 第12回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表
- 第13回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表
- 第14回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表
- 第15回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文や図書の購読と発表

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	池田幸夫				

授業の概要 学校理科教育全般の諸問題に関する検討をを通して、理科教育に関する認識を深める / 検索
キーワード 理科教育

授業の一般目標 理科教育全般に関する諸問題について分析する知識と能力を育成する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：理科教育に関する知識理解 思考・判断の観点：データを科学的に分析して考察する思考力 関心・意欲の観点：積極的に課題に関心をもつ 態度の観点：課題を科学的に分析する態度 技能・表現の観点：データを科学的に分析するための統計的手法の修得と結果を発表する技能

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文の購読と発表
- 第2回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文の購読と発表
- 第3回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文の購読と発表
- 第4回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文の購読と発表
- 第5回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文の購読と発表
- 第6回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文の購読と発表
- 第7回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文の購読と発表
- 第8回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文の購読と発表
- 第9回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文の購読と発表
- 第10回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文の購読と発表
- 第11回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文の購読と発表
- 第12回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文の購読と発表
- 第13回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文の購読と発表
- 第14回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文の購読と発表
- 第15回 項目 研究室ゼミ 内容 理科教育に関する論文の購読と発表

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	池田幸夫				

授業の概要 学校理科教育全般の諸問題に関する検討をを通して、理科教育に関する認識を深める / 検索
キーワード 理科教育

授業の一般目標 理科教育に関する課題を科学的に解決する思考力と方法を修得する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 理科教育に関する諸問題を課題として認識するために必要な知識
理解 思考・判断の観点： 課題を科学的に考察する思考力 関心・意欲の観点： 積極的に課題を見いだ
す意欲 態度の観点： 積極的に課題に取り組む態度 技能・表現の観点： 課題を科学的に分析する技能
と成果を表現する力

授業の計画（全体） 受講者の実状に合わせて、演習形式で行う

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 研修室ゼミ 内容 研究課題に関する資料収集と分析
- 第 2 回 項目 研修室ゼミ 内容 研究課題に関する資料収集と分析
- 第 3 回 項目 研修室ゼミ 内容 研究課題に関する資料収集と分析
- 第 4 回 項目 研修室ゼミ 内容 研究課題に関する資料収集と分析
- 第 5 回 項目 研修室ゼミ 内容 研究課題に関する資料収集と分析
- 第 6 回 項目 研修室ゼミ 内容 研究課題に関する資料収集と分析
- 第 7 回 項目 研修室ゼミ 内容 研究課題に関する資料収集と分析
- 第 8 回 項目 研修室ゼミ 内容 研究課題に関する資料収集と分析
- 第 9 回 項目 研修室ゼミ 内容 研究課題に関する資料収集と分析
- 第 10 回 項目 研修室ゼミ 内容 研究課題に関する資料収集と分析
- 第 11 回 項目 研修室ゼミ 内容 研究課題に関する資料収集と分析
- 第 12 回 項目 研修室ゼミ 内容 研究課題に関する資料収集と分析
- 第 13 回 項目 研修室ゼミ 内容 研究課題に関する資料収集と分析
- 第 14 回 項目 研修室ゼミ 内容 研究課題に関する資料収集と分析
- 第 15 回 項目 研究成果の発表

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	阿部弘和				

授業の概要 理科教育と卒業研究に関連する基礎的な理論や実験指導を行う。修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について検討する。

授業の一般目標 理科教育と卒業研究に関連する基礎的な理論や実験方法などを修得する。”研究テーマに関連する論文を講読し、比較検討する際の基本的技法を理解する。研究テーマの位置づけや方法論について、主体的に考える姿勢を身につける。”

授業の計画(全体) 与えられた課題、卒業研究の基礎的な理論を演習形式で指導し、また、成果を検討しながら、取り組み方や問題解決へ向けて具体的に指導する。

成績評価方法(総合) 課題解決への取り組み状況、成果等を総合的に評価する。

メッセージ 講読する論文著作等は受講者の卒業研究を考慮しながら適宜選択する

連絡先・オフィスアワー E-mail habe@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 13:00～14:30

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	阿部弘和				

授業の概要 理科教育と卒業研究に関連する基礎的な理論や実験指導を行う。研究テーマに関する予備実験や予備調査の結果を踏まえて、本実験や本調査の研究計画を立案し、それに基づいて本実験や本調査を実施し、得られた結果の整理を行う。

授業の一般目標 理科教育と卒業研究に関連する基礎的な理論や実験方法などを修得する。”研究テーマに関連する国内外の論文や予備実験や予備調査の結果を踏まえて、研究テーマに関する実験や調査の計画立案ができる。研究テーマに関する実験や調査を適切に実践できる能力を身につける。また、得られた結果の適切な整理の仕方を身につける。”

成績評価方法 (総合) 課題解決への取り組み状況、成果等を総合的に評価する。

メッセージ 講読する論文著作等は受講者の卒業研究を考慮しながら適宜選択する

連絡先・オフィスアワー E-mail habe@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 13:00～14:30

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	阿部弘和				

授業の概要 卒業研究に必要な分野および理科教育の理論、実験法などを指導する。研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備実験や予備調査の計画を立て、それに基づいて予備実験や予備調査を行い、その結果について検討する。

授業の一般目標 卒業研究に必要な分野および理科教育の理論、実験法などを修得する。”研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、実験や調査の計画立案がある程度できる。研究テーマに関連する実験や調査の基本的な方法論が理解でき、それを適切に実践できる能力を身につける。”

授業の計画(全体) 与えられた課題、卒業研究の基礎的な理論を演習形式で指導し、また、成果を検討しながら、取り組みかたや、問題解決へ向けて具体的に指導する。

成績評価方法(総合) 課題解決への取り組み状況、成果等を総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー E-mail habe@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 13:00~14:30

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	阿部弘和				

授業の概要 卒業研究と理科教育に関連する理論、実験の指導を行う。本実験や本調査で得られた結果をまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等についても習得する。

授業の一般目標 卒業研究と理科教育に関連する理論、実験方法などを修得する。研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる能力を身につける。

授業の計画(全体) 与えられた課題、卒業研究の基礎的な理論を演習形式で指導し、また、成果を検討しながら、取り組みかたや、問題解決へ向けて具体的に指導する。

成績評価方法(総合) 課題解決への取り組み状況、成果等を総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー E-mail habe@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 13:00~14:30

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	和泉研二				

授業の概要 修士論文の作成に向けて論文調査を行い、研究テーマを決定する。

授業の一般目標 文献調査を通して、問題点の把握、実験方法、結果の検討と考察の仕方等、研究を進める上で必要となる力の基礎を養う。研究の実現可能性を判断でき、適切なテーマが設定できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：調査する文献にある専門用語や実験方法を理解し、文献の内容を正しく把握できる。思考・判断の観点：文献の内容を科学的に考察し、問題点・疑問点を的確に指摘することができる。決定した研究テーマの進め方を科学的に思考することができ、その内容や予想される結果等を要領よく説明できる。関心・意欲の観点：文献内容に興味をもち、自ら掘り下げて考えていくことができる。研究テーマ決定の過程において、自分の興味関心や問題点を積極的に述べるができる。態度の観点：修士論文作成のための時間を自ら積極的に作り出すとともに、研究を進めるにあって生じる諸問題の解決に向けて主体的に努力することができる。技能・表現の観点：セミナーでの調査文献のプレゼンテーションにおいて、その内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

授業の計画（全体）興味関心がどのあたりにあるかを話し合いながら、研究テーマの候補をあげ、それらに関連する文献調査を行う。毎週行うセミナーにおいて、輪番で調査した文献を発表し、質疑応答を行う。研究テーマについて理解が深まった段階で、テーマの絞り込みを行い、最終的にテーマを決定する。

成績評価方法（総合）適切なテーマを選定するためには、教員とのコミュニケーションを取りながら、自分の興味関心がどのようなところにあるのかを、自分自身でよく考えることが重要である。従って、研究テーマに対する知識・理解や思考・判断力に加え、出席、研究への熱意や努力など、態度や意欲の観点も重視して、総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書：実験テーマに応じて、適宜紹介する。

メッセージ 教師となって小中学生に理科を教えるためには、小中学校の教科書の内容さえ理解していればよいのでしょうか。それで子供たちに理科の面白さを伝えることができるのでしょうか。理科の本当の面白さを実感したことのない教師では、子供たちに理科の面白さを伝えることは難しいのではないのでしょうか。現職教員以外の学部卒業者の学生の修論では、基本的には相談の上、本人の興味関心に沿った形で、実験を中心とした研究テーマを設定したいと思います。理科専門の授業や教職や教科に関する科目、教育実習等では経験できない科学的な研究活動を通して、不思議だと思う現象を探求・理解していく醍醐味や面白さを体感してほしいと思います。遭遇するであろう様々な疑問や困難を、自主的かつ積極的に解決しながら研究を進めていく体験は、教員等になって社会に出てからも、大きな自信になるでしょう。現職教員の方の研究テーマとしては、現場に近いテーマも含め、幅広く考えています。化学分野の教科書等で難しい実験や、改良が必要な実験など、教材開発もその一つです。なかなか得られない自分自身の時間です。実りある大学院での研究にしてほしいと思います。

連絡先・オフィスアワー 教育学部122室 e-mail:bec20@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜14-16時（これに限らず、可能な限り対応します）

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	和泉研二				

授業の概要 研究の主体となるデータの取得・解析を押し進める。

授業の一般目標 データの取得や解析等を自ら行い、整理することができる。データの整合性や合理性を科学的・客観的に判断することができ、かつ、研究計画に反映することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：得られた結果の良否を科学的に判断できる知識と理解力を身につける。 思考・判断の観点：得られた結果の意味を科学的に考察することができる。データから、論理的に飛躍することなく、科学的に議論や結論を導き出すことができる。得られた結果の良否を熟考し、その後の研究方針に反映することができる。 関心・意欲の観点：積極的に研究を押し進め、必要なデータの取得に努力することができる。データを整理・解析に意欲的に取り組み、結果を主体的に考察しようとする努力することができる。 態度の観点：結果を科学的・客観的に捉えようとする努力することができる。 技能・表現の観点：セミナーにおいて、研究の進捗状況を、適切な方法・表現でわかりやすくプレゼンテーションすることができる。

授業の計画（全体） 基本的には、データの取得・解析を押し進めるが、当初の研究計画とこれまでの実施状況を検討し、必要ならば研究計画を再構築する。いずれにしても、本期の後半には主要なデータが出揃うことを目標とする。

成績評価方法（総合） データの取得状況をはじめとする研究成果の進捗状況およびそのために費やした努力や創意工夫などを、総合的に評価する。また、結果を鵜呑みにしたり固執することなく、あくまでも科学的・客観的に捉えようとする姿勢をとることができるかも重要な評価項目とする。

連絡先・オフィスアワー 教育学部122室 オフィスアワー：木曜日14時～16時半（これに限らず、可能な限り対応します）

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	和泉研二				

授業の概要 実験方法等について具体的な研究計画を立案し、研究を開始する。

授業の一般目標 絞り込んだ研究テーマを遂行する上での問題点を理解し、主体的に必要な実験器具および実験方法を調べて実験準備を整え、予備実験等、具体的に研究を開始することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：テーマに関する先行研究を把握し説明できる。研究に関する観察・実験方法や調査方法について、それらの原理や得られる情報の質、長所や短所などを理解できる。思考・判断の観点：研究テーマに適した実験方法を判断し、具体的な実験計画を思考することができる。

関心・意欲の観点：先行研究や実験方法に関心を持ち、実験計画の立案および研究の開始に意欲的に取り組むことができる。態度の観点：研究計画の立案および研究の開始にあたり、そのための時間を積極的に作り出そうとすることができる。技能・表現の観点：セミナーにおいて、自らの研究計画を、適切な方法・表現でわかりやすくプレゼンテーションすることができる。

授業の計画（全体） 具体的な研究計画を立案する上で必要となる文献の追加調査を行う。実験方法や実験機器の原理や所在を確認し、実行可能な研究計画を立案する。立案した計画に基づき、実験機器や器具を手配するなど環境を整え、実質的な研究を開始する。

成績評価方法（総合） 立案した研究計画を科学的に理解し、わかりやすく説明することができるかを主要な評価基準とする。また、文献や実験方法・実験機器等に関する知識・理解とともに、文献調査や実験方法の検討など研究計画の立案に主体的に取り組もうとしたか、速やかに実質的な研究を開始することができたかも重視する。

連絡先・オフィスアワー 教育学部122室 オフィスアワー：木曜日14時～16時半（これに限らず、可能な限り対応します）

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	和泉研二				

授業の概要 必要な追加実験を行なうとともにデータの解析・分析を進め、修士論文を作成する。修士論文審査会で発表を行なう。

授業の一般目標 研究成果を正しく分析・理解することができ、適切に論文として纏めることができる。また、その内容をわかりやすく説明・発表できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究内容に関する科学的な知識を備え、研究全般について理解できる。 思考・判断の観点： 研究の内容を正しく理解し、その結果や結論の良否、残された問題点等について科学的に思考し判断できる。 関心・意欲の観点： 研究を積極的に進め、自らの力で論文を完成させようと努力することができる。 態度の観点： 研究成果を修士論文として完成させることの価値を理解し、自主的に行動することができる。研究成果を科学的・客観的に纏めようとする態度を保つことができる。 技能・表現の観点： 研究成果を首尾一貫した論文として完成させることができる。修士論文発表会等、発表時間内でわかりやすく研究成果を提示することができる。質疑・応答時などでの第三者からの質問に対し、的確な受け答えをすることができる。

授業の計画(全体) 本期の前半は、修士論文の作成に向けて、追加実験を行なうとともにデータの解析・分析を進める。後半は、論文の作成に取りかかるとともに、12月の中間発表会で研究成果を報告する。研究内容および進捗状況から、研究成果を修士論文としてまとめることができると認められたものは、1月中旬に設定される期限までに修士論文を提出し、2月に審査会で最終発表を行う。

成績評価方法(総合) 得られた研究成果が修士論文として十分な内容を持つか評価した上で、論文としての纏め方、中間発表会や最終審査会でのプレゼンテーションなどを含めて、総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー 教育学部122室 木曜日14時~16時半(オフィスアワーに限らず、可能な限り対応します。)

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	村上清文				

授業の概要 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する論文を講読し、比較検討する際の基本的技法を理解する。研究テーマの位置づけや方法論について、主体的に考える姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究課題に関する背景や理論を理解し、説明できる。 思考・判断の観点： 研究課題の背景や理論を基礎として、課題研究遂行の計画立案や手段の選択などを考え・判断できる。 関心・意欲の観点： 研究課題に関わる教育事象に広く関心をもつ。 態度の観点： 積極的に課題研究を遂行できる。 技能・表現の観点： 論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。 課題研究遂行に必要な技能を身につけ、分析・実験結果等を適切に表現できる。

授業の計画（全体） 1．研究課題に関する背景や理論等を調査・理解し、調査・実験の内容を検討し計画を立てる。 2．予備的な調査・実験内容を検討する。

成績評価方法（総合） 課題研究内容の理解、思考・判断、関心・意欲・態度等、総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	村上清文				

授業の概要 研究課題に関する予備調査・実験に基づく本調査・実験計画に従って、本調査・実験を実施する。

授業の一般目標 研究テーマに関する実験や調査を適切に実践できる能力を身につける。また、得られた結果の適切な整理の仕方を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：本調査・実験を行ないつつ、状況に応じて必要な知識を補い、理論・方法論等のより深い理解に達する。 思考・判断の観点：本調査・実験を行なう中で、状況に応じて、結果についての考察・判断を行なうことができる。 関心・意欲の観点：本調査・実験を行なう中で、研究課題に関わる教育事象についての関心を広げることが出来る。 態度の観点：積極的に課題研究を遂行できる。 技能・表現の観点：本調査・実験を行なう中で、必要な技能を高めるとともに、結果について適切に表現することを通して他者の意見を聞くことが出来る。

授業の計画(全体) 1.本調査・実験を実施する。 2.本調査・実験の結果を分析・評価する。 3.必要に応じて計画に修正を加えつつ、主要な結論を得る。

成績評価方法(総合) 課題研究内容の理解、思考・判断、関心・意欲・態度等、総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	村上清文				

授業の概要 研究課題に関する背景や理論等を基礎とした調査・実験計画に基づき、予備的な調査・実験を実施する。

授業の一般目標 予備的調査・実験を遂行し、その結果を分析評価する。これを基に、本調査・実験の計画をたてる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究課題に関する背景や理論を理解し、説明できる。 思考・判断の観点： 予備調査・実験の結果を適切に分析・評価できる。 関心・意欲の観点： 研究課題に関わる教育事象に広く関心をもつ。 態度の観点： 積極的に課題研究を遂行できる。 技能・表現の観点： 課題研究遂行に必要な技能を身につけ、分析・実験結果等を適切に表現できる。

授業の計画(全体) 1. 予備的な調査・実験を実施する。 2. 予備的調査・実験の結果を分析・評価する。 3. 本調査・実験の計画を立案する。

成績評価方法(総合) 課題研究内容の理解、思考・判断、関心・意欲・態度等、総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	村上清文				

授業の概要 本調査・実験で得られた結果をまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等についても習得する。

授業の一般目標 調査・研究結果およびそこから得られる結論や見解を、文章や口頭で適切に表現できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 調査・実験結果およびそこから得られる結論や見解を、文章や口頭で他者に対して説明する意義を理解し、かつ適切に表現する方法を理解できる。 思考・判断の観点： 調査・実験結果について適切に考え・判断し、妥当な結論や見解を導き出すことができる。 関心・意欲の観点： 自身の研究結果および結論や見解について、より広い教育的視野から捉え直そうとする関心と意欲を持つ。 態度の観点： 主体的に考え積極的に他者の意見を聞きつつ研究をまとめようとする態度を持つ。 技能・表現の観点： 自身の研究結果および結論や見解を、文章や口頭で適切に表現できる。

授業の計画(全体) 研究結果をまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等についても習得する。

成績評価方法(総合) 課題研究内容の理解、思考・判断、関心・意欲・態度等、総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	北沢千里				

授業の概要 研究課題に関する背景や理論等を基礎とした調査・実験計画に基づき、調査・実験を実施する。

授業の一般目標 データの取得や解析等を自ら行い、整理することができる。データの整合性や合理性を科学的・客観的に判断することができ、かつ、研究計画に反映することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：得られた結果の良否を科学的に判断できる知識と理解力を身につける。思考・判断の観点：得られた結果の意味を科学的に考察することができる。データから、論理的に飛躍することなく、科学的に議論や結論を導き出すことができる。得られた結果の良否を熟考し、その後の研究方針に反映することができる。関心・意欲の観点：積極的に研究を押し進め、必要なデータの取得に努力することができる。データを整理・解析に意欲的に取り組み、結果を主体的に考察しようと努力することができる。態度の観点：積極的に課題研究を遂行でき、結果を科学的・客観的に捉えようとするすることができる。技能・表現の観点：セミナーにおいて、研究の進捗状況を、適切な方法・表現でわかりやすくプレゼンテーションすることができる。

授業の計画（全体） 基本的には、データの取得・解析を押し進めるが、当初の研究計画とこれまでの実施状況を検討し、必要ならば研究計画を再構築する。いずれにしても、本期の後半には主要なデータが出揃うことを目標とする。

成績評価方法（総合） データの取得状況をはじめとする研究成果の進捗状況およびそのために費やした努力や創意工夫などを、総合的に評価する。また、結果を鵜呑みにしたり固執することなく、科学的・客観的に捉えようとする姿勢をとることができるかも重要な評価項目とする。

連絡先・オフィスアワー E-mail: chisak@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 13:00-14:30

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	北沢千里				

授業の概要 必要な追加実験や追跡調査を行なうとともにデータの解析・分析を進め、修士論文を作成する。修士論文審査会で発表を行う。

授業の一般目標 研究内容を正しく理解し、適切に論文として纏めることができる。また、その内容をわかりやすく説明・発表できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究内容に関する科学的な知識を備え、研究全般について理解できる。 思考・判断の観点： 研究の内容を正しく理解し、その結果や結論の良否、残された問題点等について科学的に思考し判断できる。 関心・意欲の観点： 研究を積極的に進め、自らの力で論文を完成させようと努力することができる。 態度の観点： 研究成果を修士論文として完成させることの価値を理解し、自主的に行動することができる。研究成果を科学的・客観的に纏めようとする態度を保つことができる。 技能・表現の観点： 研究成果を首尾一貫した論文として完成させることができる。修士論文発表会等、発表時間内でわかりやすく研究成果を提示することができる。質疑・応答時などでの第三者からの質問に対し、的確な受け答えをすることができる。

授業の計画(全体) 本期の前半は、修士論文の作成に向けて、追加実験や追跡調査を行なうとともにデータの解析・分析を進める。後半は、論文の作成に取りかかるとともに、12月の中間発表会で研究成果を報告する。研究内容および進捗状況から、研究成果を修士論文としてまとめることができると認められたものは、1月中旬に設定される期限までに修士論文を提出し、2月に審査会で最終発表を行う。

成績評価方法(総合) 得られた研究成果が修士論文として十分な内容を持つか評価した上で、論文としての纏め方、中間発表会や最終審査会でのプレゼンテーションなどを含めて、総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー E-mail: chisak@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 13:00-14:30

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	北沢千里				

授業の概要 研究課題に関する背景や理論等を調査・理解し、調査・実験の内容を検討し計画を立てるとともに、予備的な調査・実験内容を検討する。

授業の一般目標 研究課題の意義を十分把握し、課題遂行にあたって必要な知識や技能等の面に関して準備を行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究課題に関する背景や理論を理解し、その内容を正しく把握できる。 思考・判断の観点： 研究課題の背景や理論を科学的に考察し、問題点・疑問点を的確に指摘することができる。研究課題研究遂行の計画立案や手段の選択などを考え・判断できる。 関心・意欲の観点： 研究課題に関わる教育事象に広く関心を持ち、自ら掘り下げて考えていくことができる。研究課題決定の過程において、自分の興味関心や問題点を積極的に述べることができる。 態度の観点： 積極的に課題研究を遂行するとともに、研究を進めるにあたって生じる諸問題の解決に向けて主体的に努力することができる。 技能・表現の観点： セミナーでの調査文献のプレゼンテーションにおいて、その内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

授業の計画（全体） 興味関心が理科教育または教科専門等の分野の中のものあたりにあるのかを話し合いながら、研究テーマの候補をあげ、それらに関連する文献調査を行う。セミナーにおいて、調査した文献を発表し、質疑応答を行う。研究テーマについて理解が深まった段階で、テーマの絞り込みを行い、最終的にテーマを決定する。

成績評価方法（総合） 適切な研究課題を選定するためには、教員とのコミュニケーションを取りながら、自分の興味関心がどのようなところにあるのかを、自分自身でよく考えることが重要である。従って、研究テーマに対する知識・理解や思考・判断力に加え、出席、研究への熱意や努力など、態度や意欲の観点も重視して、総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー E-mail: chisak@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 13:00-14:30

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	北沢千里				

授業の概要 研究課題に関する背景や理論等を基礎とした調査・実験計画に基づき、予備的な調査・実験を実施する。

授業の一般目標 絞り込んだ研究課題を遂行する上での問題点を理解し、主体的に必要な実験器具および実験方法を調べて実験準備を整え、予備実験等、具体的に研究を開始することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究課題に関する背景や理論を理解し、説明できる。研究に関する観察・実験方法や調査方法について、それらの原理や得られる情報の質、長所や短所などを理解できる。 思考・判断の観点： 研究課題に適した実験方法を判断し、具体的な実験計画を思考することができる。予備調査・実験の結果を適切に分析・評価できる。 関心・意欲の観点： 先行研究や実験方法に関心を持ち、実験計画の立案および研究の開始に意欲的に取り組むことができる。 態度の観点： 研究計画の立案および研究の開始にあたり、積極的に取り組むことができる。積極的に課題研究を遂行できる。 技能・表現の観点： セミナーにおいて、自らの研究計画を、適切な方法・表現でわかりやすくプレゼンテーションすることができる。

授業の計画(全体) 具体的な研究計画を立案する上で必要となる文献の追加調査を行う。実験方法や実験機器の原理や所在を確認し、実行可能な研究計画を立案する。立案した計画に基づき、実験機器や器具を手配するなど環境を整え、実質的な研究を開始する。

成績評価方法(総合) 立案した研究計画を科学的に理解し、わかりやすく説明することができるかを主要な評価基準とする。また、文献や実験方法・実験機器等に関する知識・理解とともに、文献調査や実験方法の検討など研究計画の立案に主体的に取り組もうとしたか、速やかに実質的な研究を開始することができたかも重視する。

連絡先・オフィスアワー E-mail: chisak@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 13:00-14:30

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	武田賢治				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	武田賢治				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	武田賢治				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	武田賢治				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	千々和一豊				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	千々和一豊				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	千々和一豊				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	千々和一豊				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	野村厚志				

授業の概要 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する論文を講読し、比較検討する際の基本的技法を理解する。研究テーマの位置づけや方法論について、主体的に考える姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。 思考・判断の観点：内外の論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点：研究テーマの位置づけについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の

観点：論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

授業の計画（全体） 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について、討論を交えながら検討する。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226 号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/水曜日午後 1 時～2 時 30 分

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	野村厚志				

授業の概要 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備実験や予備調査の計画を立て、それに基づいて予備実験や予備調査を行い、その結果について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、実験や調査の計画立案がある程度できる。研究テーマに関連する実験や調査の基本的な方法論が理解でき、それを適切に実践できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマに関連する実験や調査の基本的な方法論が理解できる。

思考・判断の観点： 研究テーマに関連する実験や調査の妥当な方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点： 研究テーマに関する実験、調査の計画立案について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究テーマに関連した実験や調査を適切に実践できる基本的な能力を身につける。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備実験や予備調査の計画立案を行い、それに基づいて予備実験や予備調査を行い、その結果を適宜まとめていく。計画立案の仕方、実験・調査の基本的な方法、得られた結果やその整理の仕方について、討論を交えながら、適宜検討し、本実験や本調査の研究計画立案に向けての準備をする。また、実験・調査の基本的な方法について習得する。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226 号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/水曜 13 時～14 時 30 分

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	野村厚志				

授業の概要 研究テーマに関する予備実験や予備調査の結果を踏まえて、本実験や本調査の研究計画を立案し、それに基づいて本実験や本調査を実施し、得られた結果の整理を行う。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文や予備実験や予備調査の結果を踏まえて、研究テーマに関する実験や調査の計画立案ができる。研究テーマに関する実験や調査を適切に実践できる能力を身につける。また、得られた結果の適切な整理の仕方を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマに関する実験や調査の方法論が理解できる。 思考・判断の観点：研究テーマに関する実験や調査の妥当な方法論や得られた結果の適切な整理の仕方について考えることができる。 関心・意欲の観点：研究計画の遂行について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：研究テーマに関する実験や調査を適切に実践できる能力を身につける。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関する予備実験や予備調査の結果を踏まえて、本実験や本調査の研究計画を立案し、それに基づいて本実験や本調査を実施する。そして、得られた結果の整理を行う。研究計画の立案、実験方法や結果の整理の方法については、適宜討論を交えながら、検討し、研究計画を遂行し、結果をまとめていく。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/水曜日 13時～14時30分

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	野村厚志				

授業の概要 本実験や本調査で得られた結果をまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等についても習得する。

授業の一般目標 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現する方法論が理解できる。 思考・判断の観点： 研究結果から得られる見解を適切に考えることができる。

関心・意欲の観点： 研究をまとめることについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる。

授業の計画（全体） 本実験や本調査で得られた結果を最終的にまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等について習得する。

連絡先・オフィスアワー 教育学部 226 号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/水曜日 13 時～14 時 30 分

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	糸長雅弘				

授業の概要 初等中等教育段階における情報モラル教育について、その文献資料や実践例の調査検討を行い、情報モラル教育に関する研究戦略を策定する。/ 検索キーワード 情報モラル教育、情報セキュリティ

授業の一般目標 文献資料や実践例の調査検討を通じて、情報モラル教育の問題点を認識し、その在るべき姿を具体的に描く力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 情報モラル及び情報セキュリティの基本概念を理解し、説明することができる。2. 初等中等教育段階における情報モラル教育の意義を認識し、説明することができる。 思考・判断の観点：1. 情報モラル教育の諸問題を分析し、考察することができる。2. 情報モラルに適う行動とそうでない行動とを区別することができる。 関心・意欲の観点：1. 情報セキュリティ全般に関心を持ち、情報セキュリティに関する知識及び技能を自ら深めようとするすることができる。2. 情報モラル教育に意欲的に取り組み、児童生徒の情報モラルを向上させようとする努力をすることができる。 態度の観点：1. 文献資料や実践例の調査検討に積極的かつ真摯に取り組むことができる。2. 情報モラル教育及び情報セキュリティに関するセミナー、研究会等に積極的に参加しようとする態度を持つことができる。 技能・表現の観点：1. 明快かつ論理的に物事を表現することができる。2. ITを十分に活用することができる。

授業の計画（全体） 授業の前半では、毎回文献資料や実践例の調査検討を行い、後半に、初等中等教育段階における情報モラル教育の在り方を討論し、自ら取り組むべき研究テーマを絞り込んでいく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 文献資料又は実践例の調査検討（その1）
- 第2回 項目 文献資料又は実践例の調査検討（その2）
- 第3回 項目 文献資料又は実践例の調査検討（その3）
- 第4回 項目 文献資料又は実践例の調査検討（その4）
- 第5回 項目 文献資料又は実践例の調査検討（その5）
- 第6回 項目 文献資料又は実践例の調査検討（その6）
- 第7回 項目 文献資料又は実践例の調査検討（その7）
- 第8回 項目 文献資料又は実践例の調査検討（その8）
- 第9回 項目 情報モラル教育の問題点の洗出し
- 第10回 項目 情報モラル教育の問題点の整理
- 第11回 項目 情報モラル教育の在り方に関する討論（その1）
- 第12回 項目 情報モラル教育の在り方に関する討論（その2）
- 第13回 項目 情報モラル教育の在り方に関する討論（その3）
- 第14回 項目 研究テーマの検討
- 第15回 項目 研究テーマの決定

成績評価方法（総合） 課題研究に取り組む態度並びに授業におけるプレゼンテーション及び討論の内容を総合的に評価する。

メッセージ 情報セキュリティ全般に関心を持ち、児童生徒に情報モラルを身に付けさせたいという思いが大切です。

連絡先・オフィスアワー E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5350, 研究室: 教育学部 224号室

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	系長雅弘				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	系長雅弘				

授業の概要 次年度に実践する情報モラル教育の目標と理念とを定め、その具体的な展開例を検討し、実施案を策定する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	系長雅弘				

音樂教育專修

開設科目	音楽科教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋 雅子				

授業の概要 本授業では、音楽科教育の基本的な文献の購読を通じて、今日の音楽科教育の現状及び問題を明らかにし、音楽科教育のあり方について考察する。

授業の一般目標 音楽教育の基本的な問題を把握する能力の獲得、音楽教育についての基礎的な文献を y p 見込む力の獲得、その他

授業の計画（全体） 講義当初に示す予定。

成績評価方法（総合） 課題の達成度、授業への参加の熱意、内容の理解度等を総合的に評価。

教科書・参考書 教科書： 使用する場合には、最初の授業の際に紹介する。 / 参考書： 授業時間内に必要に応じ紹介する予定。

開設科目	音楽科教育特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	朴 成泰				

授業の概要 音楽教育思想および音楽教育史を主として取り上げる予定。

授業の一般目標 研究者としての自立。

授業の計画(全体) 受講学生に応じたシラバスを入学時に検討する予定。

成績評価方法(総合) 受講態度、授業内容の理解度などを総合的に評価する予定。

教科書・参考書 教科書： 使用する場合には最初の授業の際に指示する。 / 参考書： 必要に応じ、授業時間内に紹介する予定。

開設科目	音楽科教育特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋 雅子				

授業の概要 音楽科教育の表現領域や鑑賞領域の授業について、児童・生徒と教師の相互作用に関する行動分析理論の立場から実践的な研究を行う。

授業の一般目標 音楽科教育の表現領域や鑑賞領域の授業についての知見を獲得すること。

成績評価方法 (総合) 受講態度、授業内容の理解度、課題の達成度等を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書： 使用する場合には最初の授業の際に指示する。 / 参考書： 必要に応じ、授業時間内に紹介の予定。

開設科目	音楽科教育特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	朴 成泰				

授業の概要 音楽科教育を専門に研究するための方法論についての基礎技法を学習する予定。

授業の一般目標 音楽科教育を専門に研究するための方法論についての基礎的な技法の学習を予定。

授業の計画（全体） 学習者個々に応じた授業計画を受講時間最初に検討する予定。

成績評価方法（総合） 授業内容の理解度、課題の達成等を総合的に評価する予定。

教科書・参考書 教科書： 使用する場合には事前に指示する。 / 参考書： 必要に応じ、授業時間中に紹介する予定。

開設科目	声楽特別研究	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	林満理子				

授業の概要 イタリア古典歌曲及びイタリア近代歌曲、日本歌曲などを課題として、発声について研究する。また、歌唱における効果的な発音法を研究することにより、より良い演奏法、指導法を探究する。

授業の一般目標 歌唱における効果的な発音を習得する事ができる。

成績評価方法 (総合) 授業の参加度、技能習得度を勘案し総合的に評価する。

開設科目	声乐演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	林満理子				

授業の概要 歌曲及びイタリアオペラを課題として個々の演奏の幅を広げる。また、重唱も取り上げ、アンサンブルを作る上での楽しみ、難しさの課程を知る。

授業の一般目標 個々の演奏の幅を広げることができる。アンサンブルができる。

成績評価方法 (総合) 授業の参加度、技能習得度を勘案し総合的に評価する。

開設科目	器楽特別研究 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	西村順子				

授業の概要 ピアノ演奏の技術的な部分に重点を置いた研究を、文献による研究と実践により行う。

授業の一般目標 各自の研究目的と課題に沿って、授業のスタート時に目標を定める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ピアノの作品を簡単な分析ができる。 技能・表現の観点：演奏表現に必要な技能の説明ができる。

連絡先・オフィスアワー 内線 5 3 6 3 jun.n@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	器楽特別研究 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	成川ひとみ				

授業の概要 鍵盤楽器（ピアノ）の音楽史を中心とした研究。

授業の一般目標 鍵盤楽器の音楽史上の主要な作品や作曲家について、楽譜・文献等を資料にしながら分析・研究を行う。また、鍵盤楽器の発達過程上の観点も、演奏研究に取り入れる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 鍵盤楽器について
- 第 2 回 項目 中世末期
- 第 3 回 項目（ 同 上 ）
- 第 4 回 項目 ルネッサンス
- 第 5 回 項目（ 同 上 ）
- 第 6 回 項目 初期バロック時代
- 第 7 回 項目（ 同 上 ）
- 第 8 回 項目（ 同 上 ）
- 第 9 回 項目 後期バロック時代
- 第 10 回 項目（ 同 上 ）
- 第 11 回 項目（ 同 上 ）
- 第 12 回 項目 ロココ時代
- 第 13 回 項目 古典派
- 第 14 回 項目 ロマン派
- 第 15 回 項目 印象主義と現代

教科書・参考書 教科書：ピアノ音楽史, ウィリ・アーベル, 音楽之友社

連絡先・オフィスアワー nr1103@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線 5364

開設科目	器楽演習 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	西村順子				

授業の概要 ピアノ作品の演奏において必要な表現技法や演奏解釈を、実践を通して探求する。

授業の一般目標 ピアノ演奏作品を最低 1 曲は演奏完成を目指す。

連絡先・オフィスアワー 内線 5 3 6 3 jun.n@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	器楽演習 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	成川ひとみ				

授業の概要 器楽特別研究 II の演奏実践を行う。

授業の一般目標 器楽特別研究 II をふまえて、ピアノ作品の時代様式の違いに着目しながら、演奏表現の実践を行う。この実践活動を通して、表現の多様性や可能性を幅広く探求する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 中世末期
- 第 2 回 項目 ルネッサンス
- 第 3 回 項目 初期バロック時代 内容 G. フレスコバルディ
- 第 4 回 項目（ 同 上 ） 内容（ 同 上 ）
- 第 5 回 項目（ 同 上 ） 内容 J.C. シャンボニエール
- 第 6 回 項目（ 同 上 ） 内容（ 同 上 ）
- 第 7 回 項目（ 同 上 ） 内容（ 同 上 ）
- 第 8 回 項目（ 同 上 ） 内容（ 同 上 ）
- 第 9 回 項目 後期バロック時代 内容 パッハ兄弟
- 第 10 回 項目（ 同 上 ） 内容（ 同 上 ）
- 第 11 回 項目 ロココ時代 内容 F. クープラン
- 第 12 回 項目（ 同 上 ） 内容 J.P. ラモー
- 第 13 回 項目（ 同 上 ） 内容 D. スカルラッティ
- 第 14 回 項目（ 同 上 ） 内容（ 同 上 ）
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書：必要な楽譜を各自準備

連絡先・オフィスアワー nr1103@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線 5364

開設科目	作曲特別研究	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	池上敏				

授業の概要 古典から現代までの作曲技法について、理論的、思想的側面から分析的に研究し、音楽全般に対する高度な理解力や洞察力の深まりを図る。

授業の一般目標 古典から現代までの作曲技法について、理論的、思想的側面から分析的に研究できる能力の獲得、音楽全般に対する高度な理解力や洞察力の深まりが達成されることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：様々な作曲手法の理解。 思考・判断の観点：様々な作曲手法が生まれて来た背景を思考する能力の獲得。 関心・意欲の観点：様々な作曲法への積極的な関心。 技能・表現の観点：様々な作曲法で、簡単な作曲を行える高度な技能と豊かな表現力の獲得。

授業の計画（全体） 受講生の関心の所在により決定する。

成績評価方法（総合） 課題への解答内容、レポートの出来具合、受講の姿勢などを総合的に判断、評価する。

教科書・参考書 教科書：取り上げる領域によって決定。 / 参考書：授業時間中に必要に応じ適宜紹介する。

メッセージ 自発的な取り組みが成果を生む。受け身の姿勢ではなく、積極的に自分でやってみる事が極めて重要。

連絡先・オフィスアワー 教育学部・音楽棟109（池上）研究室、オフィスアワーは未定。

開設科目	作曲演習	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	池上敏				

授業の概要 声楽曲、器楽曲の習作の作曲や、高度な編曲技術の研究を行う。

授業の一般目標 声楽曲、器楽曲の習作の作曲や、高度な編曲技術の取得を目指し、必要に応じた高度な教材開発能力を習得することを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 様々な作曲法の基本的な知識の習得と理解。 思考・判断の観点： 音楽表現意図、教材作成意図に沿った作曲手法を的確に選択し、その判断が的確かどうか、を判断する思考力の獲得。 関心・意欲の観点： 様々な作曲法に対する関心と、その作曲法を試してみよう、という意欲。 技能・表現の観点： 様々な作曲法で作曲できる技能の習得と、幅広い表現力の獲得。

授業の計画（全体） 受講生個々の持つ課題に対応して決定する。

成績評価方法（総合） 実習課題への解答内容、取組の姿勢などを総合的に判断し、評価を行う。

教科書・参考書 教科書： 必要により決定する。 / 参考書： 授業時間中に必要に応じ適宜紹介する。

メッセージ 旺盛な意欲と受講者各位が将来求められるであろう能力を獲得する事が極めて重要。

連絡先・オフィスアワー 教育学部・音楽棟109（池上）研究室、オフィスアワーは未定。

開設科目	音楽学特論	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	斎藤完				

授業の概要 基本的な音楽学の方法論を実践的に学びます。

授業の一般目標 基本的な音楽学の方法論を身につける。

授業の計画（全体） 開講時に詳細なシラバスを配布します。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

連絡先・オフィスアワー mnsaito@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	音楽学特論演習	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	斎藤完				

授業の概要 履修生の研究課題に則した課題を設定し、考察を深めていきます。

授業の計画(全体) 各受講生が設定したテーマに基づいて授業の計画を立てます。

成績評価方法(総合) 授業で課す課題を評価の対象とします。

開設科目	音楽科教育実践研究	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	高橋 雅子				

授業の概要 あくまで現場の実践に結びついた音楽教育学をめざし、音楽教育方法学、音楽教育心理学、音楽教育内容学などの基礎研究をベースにして、より専門的に研究を深める。

授業の一般目標 現場の音楽科教育についての実践の理解、実践力の養成。

開設科目	音楽科教育支援実践研究	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	池上敏				

授業の概要 音楽科教育を側面から支援する様々な領域の研究を、資料等を検討することを通して行うと共に、音楽科教育への支援の方法を実践的に探究する。

授業の一般目標 音楽科教育を側面から支援する様々な領域の理解と、それらの領域からの支援の方法を理解し、実践すること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：様々な支援の形態の知識と理解 思考・判断の観点：様々な支援の方法を考え、最適な支援方法を判断する。 関心・意欲の観点：支援できる様々な領域への関心

授業の計画（全体） 受講生の学習歴、関心の所在などによって学年はじめに決定する。

成績評価方法（総合） 受講態度、レポートなどにより総合的に評価。

教科書・参考書 教科書：特に定めない。 / 参考書：必要に応じ、授業時間中に適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 教育学部・音楽棟109（池上）研究室、オフィスアワーは未定。

開設科目	課題研究	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	高橋 雅子				

開設科目	課題研究	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	高橋 雅子				

開設科目	課題研究	区分	講義	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	高橋 雅子				

開設科目	課題研究	区分	講義	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	高橋 雅子				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	林満理子				

授業の概要 修了演奏へ向けて演奏技術の向上と作品の探求。

授業の一般目標 興味のある作品を見付け、できるだけ多くの作品にふれる。

授業の到達目標 / 関心・意欲の観点：技能習得の方法やそれぞれの作品へ興味を持ち、自ら掘り下げて考えていく事ができる。 態度の観点：演奏技術の向上と作品を理解するため主体的に努力する事ができる。 技能・表現の観点：発声の基本をふまえて作品を演奏する事ができる。

成績評価方法 (総合) 授業の参加度、技能習得度を勘案し総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	林満理子				

授業の概要 演奏技術の向上と作品への理解.

授業の一般目標 多くの作品の演奏技術及び作品への理解を身に付ける.

授業の到達目標 / 関心・意欲の観点： 技能習得の方法やそれぞれの作品へ興味を持ち、自ら掘り下げて考えていく事ができる。 態度の観点： 演奏技術の向上と作品を理解するため主体的に努力する事ができる。 技能・表現の観点： 発声の基本をふまえて作品を演奏する事ができる。

成績評価方法 (総合) 授業の参加度、技能習得度を勘案し総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	林満理子				

授業の概要 これまでの研究をもとに修了演奏へ向けてのプログラムを作成する。

授業の一般目標 修了演奏のプログラムをおおまかに完成させる。

授業の到達目標 / 関心・意欲の観点： 技能習得の方法やそれぞれの作品へ興味を持ち、自ら掘り下げて考えていく事ができる。 態度の観点： 演奏技術の向上と作品を理解するため主体的に努力する事ができる 技能・表現の観点： 発声の基本をふまえて作品を演奏する事ができる。

成績評価方法 (総合) 授業の参加度、技能習得度を勘案し総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	林満理子				

授業の概要 修了演奏へ向けての技能習得。

授業の一般目標 修了演奏に必要な演奏技能を修得する。

授業の到達目標 / 関心・意欲の観点：技能習得の方法やそれぞれの作品へ興味を持ち、自ら掘り下げて考えていく事ができる。 態度の観点：演奏技術の向上と作品を理解するため主体的に努力する事ができる。 技能・表現の観点：発声の基本をふまえて作品を演奏する事ができる。

成績評価方法 (総合) 授業の参加度、技能習得度を勘案し総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	西村順子				

授業の概要 研究計画に基づき 2 年間で研究配分を行い、着手する。

授業の一般目標 計画に従って研究を進める事ができる。

連絡先・オフィスアワー 内線 5 3 6 3 jun.n@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	西村順子				

授業の概要 前期の成果を振り返る事から始まり、更に研究をすすめる。

授業の一般目標 自分で立てた計画が進められているか判断できる。

連絡先・オフィスアワー 内線5383 jun.n@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	西村順子				

授業の概要 研究計画に従って、前年度のまとめと今年度の目標を定める。

授業の一般目標 自分で立てた計画どおり遂行することができる。

連絡先・オフィスアワー 内線5363 jun.n@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	西村順子				

授業の概要 修了時に2年間の成果が出せるよう、今までの研究を振り返りながら最後のまとめを行う。

授業の一般目標 公開によるピアノ演奏を行う。

連絡先・オフィスアワー 内線5363 jun.n@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	成川ひとみ				

授業の概要 表現力の充実と展開を目的として、演奏技術の向上を目指す。

授業の一般目標 個々の到達目標に応じて、出来る限り多くの様々な作品に取り組む。

連絡先・オフィスアワー nr1103@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線 5364

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	成川ひとみ				

授業の概要 表現力の向上を目指して、演奏技術の充実を図る。

授業の一般目標 自らの表現力を啓発する作品に接する。また、出来れば、演奏発表の機会を持つ。

連絡先・オフィスアワー nr1103@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線 5364

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	成川ひとみ				

授業の概要 演奏技術の向上と、表現力の充実を目指す。

授業の一般目標 修士演奏に向けて、演奏技術を高め、演奏作品を選定する。

連絡先・オフィスアワー nr1103@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線 5364

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	成川ひとみ				

授業の概要 修士演奏に向けて、演奏技術を高め、表現を深める。

授業の一般目標 必要十分な技術の習得、作品への理解の深さ、表現の多様性と柔軟性、等。

連絡先・オフィスアワー nr1103@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線 5364

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	池上敏				

授業の概要 修士学位請求論文等の作成に必要な、研究テーマに対する基本的な知見、研究についての情報収集の方途などを指導する。

授業の一般目標 コンピュータを使っての情報検索技術の習得、論文執筆の基本的なマニュアルの理解を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマへの基本的な知識の獲得、研究目標の理解。 思考・判断の観点：研究を深める方法論の探究を自ら獲得できる思考能力の獲得、検索から得られた情報の価値判断、評価を行える能力の獲得。 関心・意欲の観点：先行研究の把握、学会や研究会への参加。 技能・表現の観点：研究内容をよりの確に表現するための文章能力の錬磨。

授業の計画（全体） 研究テーマによって決定する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス
- 第2回 項目 研究課題の検討1
- 第3回 項目 研究課題の検討2
- 第4回 項目 研究方法の検討1
- 第5回 項目 研究方法の検討2
- 第6回 項目 先行研究の収集1
- 第7回 項目 先行研究の収集2
- 第8回 項目 先行研究の検討1
- 第9回 項目 先行研究の検討2
- 第10回 項目 研究課題の再検討
- 第11回 項目 研究方法の再検討1
- 第12回 項目 研究方法の再検討2
- 第13回 項目 研究論文の全体構成の検討1
- 第14回 項目 研究論文の全体構成の研究2
- 第15回 項目 総括

成績評価方法（総合） 課題への取り組みの態度、研究の進捗状況などを総合的に判断、評価する。

教科書・参考書 教科書：特に定めない。 / 参考書：必要に応じ、授業時間中に紹介する。

メッセージ 研究はあくまで自発的に行うもの、という基本的な態度を忘れないこと。

連絡先・オフィスアワー 教育学部・音楽棟109（池上）研究室、オフィスアワーは未定。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	池上敏				

授業の概要 修士研究に必要な研究テーマに対する基本的な知見、研究に関わって行う予定の実験、フィールド・ワークにより収集したデータの検討の方途などを指導する。

授業の一般目標 論文執筆の基本的な意義の理解、自分が行っている研究の位置付けの理解を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマにかかわる知識の獲得、研究目的の理解。 思考・判断の観点：研究を深める方法論の探究を自ら行える思考能力の獲得、検索から得られた情報の価値判断、評価を行える能力の獲得。 関心・意欲の観点：先行研究への関心、学会や研究会への参加。 技能・表現の観点：研究内容をよりの確に表現するための文章能力の錬磨。

授業の計画（全体） 研究テーマによって決定する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 研究課題の再検討
- 第2回 項目 実験データ、またはフィールド・ワーク・データの整理1
- 第3回 項目 実験データ、またはフィールド・ワーク・データの整理2
- 第4回 項目 実験データ、またはフィールド・ワーク・データの整理3
- 第5回 項目 実験データ、またはフィールド・ワーク・データの検討1
- 第6回 項目 実験データ、またはフィールド・ワーク・データの検討2
- 第7回 項目 実験データ、またはフィールド・ワーク・データの検討3
- 第8回 項目 研究論文の執筆指導1
- 第9回 項目 研究論文の執筆指導2
- 第10回 項目 研究論文の執筆部分の添削指導1
- 第11回 項目 研究論文の執筆部分の添削指導2
- 第12回 項目 研究論文の執筆部分の添削指導3
- 第13回 項目 中間発表資料の作成と検討1
- 第14回 項目 中間発表資料の作成と検討2
- 第15回 項目 中間発表の準備

成績評価方法（総合） 研究課題に対する理解度、進捗状況などにより総合的に判断、評価する。

教科書・参考書 教科書：特に定めない。 / 参考書：必要に応じ、授業時間中に紹介する。

メッセージ 研究は自発的に行うものという基本的な態度、研究の意義や目的は何か、という初心を忘れないこと。

連絡先・オフィスアワー 教育学部・音楽棟109（池上）研究室、オフィスアワーは未定。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	池上敏				

授業の概要 修士学位研究、学位請求論文等の作成を指導する。

授業の一般目標 修士学位請求論文の執筆指導、及び添削。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマに関連した多様で公汎な知識の獲得、研究目的、意義の理解。 思考・判断の観点：研究を深める方法論の探究を自ら獲得できる思考能力の深まり、検索から得られた情報の価値判断、評価を十全に行える能力の獲得。 関心・意欲の観点：研究課題の周辺領域への積極的な関心、学会や研究会への積極的な参加。 技能・表現の観点：研究内容をよりの確に表現するための文章能力の高度な錬磨。

授業の計画（全体） 研究テーマによって決定する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 研究テーマの確認
- 第2回 項目 研究方法の再検討1
- 第3回 項目 研究方法の再検討2
- 第4回 項目 研究方法の再確認
- 第5回 項目 学位請求論文の全体構成の再検討
- 第6回 項目 実験データ、フィールド・ワーク・データの再検討1
- 第7回 項目 実験データ、フィールド・ワーク・データの再検討2
- 第8回 項目 実験データ、フィールド・ワーク・データの再検討3
- 第9回 項目 執筆箇所の添削指導1
- 第10回 項目 執筆箇所の添削指導2
- 第11回 項目 執筆箇所の添削指導3
- 第12回 項目 執筆箇所の添削指導4
- 第13回 項目 執筆箇所の添削指導5
- 第14回 項目 学位請求論文全体の再検討1
- 第15回 項目 学位請求論文全体の再検討2

成績評価方法（総合） 課題への取り組みの態度、研究の進捗状況、執筆内容などを総合的に判断、評価する。

教科書・参考書 教科書：特に定めない。 / 参考書：必要に応じ、授業時間中に紹介する。

メッセージ 研究はあくまで自発的に行うもの、研究を行う意味は何か、という基本的な態度と心構えを忘れないこと。

連絡先・オフィスアワー 教育学部・音楽棟109（池上）研究室、オフィスアワーは未定。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	池上敏				

授業の概要 修士学位研究、学位請求論文等の作成を指導する。

授業の一般目標 修士学位請求論文の執筆指導、及び添削。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマに関連した多様な公的な知識の獲得、研究目的の理解。

思考・判断の観点： 研究を深める方法論の探究を自ら獲得できる思考能力の深まり、検索から得られた情報の価値判断、評価を十全に行える能力の獲得。 関心・意欲の観点： 研究課題の周辺領域への積極的な関心、学会や研究会への積極的な参加。 技能・表現の観点： 研究内容をよりの確に表現するための文章能力の高度な錬磨。

授業の計画（全体） 研究テーマによって決定する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 研究テーマの確認
- 第 2 回 項目 研究方法の最終的な検討 1
- 第 3 回 項目 研究方法の最終的な検討 2
- 第 4 回 項目 研究方法の最終的な確認
- 第 5 回 項目 学位請求論文の全体構成の再検討
- 第 6 回 項目 執筆箇所の添削指導 1
- 第 7 回 項目 執筆箇所の添削指導 2
- 第 8 回 項目 執筆箇所の添削指導 3
- 第 9 回 項目 執筆箇所の添削指導 4
- 第 10 回 項目 執筆箇所の添削指導
- 第 11 回 項目 執筆箇所の添削指導 5
- 第 12 回 項目 執筆箇所の添削指導 6
- 第 13 回 項目 執筆箇所の添削指導 7
- 第 14 回 項目 学位請求論文全体の最終検討 1
- 第 15 回 項目 学位請求論文全体の最終検討 2

成績評価方法（総合） 課題への取り組みの態度、研究の進捗状況、執筆内容などを総合的に判断、評価する。

教科書・参考書 教科書： 特に定めない。 / 参考書： 必要に応じ、授業時間中に紹介する。

メッセージ 研究はあくまで自発的に行うもの、研究を行う意味は何か、という基本的な態度と心構えを忘れないこと。

連絡先・オフィスアワー 教育学部・音楽棟 109（池上）研究室、オフィスアワーは未定。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	齋藤完				

授業の概要 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する論文を講読し、比較検討する際の基本的技法を理解する。研究テーマの位置づけや方法論について、主体的に考える姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。 思考・判断の観点：内外の論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点：研究テーマの位置づけについて、主体的に考えることができる。 態度の観点：文献を読む習慣を身につける。 技能・表現の観点：論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

授業の計画（全体） 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について、討論を交えながら検討する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション
- 第 2 回 項目 資料収集
- 第 3 回 項目 図書館などでのガイダンス
- 第 4 回 項目 インターネット活用法
- 第 5 回 項目 資料整理
- 第 6 回 項目 先行研究概観
- 第 7 回 項目 先行研究の講読
- 第 8 回 項目 先行研究の講読
- 第 9 回 項目 先行研究の講読
- 第 10 回 項目 先行研究の講読
- 第 11 回 項目 先行研究の講読
- 第 12 回 項目 先行研究の講読
- 第 13 回 項目 先行研究の講読
- 第 14 回 項目 先行研究の講読
- 第 15 回 項目 先行研究の講読

成績評価方法（総合） 出席と演習での参加意欲を重視する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	齋藤完				

授業の概要 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備調査の計画を立て、それに基づいて予備調査を行い、その結果について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、調査の計画立案がある程度できる。研究テーマに関連する調査の基本的な方法論(フィールドワーク、アンケートなど)が理解でき、それを適切に実践できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマに関連する調査の基本的な方法論が理解できる。 思考・判断の観点：研究テーマに関連する調査の妥当な方法論について考えることができる。 関心・意欲の観点：研究テーマに関する調査の計画立案について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：研究テーマに関連した調査を適切に実践できる基本的な能力を身につける。

授業の計画(全体) 修士論文の研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備調査の計画立案を行い、それに基づいて予備調査を行い、その結果を適宜まとめていく。計画立案の仕方、調査の基本的な方法、得られた結果やその整理の仕方について、討論を交えながら、適宜検討し、本調査の研究計画立案に向けての準備をする。また、調査の基本的な方法について習得する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イントロダクション
- 第2回 項目 質的調査と量的調査
- 第3回 項目 アンケート調査
- 第4回 項目 フィールドワーク
- 第5回 項目 予備調査の実施
- 第6回 項目 予備調査の実施
- 第7回 項目 予備調査の実施
- 第8回 項目 予備調査の実施
- 第9回 項目 予備調査の実施
- 第10回 項目 予備調査の実施
- 第11回 項目 予備調査の実施
- 第12回 項目 予備調査の実施
- 第13回 項目 予備調査の実施
- 第14回 項目 本調査の立案
- 第15回 項目 本調査の立案

成績評価方法(総合) 予備調査、および本調査の妥当性から総合的に判断する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	齋藤完				

授業の概要 研究テーマに関する予備調査の結果を踏まえて作成した本調査の研究計画を立案に基づいて本調査を実施し、得られた結果の整理を行う。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文や予備調査の結果を踏まえて作成した調査の計画立案に基づき、研究テーマに関する調査を適切に実践できる能力を身につける。また、得られた結果の適切な整理の仕方を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマに関する実験や調査の方法論が理解できる。 思考・判断の観点：研究テーマに関する実験や調査の妥当な方法論や得られた結果の適切な整理の仕方について考えることができる。 関心・意欲の観点：研究計画の遂行について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：研究テーマに関する実験や調査を適切に実践できる能力を身につける。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関する予備調査の結果を踏まえて作成した本調査の研究計画に基づいて、本調査を実施する。そして、得られた結果の整理を行う。研究計画の立案、方法や結果の整理の方法については、適宜討論を交えながら、検討し、研究計画を遂行し、結果をまとめていく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 本調査案の確認
- 第 3 回 項目 本調査案の確認
- 第 4 回 項目 本調査の実施と経過報告
- 第 5 回 項目 本調査の実施と経過報告
- 第 6 回 項目 本調査の実施と経過報告
- 第 7 回 項目 本調査の実施と経過報告
- 第 8 回 項目 本調査の実施と経過報告
- 第 9 回 項目 調査結果の整理
- 第 10 回 項目 調査結果の整理
- 第 11 回 項目 調査結果の整理
- 第 12 回 項目 調査結果の整理
- 第 13 回 項目 調査結果の整理
- 第 14 回 項目 調査結果報告
- 第 15 回 項目 調査結果報告

成績評価方法（総合） 本調査実施により得られた結果の報告を総合的に判断する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	齋藤完				

授業の概要 本調査で得られた結果をまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等についても習得する。

授業の一般目標 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現する方法論が理解できる。 思考・判断の観点： 研究結果から得られる見解を適切に考えることができる。

関心・意欲の観点： 研究をまとめることについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる。

授業の計画（全体） 本調査で得られた結果を最終的にまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等について習得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 論文指導
- 第 2 回 項目 論文指導
- 第 3 回 項目 論文指導
- 第 4 回 項目 論文指導
- 第 5 回 項目 論文指導
- 第 6 回 項目 論文指導
- 第 7 回 項目 論文指導
- 第 8 回 項目 論文指導
- 第 9 回 項目 論文指導
- 第 10 回 項目 論文指導
- 第 11 回 項目 論文指導
- 第 12 回 項目 論文指導
- 第 13 回 項目 論文指導
- 第 14 回 項目 口頭発表指導
- 第 15 回 項目 口頭発表指導

成績評価方法（総合） 修士論文ならびに口頭発表から修得度を総合的に評価する。

美術教育専修

開設科目	美術教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	福田隆眞				

授業の概要 美術教育の理念について歴史、教育課程、民間教育運動等を通して解説する。また、東南アジアの美術教育についても現状と考え方について解説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 美術教育の理念歴史その 1
- 第 2 回 項目 同上その 2
- 第 3 回 項目 同上その 3
- 第 4 回 項目 同上その 4
- 第 5 回 項目 美術教育の教育課程その 1
- 第 6 回 項目 同上その 2
- 第 7 回 項目 同上その 3
- 第 8 回 項目 教える美術教育
- 第 9 回 項目 育む美術教育
- 第 10 回 項目 シンガポールの美術教育その 1
- 第 11 回 項目 同上その 2
- 第 12 回 項目 マレーシアの美術教育その 1
- 第 13 回 項目 同上その 2
- 第 14 回 項目 インドネシアの美術教育
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	美術教育特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	福田隆眞				

授業の概要 美術教育の教材について教科書を基にして考え方を探求する。本年度はシンガポールの教科書を事例とする。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 シンガポールの教科書の購読その 1
- 第 2 回 項目 同上 同上その 2
- 第 3 回 項目 同上その 3
- 第 4 回 項目 同上その 4
- 第 5 回 項目 同上その 5
- 第 6 回 項目 同上その 6
- 第 7 回 項目 同上その 7
- 第 8 回 項目 教材構成について その 1
- 第 9 回 項目 同上その 2
- 第 10 回 項目 同上その 3
- 第 11 回 項目 美術教科書と鑑賞 その 1
- 第 12 回 項目 同上その 2
- 第 13 回 項目 情報化社会と美術教育
- 第 14 回 項目 アジア世界と美術教育
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	美術教育特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉田貴富				

授業の概要 現代の教育思潮や近年の美術教育研究の成果をもとに、美術教育の今日的課題を論じる。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN。授業者、受講者の自己紹介、等。
- 第 2 回 項目 大学院における研究：教科専門と教科教育。レポートの書き方（1）
- 第 3 回 項目 大学院における研究：レポートの書き方（2）
- 第 4 回 項目 「学校」再考：学校教育の現状。学校教育のパラドクス。脱学校論からの今日的示唆。
- 第 5 回 項目 美術教師の現状。教員養成を考える。
- 第 6 回 項目 美術教育思潮の源流（1）：創造主義再考。
- 第 7 回 項目 美術教育思潮の源流（2）：造形主義再考。
- 第 8 回 項目 美術教育思潮の源流（3）：生活（認識）主義再考。
- 第 9 回 項目 美術教育思潮の源流（4）：DBAE 再考。
- 第 10 回 項目 描画発達理論再考
- 第 11 回 項目 造形遊びを支える論理
- 第 12 回 項目 レポート中間提出
- 第 13 回 項目 美術教育における評価
- 第 14 回 項目 カリキュラムの再構築に向けて
- 第 15 回 項目 まとめ。レポート提出に向けて。

教科書・参考書 教科書：『美術科教育の基礎知識』，宮脇理監修，建帛社，2000 年

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部南棟 2 階 電話&FAX：083-933-5372

E-mail：takatomi@yamaguchi-u.ac.jp メール送付の際「件名」に「授業科目名」か「自分の所属・氏名」を明記すること。見知らぬアドレスからの件名の無いメールは開かないことにしています。

オフィスアワーは設けません。連絡を取ってから訪ねてくれるのが確実ですが、通りすがりにノックしてくれても構いません。

開設科目	美術教育特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉田貴富				

授業の概要 日米の美術教育ジャーナルに掲載された論文を講読することにより、最新の動向を把握し、今日の問題について考える。対話的ギャラリートークの理論と方法を学び、演習を行う。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN。教材（論文）配付。
- 第 2 回 項目 教材 1（日本語文献）購読（1）
- 第 3 回 項目 教材 1 購読（2）
- 第 4 回 項目 教材 1 購読（3）
- 第 5 回 項目 教材 1 購読（4）
- 第 6 回 項目 教材 2（英語文献）購読（1）
- 第 7 回 項目 教材 2 購読（2）
- 第 8 回 項目 教材 2 購読（3）
- 第 9 回 項目 教材 2 購読（4）
- 第 10 回 項目 児童画コンクールについて
- 第 11 回 項目 対話的ギャラリートーク（1）
- 第 12 回 項目 対話的ギャラリートーク（2）
- 第 13 回 項目 対話的ギャラリートーク（3）
- 第 14 回 項目 対話的ギャラリートーク（4）
- 第 15 回 項目 まとめ：ディスカッション

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部南棟 2 階 電話&FAX：083-933-5372

E-mail：takatomi@yamaguchi-u.ac.jp メール送付の際「件名」に「授業科目名」か「自分の所属・氏名」を明記すること。見知らぬアドレスからの件名の無いメールは開かないことにしています。

オフィスアワーは設けません。連絡を取ってから訪ねてくれるのが確実ですが、通りすがりにノックしてくれても構いません。

開設科目	絵画特別研究	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	中野良寿				

授業の概要 (1) 絵画における古典技法(テンペラ、白亜地等)の実習。(2) 空間における平面作品のあり方をインスタレーションの実例をあげながら考察する。

授業の一般目標 (1) 絵画における古典技法(テンペラ、白亜地等)についての理解を深め、古典技法による作品を制作する。(2) 平面作品によりインスタレーションを行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 古典技法についての造詣を深める。 技能・表現の観点: 技法書に基づき古典技法を実際に使った作品をつくることことができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 白亜地実習(1)
- 第2回 項目 "
- 第3回 項目 "
- 第4回 項目 "
- 第5回 項目 "
- 第6回 項目 課題(2)
- 第7回 項目 "
- 第8回 項目 "
- 第9回 項目 "
- 第10回 項目 "
- 第11回 項目 自主制作
- 第12回 項目 "
- 第13回 項目 "
- 第14回 項目 "
- 第15回 項目 講評

成績評価方法(総合) (1) 授業態度 (2) 制作作品 (3) 出席

教科書・参考書 教科書: 絵画技法入門 佐藤一朗著 美術出版社

連絡先・オフィスアワー nakano-y@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	絵画演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	中野良寿				

授業の概要 自作に関連する美術作家について研究し、自由制作および作品発表計画をつくる。

授業の一般目標 (1) 自作に関連する美術作家について研究する。(2) 自由制作および作品発表計画をつくる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 美術作家についての造詣を深める 態度の観点: 作品を自主的に制作し、発表することができる。 技能・表現の観点: 新しい技術やスタイルを模索することができる。

授業の計画(全体) 自作に関連する美術作家について研究し、自由制作および作品発表計画をつくる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 課題(1)作家研究
- 第2回 項目 "
- 第3回 項目 "
- 第4回 項目 "
- 第5回 項目 "
- 第6回 項目 課題(2)自由制作
- 第7回 項目 "
- 第8回 項目 "
- 第9回 項目 "
- 第10回 項目 "
- 第11回 項目 "
- 第12回 項目 "
- 第13回 項目 "
- 第14回 項目 "
- 第15回 項目 講評会

連絡先・オフィスアワー nakano-y@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	彫刻特別研究	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	上原 一明				

授業の概要 木彫制作を通して道具の扱いや技術を学ぶ。日本の仏像彫刻の研究から古典技法を学ぶ。適時授業の中で、スライドによる木彫制作過程や仏像彫刻の紹介を紹介する。

授業の一般目標 木彫制作を通して日本伝統の技法を習得し、作品制作に生かす。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：木彫技法と、仏像彫刻の世界が分かる。 関心・意欲の観点：木という彫刻の素材について興味・関心をもつ。 技能・表現の観点：木彫道具の取り扱いが分かる。

授業の計画(全体) 木彫道具(ノミ研ぎ、鉋作り、鋸の扱い等)取り扱いを学ぶ。制作を通して、木彫の魅力を探る。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 道具の説明・講義
- 第3回 項目 ノミ研ぎ
- 第4回 項目 ノミ研ぎ、鉋研ぎ
- 第5回 項目 木彫制作
- 第6回 項目 同上
- 第7回 項目 同上
- 第8回 項目 同上・講義
- 第9回 項目 同上
- 第10回 項目 同上
- 第11回 項目 同上
- 第12回 項目 同上・講義
- 第13回 項目 同上
- 第14回 項目 同上
- 第15回 項目 作品評論

成績評価方法(総合) 作品提出。道具の管理状態。

連絡先・オフィスアワー 上原研究室

開設科目	彫刻演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	上原 一明				

授業の概要 人体を対象にフォルムや表現技術などについて指導する。人体モデルを使い、表面的な写実に終わることなく、人体の構造や感情表現など、より高度な表現技法の指導をする。

授業の一般目標 人体をテーマにして、フォルム、動勢、比例、均衡などより高度な表現技術を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：モデリング概念と石膏取り技法の習得。 関心・意欲の観点：人体彫刻に関心をもつ。 技能・表現の観点：対象をより深く観察し、人体の構造を捉え表現することができる。

授業の計画(全体) 塑像制作の基本を重視し、胸像更に全身像を制作し、石膏取り・FRP取り等行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 デッサン
- 第3回 項目 デッサン
- 第4回 項目 心棒作り、粘土練
- 第5回 項目 粘土による制作
- 第6回 項目 同上
- 第7回 項目 同上・講義
- 第8回 項目 同上
- 第9回 項目 同上
- 第10回 項目 同上・講義
- 第11回 項目 同上
- 第12回 項目 石膏取り
- 第13回 項目 同上
- 第14回 項目 同上
- 第15回 項目 仕上げ

成績評価方法(総合) 作品提出。制作態度。

連絡先・オフィスアワー 上原研究室

開設科目	デザイン特別研究	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	堀家敬嗣				

授業の概要 イメージ（映像）理論として注目すべき新旧の文献を精読し、その今日的な意義および可能性を検討する。

授業の一般目標 イメージ（映像）理論として注目すべき新旧の文献の今日的な意義および可能性の理解を目標とする。

教科書・参考書 参考書：シネマ2・時間イメージ, ジル・ドゥルーズ, 法政大学出版局, 2006年

開設科目	デザイン演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	熊谷武洋				

授業の概要 コンピュータ・グラフィックスおよびデジタル動画像を用いて視聴覚教材を想定した制作を行う。したがって芸術性ではなく有用性が評価の対象となる。また成果物だけではなくそれにいたる計画なども途中課題として学生自身によるプレゼンテーションを行う。/ 検索キーワード マルチメディア教材 コンピュータ

授業の一般目標 本講義は、コンピュータを駆使して視聴覚教材を制作できる、もしくはその工程を計画できる技術を修得し、その有用性や可能性についても理解を深めることを目標としている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：画像情報処理の基本技術、概念、有用性、社会性について自分自身の視座を獲得しているか 思考・判断の観点：与えられた条件から有用性のある成果物を計画・制作できるか 技能・表現の観点：自分が策定した計画にしたがってコンテンツ（含視聴覚教材）を完成レベルにまで制作できるか

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 メディア教育とコンピュータ
- 第2回 項目 メディア教育における事例紹介
- 第3回 項目 要素技術に関する概説-1-
- 第4回 項目 要素技術に関する概説-2-
- 第5回 項目 視聴覚教材制作計画案について
- 第6回 項目 制作計画案作成作業-1-
- 第7回 項目 一次発表
- 第8回 項目 制作計画案作成作業-2-
- 第9回 項目 制作計画案作成作業-3-
- 第10回 項目 二次発表
- 第11回 項目 実制作-1-（適宜 質疑応答）
- 第12回 項目 実制作-2-（適宜 質疑応答）
- 第13回 項目 実制作-3-（適宜 質疑応答）
- 第14回 項目 最終発表
- 第15回 項目 まとめ

メッセージ 作品自体の完成度もさることながら成果物が自分の立場や考え方の中にきちんと位置付けられていることが重要です。

開設科目	工芸特別研究 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉賀将夫				

授業の概要 総合的な工芸の観点から陶芸をとらえ、作品制作と理論的な面と併せて研究する。

授業の一般目標 総合的な工芸の観点から陶芸をとらえ、作品制作と理論的な面と併せて研究し陶芸への理解をを深める。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 全体説明

第 2 回 項目 制作論講義 及び制作研究 (含 焼成)

第 3 回 項目 "

第 4 回 項目 "

第 5 回 項目 "

第 6 回 項目 "

第 7 回 項目 "

第 8 回 項目 "

第 9 回 項目 "

第 10 回 項目 "

第 11 回 項目 "

第 12 回 項目 "

第 13 回 項目 "

第 14 回 項目 "

第 15 回 項目 研究結果講評

開設科目	工芸演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉賀将夫				

授業の概要 総合的な工芸の観点から陶芸をとらえ、陶芸の制作を行う。

授業の一般目標 総合的な工芸の観点から陶芸をとらえ、陶芸制作を行い作品を完成する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 全体説明
- 第 2 回 項目 制作論講義 及び制作研究（含 焼成）
- 第 3 回 項目 "
- 第 4 回 項目 "
- 第 5 回 項目 "
- 第 6 回 項目 "
- 第 7 回 項目 "
- 第 8 回 項目 "
- 第 9 回 項目 "
- 第 10 回 項目 "
- 第 11 回 項目 "
- 第 12 回 項目 "
- 第 13 回 項目 "
- 第 14 回 項目 "
- 第 15 回 項目 研究結果講評

開設科目	工芸特別研究 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	河野令二				

授業の概要 工芸の意味・特質について、もののデザイン、制作をとおして考察する。 / 検索キーワード
 工作・工芸教育、教材。

授業の一般目標 工芸制作とその記述をとおして、工作・工芸教育の教材の視点、視野を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：学習課題に対して広い視野と明確な視点から記述できる。 思考・
 判断の観点：工作・工芸学習の教材における視点と視野について、制作過程の記述をとおして論理的に
 展開できる。 関心・意欲の観点：学習を工芸・工作教育へ位置づけることができる。 態度の観点：
 課題を明らかにし、主体的に取り組む。 技能・表現の観点：・豊かな発想と構想力をもって制作がで
 きる。 ・材料の加工を実験的に望み、その可能性を確かめる。

授業の計画（全体）もののデザインと制作を行う。そして、その記述の報告、講評を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 学習課題について
- 第 2 回 項目 制作および記述（ 1 ）
- 第 3 回 項目 制作および記述（ 2 ）
- 第 4 回 項目 制作および記述（ 3 ）
- 第 5 回 項目 制作および記述（ 4 ）
- 第 6 回 項目 制作および記述（ 5 ）
- 第 7 回 項目 制作および記述（ 6 ）
- 第 8 回 項目 制作および記述（ 7 ）
- 第 9 回 項目 制作および記述（ 8 ）
- 第 10 回 項目 制作および記述（ 9 ）
- 第 11 回 項目 制作および記述（ 10 ）
- 第 12 回 項目 制作および記述（ 11 ）
- 第 13 回 項目 制作および記述（ 12 ）
- 第 14 回 項目 制作および記述（ 13 ）
- 第 15 回 項目 レポート発表。討議

成績評価方法（総合）学習の最後のレポートの発表をおよび討議を重点的な観点にします。制作過程の記
 述と隔週課題への主体的な取り組みや、課題への解決の論理的な展開等を総合的な観点から評価します。

メッセージ 課題を制作の過程で明らかにしていくこと。楽しくものづくりに取り組んでください。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 A 棟 2 階 研究室および木材工芸実習室に在室している暇な
 時、随時。

開設科目	工芸演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	河野令二				

授業の概要 ものに関わる複合的な要素、条件を理解し、工芸の制作および考察を行う。 / 検索キーワード デザイン、複合的要素、工芸

授業の一般目標 ・機能性、社会性、環境等のものに関わる複合的な要素を理解する。 ・制作について、広い視野から考察し、報告をする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ものに関わる複合的な要素、条件を理解する。 思考・判断の観点： ものの条件、要素をデザインに生かし、制作をする。 関心・意欲の観点： ・工作・工芸教育の場を構想し、制作ができる。 ・材料の加工に実験的に望み、材料の可能性を確かめる。 態度の観点： 課題を明らかにし、主体的に取り組む。 技能・表現の観点： 豊かな発想と構想力をもって制作し、その成果を論理的に報告する。

授業の計画（全体） もののデザインと制作を行う。そして、その報告、講評を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 デザインの複合性 学習課題について
- 第 2 回 項目 制作 (1)
- 第 3 回 項目 制作 (2)
- 第 4 回 項目 制作 (3)
- 第 5 回 項目 制作 (1)
- 第 6 回 項目 制作 (4)
- 第 7 回 項目 制作 (5)
- 第 8 回 項目 制作 (6)
- 第 9 回 項目 制作 (7)
- 第 10 回 項目 制作 (9)
- 第 11 回 項目 制作 (10)
- 第 12 回 項目 制作 (11)
- 第 13 回 項目 レポートの作成 (1)
- 第 14 回 項目 レポートの作成 (2)
- 第 15 回 項目 レポートの報告 講評

成績評価方法（総合） 制作と学習の最後の報告を主に、総合的な観点で評価します。

メッセージ 課題を制作の過程で明らかにすることこと。楽しくものづくりに取り組んでください。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 A 棟 2 階 研究室および木材工芸実習室に在室している暇な時、随時。

開設科目	美術史特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	菊屋吉生				

授業の概要 日本美術史、とくに近世、近代絵画史上の諸問題について講義をする。また受講生に対応して史料を読み解きながら、講義を行うことも想定される。

授業の一般目標 (1) 日本美術史の諸問題を理解し、それに対する自らの考察を加える基本的能力を養う。
(2) 美術史の基本史料を読みこなし、そこに存在する問題を抽出し、検討する能力の養成。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本美術史に関する全般的な理解を基礎としつつ、各論としての美術史のテーマをもつ。 思考・判断の観点：美術史の理解として得たテーマを、史料をもとに考察し、検討する。 関心・意欲の観点：設定したテーマに対する基礎的な研究意欲を醸成する。 態度の観点：史料の読解、探索など積極的な授業参加を期待する。 技能・表現の観点：史料の読解、分析の基礎的能力を養う。それに伴う、文献探索能力の育成にもつとめる。

授業の計画(全体) 日本美術史の問題をとくに設定したテーマで講義を行ない。その後それに伴う史料購読を行ない、さらに研究討議をしながら論点の整理と分析を行なう。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 全体説明
- 第2回 項目 日本美術の問題点(1)
- 第3回 項目 日本美術の問題点(2)
- 第4回 項目 日本美術の問題点(3)
- 第5回 項目 日本美術の問題点(4)
- 第6回 項目 研究討議
- 第7回 項目 史料購読(1)
- 第8回 項目 史料購読(2)
- 第9回 項目 史料購読(3)
- 第10回 項目 史料購読(4)
- 第11回 項目 史料購読(5)
- 第12回 項目 史料購読(6)
- 第13回 項目 史料購読(7)
- 第14回 項目 研究討議
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 史料の内容を理解し、十分な吟味検討ができるかどうか。美術史に関する総合的かつ基礎的な研究能力を身につけることができたかどうかを判断したい。

教科書・参考書 参考書：参考書については授業のなかでその都度示す。

連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階

開設科目	美術史演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	菊屋吉生				

授業の概要 受講生の研究領域に対応したテーマを設けて、研究発表形式で授業をもち、討論、討議も行う。

授業の一般目標 (1) 設定したテーマに対する研究方法の見極めと、アプローチの仕方を検討する。(2) 修士論文作成を念頭に、問題点の整理と分析を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自らの研究テーマの全体を把握し、的確な知識と理解のもと、他者への説明が簡潔になされることをめざす。 思考・判断の観点：研究テーマの確立と、その研究のための基礎的な考え方の方向性の確立をめざす。 関心・意欲の観点：史料の研究、探索に関して意欲的なあり方を期待したい。 態度の観点：研究テーマへの積極的な文献、作品調査を期待したい。 技能・表現の観点：的確なプレゼンテーション能力の獲得をめざす。

授業の計画(全体) 研究テーマに関する研究発表を基本として、適宜討議や分析を加えていく。ときとして実地にテーマに関わる研究調査を行なう場合もある。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 全体説明
- 第2回 項目 研究発表
- 第3回 項目 研究発表
- 第4回 項目 研究発表
- 第5回 項目 研究発表
- 第6回 項目 研究発表
- 第7回 項目 討議と分析
- 第8回 項目 研究発表
- 第9回 項目 研究発表
- 第10回 項目 研究発表
- 第11回 項目 研究発表
- 第12回 項目 研究発表
- 第13回 項目 討議と分析
- 第14回 項目 まとめ
- 第15回

成績評価方法(総合) プレゼンテーションの内容、その精緻さを評価したい。またゼミでの発言、質問の内容等も評価の対象としたい。

教科書・参考書 参考書：参考書に関しては適宜授業で示す。

連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階

開設科目	美術教育実践研究	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田隆眞・吉田貴富				

授業の概要 美術教育の実践的問題について把握し、附属学校などの協力を得て、教材開発、指導法、教育の今日的課題の認識について習得する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 美術教育の内容1
- 第2回 項目 同上2
- 第3回 項目 同上3
- 第4回 項目 同上4
- 第5回 項目 教材開発1
- 第6回 項目 同上2
- 第7回 項目 同上3
- 第8回 項目 指導方法1
- 第9回 項目 同上2
- 第10回 項目 同上3
- 第11回 項目 同上4
- 第12回 項目 評価方法1
- 第13回 項目 同上2
- 第14回 項目 同上3
- 第15回 項目 まとめ

開設科目	美術教育支援実践研究	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	福田隆眞・菊屋吉生				

授業の概要 美術教育の広義な実践として社会教育、美術館教育などにおける教育支援の実際について習得する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 社会教育場面における美術教育支援 その1
- 第2回 項目 同上その2
- 第3回 項目 同上その3
- 第4回 項目 同上その4
- 第5回 項目 美術館における美術教育支援その1
- 第6回 項目 同上その2
- 第7回 項目 同上その3
- 第8回 項目 同上その4
- 第9回 項目 同上その5
- 第10回 項目 同上その6
- 第11回 項目 同上その7
- 第12回 項目 支援と教材開発その1
- 第13回 項目 同上その2
- 第14回 項目 同上その3
- 第15回 項目 まとめ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	菊屋吉生				

授業の概要 大学院修士1年次前期における美術史における基礎的な事項に関する自主学習を指導する。特定のテーマ、書籍などを指定してその内容を研究する。

授業の一般目標 (1) 大学院修士1年次における美術史に関する基礎的研究能力の養成 (2) 大学院修士1年次における美術史に関する基礎的知識の獲得

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：美術史の特定の分野における将来の研究活動にそなえた基礎的な知識や理解を深める。 思考・判断の観点：テーマや書籍を研究することによって、実作品、研究文献資料もふくめた上での、基礎的な考察方法の確立に役立てる。 関心・意欲の観点：文献資料等の探索、内容研究によって、特定のテーマに対する理解と関心を喚起する。 態度の観点：積極的な自主学習を期待する。 技能・表現の観点：文献探索、作品調査などについての基礎的な研究能力の育成につとめる。

授業の計画(全体) とくに定期的な授業形式はとらない。一定の成果の報告や発表という形式にて、自主学習と自己研究の進捗状況をみたい。

成績評価方法(総合) 研究テーマに対する知識や理解、ならびに思考、判断力を評価する。また研究への熱意や努力も勘案しつつ、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：とくに指定しないが、その都度、書籍や論文を紹介する。 / 参考書：とくに指定しないが、その都度、書籍や論文を紹介する。

連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	熊谷武洋				

授業の概要 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する論文を講読し、比較検討する際の基本的技法を理解する。研究テーマの位置づけや方法論について、主体的に考える姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。 思考・判断の観点：内外の論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点：研究テーマの位置づけについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の

観点：論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

授業の計画（全体） 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について、討論を交えながら検討する。

成績評価方法（総合） 研究テーマにおける積極的な態度

連絡先・オフィスアワー kumagai@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	中野良寿				

授業の概要 各自の表現による作品制作。制作された作品の方向性についての考察を行う。作品の展示計画を考える。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 自主制作
- 第2回 項目 "
- 第3回 項目 "
- 第4回 項目 "
- 第5回 項目 "
- 第6回 項目 講評会
- 第7回 項目 "
- 第8回 項目 "
- 第9回 項目 "
- 第10回 項目 "
- 第11回 項目 講評会
- 第12回 項目 "
- 第13回 項目 "
- 第14回 項目 "
- 第15回 項目 講評会

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	福田隆眞				

授業の概要 修士論文の作成のために、国内外の関連論文を収集する。それらの資料を整理し、各自の研究テーマとの関連を見出し、問題提起の位置づけ、正確さを読み取り検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する資料を購読し、比較検討を行う。さらにテーマとの関連付けを行い、論文作成の方法論を身に着ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 関連する論文、資料を講読して、知識を身につけ、理解する。

思考・判断の観点： 論文、資料を講読し内容を把握し、価値判断する。 関心・意欲の観点： 研究テーマに関して、主体的に研究す意欲を持つ。 態度の観点： 論文を書くために、地道な研究態度身に付ける。 技能・表現の観点： 自分の考えを適切に文章表現する。

授業の計画（全体） 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する論文、資料を購読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論についても討論を交えながら検討する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 問題の探求その 1
- 第 2 回 項目 同上その 2
- 第 3 回 項目 同上その 3
- 第 4 回 項目 資料の収集その 1
- 第 5 回 項目 同上その 2
- 第 6 回 項目 同上その 3
- 第 7 回 項目 資料の分析その 1
- 第 8 回 項目 同上その 2
- 第 9 回 項目 小論文作成その 1
- 第 10 回 項目 同上その 2
- 第 11 回 項目 同上その 3
- 第 12 回 項目 同上その 4
- 第 13 回 項目 同上その 5
- 第 14 回 項目 同上その 6
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	河野令二				

授業の概要 各自のテーマにもとづいた、制作、修士論文に関わる指導、支援をゼミを中心に行う。 / 検索キーワード 材料、木、工作・工芸、工作・工芸教育

授業の一般目標 ・制作、論文のための、文献、資料を収集し、研究課題を明確にする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文献、資料の読解をとおして、工作・工芸、工作工芸教育の領域のみならず広く美術教育にかかわる専門的な知識を習得、理解する。 思考・判断の観点：研究課題に関わる制作、論述を通して、論理的思考力を養う。 関心・意欲の観点：社会的な広い視野を持って、研究課題に取り組む。 態度の観点：研究課題に、主体的、計画的に取り組む。 技能・表現の観点：制作、論述をとおして自分の考えを豊かに表現し、的確に他者に伝えることができる。

授業の計画（全体） 定期的な授業の形態をとらない。自主的な学習の成果を報告し、意見交換、討議等の形で進めていく。

成績評価方法（総合） 研究課題に対する取り組みとその成果を総合的な観点から評価する。

メッセージ 研究課題を明確に。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 A 棟 2 階 研究室および木材工芸実習室に在室している暇な時、随時。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	吉田貴富				

授業の概要 美術教育研究の基礎について多様な側面及び具体的な事例から学ぶ。附属学校の公開授業・協議会および教育実習の授業・協議会等に積極的に参加し、教育現場及び教員養成のアクチュアルな問題への認識を深める。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部南棟2階 電話&FAX：083-933-5372
E-mail：takatomi@yamaguchi-u.ac.jp メール送付の際「件名」に「授業科目名」か「自分の所属・氏名」を明記すること。見知らぬアドレスからの件名の無いメールは開かないことにしています。
オフィスアワーは設けません。連絡を取ってから訪ねてくれるのが確実ですが、通りすがりにノックしてくれても構いません。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	菊屋吉生				

授業の概要 大学院修士1年次後期における美術史における基礎的な事項に関する自主学習を指導する。特定のテーマ、書籍などを指定してその内容を研究する。

授業の一般目標 (1) 大学院修士1年次後期における美術史に関する基礎的研究能力の養成 (2) 大学院修士1年次後期における美術史に関する基礎的知識の獲得

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：美術史の特定の分野における将来の研究活動にそなえた基礎的な知識や理解を深める。またそれらの基礎的な知識、理解を駆使しつつ、研究テーマをより明確にしぼりこんでいくことを目標としたい。思考・判断の観点：テーマや書籍を研究することによって、実作品、研究文献資料もふくめた上での、基礎的な考察方法の確立に役立てる。収集資料が的確に分類、整理できる能力も養う。関心・意欲の観点：文献資料等の探索、内容研究によって、特定のテーマに対する理解と関心を喚起する。文献探索、作品探索の熱意と努力を期待したい。態度の観点：積極的な自主学習、さらなる資料収集を期待する。技能・表現の観点：文献探索、作品調査能力の十分な涵養をはかりたい。

授業の計画(全体) とくに定期的な授業形式はとらない。一定の成果の報告や発表という形式にて、自主学習と自己研究の進捗状況をみたい。研究テーマの具体的な構想と設定をはかりたい。

成績評価方法(総合) 基礎的な文献探索、作品調査能力が獲得できたどうかを評価したい。そうして得られたデータの基礎的な分類、整理がなされつつあるかどうか重要な観点としたい。

教科書・参考書 教科書：とく指定しないが、その都度、書籍や論文を紹介する。 / 参考書：とく指定しないが、その都度、書籍や論文を紹介する。

連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	熊谷武洋				

授業の概要 研究の主体となるデータの取得・解析を押し進める。

授業の一般目標 データの取得や解析等を自ら行い、整理することができる。データの整合性や合理性を科学的・客観的に判断することができ、かつ、研究計画に反映することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：得られた結果の良否を科学的に判断できる知識と理解力を身につける。 思考・判断の観点：得られた結果の意味を科学的に考察することができる。データから、論理的に飛躍することなく、科学的に議論や結論を導き出すことができる。得られた結果の良否を熟考し、その後の研究方針に反映することができる。 関心・意欲の観点：積極的に研究を押し進め、必要なデータの取得に努力することができる。データを整理・解析に意欲的に取り組み、結果を主体的に考察しようと努力することができる。 態度の観点：結果を科学的・客観的に捉えようとするすることができる。 技能・表現の観点：セミナーにおいて、研究の進捗状況を、適切な方法・表現でわかりやすくプレゼンテーションすることができる。

授業の計画（全体） 基本的には、データの取得・解析を押し進めるが、当初の研究計画とこれまでの実施状況を検討し、必要ならば研究計画を再構築する。いずれにしても、本期の後半には主要なデータが出揃うことを目標とする

成績評価方法（総合） 研究テーマに対して具体的な成果が期待できる

連絡先・オフィスアワー kumagai@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	中野良寿				

授業の概要 自作のテーマに沿った作品制作および、修了論文のための資料収集をする。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 課題説明
- 第2回 項目 制作(1)
- 第3回 項目 制作(2)
- 第4回 項目 制作(3)
- 第5回 項目 ディスカッション
- 第6回 項目 制作(4)
- 第7回 項目 制作(5)
- 第8回 項目 制作(6)
- 第9回 項目 制作(7)
- 第10回 項目 ディスカッション
- 第11回 項目 制作(8)
- 第12回 項目 制作(9)
- 第13回 項目 制作(10)
- 第14回 項目 制作(11)
- 第15回 項目 講評

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	福田隆眞				

授業の概要 研究テーマに関連する資料を講読し、テーマの適切性、研究の計画、具体化を行う。

授業の一般目標 研究テーマに関する資料を講読、分析し、テーマについて検討を行う。また、研究計画を具体化する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマに関する資料や、他者の意見、考え方が理解できる。

思考・判断の観点： 研究テーマに関連する文献の内容、他者の思考が理解でき、適切さを判断できる。

関心・意欲の観点： 研究テーマに関して常に問題提起を行う関心と意欲を持つ。 技能・表現の観点： 他者に正確に伝わる文章力や造形力を身に付ける。

授業の計画（全体） 研究テーマに関する資料を講読し、他者の見解を理解し、問題の位置づけを行う。研究の計画を具体化し、適切性を検討する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 テーマと内容構成 の検討その 1
- 第 2 回 項目 同上その 2
- 第 3 回 項目 同上その 3
- 第 4 回 項目 1章の作成と検討 その 1
- 第 5 回 項目 同上その 2
- 第 6 回 項目 同上その 3
- 第 7 回 項目 同上その 4
- 第 8 回 項目 2章の作成と検討 その 1
- 第 9 回 項目 同上その 2
- 第 10 回 項目 同上その 3
- 第 11 回 項目 同上その 4
- 第 12 回 項目 同上その 5
- 第 13 回 項目 全体構成の再検討 その 1
- 第 14 回 項目 同上その 2
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	河野令二				

授業の概要 各自のテーマにもとづいた、制作、修士論文に関わる指導、支援をゼミを中心に行う。 / 検索キーワード 材料、木、工作・工芸、工作・工芸教育

授業の一般目標 制作、論文のための、文献、資料を収集し、修士論文の記述へつなげる研究課題を明確にする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文献、資料の読解をとおして、工作・工芸、工作工芸教育の領域のみならず広く美術教育にかかわる専門的な知識を習得し、理解する。 思考・判断の観点：研究課題に関わる制作、論述を通して、論理的思考力を養う。 関心・意欲の観点：社会性な広く視野を持って、研究課題に取り組む。 態度の観点：研究課題に、主体的、計画的に取り組む。 技能・表現の観点：制作、論述をとおして、その技能を高め、自分の考えを豊かに表現し、的確に他者に伝えることができる。

授業の計画（全体） 定期的な授業の形態をとらない。自主的な学習の成果を報告し、意見交換、討議等の形で進めていく。

成績評価方法（総合） 研究課題に対する取り組みとその成果を総合的な観点から評価する。

メッセージ ふらつかない研究課題決定すること。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 A 棟 2 階 研究室および木材工芸実習室に在室している暇な時、随時。

開設科目	課題研究	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	上原 一明				

授業の概要 前期に続きそれぞれの研究テーマに沿って制作する。

授業の一般目標 生徒の個性を生かした作品制作を実践し、更なる可能性を探る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：材料論や技法論を学ぶ。 思考・判断の観点：自らの作品世界観を深める。 技能・表現の観点：彫刻的技法の更なる習得。

授業の計画(全体) それぞれの扱う材料(木彫・石彫・塑像・テラコッタ・金属等)の作品制作を通して授業を進める。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 研究討議
- 第2回 項目 材料論及び技法論
- 第3回 項目 制作
- 第4回 項目 制作
- 第5回 項目 制作
- 第6回 項目 制作・講義
- 第7回 項目 制作
- 第8回 項目 制作
- 第9回 項目 制作
- 第10回 項目 制作・講義
- 第11回 項目 制作
- 第12回 項目 制作
- 第13回 項目 制作
- 第14回 項目 制作
- 第15回 項目 講評

成績評価方法(総合) 作品内容。制作態度。道具の管理。

連絡先・オフィスアワー 上原研究室

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	吉田貴富				

授業の概要 研究テーマの絞り込みを、指導教員との対話も参考にしながら進める。およそのテーマに沿って、必要な情報を集めながら、関連文献を講読し、調査レポートを作成する。附属学校の公開授業・協議会および教育実習の授業・協議会等に積極的に参加し、教育現場及び教員養成のアクチュアルな問題への認識を深める。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部南棟2階 電話&FAX：083-933-5372
 E-mail：takatomi@yamaguchi-u.ac.jp メール送付の際「件名」に「授業科目名」か「自分の所属・氏名」を明記すること。見知らぬアドレスからの件名の無いメールは開かないことにしています。
 オフィスアワーは設けません。連絡を取ってから訪ねてくれるのが確実ですが、通りすがりにノックしてくれても構いません。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	菊屋吉生				

授業の概要 受講生がテーマとする研究にそって、その進捗状況に応じて逐次研究方法、参考文献などを指導する。また不定期に研究発表をし、研究状況を報告することとしたい。研究テーマにそった資料収集とその分析を推し進める。

授業の一般目標 (1) 大学院修士2年次における美術史に関する総合的研究能力の養成 (2) 大学院修士2年次における美術史に関する総合的知識の獲得

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：美術史の特定の分野における修士論文を想定した研究活動にそなえる知識や理解を獲得する。収集した資料に対する的確な知識と判断力を涵養する。 思考・判断の観点：テーマや書籍を研究することによって、実作品、研究文献資料もふくめた上での、修士論文作成にむけての具体的な構想に役立てる。構想実現のための、修士論文の構成を検討する。 関心・意欲の観点：文献資料等の探索、内容研究によって、修士論文作成のための特定のテーマに対する関心を集中させる。さらなる文献、および作品資料の収集の意欲を期待したい。 態度の観点：積極的な資料収集、資料研究を期待する。収集した資料への十分な検討と分析を期待する。

授業の計画(全体) とくに定期的な授業形式はとらない。一定の成果の報告や発表という形式にて、修士論文研究の進捗状況をみたい。その際、不十分と思われる論点を整理して、その理論的な補強に努める。論文作成の上での、全体の構成がほぼできあがることを目標としたい。

成績評価方法(総合) 資料収集の熱意、努力、あるいはその過程での創意工夫のありようを評価したい。その際、資料の冷静な検討、作品の詳細な分析がきちんとなされているかも、重要な観点となる。

連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	熊谷武洋				

授業の概要 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備実験や予備調査の計画を立て、それに基づいて予備実験や予備調査を行い、その結果について検討する。

授業の一般目標 絞り込んだ研究テーマを遂行する上での問題点を理解し、主体的に必要な実験器具および実験方法を調べて実験準備を整え、予備実験等、具体的に研究を開始することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：テーマに関する先行研究を把握し説明できる。研究に関する観察・実験方法や調査方法について、それらの原理や得られる情報の質、長所や短所などを理解できる。 思考・判断の観点：研究テーマに適した実験方法を判断し、具体的な実験計画を思考することができる。

関心・意欲の観点：先行研究や実験方法に関心を持ち、実験計画の立案および研究の開始に意欲的に取り組むことができる。 態度の観点：研究計画の立案および研究の開始にあたり、そのための時間を積極的に作り出そうとすることができる。 技能・表現の観点：セミナーにおいて、自らの研究計画を、適切な方法・表現でわかりやすくプレゼンテーションすることができる。

授業の計画（全体） 具体的な研究計画を立案する上で必要となる文献の追加調査を行う。実験方法や実験機器の原理や所在を確認し、実行可能な研究計画を立案する。立案した計画に基づき、実験機器や器具を手配するなど環境を整え、実質的な研究を開始する。

成績評価方法（総合） 研究の基礎的な手法を理解し、活用できる

連絡先・オフィスアワー kumagai@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	中野良寿				

授業の概要 自作のテーマに沿った作品制作をする。制作に関連した修士論文のテーマを決定し、論文を書く。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 課題説明
- 第2回 項目 制作(1)
- 第3回 項目 制作(2)
- 第4回 項目 制作(3)
- 第5回 項目 制作(4)
- 第6回 項目 ディスカッション(1)
- 第7回 項目 制作(5)
- 第8回 項目 制作(6)
- 第9回 項目 制作(7)
- 第10回 項目 制作(8)
- 第11回 項目 ディスカッション(2)
- 第12回 項目 制作(9)
- 第13回 項目 制作(10)
- 第14回 項目 制作(11)
- 第15回 項目 講評

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	福田隆眞				

授業の概要 研究テーマに関する論文、資料を検討する。調査を伴うものは調査の準備、授業研究の場合は授業準備を行う。

授業の一般目標 研究テーマに関連して、資料の講読、調査、授業などを通して、修士論文の全体と個々の結論、調査結果、授業結果などを位置づける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマに関する資料の内容、調査の内容、授業の内容が理解できる。 思考・判断の観点：研究テーマに関する資料分析、調査内容、授業内容の適切さが判断できる。 関心・意欲の観点：研究テーマに関して積極的に資料を分析したり、調査したり、授業研究をしたりする。 技能・表現の観点：適切に表現できる文章力を身に付ける。

授業の計画（全体） 修士論文に関連する資料講読、調査研究、授業研究を計画し、それらを通して結果を得る。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 美術教育にかかわる問題の発見その 1
- 第 2 回 項目 同上その 2
- 第 3 回 項目 同上その 3
- 第 4 回 項目 美術教育にかかわる資料の収集その 1
- 第 5 回 項目 同上その 2
- 第 6 回 項目 同上その 3
- 第 7 回 項目 資料の分析その 1
- 第 8 回 項目 同上その 2
- 第 9 回 項目 同上その 3
- 第 10 回 項目 論文作成その 1
- 第 11 回 項目 同上その 2
- 第 12 回 項目 同上その 3
- 第 13 回 項目 同上その 4
- 第 14 回 項目 同上その 5
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	河野令二				

授業の概要 各自のテーマにもとづいた修士論文に関わる指導、支援をゼミを中心に行う。/ 検索キーワード 工作・工芸、工作・工芸教育、美術教育。

授業の一般目標 研究課題を明確にし、論述する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文献、資料の読解をとおして、工作・工芸、工作工芸教育の領域のみならず広く美術教育にかかわる専門的な知識を習得、理解し、論述ができる。 思考・判断の観点：研究課題に関わる論述を通して、論理的思考力を養う。 関心・意欲の観点：社会性にもとづいた広く視野を持って、研究課題に取り組む。 態度の観点：研究課題に、計画的、主体的に取り組む。 技能・表現の観点：論文の記述を通して、自分の考えを豊かに、的確に他者に伝えることができる。

授業の計画（全体） 定期的な授業の形態をとらない。自主的な学習の成果を報告し、意見交換、討議等の形で進めていく。

成績評価方法（総合） 研究課題に対する取り組みとその成果を総合的な観点から評価する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 A 棟 2 階 研究室および木材工芸実習室に在室している暇な時、随時。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	吉田貴富				

授業の概要 自己の研究テーマに沿って、必要な情報を集めながら、関連文献の講読を進め、論文の作成を進める。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部南棟2階 電話&FAX：083-933-5372
E-mail：takatomi@yamaguchi-u.ac.jp メール送付の際「件名」に「授業科目名」か「自分の所属・氏名」を明記すること。見知らぬアドレスからの件名の無いメールは開かないことにしています。
オフィスアワーは設けません。連絡を取ってから訪ねてくれるのが確実ですが、通りすがりにノックしてくれても構いません。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	菊屋吉生				

授業の概要 ここでは、修士論文の完成をめざした研究とその指導を行う。論文のテーマにそった発表およびレポート作成を課し、逐次その検討を行う。そして最後には完成した修士論文を口頭試問によって、その内容を吟味したい。

授業の一般目標 修士論文の具体的指導とその完成をめざす。その内容を的確に説明できることをめざす。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：これまで得てきた専門分野における知識や理解を駆使して修士論文へと反映させる。自らの研究の位置づけについても十分な理解をもつことが重要である。 思考・判断の観点：収集した資料や書籍をもとに、修士論文の構成を組み立て、自らの論理を展開させる。自らの思考、判断の過程の内省と吟味がなされることを期待したい。 関心・意欲の観点：修士論文の完成と、それをもとしたさらなる研究への関心を促したい。研究テーマがこれからの自らのあり方にどう関わっていくかも考えてもらいたい。 態度の観点：修士論文完成への集中力を期待したい。 技能・表現の観点：研究者としての第一歩としての修士論文をまとめることにより、専門分野のプロパーとしての研究能力の確認をしてほしい。

授業の計画（全体） とくに定期的な指導は行なわないが、修士論文の締め切りが近づくにつれてマンツーマンでの指導が続くことになると想定されるので、自らの生活形態をそこへ集中させてほしい。

成績評価方法（総合）まとめられた修士論文が、それに十分に値する内容をもつかどうか。その完成の過程での熱意や努力が、どのようにその論文に反映されたのか、これらを総合的に判断したい。

連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	熊谷武洋				

授業の概要 必要な追加実験や追跡調査を行なうとともにデータの解析・分析を進め、修士論文を作成する。修士論文審査会で発表を行なう。

授業の一般目標 研究内容を正しく理解し、適切に論文として纏めることができる。また、その内容をわかりやすく説明・発表できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究内容に関する科学的な知識を備え、研究全般について理解できる。 思考・判断の観点： 研究の内容を正しく理解し、その結果や結論の良否、残された問題点等について科学的に思考し判断できる。 関心・意欲の観点： 研究を積極的に進め、自らの力で論文を完成させようと努力することができる。 態度の観点： 研究成果を修士論文として完成させることの価値を理解し、自主的に行動することができる。研究成果を科学的・客観的に纏めようとする態度を保つことができる。 技能・表現の観点： 研究成果を首尾一貫した論文として完成させることができる。修士論文発表会等、発表時間内でわかりやすく研究成果を提示することができる。質疑・応答時などでの第三者からの質問に対し、的確な受け答えをすることができる。

授業の計画(全体) 本期の前半は、修士論文の作成に向けて、追加実験や追跡調査を行なうとともにデータの解析・分析を進める。後半は、論文の作成に取りかかるとともに、12月の中間発表会で研究成果を報告する。研究内容および進捗状況から、研究成果を修士論文としてまとめることができると認められたものは、1月中旬に設定される期限までに修士論文を提出し、2月に審査会で最終発表を行う。

成績評価方法(総合) 研究実績とその成果を具体的に評価発表をすることができる

連絡先・オフィスアワー kumagai@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	中野良寿				

授業の概要 修了作品制作および修士論文についてゼミ形式で討議する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 課題説明
- 第2回 項目 制作(1)
- 第3回 項目 ディスカッション(1)
- 第4回 項目 制作(2)
- 第5回 項目 制作(3)
- 第6回 項目 制作(4)
- 第7回 項目 ディスカッション(2)
- 第8回 項目 制作(5)
- 第9回 項目 制作(6)
- 第10回 項目 制作(7)
- 第11回 項目 ディスカッション(3)
- 第12回 項目 制作(8)
- 第13回 項目 制作(9)
- 第14回 項目 制作(10)
- 第15回 項目 講評

連絡先・オフィスアワー nakano-y@yamaguchi-u.ne.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	福田隆眞				

授業の概要 修士論文の仕上げに向かって、研究テーマの検証を行い、適切な表現に努める。

授業の一般目標 修士論文として質の高い内容を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマに関連する資料、調査、授業の内容が総体的に理解できる。 思考・判断の観点：論文作成のための過程が正しく判断できる。 関心・意欲の観点：質の高い論文作成のための努力と意欲がある。 技能・表現の観点：質の高い論文のための表現技能を身に付ける。

授業の計画(全体) 修士論文のまとめとして、質の高い内容を目指す。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 3章の作成と検討 その1
- 第2回 項目 同上その2
- 第3回 項目 同上その3
- 第4回 項目 同上その4
- 第5回 項目 同上その5
- 第6回 項目 4章の作成と検討 その1
- 第7回 項目 同上その2
- 第8回 項目 同上その3
- 第9回 項目 同上その4
- 第10回 項目 資料の検討その1
- 第11回 項目 同上その2
- 第12回 項目 全体の見直しその1
- 第13回 項目 同上その2
- 第14回 項目 同上その
- 第15回 項目 まとめ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	河野令二				

授業の概要 各自のテーマにもとづいた修士論文に関わる指導、支援をゼミを中心に行う。/ 検索キーワード 工作・工芸、工作・工芸教育、美術教育。

授業の一般目標 論文に的確に研究課題の結論を述べることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文献、資料の読解をとおして、工作・工芸、工作工芸教育の領域のみならず広く美術教育にかかわる専門的な知識を習得、理解し、論述ができる。 思考・判断の観点：研究課題に関わる制作、論述を通して、論理的思考力を養う。 関心・意欲の観点：社会性にもとづいた広く視野を持って、研究課題に取り組む。 態度の観点：研究課題に、計画的、主体的に取り組む。 技能・表現の観点：論述を通して、自分の考えを豊かに、的確に他者に伝えることができる。

授業の計画（全体） 定期的な授業の形態をとらない。自主的な学習の成果を報告し、意見交換、討議等の形で進めていく。

成績評価方法（総合） 研究課題に対する取り組みとその成果を総合的な観点から評価する。

メッセージ 明晰で、豊かな論文を。。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 A 棟 2 階 研究室および木材工芸実習室に在室している暇な時、随時。

開設科目	課題研究	区分	講義	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	上原 一明				

授業の概要 それぞれの研究テーマに沿って、作品を制作する。より専門性を高める。

授業の一般目標 生徒の個性を生かした作品制作を実践し、自己の作品世界を探求する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 更に専門的知識を高める。論理的な作品制作を考える。 関心・意欲の観点： 社会と彫刻との関係に関心を持つ。 技能・表現の観点： より専門的な技法の確立。

授業の計画（全体） それぞれの扱う材料（木彫・石彫・塑像・テラコッタ・金属等）の作品制作を通してより専門的に授業を進める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 研究討議
- 第 2 回 項目 制作
- 第 3 回 項目 制作
- 第 4 回 項目 制作・講義
- 第 5 回 項目 制作
- 第 6 回 項目 制作
- 第 7 回 項目 制作
- 第 8 回 項目 制作・講義
- 第 9 回 項目 制作
- 第 10 回 項目 制作
- 第 11 回 項目 制作
- 第 12 回 項目 制作・講義
- 第 13 回 項目 制作
- 第 14 回 項目 制作
- 第 15 回 項目 講評

成績評価方法（総合） 作品内容。制作態度。道具の管理。

連絡先・オフィスアワー 上原研究室

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	吉田貴富				

授業の概要 論文執筆を進める中で浮上する問題や課題を解決しながら調査・執筆を進める。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部南棟2階 電話&FAX：083-933-5372
E-mail：takatomi@yamaguchi-u.ac.jp メール送付の際「件名」に「授業科目名」か「自分の所属・氏名」を明記すること。見知らぬアドレスからの件名の無いメールは開かないことにしています。
オフィスアワーは設けません。連絡を取ってから訪ねてくれるのが確実ですが、通りすがりにノックしてくれても構いません。

保健体育専修

開設科目	体育科教育特論 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	海野勇三				

授業の概要 現代における子どもの生活の変容と発達疎外の状況に関して、各自がテーマを設定し、体育・スポーツという視点から関連する先行研究を検討する。

授業の一般目標 子どもの生活スタイルと発達疎外の状況について、各自が担当したテーマに関する先行研究の考察と報告を通じて、テーマについての理解を深めるとともに、レポートのまとめ方・発表の仕方を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自のテーマに関し、これまでの先行研究の概要と問題点について説明できる。 思考・判断の観点： 現代の子どもの生活課題・発達課題を理解し、体育科教育の課題について自説を展開できる。 関心・意欲の観点： テーマに関する様々な問題について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 各自のテーマで考察してきた成果を、レポートまたは口頭発表でわかりやすく表現することができる。

授業の計画（全体） 受講者間で考察したいテーマを設定し、それぞれが具体的な先行研究をレビューしながら、適宜報告してもらい、ゼミ形式ですすめていく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 子ども調査研究のレビュー（ 1 ）
- 第 3 回 項目 子ども調査研究のレビュー（ 2 ）
- 第 4 回 項目 テーマ設定
- 第 5 回 項目 レポート&集団討論
- 第 6 回 項目 教育現場参与観察（ 1 ）
- 第 7 回 項目 レポート&集団討論
- 第 8 回 項目 レポート&集団討論
- 第 9 回 項目 中間報告会 授業外指示 中間レポート
- 第 10 回 項目 レポート&集団討論
- 第 11 回 項目 レポート&集団討論
- 第 12 回 項目 レポート&集団討論
- 第 13 回 項目 教育現場参与観察（ 2 ）
- 第 14 回 項目 レポート&集団討論
- 第 15 回 項目 最終報告会 授業外指示 最終レポート

成績評価方法（総合） 授業時のレポートおよび総括レポートの作成過程と完成度により、総合的に評価する。

メッセージ 自他の研究テーマ・報告内容に関心を持ち、活発な論議を通じて理解を深めてください。

連絡先・オフィスアワー yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	体育科教育特論 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岡村 豊太郎				

授業の概要 体育科教育における運動の学習の指導方法論を講義する。まず、子どもの発達を心理的、社会的、身体的、運動的観点から取り上げる。次に身体運動の分類を試みる。その上で、運動学習の過程、運動指導と動機づけ、練習時間の配分、課題の分割、言語的指導、メンタルプラクティス、視聴覚指導、運動感覚的指導等について論じる。

授業の一般目標 生涯スポーツと運動目的内容論を基調としつつ、子どもの発達と運動教材、指導方法論の統合を試みる。その上で指導の諸方法を学習させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1)子どもの、心理的、社会的、身体的、運動的発達を理解する。

- 2)運動学習の過程、言語的指導、メンタルプラクティス、視聴覚指導、運動感覚的指導等について理解させる。 思考・判断の観点： 1)生涯スポーツとの関連で、運動内容目的論と運動分類について考察する。 2)生涯スポーツと内発的動機づけの関連を高級する。 3)指導方法との関係で、練習時間の配分や、課題の分割について考察する。 関心・意欲の観点： 1)グループ討議に積極的に係わらせる。 2)講義に関する文献を自分から集め、検討する。 態度の観点： 1)意欲的に発表や質問をさせる。 技能・表現の観点： 1)パワーポイントを作成してわかりやすい発表をさせる。 2)言語的、運動感覚的学習カードの作成 3)メンタルプラクティス

授業の計画(全体) メンタルプラクティス、視聴覚指導、運動感覚的指導に関する文献を購読し、その概略を理解させる。その上で、近年の文献をもとに、理論的背景を探ると同時に近年の研究動向について論じる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 生涯学習と生涯スポーツ 内容 生涯学習社会におけるスポーツと体育
- 第 2 回 項目 生涯スポーツと運動目的・内容論 内容 体育観、スポーツ観の変遷
- 第 3 回 項目 児童・生徒の心身の発達と運動 内容 知的、情緒的、社会的発達と運動
- 第 4 回 項目 運動の学習と人格の発達 内容 運動有能感、無力感の形成と運動指導
- 第 5 回 項目 身体運動の分類 内容 機能的特性を含めた運動分類
- 第 6 回 項目 身体運動の転移と指導 内容 転移理論と形式陶冶・運動による体育
- 第 7 回 項目 運動の学習過程と運動指導 内容 運動学習の捉え方とそれに応じた指導
- 第 8 回 項目 運動指導と動機づけ 内容 内発的動機づけを重視した指導
- 第 9 回 項目 運動指導と課題の分割・時間的配分 内容 全習法と分習法、集中・分散効果
- 第 10 回 項目 運動の言語的指導 内容 運動技能と言語教示、言語化
- 第 11 回 項目 運動の視聴覚的指導 内容 視聴覚的媒体を用いた指導、示範と指導
- 第 12 回 項目 運動の運動感覚的指導 内容 運動感覚情報の与え方
- 第 13 回 項目 運動指導とメンタルプラクティス 内容 メンタルプラクティスの理論的根拠
- 第 14 回 項目 学校体育の指導 内容 教科の体育と総則の体育とその指導
- 第 15 回 項目 社会体育の指導 内容 生涯スポーツと競技スポーツ

成績評価方法(総合) 毎回の授業における発表と最終のレポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：トレーニングの心理学, R,N, シンガー(松田岩男監訳), 大修館書店, 1986年; 運動指導の心理学, 杉原隆著, 大修館書店

開設科目	体育科教育特論演習 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	海野勇三				

授業の概要 体育科教育特論 II で子どもの生活スタイルと発達状況に関する先行研究の考察を踏まえて、実際に研究課題を絞って調査票を作成し、実態調査を試みる。そして、調査結果を分析・考察する。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、先行研究を踏まえて必要な調査方法を構成し、実施する。また調査結果を分析・考察することを通して、テーマについての理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：先行研究を踏まえて、適切な調査方法を構成できる。調査結果を先行研究のそれと関連で適切に解釈することができる。思考・判断の観点：先行研究を踏まえて、適切な研究デザインを構想することができる。技能・表現の観点：調査で得られたデータを統計的手法を用いて適切に処理し、分析することができる。各自の研究成果をレポート・口頭発表でわかりやすく表現することができる。

授業の計画（全体）前半で調査テーマを設定し、テーマに即した調査のデザインを構想する。後半では実際に調査を実施して、その結果を分析・考察していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 レポート&集団討論
- 第 3 回 項目 レポート&集団討論
- 第 4 回 項目 レポート&集団討論
- 第 5 回 項目 テーマ設定と調査方法の構想
- 第 6 回 項目 テーマ設定と調査方法の構想
- 第 7 回 項目 研究構想検討会 授業外指示 中間レポート
- 第 8 回 項目 レポート&集団討論
- 第 9 回 項目 レポート&集団討論
- 第 10 回 項目 レポート&集団討論
- 第 11 回 項目 レポート&集団討論
- 第 12 回 項目 教育現場参与観察（1）
- 第 13 回 項目 教育現場参与観察（2）
- 第 14 回 項目 レポート&集団討論
- 第 15 回 項目 調査研究報告会 授業外指示 最終レポート

成績評価方法（総合） 調査計画 - 実施 - 分析と考察の過程、および、調査報告レポートの完成度により総合的に評価する

メッセージ 自分で調査を試みる経験を通じて、実証的研究の方法論を習得してください。

連絡先・オフィスアワー ynno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	体育学特論 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	池田恵子				

授業の概要 体育・スポーツ文化論、歴史の観点から近代スポーツの視座を捉え、スポーツの伝播過程とその権力関係、社会的脈絡について理解を深める。

授業の一般目標 現代社会を取り巻く体育・スポーツ事象について、歴史的観点からその原理を問う。そのための基礎的知識を学术论文の読解を通じて習得する。学术论文の読解は主として、演習形式で集約、発表を行い、論理的に再構成し、先行研究の限界について指摘する。学术论文を正確に読解することができる。先行研究の研究方法に即して中身を自らのことばで集約し、説明することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 学术论文を正確に読解することができる。先行研究の研究方法に即して中身を自らのことばで集約し、説明することができる。 思考・判断の観点： 学术论文の方法論を自らの関心に引き付けて、再構成し、論文の限界を指摘することができる。発展的解釈や、現代的視角を投げ、論文の意味について、思考を深めることができる。 関心・意欲の観点： 主体的に演習テーマに即した文献を収集し、参照することができる。

連絡先・オフィスアワー 池田恵子： E-mail kikeda@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5381, 研究室 176

開設科目	体育学特論 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	上地広昭				

授業の概要 行動科学の観点から、健康行動としての運動行動の継続性 (以下、アドヒアランス) について講ずる。

授業の一般目標 運動行動のアドヒアランスに関する理論・モデルについて理解し、基礎的統計法の習得および学術論文の読解を行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：運動行動のアドヒアランスに関する基礎知識を理解する。思考・判断の観点：独自の観点から運動行動のアドヒアランスに関して理解する。関心・意欲の観点：運動行動のアドヒアランス研究に関する文献を自主的に検索し、読み進める。

連絡先・オフィスアワー uechi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	体育学特論 III	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	某				

授業の概要 行動科学の観点から，健康行動としての運動行動の継続性 (以下，アドヒアランス) について講ずる．

授業の一般目標 運動行動のアドヒアランスに関する理論・モデルについて理解し，基礎的統計法の習得および学術論文の読解を行う．

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：運動行動のアドヒアランスに関する基礎知識を理解する． 思考・判断の観点：独自の観点から運動行動のアドヒアランスに関して理解する． 関心・意欲の観点：運動行動のアドヒアランス研究に関する文献を自主的に検索し，読み進める．

連絡先・オフィスアワー uechi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	体育学特論演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	池田恵子・上地広昭				

授業の概要 現代スポ - ツの中から主要な問題を取り上げ、それに関わるこれまでの文献の講読をとおして理解を深める。

授業の一般目標 体育学特論I・II・IIIの学習をふまえた上で、現代スポ - ツの中から主要な問題を取り上げ、それに関わるこれまでの文献の購読を通して理解を深める。

授業の計画(全体) 三人の教官がそれぞれの専門分野から、現代スポ - ツの主要な問題を取り上げ、それに関わる文献購読とディスカッションを行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 文献講読及びディスカッション
- 第2回 項目 文献講読及びディスカッション
- 第3回 項目 文献講読及びディスカッション
- 第4回 項目 文献講読及びディスカッション
- 第5回 項目 文献講読及びディスカッション
- 第6回 項目 文献講読及びディスカッション
- 第7回 項目 文献講読及びディスカッション
- 第8回 項目 文献講読及びディスカッション
- 第9回 項目 文献講読及びディスカッション
- 第10回 項目 文献講読及びディスカッション
- 第11回 項目 文献講読及びディスカッション
- 第12回 項目 文献講読及びディスカッション
- 第13回 項目 文献講読及びディスカッション
- 第14回 項目 文献講読及びディスカッション
- 第15回 項目 文献講読及びディスカッション

連絡先・オフィスアワー 池田恵子：研究室176番室 E-mail:kikeda@yamaguchi-u.ac.jp 上地広昭：研究室166番室 E-mail:uechi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	運動学特論 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	曾根涼子				

授業の概要 運動を生理学(主に心肺機能系)の面から捉え、運動の効果および発現機序などについて論じる。/ 検索キーワード 運動、心肺機能

授業の一般目標 運動を生理学(主に心肺機能系)の面から捉え、運動の効果および発現機序などについて理解することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 運動を生理学(主に心肺機能系)の面から捉え、運動の効果および発現機序などについて説明できる。 思考・判断の観点: 1. 心肺機能系に対する各種運動の効果や発現機序について説明できる。 関心・意欲の観点: 1. 心肺機能系に対する各種運動の効果や発現機序について関心を持つ。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 ガス交換
- 第 3 回 項目 呼吸筋
- 第 4 回 項目 運動時の換気穴 進
- 第 5 回 項目 呼吸の化学調節
- 第 6 回 項目 酸素摂取動態
- 第 7 回 項目 末梢での酸素利用
- 第 8 回 項目 二酸化炭素動態
- 第 9 回 項目 自律神経と筋循環系
- 第 10 回 項目 自律神経と心腎臓
- 第 11 回 項目 運動時の血圧調節
- 第 12 回 項目 動脈血管
- 第 13 回 項目 毛細血管
- 第 14 回 項目 運動時の血管抵抗調節と一酸化窒素
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 2/3 以上出席が単位認定の最低必要条件である。

教科書・参考書 教科書: 新運動生理学, 宮村実晴編, 真興交易医書出版部, 2001 年; 新運動生理学(下巻) 宮村、真興交易医書出版部、2001 年 / 参考書: 必要に応じて紹介する。

メッセージ 基本的な生理学的知識が必要である。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: 教育学部 101-1 あるいは 101-2 (083-933-5389)、sone@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 水曜日 9 時~12 時

開設科目	運動学特論演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	曾根涼子・塩田正俊・丹 信介				

授業の概要 運動学特論(主に心肺機能系)の発展として、自己研究課題を選び、それについて理解を深める。/ 検索キーワード 運動学、心肺機能

授業の一般目標 運動学特論(主に心肺機能系)の発展として、自己研究課題を選び、それについて理解を深め、教育指導の素養を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 運動時における心肺機能系の反応および調節機序について理解を深める。 思考・判断の観点: 1. 運動の種類による運動時の心肺機能系の反応および調節機序の違いを説明できる。 関心・意欲の観点: 1. 運動時における心肺機能系の反応および調節機序について関心を持つ。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 心肺機能系に関する研究課題の設定I
- 第3回 項目 心肺機能系に関する文献講読I
- 第4回 項目 心肺機能系に関する実験I
- 第5回 項目 心肺機能系に関する実験結果のまとめI
- 第6回 項目 心肺機能系に関する研究課題の設定II
- 第7回 項目 心肺機能系に関する文献講読II
- 第8回 項目 心肺機能系に関する実験II
- 第9回 項目 心肺機能系に関する実験結果のまとめII
- 第10回 項目 心肺機能系に関する研究課題の設定III
- 第11回 項目 心肺機能系に関する文献講読III
- 第12回 項目 心肺機能系に関する実験III
- 第13回 項目 心肺機能系に関する実験結果結果のまとめIII
- 第14回 項目 まとめ
- 第15回

成績評価方法(総合) 2/3以上出席が単位認定のための最低必要条件である。

教科書・参考書 教科書: 文献を使用する。

メッセージ 運動学特論IIを履修していることが望ましい。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: 教育学部 101-1 あるいは 101-2 (083-933-5389)、sone@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 水曜日 9時~12時

開設科目	体力学特論 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森田俊介				

授業の概要 運動を行動体力からとらえ、体力・健康づくりや体力測定法に関する国内・外の論文を紹介し、解説する。

授業の一般目標 健康・体力づくり、体力測定法、トレーニング法に関する国内・外の論文を受講者が読み、理解したうえで発表する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 体力づくり、トレーニング法、体力測定法にゆいて生理・生化学的に理解できる。 思考・判断の観点： 体力づくり、トレーニング法、体力測定法に関する国内・外の論文を受講者が読み、自分の課題研究との関連を思考できる。 関心・意欲の観点： 体力づくりや体力測定法に関する国内・外の論文を受講者が読み、自分の課題研究の関心を高めることができる。 技能・表現の観点： 体力づくりや体力測定法に関する国内・外の論文を受講者が読み、まとめて発表する能力を高めることができる。

授業の計画(全体) 授業ごとに受講者が読んだ論文の内容を紹介し、議論を通して理解を深める。

メッセージ 自分の課題を早急に考えて、関連する論文を読破すること

連絡先・オフィスアワー 電話 933-5385

開設科目	体力学特論 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	杉浦崇夫				

授業の概要 運動を行動体力の面から捉え、トレーニング法について、特に骨格筋の生化学的特性 から論じる。

授業の一般目標 最新の論文を講読することにより骨格筋の生化学的特性を理解し、骨格筋の生化学的变化からトレーニングの特性を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 骨格筋の生化学的特性やトレーニングによる変化を説明できる。

思考・判断の観点： 骨格筋の生化学的特性について機能と関連づけて考えることができる。 関心・意欲の観点： 当該分野における最新の知見を得ることに努める。 技能・表現の観点： 最新の文献について、背景等も含めて発表することができる。

授業の計画（全体） 紹介された文献について担当者を決め、担当者がその内容について関連する分野を含めて発表する。

教科書・参考書 参考書： 授業時に紹介する。

連絡先・オフィスアワー E-mail takahito@yamaguchi-u.ac.jp,

開設科目	学校保健特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	友定保博				

授業の概要 学校保健研究(特に保健教育)に関する文献を購読し、研究課題の設定と研究方法論の学習の観点から、各自が選択した研究論文を集団検討します。

授業の一般目標 学校保健研究(特に保健教育)に関する文献を購読し、研究課題を設定し、研究方法論を学習する。

教科書・参考書 参考書：新版 保健の授業づくり入門, 森 昭三ほか, 大修館書店, 2002年

開設科目	学校保健特論演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	友定保博				

授業の概要 子どもの健康管理や健康相談活動の進め方を学習します。子ども・青年の健康や発達にかかわる教育実践・臨床事例をとりあげ、検討します。できるかぎり自己の体験を相対化した事例を記録し報告しますが、公表された実践記録・臨床事例を読み込み、子ども理解や対応の原則、発達課題を考えていきます。（内地研修の養護教諭の先生にも参加していただく予定です）

授業の一般目標 子ども・青年の健康や発達にかかわる教育実践・臨床事例をとりあげ、子どもの健康管理や健康相談活動の進め方を学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：子どもの成長・発達に関わる知識理解できる 思考・判断の観点：子どもの現状を周りの人的環境等との関わりで思考できる 技能・表現の観点：自らの実践を事例記録として表現できる

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 事例記録1 内容 KJ法による事例検討（集団）
- 第3回 項目 事例1の検討結 内容 検討結果のディスカッション
- 第4回 内容 実践事例から成果と課題の抽出
- 第5回 項目 事例記録2 内容 KJ法による事例検討（個人別）
- 第6回 項目 事例2の検討 内容 検討結果の発表 ディスカッション
- 第7回 内容 実践事例から成果と課題の抽出
- 第8回 項目 事例記録3 内容 発達研究・分析手法に基づく検討（個人）
- 第9回 項目 事例3の検討 内容 検討結果の発表 ディスカッション
- 第10回 内容 実践事例から成果と課題の抽出
- 第11回 項目 事例記録4 内容 KJ法による事例検討（集団）
- 第12回 項目 事例4の検討 内容 検討結果の発表 ディスカッション
- 第13回 内容 実践事例から成果と課題の抽出
- 第14回 項目 個人の振り返り 内容 レポート作成
- 第15回 項目 まとめ

開設科目	健康処方特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	塩田正俊				

授業の概要 各ライフステージにおける健康づくりのあり方について、生活習慣とくに運動との関わりから、これまでの研究成果をふまえて論じる。

授業の一般目標 各ライフステージにおける健康づくりのあり方について、生活習慣とくに運動との関わりを理解し、生活習慣改善の方策を考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各生活習慣病の原因について理解し、生活習慣改善の方策を説明することができる 思考・判断の観点：生活習慣の異常、改善がどのような変化をもたらすか推論することができる。 関心・意欲の観点：生活習慣と疾病の関連について関心を持ち、各ライフステージ毎にその方策を自ら考える姿勢が見られる 技能・表現の観点：生活習慣と疾病の関連について解説し、各ライフステージ毎にその方策を考え指導できる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 健康の成立要因とその背景
- 第2回 項目 疾病構造の変遷
- 第3回 項目 健康生活とリスクファクター
- 第4回 項目 各生活習慣と健康
- 第5回 項目 児童生徒の生活習慣と健康（運動負荷時の反応）
- 第6回 項目 中高年者の生活習慣と健康（運動不足と血液性状）
- 第7回 項目 身体不活動、栄養過多と身体機能変化
- 第8回 項目 体位変換角度と循環動態
- 第9回 項目 ストレスと休養
- 第10回 項目 暑熱環境ストレスと絶食ストレス
- 第11回 項目 健康処方（運動と栄養の効果）
- 第12回 項目 肥満
- 第13回 項目 糖尿病
- 第14回 項目 高血圧
- 第15回 項目 喫煙と健康

開設科目	健康処方特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	丹信介				

授業の概要 健康の維持増進という点からみた生活習慣、なかでも身体活動と食生活に関する日常生活における評価の仕方と具体的改善方法に関して演習、実習形式で授業を行う。後半は、健康と生活習慣に関する文献をもとに、ディスカッションを行う。 / 検索キーワード 健康 生活習慣 行動科学

授業の一般目標 健康の維持増進という点からみた生活習慣、なかでも身体活動と食生活に関する日常生活における具体的な評価の仕方と具体的改善方法に関して、演習、実習をまじえた授業を通じて理解すると共に、それを実践できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：身体活動と食生活に関する日常生活における評価の仕方と具体的改善方法を説明できる。 思考・判断の観点：日常生活における身体活動と食生活に関して実際に評価し、その具体的改善方法を提示できる。生活習慣に関する文献を紹介、解説し、ディスカッションを行うことができる。 関心・意欲の観点：生活習慣の評価、改善方法に関心を持つ。 技能・表現の観点：日常生活における身体活動と食生活に関して実際に評価し、その具体的改善方法を提示できる。生活習慣に関する文献を紹介、解説し、ディスカッションを行うことができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 健康の維持増進のために必要な身体活動量1 内容 文献購読
- 第2回 項目 健康の維持増進のために必要な身体活動量2 内容 文献購読
- 第3回 項目 身体活動量の評価方法1
- 第4回 項目 身体活動量の評価方法2
- 第5回 項目 身体活動量促進のための方法1
- 第6回 項目 身体活動量促進のための方法2
- 第7回 項目 健康の維持増進のために必要な食生活の在り方 内容 文献購読
- 第8回 項目 食生活の評価方法1
- 第9回 項目 食生活の評価方法2
- 第10回 項目 食生活・食行動改善のための方法
- 第11回 項目 生活習慣と健康に関する文献紹介・ディスカッション1
- 第12回 項目 生活習慣と健康に関する文献紹介・ディスカッション2
- 第13回 項目 生活習慣と健康に関する文献紹介・ディスカッション3
- 第14回 項目 生活習慣と健康に関する文献紹介・ディスカッション4
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 小テスト / 授業内レポート = 20%未満 宿題 / 授業外レポート = 30% 授業態度や授業への参加度 = 20%未満 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 30% 出席=欠格条件

教科書・参考書 教科書：授業時にプリントを配布する。 / 参考書：授業時に指示する。

連絡先・オフィスアワー 丹 信介 Email: tan@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 電話: 933-5388 研究室: 教育学部 436-2 オフィスアワー: 月 12:50~14:20

開設科目	保健体育科教育実践研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	海野勇三				

授業の概要 受講者の関心に即して実践的な課題を設定し、小学校または中学校において体育授業を実験的に実践する。そして実験結果を集団的に検討することを通して教育実践の改善を図る。/ 検索キーワード 授業研究

授業の一般目標 体育・健康教育に関する教育課程および授業実践の中から課題を発見し、これを解決するための方略を構想・実施し、総括する経験を通して、授業研究の方法を獲得すると共に教育的実践力を育成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自己の関心に即して、学校教育現場、特に体育・健康教育をめぐる実践的な課題について説明できる。 思考・判断の観点：自己の設定した実践的な課題の解決に向けて、授業研究をデザインして実証的に取り組むことができる。 態度の観点：実験授業に対し誠実に取り組むことができる。 技能・表現の観点：実践的研究の成果を、統計ソフトやプレゼンテーションソフトを用いて、文章または口頭でわかりやすく報告することができる。

授業の計画（全体） 受講者が、グループまたは個人でテーマを設定して学校現場に入り込み、参加観察および実験授業または調査等を通じて、課題とその解決の方途を探る。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究課題の設定（1）
- 第 3 回 項目 研究課題の設定（2）
- 第 4 回 項目 先行研究の検討及び研究方法の構想（1）
- 第 5 回 項目 先行研究の検討及び研究方法の構想（2） 授業外指示 レポート：先行研究のレビュー
- 第 6 回 項目 先行研究の検討及び研究方法の構想（3）
- 第 7 回 項目 研究デザインの検討会 授業外指示 レポート：授業研究のデザイン
- 第 8 回 項目 教育現場における実践的研究
- 第 9 回 項目 教育現場における実践的研究
- 第 10 回 項目 教育現場における実践的研究
- 第 11 回 項目 教育現場における実践的研究 授業外指示 レポート：実施経過報告
- 第 12 回 項目 教育現場における実践的研究
- 第 13 回 項目 教育現場における実践的研究
- 第 14 回 項目 研究結果の報告会 授業外指示 最終レポート
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法（総合） 研究の計画－実施－分析－総括の全体を通じて総合的に評価する。

メッセージ 附属学校等の協力を得て授業研究を実施する関係で、一部集中開講や時間割変更等、変則的な開講形態となる。

連絡先・オフィスアワー yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	保健体育教育支援実践研究	区分	実験・実習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	森田俊介・丹信介				

授業の概要 公的施設や民間運動施設において、運動の指導方法を教授する。

授業の一般目標 運動を通じた健康と生きがいづくりなどの課題に対応できるように、公的施設や民間運動施設において運動の指導方法を実習し、専門的な知識を理解し指導技術などを習得することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：運動を通じた健康と生きがいづくりなどの課題に対応できるように、公的施設や民間運動施設において運動の指導方法を実習し、専門的な知識を理解できる。レクリエーションプログラムや運動プログラムの計画・立案ができるための知識を習得できる。 思考・判断の観点：実際に運動指導を行う時に、指導の方法や内容が対象者にふさわしいものかについて思考・判断できる。 関心・意欲の観点：運動を通じた健康と生きがいづくりなどの課題に対応できるように、公的施設や民間運動施設において実際に運動の指導をすることに関心を持つことができる。 態度の観点：公的施設や民間運動施設において、対人関係が良好にたもつことができる。 技能・表現の観点：運動を通じた健康と生きがいづくりなどの課題に対応できるように、公的施設や民間運動施設において運動の指導方法ができる。

授業の計画（全体） 実習先では、以下の内容を体験実習する。 1．公的施設及び民間運動施設の管理・運営の概要 2．レクリエーションプログラムや運動プログラムの計画・立案 3．公的施設におけるレクリエーションプログラムの作成と指導 4．公的施設及び民間運動施設における健康・体力づくりのための運動プログラムの作成と指導

教科書・参考書 参考書：プリント配布

メッセージ 実習期間は1週間以上になることがある。公的施設や民間運動施設への就職を熱望する学生が望ましい。

連絡先・オフィスアワー 電話 933-5385, 研究室 教 435-1, shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	友定保博				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	友定保博				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	森田俊介				

授業の概要 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する論文を講読し、比較検討する際の基本的技法を理解する。研究テーマの位置づけや方法論について、主体的に考える姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。 思考・判断の観点：内外の論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点：研究テーマの位置づけについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の

観点：論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

授業の計画（全体） 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について、討論を交えながら検討する。

連絡先・オフィスアワー shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	森田俊介				

授業の概要 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備実験や予備調査の計画を立て、それに基づいて予備実験や予備調査を行い、その結果について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、実験や調査の計画立案がある程度できる。研究テーマに関連する実験や調査の基本的な方法論が理解でき、それを適切に実践できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマに関連する実験や調査の基本的な方法論が理解できる。

思考・判断の観点： 研究テーマに関連する実験や調査の妥当な方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点： 研究テーマに関する実験、調査の計画立案について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究テーマに関連した実験や調査を適切に実践できる基本的な能力を身につける。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備実験や予備調査の計画立案を行い、それに基づいて予備実験や予備調査を行い、その結果を適宜まとめていく。計画立案の仕方、実験・調査の基本的な方法、得られた結果やその整理の仕方について、討論を交えながら、適宜検討し、本実験や本調査の研究計画立案に向けての準備をする。また、実験・調査の基本的な方法について習得する。

連絡先・オフィスアワー shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	塩田正俊				

授業の概要 修士論文の作成に向けて論文調査を行い、研究テーマを決定する。

授業の一般目標 文献調査を通して、問題点の把握、実験方法、結果の検討と考察の仕方等、研究を進める上で必要となる力の基礎を養う。研究の実現可能性を判断でき、適切なテーマが設定できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：調査する文献にある専門用語や実験方法を理解し、文献の内容を正しく把握できる。 思考・判断の観点：文献の内容を科学的に考察し、問題点・疑問点を的確に指摘することができる。 決定した研究テーマの進め方を科学的に思考することができ、その内容や予想される結果等を要領よく説明できる。 関心・意欲の観点：文献内容に興味をもち、自ら掘り下げて考えていくことができる。 研究テーマ決定の過程において、自分の興味関心や問題点を積極的に述べることができる。 態度の観点：修士論文作成のための時間を自ら積極的に作り出すとともに、研究を進めるにあたって生じる諸問題の解決に向けて主体的に努力することができる。 技能・表現の観点：セミナーでの調査文献のプレゼンテーションにおいて、その内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

授業の計画（全体） 興味関心が理科教育や化学教育または教科専門等の分野の中のどのあたりにあるのかを話し合いながら、研究テーマの候補をあげ、それらに関連する文献調査を行う。毎週行うセミナーにおいて、輪番で調査した文献を発表し、質疑応答を行う。研究テーマについて理解が深まった段階で、テーマの絞り込みを行い、最終的にテーマを決定する。

成績評価方法（総合）適切なテーマを選定するためには、教員とのコミュニケーションを取りながら、自分の興味関心がどのようなところにあるのかを、自分自身でよく考えることが重要である。従って、研究テーマに対する知識・理解や思考・判断力に加え、出席、研究への熱意や努力など、態度や意欲の観点も重視して、総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	塩田正俊				

授業の概要 研究の主体となるデータの取得・解析を押し進める。

授業の一般目標 データの取得や解析等を自ら行い、整理することができる。データの整合性や合理性を科学的・客観的に判断することができ、かつ、研究計画に反映することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：得られた結果の良否を科学的に判断できる知識と理解力を身につける。 思考・判断の観点：得られた結果の意味を科学的に考察することができる。データから、論理的に飛躍することなく、科学的に議論や結論を導き出すことができる。得られた結果の良否を熟考し、その後の研究方針に反映することができる。 関心・意欲の観点：積極的に研究を押し進め、必要なデータの取得に努力することができる。データを整理・解析に意欲的に取り組み、結果を主体的に考察しようとする努力することができる。 態度の観点：結果を科学的・客観的に捉えようとする努力ができる。 技能・表現の観点：セミナーにおいて、研究の進捗状況を、適切な方法・表現でわかりやすくプレゼンテーションすることができる。

授業の計画（全体） 基本的には、データの取得・解析を押し進めるが、当初の研究計画とこれまでの実施状況を検討し、必要ならば研究計画を再構築する。いずれにしても、本期の後半には主要なデータが出揃うことを目標とする。

成績評価方法（総合） データの取得状況をはじめとする研究成果の進捗状況およびそのために費やした努力や創意工夫などを、総合的に評価する。また、結果を鵜呑みにしたり固執することなく、科学的・客観的に捉えようとする姿勢をとることができるかも重要な評価項目とする。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	杉浦崇夫				

授業の概要 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する論文を講読し、比較検討する際の基本的技法を理解する。研究テーマの位置づけや方法論について、主体的に考える姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。 思考・判断の観点：内外の論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点：研究テーマの位置づけについて、主体的に考えることができる。 態度の観点：自ら進んで、積極的に課題探求に取り組むことができる。 技能・表現の観点：論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

授業の計画（全体） 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について、討論を交えながら検討する。

教科書・参考書 教科書：授業時に示す。 / 参考書：授業時に示す。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	杉浦崇夫				

授業の概要 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備実験や予備調査の計画を立て、それに基づいて予備実験や予備調査を行い、その結果について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、実験や調査の計画立案がある程度できる。研究テーマに関連する実験や調査の基本的な方法論が理解でき、それを適切に実践できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマに関連する実験や調査の基本的な方法論が理解できる。

思考・判断の観点： 研究テーマに関連する実験や調査の妥当な方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点： 研究テーマに関する実験、調査の計画立案について、主体的に考えることができる。 態度の観点： 積極的に、自ら進んで課題探求することが出来る。 技能・表現の観点： 研究テーマに関連した実験や調査を適切に実践できる基本的な能力を身につける。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備実験や予備調査の計画立案を行い、それに基づいて予備実験や予備調査を行い、その結果を適宜まとめていく。計画立案の仕方、実験・調査の基本的な方法、得られた結果やその整理の仕方について、討論を交えながら、適宜検討し、本実験や本調査の研究計画立案に向けての準備をする。また、実験・調査の基本的な方法について習得する。

教科書・参考書 教科書： 授業時に示す。 / 参考書： 授業時に示す。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	海野勇三				

授業の概要 体育科教育学に関連する研究テーマの中から修士論文に結びつくテーマを発見し、それを深める。 / 検索キーワード 授業改善、カリキュラム改革

授業の一般目標 体育科教育学の研究領域・分野について概観し、関心のある領域について先行研究を行いながら修士論文に結びつくテーマを発見する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 体育科教育学の研究領域ならびに研究方法について説明できる。 関心のある領域についてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点： 関心のある領域について、自分なりの課題を設定して 先行研究を分析・評価できる。 関心・意欲の観点： 教育実践が抱える諸問題について深い関心を持ち、これを解決し酔うとする意欲を持つ。 態度の観点： 様々な問題について、批判的および主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 自らが研究して得た結果を、論文形式で簡潔に、わかりやすく表現することができる。

授業の計画(全体) 体育科教育学の研究領域ならびに研究方法について概観する。そして、各自が研究テーマを決定した後、具体的な調査・研究の方法について指導を行う。その後、各自の研究の進行状況を適宜報告してもらいながら、ゼミ形式あるいは個別の指導により、論文形式にまとめることができるよう指導を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 体育科教育学の研究領域・方法
- 第3回 項目 体育科教育学の研究領域・方法
- 第4回 項目 体育科教育学の研究領域・方法
- 第5回 項目 レポートと集団討論 授業外指示 レポート：実践課題を探る
- 第6回 項目 レポートと集団討論
- 第7回 項目 中間報告会(1) 授業外指示 中間レポート
- 第8回 項目 先行研究の分析批評
- 第9回 項目 先行研究の分析批評
- 第10回 項目 先行研究の分析批評
- 第11回 項目 中間報告会(2) 授業外指示 中間レポート
- 第12回 項目 レポートと集団討論
- 第13回 項目 レポートと集団討論
- 第14回 項目 レポートと集団討論
- 第15回 項目 最終報告会 授業外指示 最終レポート

成績評価方法(総合) 毎回の研究レポートと作成過程、および論文形式での最終レポートの完成度により、総合的に判断する。

メッセージ 自らの課題意識にこだわり続けながら、テーマと格闘してください。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	海野勇三				

授業の概要 修士論文の基本構想を確定するために、各自の設定したテーマに関連する先行研究を分析批評する。またこの過程で、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な文献研究を行い、その結果を論文形式にまとめることを通して、修士論文の基本構想を練り上げるとともに、問題解決のための調査・実験方法を確定する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点： 先行研究の分析批評に基づいて、各自の修士論文の研究デザインを構想することができる。また、自らの考えを論理的に、わかりやすく述べるができる。 態度の観点： 関連する事象・言説について、批判的および主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： テーマに沿って学習してきた成果を、レジュメや論文形式に簡潔にまとめて報告することができる。

授業の計画(全体) 各自が研究テーマを決定した後、先行研究の分析批評について指導を行う。各自の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式あるいは個別の指導を重ね、論文形式にまとめることができるよう指導を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 オリエンテーション
- 第3回 項目 レポートと集団討論
- 第4回 項目 レポートと集団討論
- 第5回 項目 レポートと集団討論
- 第6回 項目 レポートと集団討論
- 第7回 項目 中間報告会(Ⅰ) 授業外指示 レポート：中間まとめ
- 第8回 項目 レポートと集団討論
- 第9回 項目 レポートと集団討論
- 第10回 項目 レポートと集団討論
- 第11回 項目 レポートと集団討論
- 第12回 項目 中間報告会(Ⅱ) 授業外指示 レポート：中間まとめ
- 第13回 項目 レポートと集団討論
- 第14回 項目 レポートと集団討論
- 第15回 項目 最終報告会 授業外指示 最終レポート：修士論文の基本構想

成績評価方法(総合) 各自が設定した研究テーマに関連する先行研究の分析批評の適切性、および、修士論文の基本構想の精確度により、総合的に評価する。

メッセージ 徹底的に先行研究に当たり、しっかりした研究構想を手にしてください。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	丹信介				

授業の概要 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する論文を講読し、比較検討する際の基本的技法を理解する。研究テーマの位置づけや方法論について、主体的に考える姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。 思考・判断の観点：内外の論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点：研究テーマの位置づけについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の

観点：論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

授業の計画（全体） 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について、討論を交えながら検討する。

成績評価方法（総合） 研究テーマに関連する国内・外の論文講読の理解力や討論を交えながらの検討過程の結果から、評価する。

連絡先・オフィスアワー 丹 信介 Email: tan@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 電話: 933-5388 研究室: 教育学部 436-2 オフィスアワー: 月 12:50~14:20

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	丹信介				

授業の概要 研究テーマに関する予備実験や予備調査の結果を踏まえて、本実験や本調査の研究計画を立案し、それに基づいて本実験や本調査を実施し、得られた結果の整理を行う。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文や予備実験や予備調査の結果を踏まえて、研究テーマに関する実験や調査の計画立案ができる。研究テーマに関する実験や調査を適切に実践できる能力を身につける。また、得られた結果の適切な整理の仕方を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマに関する実験や調査の方法論が理解できる。 思考・判断の観点：研究テーマに関する実験や調査の妥当な方法論や得られた結果の適切な整理の仕方について考えることができる。 関心・意欲の観点：研究計画の遂行について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：研究テーマに関する実験や調査を適切に実践できる能力を身につける。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関する予備実験や予備調査の結果を踏まえて、本実験や本調査の研究計画を立案し、それに基づいて本実験や本調査を実施する。そして、得られた結果の整理を行う。研究計画の立案、実験方法や結果の整理の方法については、適宜討論を交えながら、検討し、研究計画を遂行し、結果をまとめていく。

成績評価方法（総合） 本実験の研究計画の立案及び実験の遂行、実験結果の整理の状況を総合的に見て、評価する。

連絡先・オフィスアワー 丹 信介 Email: tan@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 電話: 933-5388 研究室: 教育学部 436-2 オフィスアワー: 月 12:50~14:20

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	曾根涼子				

授業の概要 修士論文の作成に当たり、研究テーマに関連する国内・国外の論文を講読し、理解を深めると共に、研究テーマの設定や方法論などについて検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する論文を講読し、比較検討する際の基本的技法を理解する。研究テーマの位置づけや方法論について、主体的に考える姿勢を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。 思考・判断の観点：内外の論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点：研究テーマの位置づけについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の

観点：論文の内容を適切な方法・表現で分かりやすく説明できる。

授業の計画（全体） 修士論文の作成に当たり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めると共に、研究テーマの設定や方法論などについて、討論を交えながら検討する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	曾根涼子				

授業の概要 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備実験や予備調査の計画を立て、それに基づいて予備実験や予備調査を行い、その結果について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、実験や調査の計画立案がある程度できる。研究テーマに関連する実験や調査の基本的な方法論が理解でき、それを適切に実践できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマに関連する実験や調査の基本的な方法論が理解できる。

思考・判断の観点： 研究テーマに関連する実験や調査の妥当な方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点： 研究テーマに関する実験、調査の計画立案について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究テーマに関連した実験や調査を適切に実践できる基本的な能力を身につける。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備実験や予備調査の計画立案を行い、それに基づいて予備実験や予備調査を行い、その結果を適宜まとめていく。計画立案の仕方、実験・調査の基本的な方法、得られた結果やその整理の仕方について、討論を交えながら、適宜検討し、本実験や本調査の研究計画立案に向けての準備をする。また、実験・調査の基本的な方法について習得する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	池田恵子				

授業の概要 体育・スポーツに関わる諸テーマを設定し、歴史哲学的手法を用いてその探究に務める。課題の設定、研究動機と先行研究の関係、科学論文の方法論と章立て、体育・スポーツ研究における今日的課題と修士論文としての意味の検討、予見される結論についてが具体的取組みの指針となる。成果は修士論文中間報告会として授業時間以外にも積極的に発表を行う。

授業の一般目標 文献調査を通して、問題点の把握、研究方法の立て方を学習し、研究を進める上で必要となる力の基礎を養う。研究の実現可能性を判断でき、適切なテーマが設定できるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：調査する文献にある専門用語や先行研究論文を理解し、文献の内容を正しく把握できる。思考・判断の観点：文献の内容を論理的に考察し、問題点・疑問点を的確に指摘することができる。先行研究の観点を分類することがあできる。決定した研究テーマの進め方を適切な方法論を用いて分析することができ、その内容や予想される結果等を論理的に説明することができる。関心・意欲の観点：文献内容に興味をもち、自ら掘り下げて考えていくことができる。研究テーマ決定の過程において、自分の興味関心や問題点を積極的に述べるができる。態度の観点：修士論文作成のための時間を自ら積極的に作り出すとともに、研究を進めるにあたって生じる諸問題の解決に向けて主体的に努力することができる。技能・表現の観点：セミナーでの調査文献のプレゼンテーションにおいて、その内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。その他の観点：興味関心や設定したテーマが体育学分野の中のどの位相を占めているかについて予想ができ、現代的視点と対話することができる。毎週行うセミナーにおいて、調査した文献を発表し、質疑応答することができる。

成績評価方法 (総合) 適切なテーマを選定するためには、指導教員とのコミュニケーションを取りながら、自分の興味関心について熟慮することが重要である。従って、研究テーマに対する知識・理解や思考・判断力に加え、出席、研究への熱意や努力など、態度や意欲の観点も重視して、総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー kikeda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	池田恵子				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	上地 広昭				

授業の概要 大学院における研究テーマをさらに詳細に検討するために、関連する文献を収集し、講読する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	上地 広昭				

授業の概要 前期の課題研究を踏まえ、実際に半年間かけて、データ収集、分析を行い、修士論文の予備的レポートを作成する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	海野勇三				

授業の概要 修士論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。

授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点： 各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べるができる。 関心・意欲の観点： 研究テーマに関連する諸事象・言説に関心を持つ。 態度の観点： 様々な問題について、批判的および主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究遂行に必要な実験・調査・授業研究の方法を説明・実施することができる。 自らが研究して得た結果を、論文執筆の要領にしたがいながら簡潔かつわかりやすくまとめることができる。

授業の計画（全体） 各自が研究テーマを決定した後、具体的な調査の方法と進行過程のマネジメントについて指導を行う。また、各自の進行状況を適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、修士構成について不断に再検討していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 オリエンテーション
- 第 3 回 項目 レポートと集団討論
- 第 4 回 項目 レポートと集団討論
- 第 5 回 項目 レポートと集団討論
- 第 6 回 項目 レポートと集団討論
- 第 7 回 項目 中間報告会（Ⅰ）授業外指示 レポート：中間まとめ
- 第 8 回 項目 レポートと集団討論
- 第 9 回 項目 レポートと集団討論
- 第 10 回 項目 レポートと集団討論
- 第 11 回 項目 レポートと集団討論
- 第 12 回 項目 中間報告会（Ⅱ）授業外指示 レポート：中間まとめ
- 第 13 回 項目 レポートと集団討論
- 第 14 回 項目 レポートと集団討論
- 第 15 回 項目 最終報告会 授業外指示 最終レポート：修士論文の最終構想

成績評価方法（総合） 研究の遂行過程、および修士論文の作成過程により総合的に判断する。

メッセージ 自らの課題意識にこだわり続けながら、計画に従って粘り強く研究に取り組んでください。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	海野勇三				

授業の概要 修士論文の完成に向けて、各自の設定したテーマで研究成果の取りまとめの段階における指導を行う。

授業の一般目標 各自の確定した研究構想にしたがって、一貫した分析・考察を行い、修士論文へと仕上げることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の研究成果を、先行研究を踏まえながら位置づけ、説明することができる。 思考・判断の観点： 自らの研究成果を論理的に整合性を持たせてわかりやすく叙述することができる。 態度の観点： 自らの研究で得られた成果に対し、その意義とともに限界や残された課題を指摘することができる。 技能・表現の観点： テーマに沿って研究してきた成果を、口頭発表および論文として適切に表現することができる。

授業の計画（全体） 修士論文の完成に向けて、各自が設定した研究構想にしたがって、計画的に分析・考察を進めていく。授業では、各自の修士論文の進行状況を適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 進行経過の報告と協議
- 第 3 回 項目 進行経過の報告と協議
- 第 4 回 項目 進行経過の報告と協議
- 第 5 回 項目 進行経過の報告と協議
- 第 6 回 項目 進行経過の報告と協議
- 第 7 回 項目 進行経過の報告と協議
- 第 8 回 項目 中間総括
- 第 9 回 項目 進行経過の報告と協議
- 第 10 回 項目 進行経過の報告と協議
- 第 11 回 項目 進行経過の報告と協議
- 第 12 回 項目 進行経過の報告と協議
- 第 13 回 項目 進行経過の報告と協議
- 第 14 回 項目 総括的検討
- 第 15 回 項目 総括的検討

成績評価方法（総合） 修士論文の作成過程、および、修士論文の完成度により、総合的に評価する。

メッセージ 明らかにし得たことと残されたこと、言明できることと推察の域を出ないこととの区別を。

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	塩田正俊				

授業の概要 実験方法等について具体的な研究計画を立案し、研究を開始する。

授業の一般目標 絞り込んだ研究テーマを遂行する上での問題点を理解し、主体的に必要な実験器具および実験方法を調べて実験準備を整え、予備実験等、具体的に研究を開始することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：テーマに関する先行研究を把握し説明できる。研究に関する観察・実験方法や調査方法について、それらの原理や得られる情報の質、長所や短所などを理解できる。思考・判断の観点：研究テーマに適した実験方法を判断し、具体的な実験計画を思考することができる。

関心・意欲の観点：先行研究や実験方法に関心を持ち、実験計画の立案および研究の開始に意欲的に取り組むことができる。態度の観点：研究計画の立案および研究の開始にあたり、そのための時間を積極的に作り出そうとすることができる。技能・表現の観点：セミナーにおいて、自らの研究計画を、適切な方法・表現でわかりやすくプレゼンテーションすることができる。

授業の計画（全体） 具体的な研究計画を立案する上で必要となる文献の追加調査を行う。実験方法や実験機器の原理や所在を確認し、実行可能な研究計画を立案する。立案した計画に基づき、実験機器や器具を手配するなど環境を整え、実質的な研究を開始する。

成績評価方法（総合） 立案した研究計画を科学的に理解し、わかりやすく説明することができるかを主要な評価基準とする。また、文献や実験方法・実験機器等に関する知識・理解とともに、文献調査や実験方法の検討など研究計画の立案に主体的に取り組もうとしたか、速やかに実質的な研究を開始することができたかも重視する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	塩田正俊				

授業の概要 必要な追加実験や追跡調査を行なうとともにデータの解析・分析を進め、修士論文を作成する。修士論文審査会で発表を行なう。

授業の一般目標 研究内容を正しく理解し、適切に論文として纏めることができる。また、その内容をわかりやすく説明・発表できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究内容に関する科学的な知識を備え、研究全般について理解できる。 思考・判断の観点： 研究の内容を正しく理解し、その結果や結論の良否、残された問題点等について科学的に思考し判断できる。 関心・意欲の観点： 研究を積極的に進め、自らの力で論文を完成させようと努力することができる。 態度の観点： 研究成果を修士論文として完成させることの価値を理解し、自主的に行動することができる。研究成果を科学的・客観的に纏めようとする態度を保つことができる。 技能・表現の観点： 研究成果を首尾一貫した論文として完成させることができる。修士論文発表会等、発表時間内でわかりやすく研究成果を提示することができる。質疑・応答時などでの第三者からの質問に対し、的確な受け答えをすることができる。

授業の計画(全体) 本期の前半は、修士論文の作成に向けて、追加実験や追跡調査を行なうとともにデータの解析・分析を進める。後半は、論文の作成に取りかかるとともに、12月の中間発表会で研究成果を報告する。研究内容および進捗状況から、研究成果を修士論文としてまとめることができると認められたものは、1月中旬に設定される期限までに修士論文を提出し、2月に審査会で最終発表を行う。

成績評価方法(総合) 得られた研究成果が修士論文として十分な内容を持つか評価した上で、論文としての纏め方、中間発表会や最終審査会でのプレゼンテーションなどを含めて、総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	上地 広昭				

授業の概要 修士論文に関する先行研究の整理と、研究目的を明確にするとともに、データの収集、分析について具体的に検討する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	上地 広昭				

授業の概要 データの収集と分析方法の確定。結果と表現と考察の視点の決定及び考察内容の吟味。

技術教育專修

開設科目	技術科教育特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	阿濱 茂樹				

授業の概要 技術科教育の教育方法，教材などに関する研究成果や実践事例などについての文献講読および解説を行う。

授業の一般目標 技術科教育に関する課題について主体的に考えることができ，研究方法についての理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：技術科教育に関する課題について理解が出来る。 思考・判断の観点：技術科教育に関する調査や実験について適切な方法を考えることができる。 関心・意欲の観点：技術科教育に関する課題について主体的に取り組むことができる。 技能・表現の観点：技術科教育に関する課題について妥当な解決法を説明できる。

授業の計画（全体） 技術科の授業に関する文献などの分析と討議を通して，技術科における授業のありかたや授業研究の方法論について理解を深める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス
- 第2回 項目 技術科教育の目的
- 第3回 項目 技術科教育のカリキュラム
- 第4回 項目 技術科教育のカリキュラム
- 第5回 項目 技術科教育に関する教材
- 第6回 項目 技術科教育に関する教材
- 第7回 項目 技術科教育に関する教材
- 第8回 項目 技術科教育に関する教材
- 第9回 項目 技術科教育に関する指導法
- 第10回 項目 技術科教育に関する指導法
- 第11回 項目 技術科教育に関する評価
- 第12回 項目 技術科教育に関する評価
- 第13回 項目 海外の技術科教育
- 第14回 項目 海外の技術科教育
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 課題に対するレポートを課す。これらにより評価する。出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：随時指示する。 / 参考書：随時指示する。

連絡先・オフィスアワー 随時受け付け（研究室）

開設科目	技術科教育特論演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	阿濱 茂樹				

授業の概要 技術科教育の教育方法，教材などに関する研究成果や実践事例などについての文献講読および演習を行う。

授業の一般目標 技術科教育に関する課題について主体的に考えることができ，研究方法についての理解をする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：技術科教育に関する課題について理解が出来る。 思考・判断の観点：技術科教育に関する調査や実験について適切な方法を考えることができる。 関心・意欲の観点：技術科教育に関する課題について主体的に取り組むことができる。 技能・表現の観点：技術科教育に関する課題について妥当な解決法を説明できる。 主体的に先行研究を検索することができる。

授業の計画（全体） 技術科の授業に関する文献などの分析と討議を通して，技術科における授業のありかたや授業研究の方法論について理解を深める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス
- 第2回 項目 技術科教育の目的
- 第3回 項目 技術科教育のカリキュラム
- 第4回 項目 技術科教育のカリキュラム
- 第5回 項目 技術科教育に関する教材
- 第6回 項目 技術科教育に関する教材
- 第7回 項目 技術科教育に関する教材
- 第8回 項目 技術科教育に関する教材
- 第9回 項目 技術科教育に関する指導法
- 第10回 項目 技術科教育に関する指導法
- 第11回 項目 技術科教育に関する評価
- 第12回 項目 技術科教育に関する評価
- 第13回 項目 海外の技術科教育
- 第14回 項目 海外の技術科教育
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 課題に対するレポートを課す。また、発表や演習も行う。これらにより評価する。出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：随時指示する。 / 参考書：随時指示する。

メッセージ 文献などは受講生の希望を重視する。

連絡先・オフィスアワー 随時受け付け（研究室）

開設科目	技術科教育支援研究 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岡村吉永				

授業の概要 技術科教育の特徴や性格について考察し、教材や題材の面から学習指導のあり方を検討する。

授業の一般目標 技術科教育の目的や性格について理解し、ここで育成すべき学習内容との関連で教材および題材の意味を説明することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教科の指導に必要な知識を有し、その意義や特徴について正しく理解している。 思考・判断の観点：教科の置かれた現状を正しく認識し、課題とその対策について思考・判断することができる。 関心・意欲の観点：教育を取り巻く環境や、技術的な動向について関心をもち、主体的に学ぶ意欲を有している。 態度の観点：主体的・実践的に課題に取り組もうとしている。 技能・表現の観点：技術教育の課題を解決するために必要な技術的能力を有している。また、課題や成果を客観的かつ分かりやすく整理し、表現することができる。

授業の計画（全体） 技術教育の置かれた現状を考察し、学習内容を拡充するために必要な事項について、全体的に考究する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 技術科の性格と特徴
- 第 2 回 項目 技術科の学習目標
- 第 3 回 項目 各分野の学習課題
- 第 4 回 項目 技術とものづくり分野の学習項目
- 第 5 回 項目 教科書分析 (ものづくり分野)1
- 第 6 回 項目 教科書分析 (ものづくり分野)2
- 第 7 回 項目 技術と情報分野の学習項目
- 第 8 回 項目 教科書分析 (情報分野)1
- 第 9 回 項目 教科書分析 (情報分野)2
- 第 10 回 項目 学習題材の選定について
- 第 11 回 項目 技術科教育における教材・教具の意味
- 第 12 回 項目 学習者を支援する教材・教具のあり方
- 第 13 回 項目 教材・教具に関する事例研究 1
- 第 14 回 項目 教材・教具に関する事例研究 2
- 第 15 回 項目 安全指導 安全指導について

成績評価方法（総合） 技術教育の特徴や意義を正しく理解しているか。また、教科の置かれた現状を正しく理解し、指導を拡充するために必要な方策等について、自らの考えを論理的に説明することができるか。

開設科目	技術科教育支援研究 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岡村吉永				

授業の概要 技術科の教育効果を高めるためのに必要な事項，特に教材・教具について，その具備すべき条件を明らかにするとともに，開発や使用にあたっての課題を検討する。

授業の一般目標 技術科における教材・教具の意味や具備すべき条件について説明することができる。また，その開発や使用にあたって留意すべき点を指摘できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教科の指導に必要な知識を有し，その意義や特徴について正しく理解している。 思考・判断の観点：教科の置かれた現状を正しく認識し，課題とその対策について思考・判断することができる。 関心・意欲の観点：教育を取り巻く環境や，技術的な動向について関心をもち，主体的に学ぶ意欲を有している。 態度の観点：主体的・実践的に課題に取り組もうとしている。 技能・表現の観点：技術教育の課題を解決するために必要な技術的能力を有している。また，課題や成果を客観的かつ分かりやすく整理し，表現することができる。

授業の計画（全体） 技術に関する教育の重要性を理解し，学習指導を拡充するために必要な教育的支援について，実践的に学ぶ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教科指導において教材・教具が果たす役割
- 第 2 回 項目 教材・教具が具備すべき条件
- 第 3 回 項目 教材・教具の使用または開発に際して留意すべき事項
- 第 4 回 項目 問題解決の方法について
- 第 5 回 項目 教材・教具の開発（資料集および検討）
- 第 6 回 項目 教材・教具の開発（提案）
- 第 7 回 項目 教材・教具の開発（試作，検討）
- 第 8 回 項目 教材・教具の開発（試作，検討）
- 第 9 回 項目 教材・教具の開発（中間発表，修正点等の検討）
- 第 10 回 項目 教材・教具の開発（試作，検討）
- 第 11 回 項目 教材・教具の開発（試作，検討）
- 第 12 回 項目 教材・教具の開発（試作，検討）
- 第 13 回 項目 開発した教材・教具の発表，実用に関する討議
- 第 14 回 項目 教材・教具開発の意味と重要性について
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 技術教育の特徴や意義を正しく理解しているか。また，教科の置かれた現状を正しく理解し，指導を拡充するために必要な方策を提案し，実践的にこれを具現化することができる。

メッセージ 技術科指導上の問題点を解決するための教材・教具の開発を想定しています。

開設科目	情報科教育特論	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	鷹岡亮				

授業の概要 本授業では、情報科教育の背景、内容と方法について、文献調査を行い学習する。また、情報科教育における教材開発の方法論を学ぶと同時に教材を開発する。

授業の一般目標 情報科教育の特徴を理解し、授業の内容と方法、さらには教材開発が主体的に実施できることを目標とする。

教科書・参考書 教科書：授業内で指示する。 / 参考書：授業内で紹介する。

開設科目	機械情報工学特論 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森岡弘				

授業の概要 機械工学と電気工学の総合技術であるメカトロニクスの基礎とマイコンを用いた機械システム(ロボット等)の計測・制御技術を学習する。/ 検索キーワード ロボット、メカトロニクス、マイコン

授業の一般目標 ロボットを含む機械システムの設計を通して、メカトロニクスおよび情報工学の知識を総合的に習得することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ロボットの設計製作を通して、中学校技術科教員に必要と考えられる機械工学と電気工学の総合的な知識の習得を目指す。 関心・意欲の観点：ものづくりに関して関心を高め、みずからの手を使って製作に積極的に参加できるようにすることを目標とする。 技能・表現の観点：総合的な機械システムの設計製作能力を習得することを目標とする。

授業の計画(全体) 機械工学と電気工学の総合技術であるメカトロニクスの基礎とマイコンを用いた機械システム(ロボット等)の計測・制御技術を学習する。。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業方法、評価方法等について説明する。
- 第 2 回 項目 ロボット製作の概論 内容 ロボット製作の概要を説明する。
- 第 3 回 項目 モータの基礎知識 1 内容 DC モータの特徴
- 第 4 回 項目 モータの基礎知識 2 内容 DC モータの制御方法
- 第 5 回 項目 モータの基礎知識 3 内容 モータ制御用 IC の使い方
- 第 6 回 項目 モータの基礎知識 4 内容 モータの選択方法
- 第 7 回 項目 電子部品の基礎知識 1 内容 回路図の基礎
- 第 8 回 項目 電子部品の基礎知識 2 内容 電子部品の基礎知識
- 第 9 回 項目 電子部品の基礎知識 3 内容 論理回路の基礎知識
- 第 10 回 項目 ロボットの機械部の設計 1 内容 ロボットの骨組みの設計
- 第 11 回 項目 ロボットの機械部の設計 2 内容 駆動部の設計
- 第 12 回 項目 コントローラの設計 1 内容 PIC 概要
- 第 13 回 項目 コントローラの設計 1 内容 PIC を使用したコントローラの設計
- 第 14 回 項目 コントローラの設計 1 内容 PIC を使用したコントローラの設計
- 第 15 回 項目 まとめ・発表 内容 これまでのまとめと受講生による成果発表

成績評価方法(総合) 成績評価はレポート(製作品を含む)、授業態度・授業への参加度を総合的に評価して行う。

教科書・参考書 参考書：作って遊べるロボット工作、後閑哲也、技術評論社

連絡先・オフィスアワー E-mail:morioka@yamaguchi-u.ac.jp・木 1, 2

開設科目	機械情報工学特論 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森岡弘				

授業の概要 機械情報工学特論 I で修得した，メカトロニクス基礎とマイコンを用いた機械システム（ロボット等）の計測・制御技術をもとにして，赤外線通信による遠隔操作可能なマイコン搭載ロボットの設計製作を行う。 / 検索キーワード ロボット、メカトロニクス、マイコン、情報通信

授業の一般目標 マイコン搭載ロボットの設計製作を行い、特に機械関連のものづくりに必要となる総合的な設計製作能力を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ロボットの設計製作を通して、中学校技術科教員に必要と考えられるメカトロニクス基礎とロボットの遠隔操作技術の習得を目指す。 関心・意欲の観点：ものづくりに関して関心を高め、みずからの手を使って製作に積極的に参加できるようにすることを目標とする。

技能・表現の観点：マイコン搭載ロボットの設計製作を行い、特に機械関連のものづくりと計測制御に必要となる総合的な設計製作能力を習得する。

授業の計画（全体） マイコン搭載ロボットの設計製作を行い、ロボット製作に必要なメカトロニクス技術を習得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業方法、評価方法等について説明する。
- 第 2 回 項目 赤外線通信による遠隔操作装置 1 内容 赤外線通信の方式
- 第 3 回 項目 赤外線通信による遠隔操作装置 2 内容 赤外線送信機の設計
- 第 4 回 項目 赤外線通信による遠隔操作装置 3 内容 赤外線送信機のプログラム設計 1
- 第 5 回 項目 赤外線通信による遠隔操作装置 4 内容 赤外線送信機のプログラム設計 2
- 第 6 回 項目 赤外線通信による遠隔操作装置 5 内容 赤外線送信機の製作
- 第 7 回 項目 各種モータの特徴と制御の基礎 1 内容 DC モータ，ステッピングモータ，ラジコンサーボの特徴
- 第 8 回 項目 各種モータの特徴と制御の基礎 2 内容 DC モータの PWM 制御
- 第 9 回 項目 マイコン搭載ロボットの設計と製作 1 内容 ロボットの機械部の設計
- 第 10 回 項目 マイコン搭載ロボットの設計と製作 2 内容 コントローラの設計
- 第 11 回 項目 マイコン搭載ロボットの設計と製作 3 内容 マイコン搭載ロボットの製作
- 第 12 回 項目 マイコン搭載ロボットの設計と製作 4 内容 マイコン搭載ロボットの製作
- 第 13 回 項目 マイコン搭載ロボットの設計と製作 5 内容 マイコン搭載ロボットの製作
- 第 14 回 項目 マイコン搭載ロボットの試運転 内容 製作したマイコン搭載ロボットの試運転を行う。
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 これまでのまとめと受講生による成果発表

成績評価方法（総合）成績評価はレポート（製作品を含む），授業態度・授業への参加度を総合的に評価して行う。

教科書・参考書 参考書：作って遊べるロボット工作、後閑哲也、技術評論社

連絡先・オフィスアワー E-mail:morioka@yamaguchi-u.ac.jp ・月 1，2

開設科目	工業材料特論 II	区分	講義と演習	学年	修士 2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	澤本章				

授業の概要 金属材料は近代文明を支えており、構造用材料としても多く活用されている。構造用材料として使用する場合には、安全性の観点から、その機械的性質を十分に把握する必要がある。そこで、工業材料として用いられている金属材料の機械的特性（疲労、摩耗、曲げ強さ、硬さ、衝撃強さ、クリープ、非破壊検査）について概説する。また、情報機器材料、プラスチック、セラミックス複合材料の摩耗特性についても解説する。／検索キーワード 金属材料、疲労、摩耗、クリープ、硬さ、じん性、非破壊検査、情報機器、フロッピーデスク、CD

授業の一般目標 工業材料として用いられている金属材料の機械的特性（疲労、摩耗、曲げ強さ、硬さ、衝撃強さ、クリープ、非破壊検査）を理解する。また、情報機器材料、プラスチック、セラミックス複合材料の摩耗特性についての知見を得る。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 金属材料の疲労 I
- 第 2 回 項目 金属材料の疲労 II
- 第 3 回 項目 金属材料の疲労 III
- 第 4 回 項目 金属材料の摩耗 I
- 第 5 回 項目 金属材料の摩耗 II
- 第 6 回 項目 金属材料の摩耗 III
- 第 7 回 項目 金属材料の曲げ強度
- 第 8 回 項目 金属材料の衝撃強度
- 第 9 回 項目 金属材料のクリープ
- 第 10 回 項目 金属材料の非破壊検査
- 第 11 回 項目 情報機器材料の摩耗 I
- 第 12 回 項目 情報機器材料の摩耗 II
- 第 13 回 項目 情報機器材料の摩耗 III
- 第 14 回 項目 セラミックス複合材料の摩耗及びプラスチックの摩耗
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 授業への出席状況（25%）、授業態度（5%）、レポート（70%）により総合評価する。

教科書・参考書 教科書：板書及びプリント配布により説明予定です。／参考書：摩耗機構の解析と対策、野呂瀬進監修、テクノシステム、1992年；大学基礎「機械材料」-改訂版-、門間改三、実教出版、1987年；・摩耗機構の解析と対策：野呂瀬進（フジテクノシステム）（1992）・HOW COMPUTERS WORK, Ron White (QUE) (2001)

メッセージ 社会問題となっている金属疲労、金属摩耗などについても解説します。この他、金属材料の性質を把握するために、工業的に行なわれている評価方法、検査方法を知ることが出来ます。また、情報機器、プラスチック、セラミックス材料の使用にともなう生ずる摩耗についても学習します。

連絡先・オフィスアワー 山口大学 教育学部 技術教育 金属加工 澤本章、TEL/FAX 083-933-5395
E-mail sawamoto@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	電子回路特論	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古賀和利				

授業の概要 コンピューターで時間波形を扱うための A/D 変換、D/A 変換の技術について、実際の回路作製も含めて学習する。

授業の一般目標 コンピューターの機械語と入出力ハードウェアに関するプリント、および A/D 変換 D/A 変換の原理に関する解説書を読んで理解するとともに、実際に D/A 変換回路を作成して信号を取り込む。また、D/A 変換回路を利用し、ソフト的に A/D 変換器を実現し、コンピューターへの信号の入出力の方法を理解する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 機械語を通してコンピューター動作の理解を深める 2. ラダー型 D/A 変換回路を理解する 3. 逐次比較型 A/D 変換の原理を理解する 思考・判断の観点： 1. D/A 変換器を通して信号を取り込むプログラムが作成できる 2. 理解した A/D 変換の原理をプログラムにより実現できる

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 機械語その 1
- 第 2 回 項目 機械語その 2
- 第 3 回 項目 入出力の原理とハード
- 第 4 回 項目 D/A 変換の原理
- 第 5 回 項目 A/D 変換の原理
- 第 6 回 項目 D/A 変換プログラムの作成その 1
- 第 7 回 項目 D/A 変換プログラムの作成その 2
- 第 8 回 項目 変換データ表示プログラムの作成
- 第 9 回 項目 D/A 変換の実験
- 第 10 回 項目 A/D 変換プログラムの作成その 1
- 第 11 回 項目 A/D 変換プログラムの作成その 2
- 第 12 回 項目 A/D 変換実験
- 第 13 回 項目 追加実験
- 第 14 回 項目 まとめ その 1
- 第 15 回 項目 まとめ その 2

開設科目	電気回路特論	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古賀和利				

授業の概要 アナログ信号解析のためのフーリエ変換など離散信号解析手法について学習する

授業の一般目標 フーリエ変換、逆フーリエ変換の考え方を理解し、計算法と利用法を習得する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 周期関数とフーリエ級数の関係を理解する 2. 非周期関数とフーリエ積分の関係を理解する 3. 畳み込み積分とフーリエ変換の関係を理解する 技能・表現の観点：ゼミで与えられた範囲のテキストを読んで内容を理解し、人に説明することができる

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 デジタル信号とデジタル表示
- 第 2 回 項目 複素数と三角関数の基礎
- 第 3 回 項目 量子化雑音
- 第 4 回 項目 デスクリート信号
- 第 5 回 項目 基本伝達関数
- 第 6 回 項目 フーリエ級数
- 第 7 回 項目 フーリエ変換
- 第 8 回 項目 フーリエ逆変換
- 第 9 回 項目 コンボリューション
- 第 10 回 項目 アナログ信号とデスクリート信号
- 第 11 回 項目 ディスクリート関数フーリエ変換
- 第 12 回 項目 演習その 1
- 第 13 回 項目 演習その 2
- 第 14 回 項目 演習その 3
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 (総合) 出席点 20 点、5 回以上欠席は欠格。残り 80 点は、ゼミ形式の発表内容理解度 40 点、レポートによる評価 40 点で行う。

教科書・参考書 教科書：適宜コピーを配布する

開設科目	情報科学特論	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	永久洋治				

開設科目	情報回路網特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	葛崎偉				

授業の概要 本科目では、ネットワーク理論に基づいて、情報ネットワークにおける通信の原理・仕組みやネットワーク構築に当たっての技術や情報ネットワークの利用に関するセキュリティについて論じる。また、実践的にコンピュータ・ネットワークの構築および管理運用を行う。

授業の一般目標 情報ネットワークの知識やその活用に関する技術を身につけることを通して、技術教育の資質を高めることを目標とする。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 基礎的事項のまとめ
- 第 2 回 項目 グラフ・ネットワークの基本的概念
- 第 3 回 項目 ネットワークの構造と性質
- 第 4 回 項目 ネットワークアルゴリズム
- 第 5 回 項目 情報ネットワークの構成
- 第 6 回 項目 情報ネットワークのプロトコルと各種サービス
- 第 7 回 項目 情報ネットワークにおける通信経路の決定
- 第 8 回 項目 サーバとクライアントとの通信
- 第 9 回 項目 情報ネットワークのセキュリティ問題
- 第 10 回 項目 暗号の仕組みとその効果
- 第 11 回 項目 コンピュータネットワークの設計
- 第 12 回 項目 サーバの構築
- 第 13 回 項目 サーバの設定
- 第 14 回 項目 クライアントの設定
- 第 15 回 項目 総括

開設科目	情報処理特論	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中田充				

授業の概要 詳細は，初回授業時に面談をして決定する．

授業の一般目標 学部 of 授業内容を前提として，より高度な情報処理技術の習得を目指す．

開設科目	工業材料特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	澤本章				

授業の概要 工業用材料として用いられている非鉄金属材料(ニッケル合金、銅合金、アルミニウム合金、マグネシウム合金、すず、亜鉛合金、セラミックスなど)、非金属材料(レンガ、モルタル、皮、ゴム、プラスチック、潤滑材) 及び電子材料の特徴と使用方法について解説する。 / 検索キーワード ニッケル、アルミニウム、銅、セラミックス、プラスチック、潤滑材、電子材料、情報機器材料、機能

授業の一般目標 工業材料についての知識を広める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 工業材料を説明できる。 2. 工業材料を関係づける。 思考・判断の観点： 1. 工業材料を類別できる。 2. 工業材料の機能を指摘できる。 関心・意欲の観点： 1. 工業材料の種類を討議できる。 2. 工業材料の知識の修得に寄与できる。 態度の観点： . 工業材料の効果的使用法を考える態度を養う。 2. 工業材料に関する知見を修得し、これらを使用した機器と協調できる。 技能・表現の観点： 1. 材料を有効に活用する技術を身につける。 2. 材料を使用してものを作り表現する力を育む。

授業の計画(全体) 工業材料を中心にその特徴及び活用法について概説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 金属材料の一般的な性質
- 第 2 回 項目 ニッケル合金
- 第 3 回 項目 銅合金
- 第 4 回 項目 アルミニウム合金 I
- 第 5 回 項目 アルミニウム合金 II
- 第 6 回 項目 マグネシウム合金
- 第 7 回 項目 チタン、すず、鉛、亜鉛
- 第 8 回 項目 セラミックス
- 第 9 回 項目 金属・セラミックス複合材料
- 第 10 回 項目 プラスチック、接着剤、潤滑剤
- 第 11 回 項目 電子材料の種類と特徴
- 第 12 回 項目 電子材料の製造法
- 第 13 回 項目 情報機器材料の種類と特徴
- 第 14 回 項目 情報機器材料の構造と役割 I
- 第 15 回 項目 情報機器材料の構造と役割 II

成績評価方法(総合) 出席状況(25 %)、授業中の態度(5 %)、レポート(70 %)により総合評価する。

教科書・参考書 教科書：大学基礎「機械材料」- 改訂版 - , 門間改三, 実教出版, 1987 年; 教科書その他、プリントも配布する。板書にて説明も行う。 / 参考書：若い技術者のための機械・金属材料- 増補版 - , 矢島悦次郎、市川理衛、古沢浩一、丸善, 1986 年; ・HOW COMPUTERS WORK, Ron White(QUE)(2001)

メッセージ ニッケル合金、銅合金、アルミニウム合金、マグネシウム合金、セラミックス、プラスチック、電子材料、情報機器材料などの種類と役割について解説します。

連絡先・オフィスアワー 毎週木曜日、10:20 ~ 11:50、教育学研究科、技術教育専修、金属加工、264 号室、TEL/FAX : 083-933-5395、 E-mail: sawamoto @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	情報社会倫理特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	林徳治				

授業の概要 情報社会における特徴や倫理観について学び、とりわけ学校教育における情報社会の「光」と「影」について考察し、今後の教育について探究する。

授業の一般目標 1. 情報について意味や役割について知る 2. 情報社会に求められる情報活用能力を知る 3. 情報社会におけるメディアコミュニケーションの特徴を知る 4. 情報社会における情報倫理や著作権について知る 5. 情報社会に求められる心の問題について知る

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：メディアを介したコミュニケーション能力 思考・判断の観点：論理的、批判的な思考力と判断力 関心・意欲の観点：教育メディアに対する興味関心 態度の観点：自発的、独創的に取り組む姿勢 技能・表現の観点：メディアを利用したプレゼンテーションの実施・評価を通しての実践力

授業の計画（全体） 情報社会における特徴について、経済、社会、教育面より考察する。情報社会における今日的な課題について取り上げ、「光」と「影」の部分より分析し、その対応について考察する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 情報の果たす役割
- 第 2 回 項目 情報活用能力について
- 第 3 回 項目 コミュニケーション能力について
- 第 4 回 項目 プレゼンテーション能力について
- 第 5 回 項目 情報倫理と著作権
- 第 6 回 項目 情報化のネガティブな効果を克服するために
- 第 7 回 項目 企業のコミュニケーション
- 第 8 回 項目 生涯自己教育について
- 第 9 回 項目 これからの国際理解・協力
- 第 10 回 項目 教育分野における我が国のODA
- 第 11 回 項目 科学技術革新と情報社会
- 第 12 回 項目 まとめ
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

教科書・参考書 教科書：新・情報社会人のすすめ, 情報教養研究会, ぎょうせい, 1997年 / 参考書：情報教育の理論と実践, 林徳治, 実教出版, 2002年

連絡先・オフィスアワー E-mail hayashi9@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター 1階

開設科目	電子計算機特論	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古賀和利				

授業の概要 ノイマン型電子計算機のハードウェアを中心に、オペレーティングシステムとの関連を、ゼミ形式で学習する。

授業の一般目標 現在のコンピューターのプログラム実行過程のイメージをハードウェアの構造とともに理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：電子計算機の動作を入出力動作を含めて、機械語レベルの手続きとして理解できる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 コンピューターの構成
- 第 2 回 項目 8086 アーキテクチャ
- 第 3 回 項目 機械語とアセンブリ言語
- 第 4 回 項目 転送命令とアドレッシングモード
- 第 5 回 項目 算術演算命令
- 第 6 回 項目 ビット操作命令
- 第 7 回 項目 制御・分枝命令 1
- 第 8 回 項目 制御・分枝命令 2
- 第 9 回 項目 入出力命令
- 第 10 回 項目 割り込み
- 第 11 回 項目 アセンブラプログラミング 1
- 第 12 回 項目 アセンブラプログラミング 2
- 第 13 回 項目 アセンブラプログラミング 3
- 第 14 回 項目 アセンブラプログラミング 4
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	情報処理言語特論	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中田充				

授業の一般目標 C 言語以外のプログラミング言語の学習を通して、プログラミングスキルの向上と、ある言語を基準とした他の言語の学習方法の習得を目指す。学習する言語は初回の授業時に面接を行い決定する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 選択した言語でプログラムを作成することができるか。 思考・判断の観点： プログラミング言語の学習方法が身についているか。

授業の計画（全体） 初回到言語を選定し、教科書等も学生が自ら決定する。その後、その教科書をベースにして授業を進める。必要に応じて、言語の概要の紹介、教科書の候補となる文献の紹介を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 言語の選定
- 第 2 回 項目 教科書の選定
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 課題を与えるので、その課題のプログラムを選定した言語を用いて実現するレポートを課す。

開設科目	情報システム特論 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中田充				

授業の概要 情報システムの構築について学習する .

授業の一般目標 情報システムの構築に関する知識を学び , 実際に構築を行う .

授業の到達目標 / 知識・理解の観点 : 情報システムの構築に関する知識を持っている . 技能・表現の
 観点 : 内容の適切な説明や表現

開設科目	情報通信ネットワーク特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	葛崎偉				

授業の概要 本科目では、情報通信ネットワークの原理・仕組み、情報通信ネットワークの構築・管理、さらに情報通信ネットワークの運用に関するセキュリティについて論じる。また、学校現場を想定した、情報通信ネットワークの設計、構築などを行う。

授業の一般目標 情報通信ネットワークの知識や技術を身につけさせ、ネットワーク構築の実践力を高めると同時に、学校現場で求められる情報教育の資質を高めることを目標とする。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 基礎的事項のまとめ
- 第2回 項目 情報通信ネットワークの構成と接続方法
- 第3回 項目 通信ネットワークにおける通信プロトコル
- 第4回 項目 インターネットの通信プロトコルとサービス
- 第5回 項目 TCPとUDPの通信方式
- 第6回 項目 IPとルーティング
- 第7回 項目 通信ネットワークにおけるセキュリティ問題
- 第8回 項目 暗号技術とその活用法
- 第9回 項目 通信ネットワークの構築法
- 第10回 項目 学校現場に即したネットワークの設計
- 第11回 項目 学校通信ネットワークの構築
- 第12回 項目 学校通信ネットワークにおけるサーバの設定
- 第13回 項目 生徒用クライアントの各種設定
- 第14回 項目 構築した学校通信ネットワークの検証
- 第15回 項目 総括

開設科目	グラフ・ネットワーク特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	葛崎偉				

授業の概要 本科目では、グラフ・ネットワークの定義、性質から、グラフ・ネットワーク理論における各種問題とその解決のためのアルゴリズム設計について論じる。また、応用として、情報通信ネットワークにおける経路決定問題の紹介とその問題解決のためのアルゴリズム設計を行う。

授業の一般目標 グラフ・ネットワークに関する理論的な知識やその応用力を身につけさせ、情報教育に必要とされている理論的な問題解決能力を高めることを目標とする。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 基礎的事項のまとめ
- 第2回 項目 グラフ・ネットワークの定義
- 第3回 項目 各種グラフ・ネットワークの紹介
- 第4回 項目 グラフ・ネットワークの性質および証明法
- 第5回 項目 無向グラフの探索法
- 第6回 項目 有向グラフの探索法
- 第7回 項目 最短、最長経路問題とそのアルゴリズム
- 第8回 項目 マッチング問題とその関連のアルゴリズム
- 第9回 項目 ネットワークフロー問題とそのアルゴリズム
- 第10回 項目 アルゴリズムの設計法
- 第11回 項目 アルゴリズムの解析法
- 第12回 項目 アルゴリズムの計算複雑度の算出
- 第13回 項目 通信ネットワークにおける経路決定問題
- 第14回 項目 経路決定問題のアルゴリズム設計
- 第15回 項目 総括

開設科目	視覚情報処理特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	熊谷武洋				

授業の概要 マルチメディアをはじめとする各種画像を計算機上で扱うための理論や技術に関して講義を行う。加えて、実際の応用事例や作品などの鑑賞をビデオ、ネットなどの各メディア、および山口情報芸術センターにて行う。/ 検索キーワード ビジュアル コンピュータ 画像処理

授業の一般目標 画像情報処理に関わる技術について学習し、最新の映像資料を鑑賞することにより、教育分野における視聴覚教材としての有用性、活用法について理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：講義において説明した概念を、別の用語を用いて説明できるか
 関心・意欲の観点：当該分野における表現技術に関する知識欲があるか 態度の観点：積極的に自主学習、技術情報収集、作品閲覧等を行っているか

授業の計画(全体) 講義内において説明された専門用語をキーワードにしてネットや書籍等を用いて自主学習を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 映像メディアコンテンツ事例紹介-1- 内容(映画・ゲーム・放送)
- 第2回 項目 映像メディアコンテンツ事例紹介-2- 内容(医療・産業)
- 第3回 項目 映像メディアコンテンツ事例紹介-3- 内容(教育・文化)
- 第4回 項目 計算機による画像処理の基礎概念
- 第5回 項目 視覚情報処理の歴史
- 第6回 項目 2次元画像のデータ表現・階調・色彩
- 第7回 項目 2次元画像の描画・合成・変換
- 第8回 項目 2次元画像処理の応用事例解説
- 第9回 項目 3次元画像の立体表現・立体表示
- 第10回 項目 3次元画像の動作表現・処理装置
- 第11回 項目 3次元画像の計算機言語
- 第12回 項目 3次元画像処理の応用事例解説
- 第13回 項目 教育分野における画像情報処理の有効性について
- 第14回 項目 教育分野における画像情報処理の活用手法について
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 履修態度、課題達成度、学外学習等を総合的に判断し、評価を行う

メッセージ 復習を積極的に行うこと

連絡先・オフィスアワー Tel:083-933-5403 E-Mail:kumagai@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	情報産業職業特論	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	永久洋治				

開設科目	技術科教育実践研究	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	阿濱 茂樹				

授業の概要 技術科教育の教育方法，教材などに関する研究成果や実践事例などについての実践的研究を行う。

授業の一般目標 技術科教育に関する課題について主体的に考えることができ，実践的研究に取り組むことができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：技術科教育に関する課題について理解が出来る。 思考・判断の観点：技術科教育に関する調査や実験について適切な方法を考えることができる。 関心・意欲の観点：技術科教育に関する課題について主体的に取り組むことができる。 技能・表現の観点：技術科教育に関する課題について妥当な解決法を説明できる。

授業の計画（全体） 技術科教育に関する課題について，先行研究などの分析・検討を通して教育実践学的アプローチによる研究に取り組む。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス
- 第2回 項目 技術科教育に関する教材（技術とものづくり）
- 第3回 項目 技術科教育に関する教材（技術とものづくり）
- 第4回 項目 技術科教育に関する教材（技術とものづくり）
- 第5回 項目 技術科教育に関する教材（技術とものづくり）
- 第6回 項目 技術科教育に関する教材（技術とものづくり）
- 第7回 項目 技術科教育に関する教材（情報とコンピュータ）
- 第8回 項目 技術科教育に関する教材（情報とコンピュータ）
- 第9回 項目 技術科教育に関する教材（情報とコンピュータ）
- 第10回 項目 技術科教育に関する教材（情報とコンピュータ）
- 第11回 項目 技術科教育に関する教材（情報とコンピュータ）
- 第12回 項目 技術科教育に関する指導法
- 第13回 項目 技術科教育に関する指導法
- 第14回 項目 技術科教育に関する指導法
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 課題に対するレポートを課す。また、発表や演習も行う。これらにより評価する。出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：随時指示する。 / 参考書：随時指示する。

連絡先・オフィスアワー 随時受け付け（研究室）

開設科目	技術科教育支援実践研究	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	1学期
担当教官	岡村吉永				

授業の概要 技術科の学習指導を支援する教材の開発を通して、教科の特性に沿った実践的指導力を身につける。

授業の一般目標 教科の特性や性格を理解し、学習を効果的にする教材の提案をすることができる。また、提案した教材を実際に製作し、その効果や使い勝手等を客観的に評価することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教科の意義や特性、教育課程等を正しく理解している。 思考・判断の観点：指導場面に応じた適切な教材を提案することができる。 関心・意欲の観点：加工技術やIT技術に関心を持ち、教科の学習に関連付けようとしている。 態度の観点：教材の提案や開発に当たって、積極的に工夫や改善を行おうとしている。 技能・表現の観点：製作した教材の加工精度が高く、美観等にも優れている。

授業の計画(全体) ものづくり学習を支援する教材・教具の開発を軸に、工具や機械の使用やIT機器の活用等、総合的かつ実践的に学習を進めていく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 授業概要の説明 内容 授業概要の説明。
- 第2回 項目 技術教育の意義等 内容 教科の意義や性格について概説し、学習指導を支援する教材の意味を知る。
- 第3回 項目 技術教育の学習指導 内容 技術教育の指導内容を知り、学習上の課題を検討する。
- 第4回 項目 教材の検討 内容 特定の学習場面を取り上げ、そこで有効な教材を検討する。
- 第5回 項目 教材開発の手順 内容 教材を具体的に開発するための手順を検討する。
- 第6回 項目 教材開発1 内容 手順に沿って教材の開発を行う。
- 第7回 項目 教材開発2 内容 手順に沿って教材の開発を行う。
- 第8回 項目 教材開発3 内容 手順に沿って教材の開発を行う。
- 第9回 項目 計測的な手法1 内容 教材開発に必要な計測的手法について理解する。
- 第10回 項目 計測的な手法2 内容 電子回路部の設計と製作 授業外指示 電子回路の設計
- 第11回 項目 計測的な手法3 内容 電子回路部の設計と製作 授業外指示 電子回路の製作
- 第12回 項目 計測的な手法4 内容 PIC マイコンの利用
- 第13回 項目 計測的な手法5 内容 パソコンと製作した電子回路との通信 授業外指示 パソコン用プログラムの開発
- 第14回 項目 教材開発4 内容 教材の完成
- 第15回 項目 教材開発5 内容 教材の評価

成績評価方法(総合) 教科の意義や内容、教育課程等を理解したうえで、適切な教材を提案できているか。またその具体化(製作)に際して、優れた工夫や学習がなされているか。 製作した教材の効果や使い勝手に関して、客観的な評価を行うことができるか。

メッセージ Windows パソコンでのプログラム作成を含みます。どのようなプログラム言語でも構いませんが、利用可能な状態にしておいてください。

連絡先・オフィスアワー 在室中であれば、可

開設科目	情報科教育実践研究	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	葛崎偉				

授業の概要 本科目では、情報機器や情報通信ネットワークを活用した情報科教育法を主眼に置き、情報及び情報技術の教育に関する課題を予め設定し、その課題を解決するための教育法を検討する。さらに PowerPoint やホームページなどを用いて、検討した教育法に関するプレゼンテーションを行う。

授業の一般目標 情報機器や情報通信ネットワークを活用した情報科教育法の実践研究を行うことにより、情報科教育に必要な不可欠な情報の収集・処理・発信の能力を高めることを目標とする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 基礎的事項のまとめ
- 第 2 回 項目 情報および情報技術の教育に関する課題の設定（1）
- 第 3 回 項目 情報および情報技術の教育に関する課題の設定（2）
- 第 4 回 項目 設定した課題を解決するための調査（1）
- 第 5 回 項目 設定した課題を解決するための調査（2）
- 第 6 回 項目 設定した課題を解決するための教育法の見直し・決定（1）
- 第 7 回 項目 設定した課題を解決するための教育法の見直し・決定（2）
- 第 8 回 項目 決定した教育法を行うための情報収集（1）
- 第 9 回 項目 決定した教育法を行うための情報収集（2）
- 第 10 回 項目 プレゼンテーションのための情報処理（1）
- 第 11 回 項目 プレゼンテーションのための情報処理（2）
- 第 12 回 項目 PowerPoint やホームページなどを用いたプレゼンテーションの実施（1）
- 第 13 回 項目 PowerPoint やホームページなどを用いたプレゼンテーションの実施（2）
- 第 14 回 項目 受講者同士の相互評価
- 第 15 回 項目 総括

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	葛崎偉				

授業の概要 修士研究における諸問題を解決するための研究を行う。

授業の一般目標 修士研究における諸問題の解決手法を見つける。

授業の計画（全体） ・修士研究における諸問題の分析を行う ・諸問題の解決のための文献調査、ゼミなどを行う ・コンピュータを使った実験や諸問題の解決手法についてのディスカッションなどを行う ・研究成果が出次第、研究会での研究発表を行う

成績評価方法（総合） 課題研究の過程と成果による総合評価 = 100 %

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	葛崎偉				

授業の概要 修士研究における諸問題を解決するための研究を行う。

授業の一般目標 修士研究における諸問題の解決手法を見つける。

授業の計画(全体) ・修士研究における諸問題の分析を行う ・諸問題の解決のための文献調査、ゼミなどを行う ・コンピュータを使った実験や諸問題の解決手法についてのディスカッションなどを行う ・研究成果が出次第、研究会での研究発表を行う

成績評価方法(総合) 課題研究の過程と成果による総合評価 = 100%

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	葛崎偉				

授業の概要 修士研究における諸問題を解決するための研究を行う。

授業の一般目標 修士研究における諸問題の解決手法を見つける。

授業の計画(全体) ・修士研究における諸問題の分析を行う ・諸問題の解決のための文献調査、ゼミなどを行う ・コンピュータを使った実験や諸問題の解決手法についてのディスカッションなどを行う ・研究成果が出次第、研究会での研究発表を行う

成績評価方法(総合) 課題研究の過程と成果による総合評価 = 100 %

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	葛崎偉				

授業の概要 修士研究における諸問題を解決するための研究を行う。

授業の一般目標 修士研究における諸問題の解決手法を見つける。

授業の計画(全体) ・修士研究における諸問題の分析を行う ・諸問題の解決のための文献調査、ゼミなどを行う ・コンピュータを使った実験や諸問題の解決手法についてのディスカッションなどを行う ・研究成果が出次第、研究会での研究発表を行う

成績評価方法(総合) 課題研究の過程と成果による総合評価 = 100%

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	古賀和利				

授業の概要 研究室での修士論文作成に必要な画像処理および画像表示に関するプログラミング技術について学習する。

授業の一般目標 ディスプレー上に画像を表示するためのハードウェアおよびソフトウェアの概念を理解するとともに、WindowsOS 上でのプログラミング技法を習得する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 与えられた文献をもとに自ら学び理解する 2. 理解した知識をまとめ他の人に説明することができる

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	古賀和利				

授業の概要 音声情報に関連したデータ構造や表現を調査研究し、それらを利用したプログラミング手法を習得する

授業の一般目標 PCM および MIDI ファイルの構造とデータの物理的意味を理解し、プログラミングによる音声の記録、再生法を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 与えられた文献をもとに自ら学び理解する 2. 理解した知識をまとめ他の人に説明することができる

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	古賀和利				

授業の概要 画像表現、音声の記録再生のプログラミング技術をもとに、これらを統合した応用ソフトの開発を通して、映像や音声などマルチメディアに関する表現技術を習得する

授業の一般目標 マルチメディアプログラミング技法の習得を目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1.与えられた文献をもとに自ら学び理解する 2.理解した知識をまとめ他の人に説明することができる 思考・判断の観点： 1.人のやったことのない独自の表現を継続的に追及する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	古賀和利				

授業の概要 映像と音声表現に関する知識と表現手法をもとに、独自性のあるマルチメディアプログラムを開発するとともに、文章にまとめて発表する。

授業の一般目標 科学的論文の書き方を習得するとともに修士論文を作成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1.与えられた文献をもとに自ら学び理解する 2.理解した知識をまとめ他の人に説明することができる 思考・判断の観点： 1. 修士論文を完成させる

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	中田充				

授業の概要 修士論文の作成に向けて論文調査を行い、研究テーマを決定する。

授業の一般目標 文献調査を通して、問題点の把握、実験方法、結果の検討と考察の仕方等、研究を進める上で必要となる力の基礎を養う。研究の実現可能性を判断でき、適切なテーマが設定できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：調査する文献にある専門用語や実験方法を理解し、文献の内容を正しく把握できる。 思考・判断の観点：文献の内容を科学的に考察し、問題点・疑問点を的確に指摘することができる。 決定した研究テーマの進め方を科学的に思考することができ、その内容や予想される結果等を要領よく説明できる。 関心・意欲の観点：文献内容に興味をもち、自ら掘り下げて考えていくことができる。 研究テーマ決定の過程において、自分の興味関心や問題点を積極的に述べることができる。 態度の観点：修士論文作成のための時間を自ら積極的に作り出すとともに、研究を進めるにあたって生じる諸問題の解決に向けて主体的に努力することができる。 技能・表現の観点：セミナーでの調査文献のプレゼンテーションにおいて、その内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

授業の計画（全体） 興味関心が教科専門等の分野の中のどのあたりにあるのかを話し合いながら、研究テーマの候補をあげ、それらに関連する文献調査を行う。毎週行うセミナーにおいて、輪番で調査した文献を発表し、質疑応答を行う。研究テーマについて理解が深まった段階で、テーマの絞り込みを行い、最終的にテーマを決定する。

成績評価方法（総合） 研究テーマに対する知識・理解や思考・判断力に加え、出席、研究への熱意や努力など、態度や意欲の観点も重視して、総合的に評価する。

メッセージ 詳細は面接の上指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	中田充				

授業の概要 修士論文に必要な基礎知識、基礎理論を演習をとおしてみにつける。

授業の一般目標 絞り込んだ研究テーマを遂行する上での問題点を理解し、主体的に習得が必要な技能・知識を調査し、具体的に研究を開始することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：テーマに関する先行研究を把握し説明できる。研究に関する論文について、それらの原理や得られる情報の質、長所や短所などを理解できる。 関心・意欲の観点：先行研究に関心を持ち、実験計画の立案および研究の開始に意欲的に取り組むことができる。 態度の観点：研究計画の立案および研究の開始にあたり、そのための時間を積極的に作り出そうとすることができる。 技能・表現の観点：セミナーにおいて、自らの研究計画を、適切な方法・表現でわかりやすくプレゼンテーションすることができる。

授業の計画（全体） 具体的な研究計画を立案する上で必要となる文献の追加調査を行う。先行研究の理論やシステムを確認し、実行可能な研究計画を立案する。立案した計画に基づき、理論やシステム構築に必要な知識を身につける。

成績評価方法（総合） 立案した研究計画を科学的に理解し、わかりやすく説明することができるかを主要な評価基準とする。

メッセージ 詳細は面接の上決定する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	中田充				

授業の概要 研究の主体となるデータの取得・解析を押し進める。

授業の一般目標 データの取得や解析等を自ら行い、整理することができる。データの整合性や合理性を科学的・客観的に判断することができ、かつ、研究計画に反映することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマに関する実験や調査の方法論が理解できる。 思考・判断の観点： 研究テーマに関する実験や調査の妥当な方法論や得られた結果の適切な整理の仕方について考えることができる。 関心・意欲の観点： 研究計画の遂行について、主体的に考えることができる。

態度の観点： 結果を科学的・客観的に捉えようとするすることができる。 技能・表現の観点： 研究テーマに関するシステム構築や文献調査を適切に実践できる能力を身につける。

授業の計画（全体） 面接の上決定する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	中田充				

授業の概要 研究の主体となるデータの取得・解析を押し進め、修士論文を作成する。修士論文審査会で発表を行なう。

授業の一般目標 研究内容を正しく理解し、適切に論文として纏めることができる。また、その内容をわかりやすく説明・発表できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究内容に関する科学的な知識を備え、研究全般について理解できる。 思考・判断の観点： 研究の内容を正しく理解し、その結果や結論の良否、残された問題点等について科学的に思考し判断できる。 関心・意欲の観点： 研究を積極的に進め、自らの力で論文を完成させようと努力することができる。 態度の観点： 研究成果を修士論文として完成させることの価値を理解し、自主的に行動することができる。研究成果を科学的・客観的に纏めようとする態度を保つことができる。 技能・表現の観点： 研究成果を首尾一貫した論文として完成させることができる。修士論文発表会等、発表時間内でわかりやすく研究成果を提示することができる。質疑・応答時などでの第三者からの質問に対し、的確な受け答えをすることができる。 その他の観点： 学外の研究会、学会等で発表をする。

授業の計画（全体） 研究で得られた結果を最終的にまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等について習得する。

成績評価方法（総合） 得られた研究成果が修士論文として十分な内容を持つが評価した上で、論文としての纏め方、中間発表会や最終審査会でのプレゼンテーションなどを含めて、総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	阿濱 茂樹				

授業の概要 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する論文を講読し、比較検討する際の基本的技法を理解する。研究テーマの位置づけや方法論について、主体的に考える姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。 思考・判断の観点：内外の論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点：研究テーマの位置づけについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の

観点：論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

授業の計画（全体） 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について、討論を交えながら検討する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス
- 第2回 項目 研究テーマの設定方法
- 第3回 項目 研究テーマに関する国内の論文の講読
- 第4回 項目 研究テーマに関する国内の論文の講読
- 第5回 項目 研究テーマに関する国内の論文の講読
- 第6回 項目 研究テーマに関する国内の論文の講読
- 第7回 項目 研究テーマに関する国内の論文の講読
- 第8回 項目 研究テーマに関する国内の論文の講読
- 第9回 項目 研究テーマに関する国内の論文の講読
- 第10回 項目 研究テーマに関する海外の論文の講読
- 第11回 項目 研究テーマに関する海外の論文の講読
- 第12回 項目 研究テーマに関する海外の論文の講読
- 第13回 項目 研究テーマに関する海外の論文の講読
- 第14回 項目 研究テーマに関する海外の論文の講読
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 学習の進行に応じてレポートを課す。また、発表や演習も行う。これらにより評価する。出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：研究テーマによって指示する。 / 参考書：研究テーマによって指示する。

連絡先・オフィスアワー 随時受け付け（研究室）

開設科目	課題研究	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	阿濱 茂樹				

授業の概要 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備実験や予備調査の計画を立て、それに基づいて予備実験や予備調査を行い、その結果について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、実験や調査の計画立案がある程度できる。研究テーマに関連する実験や調査の基本的な方法論が理解でき、それを適切に実践できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマに関連する実験や調査の基本的な方法論が理解できる。
 思考・判断の観点： 研究テーマに関連する実験や調査の妥当な方法論について考えることができる。
 関心・意欲の観点： 研究テーマに関する実験、調査の計画立案について、主体的に考えることができる。
 技能・表現の観点： 研究テーマに関連した実験や調査を適切に実践できる基本的な能力を身につける。

授業の計画(全体) 修士論文の研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備実験や予備調査の計画立案を行い、それに基づいて予備実験や予備調査を行い、その結果を適宜まとめていく。計画立案の仕方、実験・調査の基本的な方法、得られた結果やその整理の仕方について、討論を交えながら、適宜検討し、本実験や本調査の研究計画立案に向けての準備をする。また、実験・調査の基本的な方法について習得する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス
- 第2回 項目 研究テーマに関連する先行研究の整理
- 第3回 項目 研究テーマに関連する先行研究の整理
- 第4回 項目 予備実験や予備調査の計画
- 第5回 項目 予備実験や予備調査の計画
- 第6回 項目 予備実験や予備調査の計画
- 第7回 項目 予備実験や予備調査の計画
- 第8回 項目 予備実験や予備調査の計画
- 第9回 項目 予備実験や予備調査の実施
- 第10回 項目 予備実験や予備調査の実施
- 第11回 項目 予備実験や予備調査の実施
- 第12回 項目 予備実験や予備調査の実施
- 第13回 項目 予備実験や予備調査の検証
- 第14回 項目 予備実験や予備調査の検証
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 学習の進行に応じてレポートを課す。また、発表や演習も行う。これらにより評価する。出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： 研究テーマによって指示する。 / 参考書： 研究テーマによって指示する。

連絡先・オフィスアワー 随時受け付け(研究室)

開設科目	課題研究	区分	講義	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	阿濱 茂樹				

授業の概要 研究テーマに関する予備実験や予備調査の結果を踏まえて、本実験や本調査の研究計画を立案し、それに基づいて本実験や本調査を実施し、得られた結果の整理を行う。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文や予備実験や予備調査の結果を踏まえて、研究テーマに関する実験や調査の計画立案ができる。研究テーマに関する実験や調査を適切に実践できる能力を身につける。また、得られた結果の適切な整理の仕方を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマに関する実験や調査の方法論が理解できる。 思考・判断の観点：研究テーマに関する実験や調査の妥当な方法論や得られた結果の適切な整理の仕方について考えることができる。 関心・意欲の観点：研究計画の遂行について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：研究テーマに関する実験や調査を適切に実践できる能力を身につける。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関する予備実験や予備調査の結果を踏まえて、本実験や本調査の研究計画を立案し、それに基づいて本実験や本調査を実施する。そして、得られた結果の整理を行う。研究計画の立案、実験方法や結果の整理の方法については、適宜討論を交えながら、検討し、研究計画を遂行し、結果をまとめていく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 予備実験や予備調査の整理
- 第 3 回 項目 予備実験や予備調査の整理
- 第 4 回 項目 本実験や本調査の計画
- 第 5 回 項目 本実験や本調査の計画
- 第 6 回 項目 本実験や本調査の計画
- 第 7 回 項目 本実験や本調査の準備
- 第 8 回 項目 本実験や本調査の準備
- 第 9 回 項目 本実験や本調査の実施
- 第 10 回 項目 本実験や本調査の実施
- 第 11 回 項目 本実験や本調査の実施
- 第 12 回 項目 本実験や本調査の実施
- 第 13 回 項目 本実験や本調査の検証
- 第 14 回 項目 本実験や本調査の検証
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 学習の進行に応じてレポートを課す。また、発表や演習も行う。これらにより評価する。出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：研究テーマによって指示する。 / 参考書：研究テーマによって指示する。

連絡先・オフィスアワー 随時受け付け（研究室）

開設科目	課題研究	区分	講義	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	阿濱 茂樹				

授業の概要 本実験や本調査で得られた結果をまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等についても習得する。

授業の一般目標 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現する方法論が理解できる。 思考・判断の観点： 研究結果から得られる見解を適切に考えることができる。

関心・意欲の観点： 研究をまとめることについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる。

授業の計画（全体） 本実験や本調査で得られた結果を最終的にまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等について習得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 研究結果の整理
- 第 3 回 項目 研究結果の整理
- 第 4 回 項目 研究結果の整理
- 第 5 回 項目 研究結果の考察
- 第 6 回 項目 研究結果の考察
- 第 7 回 項目 研究結果の考察
- 第 8 回 項目 修士論文の執筆について
- 第 9 回 項目 修士論文の執筆について
- 第 10 回 項目 修士論文の執筆について
- 第 11 回 項目 口頭発表について
- 第 12 回 項目 口頭発表について
- 第 13 回 項目 口頭発表について
- 第 14 回 項目 口頭発表について
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 研究を総括するレポートを課す。また、発表や演習も行う。これらにより評価する。出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： 研究テーマによって指示する。 / 参考書： 研究テーマによって指示する。

連絡先・オフィスアワー 随時受け付け（研究室）

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	岡村吉永				

授業の概要 技術教育に関する現状や課題を考察し、修士課程における研究の準備を図る。 / 検索キーワード 技術教育 課題 実践

授業の一般目標 技術教育を取り巻く現状や教育的な課題について、主体的に調査・分析し考察することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 技術教育や学校教育の現状について、必要な知識を有している。

教材や指導方法を改善・開発するのに必要な技術的知識、理解を身につけている。 思考・判断の観点： 技術教育や学校教育の現状、諸課題について自分なりに考究し、解決に向けた建設的な提案をすることができる。 関心・意欲の観点： 技術教育を取り巻く現状について、主体的に知り、関ろうとする。

態度の観点： 技術科の教材や指導方法について、実践的にアプローチすることができる。自ら進んで新しい手法を提案し、実現に向けた努力をすることができる。 常に新しいことに関心をもち、チャレンジしようとしている。 技能・表現の観点： 技術科の教材や指導方法を改善するのに必要な加工技能を身につけている。 その他の観点： 常に安全に対する配慮を怠らない。

授業の計画(全体) 修士課程の導入として、教科を取り巻く現状や課題を全体的な視点で考究するとともに、研究を進める上で必要な焦点化を図る。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 導入 内容 授業概要や進め方、準備等について説明する。 授業外指示 内容をもとに、課題や疑問を整理してくること。
- 第2回 項目 課題整理1 内容 技術科の授業や指導方法について課題を列挙し、観点別に整理する。
- 第3回 項目 個別的課題検討1 内容 課題整理1で整理した課題について、観点を絞って背景や課題解決の方法について考究する。
- 第4回 項目 個別的課題検討2 内容 課題整理1で整理した課題について、観点を絞って背景や課題解決の方法について考究する。
- 第5回 項目 個別的課題検討3 内容 課題整理1で整理した課題について、観点を絞って背景や課題解決の方法について考究する。
- 第6回 項目 個別的課題検討4 内容 課題整理1で整理した課題について、観点を絞って背景や課題解決の方法について考究する。
- 第7回 項目 個別的課題検討5 内容 課題整理1で整理した課題について、観点を絞って背景や課題解決の方法について考究する。
- 第8回 項目 課題整理2 内容 個別的課題検討1～5を踏まえ、再度課題の整理を行う 授業外指示 今後の学習や研究に向けて、課題の焦点化を図ってくること。
- 第9回 項目 課題の焦点化1 内容 課題の整理と検討を踏まえた上で、自らの研究や学習の方向を焦点化し、発表する。
- 第10回 項目 課題の焦点化2 内容 焦点化された課題について、どのようなアプローチが可能であるか、検討する。
- 第11回 項目 課題の焦点化3 内容 焦点化された課題について、どのようなアプローチが可能であるか、検討する。
- 第12回 項目 課題の焦点化4 内容 焦点化された課題について、どのようなアプローチが可能であるか、検討する。
- 第13回 項目 課題の焦点化5 内容 焦点化された課題について、どのようなアプローチが可能であるか、検討する。
- 第14回 項目 課題整理3 内容 焦点化された課題とそのアプローチ方法について、全体的な整理を行う。
- 第15回 項目 まとめ 内容 全体のまとめ。今後の展開や進め方について確認

成績評価方法(総合) 教科の指導方法や学校教育のあり方について、多様な視点を持てると同時に、実践的に課題を解決することができる。

メッセージ 技術教育の在り方や指導方法について抱いている課題、疑問を整理して臨んでください。

連絡先・オフィスアワー 特に事情が無い限り、在室中であれば、対応いたします。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	岡村吉永				

授業の概要 前期の課題研究で焦点化された課題について、解決の手段およびプロセスを検討し、実践的に取り組むための準備を図る。 / 検索キーワード 技術教育 課題 実践

授業の一般目標 技術教育を取り巻く現状や教育的な課題について、主体的に調査・分析し考察することができる。さらに、課題の解決に向けた計画的な取り組みが行える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 技術教育や学校教育の現状について、必要な知識を有している。

教材や指導方法を改善・開発するのに必要な技術的知識、理解を身につけている。 思考・判断の観点： 技術教育や学校教育の現状、諸課題について自分なりに考究し、解決に向けた建設的な提案をすることができる。 関心・意欲の観点： 技術教育を取り巻く現状について、主体的に知り、関ろうとする。

態度の観点： 技術科の教材や指導方法について、実践的にアプローチすることができる。自ら進んで新しい手法を提案し、実現に向けた努力をすることができる。 常に新しいことに関心をもち、チャレンジしようとしている。 技能・表現の観点： 技術科の教材や指導方法を改善するのに必要な加工技能を身につけている。 その他の観点： 常に安全に対する配慮を怠らない。

授業の計画(全体) 前期の課題研究で焦点化された課題について、解決の手段およびプロセスを検討する。さらに、実践的に課題を解決するため、必要な知識技能の獲得を図る。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入 内容 授業概要や進め方、準備等について説明する。
- 第 2 回 項目 課題整理 内容 前期で焦点化した課題の確認と整理。
- 第 3 回 項目 安全指導 内容 作業や加工具・加工機械の使用に関する安全講習 授業外指示 作業のできる準備を整えておくこと。
- 第 4 回 項目 課題解決のアプローチ 1 内容 課題解決のためのアプローチについて提案・質疑 授業外指示 アプローチ法に基づいた研究計画を立案し、次回提案
- 第 5 回 項目 研究計画立案 内容 研究計画を説明し、検討する。
- 第 6 回 項目 教材・指導方法開発 1 内容 計画に基づき、教材等の作成を開始する。
- 第 7 回 項目 教材・指導方法開発 2 内容 計画に基づき、教材等の作成する。
- 第 8 回 項目 教材・指導方法開発 3 内容 計画に基づき、教材等の作成する。
- 第 9 回 項目 教材・指導方法開発 4 内容 計画に基づき、教材等の作成する。
- 第 10 回 項目 教材・指導方法開発 5 内容 計画に基づき、教材等の作成する。
- 第 11 回 項目 中間整理 内容 経過報告と質疑
- 第 12 回 項目 教材・指導方法開発 6 内容 中間整理の結果を反映しつつ、教材等の作成する。
- 第 13 回 項目 教材・指導方法開発 7 内容 中間整理の結果を反映しつつ、教材等の作成する。
- 第 14 回 項目 教材・指導方法開発 8 内容 中間整理の結果を反映しつつ、教材等の作成する。
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 全体のまとめ。

成績評価方法(総合) 教科の指導方法や学校教育のあり方について、多様な視点を持てると同時に、課題を解決するための計画を立てることができる。また、解決に必要な知識や技能を身につけている。

メッセージ 実習や演習を含みます。作業が行える準備をしてきてください。

連絡先・オフィスアワー 特に事情が無い限り、在室中であれば、対応いたします。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	岡村吉永				

授業の概要 1年次に実施した課題研究をもとに、修士論文のまとめに向けた課題の研究を実施する。/ 検索キーワード 技術教育 課題 実践

授業の一般目標 主体的に研究を遂行し、適切に課題や成果を整理し、まとめることができる。また、自分なりの解決方法を提案することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 技術教育や学校教育の現状について、必要な知識を有している。

教材や指導方法を改善・開発するのに必要な技術的知識、理解を身につけている。 思考・判断の観点： 技術教育や学校教育の現状、諸課題について自分なりに考究し、解決に向けた建設的な提案をすることができる。 関心・意欲の観点： 技術教育を取り巻く現状について、主体的に知り、関ろうとする。

態度の観点： 技術科の教材や指導方法について、実践的にアプローチすることができる。自ら進んで新しい手法を提案し、実現に向けた努力をすることができる。 常に新しいことに関心をもち、チャレンジしようとしている。 技能・表現の観点： 技術科の教材や指導方法を改善するのに必要な加工技能を身につけている。 その他の観点： 常に安全に対する配慮を怠らない。

授業の計画(全体) 修士論文のまとめと連動しながら、必要な課題設定と研究を実施する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 導入 内容 授業概要や進め方、準備等について説明する。
- 第2回 項目 課題整理1 内容 1年次の課題研究を整理する。修士論文の作成と連動させながら、解決すべき課題を整理する。
- 第3回 項目 計画立案 内容 課題計画に向けた計画の立案
- 第4回 項目 課題解決遂行1 内容 課題解決に向けた研究の遂行
- 第5回 項目 課題解決遂行2 内容 課題解決に向けた研究の遂行
- 第6回 項目 課題解決遂行3 内容 課題解決に向けた研究の遂行
- 第7回 項目 課題解決遂行4 内容 課題解決に向けた研究の遂行
- 第8回 項目 課題解決遂行5 内容 課題解決に向けた研究の遂行
- 第9回 項目 課題整理2 内容 中間整理。
- 第10回 項目 課題解決遂行6 内容 課題解決に向けた研究の遂行
- 第11回 項目 課題解決遂行7 内容 課題解決に向けた研究の遂行
- 第12回 項目 課題解決遂行8 内容 課題解決に向けた研究の遂行
- 第13回 項目 課題整理3 内容 まとめに向けた整理
- 第14回 項目 課題解決遂行9 内容 課題解決に向けた研究の遂行
- 第15回 項目 まとめ 内容 全体のまとめ。今後の展開や進め方について確認

成績評価方法(総合) 教科の指導方法や学校教育のあり方について、多様な視点を持てると同時に、実践的に課題を解決することができる。 課題や成果を整理し、効果的に発表することができる。

メッセージ 技術教育の在り方や指導方法について抱いている課題、疑問を整理して臨んでください。

連絡先・オフィスアワー 特に事情が無い限り、在室中であれば、対応いたします。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	岡村吉永				

授業の概要 最終的な修士論文のまとめに向け、課題の整理と研究を実施する。 / 検索キーワード 技術教育 課題 実践

授業の一般目標 主体的に研究を遂行し、適切に課題や成果を整理し、まとめることができる。また、自分なりの解決方法を提案することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：技術教育や学校教育の現状について、必要な知識を有している。

教材や指導方法を改善・開発するのに必要な技術的知識、理解を身につけている。 思考・判断の観点：技術教育や学校教育の現状、諸課題について自分なりに考究し、解決に向けた建設的な提案をすることができる。 関心・意欲の観点：技術教育を取り巻く現状について、主体的に知り、関ろうとする。

態度の観点：技術科の教材や指導方法について、実践的にアプローチすることができる。自ら進んで新しい手法を提案し、実現に向けた努力をすることができる。 常に新しいことに関心をもち、チャレンジしようとしている。 技能・表現の観点：技術科の教材や指導方法を改善するのに必要な加工技能を身につけている。 その他の観点：常に安全に対する配慮を怠らない。

授業の計画(全体) 修士論文のまとめと連動しながら、必要な課題設定と研究を実施する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 導入 内容 授業概要や進め方、準備等について説明する。
- 第2回 項目 課題整理1 内容 これまでに実施した課題研究を整理する。修士論文の作成と連動させながら、解決すべき課題を整理する。
- 第3回 項目 計画立案 内容 課題計画に向けた計画の立案
- 第4回 項目 課題解決遂行1 内容 課題解決に向けた研究の遂行
- 第5回 項目 課題解決遂行2 内容 課題解決に向けた研究の遂行
- 第6回 項目 課題解決遂行3 内容 課題解決に向けた研究の遂行
- 第7回 項目 課題整理2 内容 課題の整理
- 第8回 項目 課題解決遂行4 内容 課題解決に向けた研究の遂行
- 第9回 項目 課題解決遂行5 内容 課題解決に向けた研究の遂行
- 第10回 項目 課題解決遂行6 内容 課題解決に向けた研究の遂行
- 第11回 項目 課題整理3 内容 まとめに向けた整理
- 第12回 項目 課題解決遂行7 内容 課題解決に向けた研究の遂行
- 第13回 項目 課題解決遂行8 内容 課題解決に向けた研究の遂行
- 第14回 項目 まとめ1 内容 課題の整理、まとめ、
- 第15回 項目 まとめ2 内容 最終的まとめ

成績評価方法(総合) 教科の指導方法や学校教育のあり方について、多様な視点を持てると同時に、実践的に課題を解決することができる。 課題や成果を整理し、効果的に発表することができる。

メッセージ 技術教育の在り方や指導方法について抱いている課題、疑問を整理して臨んでください。

連絡先・オフィスアワー 特に事情が無い限り、在室中であれば、対応いたします。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	澤本章				

授業の概要 金属加工及び技術教育に関する修士論文作成のための研究を行なう。 / 検索キーワード 金属加工、技術教育

授業の一般目標 金属加工及び技術教育に関する修士論文作成のための方法を理解し、研究を推進する能力を養う。

授業の計画(全体) 修士論文作成のための講義または実験を行う。

成績評価方法(総合) 授業への出席状況、発表(プレゼンテーション)状況、作品の状況、演習の状況、を総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：図解 機械材料 第3版, 打越二彌, 東京電機大学出版局, 2004年

連絡先・オフィスアワー 山口大学教育学部技術教育金属加工澤本章 TEL/FAX083-933-5395、E-mail: sawamoto@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	澤本章				

授業の概要 金属加工及び技術教育に関する修士論文作成のための研究を行う。 / 検索キーワード 金属加工、技術教育

授業の一般目標 金属加工及び技術教育に関する修士論文作成のための方法を理解し、研究を推進する能力を養う。

授業の計画(全体) 修士論文作成のための講義または演習、実験を行う。

成績評価方法(総合) 授業への態度、出席状況、発表(プレゼンテーション)状況、作品の状況、演習の状況、を総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：図解, 打越, 東京, 2004年

連絡先・オフィスアワー 山口大学教育学部技術教育金属加工澤本章 TEL/FAX083-933-5395、E-mail: sawamoto @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	澤本章				

授業の概要 金属加工及び技術教育に関する修士論文作成のための研究を行う。 / 検索キーワード 金属加工、技術教育

授業の一般目標 金属加工及び技術教育に関する修士論文作成のための方法を理解し、研究を推進する能力を養う。

授業の計画(全体) 修士論文作成のための講義または演習、実験を行う。

成績評価方法(総合) 授業への出席状況、発表(プレゼンテーション)状況、作品の状況、演習の状況、を総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：図解, 打越二彌, 東京, 2004年

連絡先・オフィスアワー 山口大学教育学部技術教育金属加工澤本章 TEL/FAX083-933-5395,E-mail: sawamoto @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	澤本章				
<p>授業の概要 金属加工及び技術教育に関する修士論文作成のための研究を行う。 / 検索キーワード 金属加工、技術教育</p> <p>授業の一般目標 金属加工及び技術教育に関する修士論文作成のための方法を理解し、研究を推進する能力を養う。</p> <p>授業の計画(全体) 修士論文作成のための講義または実験を行う。</p> <p>成績評価方法(総合) 授業への態度、出席状況、発表(プレゼンテーション)状況、作品の状況、演習の状況、を総合して評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: プリント配布 / 参考書: 図解 機械材料 第3版, 打越, 東京, 2004年</p> <p>連絡先・オフィスアワー 山口大学教育学部技術教育金属加工澤本章 TEL/FAX083-933-5395、E-mail: sawamoto @ yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	森岡弘				

授業の概要 修士論文作成に直結する課題について、技術教育教室の機械研究室に所属する M1 院生の専門分野に関する研究の助言および指導を行う。

授業の一般目標 修士論文作成に直結する課題について高度な知識を修得することを目標とする。

授業の計画(全体) 修士論文作成に直結する課題について技術教育教室の機械研究室に在籍する M1 院生の専門分野に関する研究や実験の助言および指導を行う。

成績評価方法(総合) 成績評価はレポート(製作品を含む)、授業態度・授業への参加度を総合的に評価して行う。

連絡先・オフィスアワー E-mail:morioka@yamaguchi-u.ac.jp・木 1, 2

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	森岡弘				

授業の概要 修士論文作成に直結する課題について、技術教育教室の機械研究室に所属する M1 院生の専門分野に関する研究の助言および指導を行う。

授業の一般目標 修士論文作成に直結する課題について高度な知識を修得することを目標とする。

授業の計画(全体) 修士論文作成に直結する課題について技術教育教室の機械研究室に在籍する M1 院生の専門分野に関する研究や実験の助言および指導を行う。

成績評価方法(総合) 成績評価はレポート(製作品を含む)、授業態度・授業への参加度を総合的に評価して行う。

連絡先・オフィスアワー E-mail:morioka@yamaguchi-u.ac.jp・月 1, 2

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士 2 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	森岡弘				

授業の概要 修士論文作成に直結する課題について、技術教育教室の機械研究室に所属する M2 院生の専門分野に関する研究の助言および指導を行う。

授業の一般目標 修士論文作成に直結する課題について高度な知識を修得することを目標とする。

授業の計画(全体) 修士論文作成に直結する課題について技術教育教室の機械研究室に在籍する M2 院生の専門分野に関する研究や実験の助言および指導を行う。

成績評価方法(総合) 成績評価はレポート(製作品を含む)、授業態度・授業への参加度を総合的に評価して行う。

連絡先・オフィスアワー E-mail:morioka@yamaguchi-u.ac.jp・木 1, 2

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士 2 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	森岡弘				

授業の概要 修士論文作成に直結する課題について、技術教育教室の機械研究室に所属する M2 院生の専門分野に関する研究の助言および指導を行う。

授業の一般目標 修士論文作成に直結する課題について高度な知識を修得することを目標とする。

授業の計画(全体) 修士論文作成に直結する課題について技術教育教室の機械研究室に在籍する M2 院生の専門分野に関する研究や実験の助言および指導を行う。

成績評価方法(総合) 成績評価はレポート(製作品を含む)、授業態度・授業への参加度を総合的に評価して行う。

連絡先・オフィスアワー E-mail:morioka@yamaguchi-u.ac.jp・月 1, 2

家政教育專修

開設科目	家庭科教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	入江和夫				

授業の概要 現在の家庭生活の諸問題と対比しながら家庭科教育の歴史的変遷をたどり、何が家庭科に求められてきたかを考察し、これからの家庭科教育によって何がもたらされていくべきかを論究する / 検索キーワード 家庭科観 家庭科教育

授業の一般目標 戦後誕生した家庭科の内容で変遷した内容としなかった内容について理解するとともにアメリカ家庭科教科書との比較を通して、現在の家庭科教育に求められるべき要点を説明できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：家庭科の内容の変遷と今回の学習指導要領の改訂の趣旨を説明できる。 思考・判断の観点：アメリカ教科書と比較することで、現在の家庭科教科書に必要な内容を判断できる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教師、生徒、父母の家庭科観 I
- 第 2 回 項目 教師、生徒、父母の家庭科観 II
- 第 3 回 項目 小・中学校学習指導要領（家庭科）はどう変わってきたか I
- 第 4 回 項目 小・中学校学習指導要領（家庭科）はどう変わってきたか II
- 第 5 回 項目 日本の家庭科教科書分析 I
- 第 6 回 項目 日本の家庭科教科書分析 II
- 第 7 回 項目 日本の家庭科教科書分析 III
- 第 8 回 項目 米国家庭科教科書の分析 I
- 第 9 回 項目 米国家庭科教科書の分析 II
- 第 10 回 項目 米国家庭科教科書の分析 III
- 第 11 回 項目 健康問題と家庭科教材 I
- 第 12 回 項目 健康問題と家庭科教材 II
- 第 13 回 項目 TV の CM と家庭科教材 I
- 第 14 回 項目 TV の CM と家庭科教材 II
- 第 15 回 項目 まとめ

メッセージ 家庭科とはどうあるべきかを考えよう

開設科目	家庭科教育特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	入江和夫				

授業の概要 家庭生活と生活環境について説明し、実験を通して課題を追求する。 / 検索キーワード 家庭科観 家庭科教育

授業の一般目標 生活の何がどのような環境汚染を導き、それが我々の健康にどのような影響を与えるのか理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：環境汚染の要因と生活環境について説明できる 思考・判断の観点：水質階級を水性生物によって判断できる。 態度の観点：家庭生活を環境保全の観点から改善しようとする。

メッセージ 家庭科とはどうあるべきかを考えよう

開設科目	食物学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山田次郎				

授業の概要 この授業では、先ず、児童・生徒の教育現場である学校教育における「食教育」の重要性について、「栄養」や「食品の安全性」など種々の観点から論述する。特に、安全性については、現在、問題になっている種々の環境汚染物質と食生活とのかかわりを検証し、学校の「食教育」において具体的にどのように学ばせればよいか、などについても討議する。 / 検索キーワード 個食、偏食、家族団欒、食物アレルギー、環境ホルモン、遺伝子組換え、クローン、有機スズ、ダイオキシン、

メッセージ 文系、理系の発想で、受講しないこと。

開設科目	食物学特論演習 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山田次郎				

授業の概要 この授業では、食物学特論 I で討議した内容から、特に「食品衛生学」関連のテーマを取り上げ、文献購読を中心に、食物学および栄養学的視点に基づいて、食品の安全性の問題を討議する。さらに、簡単な実験、演習を取り入れ、学校現場のための教材化を試みる。

開設科目	食物学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	五島淑子				

授業の概要 この授業では、食生活について、歴史的視点および比較文化の視点から論究する。また、現代の食生活について討議する。講義と演習形式の授業である。 / 検索キーワード 食物、食文化、食生活

授業の一般目標 1) 食の文化について、知識を深める。 2) 食の変遷について理解を深める。 3) 全体を通じて、小中学校における食物の教材への知識・理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 食文化を学ぶ意義を理解する。 2 世界の食文化の概要を理解する。 3 日本の食生活を歴史的な流れで理解する。 思考・判断の観点： 1 現在の食生活の問題点について、自分の考えを述べることができる。 関心・意欲の観点： 1 食文化に関心を持つ。 2 食生活史に関心を持つ。 態度の観点： 1 食への関心を深める

授業の計画(全体) 食文化成立の基盤について、風土と食、海産物、農産物、肉食、乳の利用、料理の地域性、食行動等について講義する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに
- 第 2 回 項目 風土と食
- 第 3 回 項目 主食の文化
- 第 4 回 項目 魚食の文化
- 第 5 回 項目 肉食の文化
- 第 6 回 項目 乳食の文化
- 第 7 回 項目 味について
- 第 8 回 項目 料理のお国柄
- 第 9 回 項目 献立の様式
- 第 10 回 項目 食のタブー
- 第 11 回 項目 食の作法
- 第 12 回 項目 日本人の食文化
- 第 13 回 項目 日本の食文化
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法(総合) レポートと出席と授業中への参加で評価する。

メッセージ 授業内容は、受講者との話し合いにより、変更することもあります。

連絡先・オフィスアワー goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 C 棟 4 階 422 号室 オフィスアワー：金曜日 16 時 10 分～17 時 40 分

開設科目	食物学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	五島淑子				

授業の概要 食文化・食物史に関する内外の文献の購読を行い、文献に記載された食物や料理について食物学の視点から検討する。またそれらに基づいて、調理実習や食品加工実習を行う。授業は、テーマを決めて発表、それに引き続き実習、そして考察を行う。 / 検索キーワード 食文化、食生活史

授業の一般目標 食文化、食生活史の視点から、食物や料理についての知識を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 食物や料理について、理解を深める。 思考・判断の観点： 1 食品の適切な取り扱いができる 関心・意欲の観点： 1 テーマを決めて調べて、報告する。 2 食生活の変遷、食文化への関心を持つ。 態度の観点： 1 調理実習に積極的に参加する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに
- 第 2 回 項目 テーマ 1 (発表)
- 第 3 回 項目 テーマ 1 (実習)
- 第 4 回 項目 テーマ 1 (考察)
- 第 5 回 項目 テーマ 2 (発表)
- 第 6 回 項目 テーマ 2 (実習)
- 第 7 回 項目 テーマ 2 (考察)
- 第 8 回 項目 テーマ 3 (発表)
- 第 9 回 項目 テーマ 3 (実習)
- 第 10 回 項目 テーマ 3 (考察)
- 第 11 回 項目 テーマ 4 (発表)
- 第 12 回 項目 テーマ 4 (実習)
- 第 13 回 項目 テーマ 4 (考察)
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法 (総合) 授業への参加、レポートを総合的に判断して評価する。

連絡先・オフィスアワー goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 C 棟 4 階 422 号室 オフィスアワー：金曜日 16 : 10 ~ 17 : 40

開設科目	食生活科学特論	区分	講義と演習	学年	修士 2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山田次郎・五島淑子				

開設科目	被服学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	星野裕之				

授業の概要 繊維材料を構成している高分子の構造と、弾性率・強度等の物性、染色論について物理化学論に沿って論述する。

授業の一般目標 繊維材料の構造、染色の過程について、物理化学的な視点で捉え、より専門的な学力を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 高分子の構造と性質を物理・化学の観点から説明できる。 2 . 染料染着の原理を説明できる。 思考・判断の観点： 繊維材料のみならず、日用品としてあるプラスチック製品についても高分子化学の視点から構造、性質について考えることができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 低分子と高分子
- 第 2 回 項目 繊維を構成する高分子（天然高分子と合成高分子）
- 第 3 回 項目 高分子の高次構造
- 第 4 回 項目 吸湿・吸水のメカニズム
- 第 5 回 項目 弾性率・強度と高分子の構造
- 第 6 回 項目 染料とは（天然染料と合成染料）
- 第 7 回 項目 浸染と捺染
- 第 8 回 項目 浸染における染着の原理
- 第 9 回 項目 染料の分類とその特徴（直接染料、酸性染料、塩基性染料）
- 第 10 回 項目 染料の分類とその特徴（媒染染料、分散染料、反応染料）
- 第 11 回 項目 染料の色と化学構造
- 第 12 回 項目 染色過程（拡散、吸着）
- 第 13 回 項目 染料と繊維の結合力
- 第 14 回 項目 染着平衡と染色速度
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 毎回のレポート提出および授業への取り組み方、討論の参加度で評価する。

教科書・参考書 教科書： 適宜プリントを配布する。 / 参考書： 高分子化学序論, 岡村誠三・中島章夫・小野木重治・河合弘迪・西島安則・東村敏延・伊勢典夫共著, 化学同人, 1985 年； 染色の物理化学, 高島直一・生源寺治雄・根本嘉郎共訳, 丸善, 1957 年； 高強度・高弾性率繊維, 高分子学会編集, 共立出版, 1988 年； 染色加工の事典, 日本学術振興会繊維・高分子機能加工第 120 委員会編, 朝倉書店, 1999 年； 染色の化学（改訂版）, 黒木宣彦著, 槇書店, 1997 年

連絡先・オフィスアワー E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp , 研究室：教育学部 300 号室

開設科目	被服学特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	星野裕之				

授業の概要 繊維材料、染色についての文献を購読し、利用の拡大、リサイクル、環境汚染等の問題点について討議する。

授業の一般目標 繊維製品の最新技術と利用の拡大を知り、環境問題に絡めて、今後繊維製品がどのように発展すべきかについて自ら考える力を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 繊維製品のグローバルな用途について説明できる。 思考・判断の観点： 繊維製品の環境への影響を考えることができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 化繊産業の現状と今後の展望
- 第 2 回 項目 機能性繊維の新展開（消臭・抗菌繊維）
- 第 3 回 項目 機能性繊維の新展開（バイオミメティックス）
- 第 4 回 項目 バイオ技術の繊維への応用
- 第 5 回 項目 複合材料としての繊維の応用
- 第 6 回 項目 温熱的快適性を目的とした繊維の開発
- 第 7 回 項目 生分解性繊維の開発
- 第 8 回 項目 繊維の構造と物性の研究動向
- 第 9 回 項目 繊維製品のリサイクル
- 第 10 回 項目 染色加工の現状と今後の展望
- 第 11 回 項目 染料と水質汚染
- 第 12 回 項目 染色加工の革新的技術
- 第 13 回 項目 無水染色の新技術
- 第 14 回 項目 染色加工の動向
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 毎回のレポート提出、課題への取り組み方、討論の参加度で評価する。

教科書・参考書 教科書： 国内外の文献をプリントとして配布する。 / 参考書： おもしろいバイオ新素材のはなし、松永是・本宮達也著、日刊工業新聞社、1996年； 環境化学（改訂版）、西村雅吉著、裳華房、1998年； ニューフロンティア繊維の世界、本宮達也・梶原莞爾著、日刊工業新聞社、2000年

連絡先・オフィスアワー E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp , 研究室：教育学部 300号室

開設科目	衣生活科学特論	区分	講義	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	星野裕之				

授業の概要 衣生活分野に関わる今日の問題について、より広範な情報収集及びその分析等を通して、より高度な専門的学力や技術を論述する。

授業の一般目標 繊維を構成している高分子について学び、衣料用繊維にとどまらず、日常生活にある日用品について、さまざまな領域で高分子材料が使われていることを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：高分子の構造や反応性を説明できる。 思考・判断の観点：衣料用以外に活用されている高分子材料を指摘できる。 関心・意欲の観点：関連する情報を自分で収集できる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 繊維と高分子
- 第2回 項目 高分子材料・高分子科学の進歩
- 第3回 項目 若い肌の秘密
- 第4回 項目 ヘアケア製品
- 第5回 項目 快適新合繊（ニューシルキー）
- 第6回 項目 形態安定加工（イージーケア製品）
- 第7回 項目 透けない繊維
- 第8回 項目 水を磨く（浄水器）
- 第9回 項目 健康ベネフィット（食物繊維飲料）
- 第10回 項目 スポーツシューズ（快適フィッティング）
- 第11回 項目 感性に訴える快適性（カーシート）
- 第12回 項目 蒸れない繊維
- 第13回 項目 熱湯でバラバラになる繊維
- 第14回 項目 吸水速乾素材
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 毎回課題を与え、それに対するレポートと発表で評価する。

教科書・参考書 教科書：適宜プリントを配布する。 / 参考書：繊維の百科事典，本宮達也ほか7名編，丸善，2002年；ニューフロンティア繊維の世界，本宮達也・梶原莞爾著，日刊工業新聞社，2000年；ハイテク繊維の世界，本宮達也著，日刊工業新聞社，1999年；よくわかる新繊維のはなし，林田隆夫著，日本実業，1998年

連絡先・オフィスアワー E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp，研究室：教育学部300号室

開設科目	住居学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	山本善積				

授業の概要 住居及び地域空間の問題とそれに対する計画理論を中心に講義する。これらを歴史的に追いながら、現代の生活空間における居住問題のとらえ方とその計画的な解決について考える。さらに高齢者等の居住問題を考える。

授業の一般目標 住居・地域空間の計画理論を説明できることとあわせて、教育現場に関わる空間・環境の問題を指摘でき、解決方向を提案できることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 住居・地域空間の計画理論を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 教育に関わる環境の問題を指摘できる。 2. 問題解決の方法や方向を提案できる。 関心・意欲の観点： 1. 児童・生徒が暮らす住居・地域空間に一般的な計画理論をひきつけて考えられる。

授業の計画(全体) 授業は次の順序です。 (1) 居住地の計画理論の発展、 (2) 住まいの計画理論、 (3) 高齢者・障害者に求められる環境

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 空間の構成と空間計画
- 第2回 項目 住環境問題と居住地づくり
- 第3回 項目 居住地づくりの思想
- 第4回 項目 戦後の住環境問題
- 第5回 項目 戦後の居住地計画論
- 第6回 項目 住居の調査研究と計画
- 第7回 項目 住居計画の発展
- 第8回 項目 住まいと住環境の今日的課題
- 第9回 項目 高齢者等の住居問題
- 第10回 項目 高齢者・障害者の住居対策
- 第11回 項目 高齢者・障害者の地域環境問題
- 第12回 項目 住居・地域環境点検の演習
- 第13回 項目 地域環境対策の課題
- 第14回 項目 今後の地域環境づくり 主体の問題
- 第15回 項目 総合討議

成績評価方法(総合) 演習調査とそれに基づいた考察のレポート、及び出席状況で評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。

開設科目	住居学特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	山本善積				

授業の概要 住居学関連の内外の文献購読や住居及び地域空間に関する調査演習を通して、生活と空間の課題について検討する。

授業の一般目標 各自がテーマを設定して、それに関する調査を行い、発表・討議することを通して、テーマについて理解を深めるとともに、調査の進め方、結果の考察方法、討議による理解の深め方を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 設定したテーマに関する先行研究や関連研究などの状況と問題を説明できる。 思考・判断の観点： 1. テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に述べる事ができる。 関心・意欲の観点： 1. 他の人のテーマに冠する討議にも参加し、意見を述べる事ができる。

授業の計画(全体) 各自のテーマに基づいて、ゼミ形式で行う。

成績評価方法(総合) 調査と結果の整理、発表と討議への参加状況、及びテーマに関する考察のレポートにより評価する。

開設科目	住生活科学特論	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	山本善積				

授業の概要 住生活分野に関わる今日の問題について、より広範な情報収集及びその分析等を通して、高度な専門的学力や技術の習得・蓄積を行う。

授業の一般目標 住生活に関わる今日の問題について、その概要や分析の方法を説明できる。また、実際に分析してみることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマと関連する住生活に関する文献等の講読を通して、今日の問題の概要を理解し、それを説明できる。 思考・判断の観点： 問題の認識を深めるために、文献やデータの調査を行い、分析・考察することができる。

授業の計画（全体） 住生活教育に関する文献講読を中心に行う。

成績評価方法（総合） 主体的な文献調査、文献の批判的検討、それをまとめて発表する力などを総合的に評価する。

開設科目	保育学特論	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	友定啓子				

授業の概要 テキスト「保育の体験と施策」を購読しながら、幼児の心身の発達に応じた幼児理解の方法、保育行為論、保育記録論など保育学の基礎を学ぶ。

授業の一般目標 幼児教育の方法の独自性を理解し、幼児理解の意味について考える。テキストの内容を自分のことばで説明できるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 幼児の発達の姿を理解する。幼児教育方法のの独自性を理解する。

思考・判断の観点： テキストに書かれている事例をめぐって、幼児理解を広げ、保育者としての判断の仕方を学ぶ。 関心・意欲の観点： 幼児と保育についてのの関心を深める

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 テキスト輪読 1
- 第 2 回 項目 テキスト輪読 2
- 第 3 回 項目 テキスト購読 3
- 第 4 回 項目 テキスト購読 4
- 第 5 回 項目 テキスト購読 5
- 第 6 回 項目 テキスト購読 6
- 第 7 回 項目 テキスト購読 7
- 第 8 回 項目 テキスト購読 8
- 第 9 回 項目 テキスト購読 9
- 第 10 回 項目 テキスト購読 1 0
- 第 11 回 項目 テキスト購読 1 1
- 第 12 回 項目 テキスト購読 1 2
- 第 13 回 項目 保育実践研究の方法 1
- 第 14 回 項目 保育実践研究の方法 2
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書：「保育の体験と思索」, 津守真, 大日本図書, 1980 年

開設科目	保育学特論演習 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	友定啓子				

授業の概要 保育および保育教育に関する演習を行う。

授業の一般目標 を

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーシ ョン
- 第 2 回 項目 テキスト購読 1
- 第 3 回 項目 テキスト購読 2
- 第 4 回 項目 受講生の主題に沿ったレポート 1
- 第 5 回 項目 テキスト購読 3
- 第 6 回 項目 受講生の主題の沿ったレポート 2
- 第 7 回 項目 テキスト購読 4
- 第 8 回 項目 受講生の主題に沿ったレポート 3
- 第 9 回 項目 幼稚園教育に関するトピック 1 保護者の成長支援
- 第 10 回 項目 保育記録に基づいたレポート 1
- 第 11 回 項目 保育記録に基づいたレポート 2
- 第 12 回 項目 保育記録に基づいたレポート 3
- 第 13 回 項目 テキスト購読 5
- 第 14 回 項目 テキスト購読 6
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	保育学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	友定啓子				

授業の概要 保育学・発達心理学・認識論などの文献を購読し、保育実践記録と読み合わせることで、幼児理解の方法について考える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 テキスト選択検討
- 第 2 回 項目 テキスト購読・演習 1
- 第 3 回 項目 テキスト購読・演習 2
- 第 4 回 項目 テキスト購読・演習 3
- 第 5 回 項目 テキスト購読・演習 4
- 第 6 回 項目 テキスト購読・演習 5
- 第 7 回 項目 テキスト購読・演習 6
- 第 8 回 項目 テキスト購読・演習 7
- 第 9 回 項目 テキスト購読・演習 8
- 第 10 回 項目 テキスト購読・演習 9
- 第 11 回 項目 テキスト購読・演習 10
- 第 12 回 項目 テキスト購読・演習 11
- 第 13 回 項目 テキスト購読・演習 12
- 第 14 回 項目 テキスト購読・演習 13
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	家庭科教育実践研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	入江和夫				

授業の概要 小・中の附属学校の授業参観並びに先行授業実践例の分析を通して問題点を把握し、授業改善を図る。 / 検索キーワード 附属学校 授業改善

授業の一般目標 小・中の附属学校の授業参観並びに先行授業実践例の分析を通して問題点を把握し、授業改善を図ることが出来る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 授業改善における具体的な内容について、理解できたか。 思考・判断の観点： より良い授業づくりに向けて、じっくりと考え、判断しながら授業改善ができたか。 関心・意欲の観点： より良い授業づくりに対する関心・意欲があるか。 態度の観点： 授業に対して積極的に、真面目に取り組んでいたか。 技能・表現の観点： 授業改善に向けて、適切に改善点を指摘することが出来たか。 その他の観点： 出席状況

授業の計画（全体） 前半は、附属学校の授業参観並びに先行授業実践例を分析し、問題点を整理する。 後半は、授業改善に向けて、問題・課題解決についてレポートする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 先行授業実践例の検討
- 第 2 回 項目 先行授業実践例の検討
- 第 3 回 項目 附属学校の参観授業
- 第 4 回 項目 授業改善について討議
- 第 5 回 項目 授業改善について討議
- 第 6 回 項目 改善した授業の発表
- 第 7 回 項目 改善した授業の発表
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回 項目 レポート

メッセージ 家庭科教育の教員2人（入江先生）で担当する。

連絡先・オフィスアワー 083 - 933 - 5413

開設科目	家庭科教育支援実践研究	区分	実験・実習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	友定啓子 山田次郎 五島淑子 山本善積 星野裕之				

授業の概要 学校現場のみならず、家政教育の専門性と関わりのある他の多様な社会的現場での実践的研究をとおして、より現実的問題の把握とその対処等について討議する。

授業の一般目標 幼稚園での長期にわたる保育実践および保育記録の作成を行い、参加観察法による保育研究について学ぶ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	入江和夫				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	五島淑子				

授業の概要 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する論文を講読し、比較検討する際の基本的技法を理解する。研究テーマの位置づけや方法論について、主体的に考える姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。 思考・判断の観点：内外の論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点：研究テーマの位置づけについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の

観点：論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

授業の計画（全体） 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について、討論を交えながら検討する。

連絡先・オフィスアワー goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 C 棟 4 階 422 号室 オフィスアワー：金曜日 16 時 10 分～17 時 40 分

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	友定啓子				

授業の概要 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する論文を講読し、比較検討する際の基本的技法を理解する。研究テーマの位置づけや方法論について、主体的に考える姿勢を身につける。”

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分のテーマに沿った文献を読みこなす 資料論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。 思考・判断の観点：文献等で得られた理解と実践上の事実をとつき合わせて考えることができる 先行研究を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。 関心・意欲の観点：研究テーマの位置づけについて、主体的に考えることができる。

技能・表現の観点：テーマに沿った思考過程を他者にわかるように表現できる。幼児教育等の現場で実践できる。

授業の計画(全体) 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について、討論を交えながら検討する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 テキスト購読および 研究資料の検討1
- 第2回 項目 テキスト購読および 研究資料の検討2
- 第3回 項目 テキスト購読および 研究資料の検討3
- 第4回 項目 テキスト購読および 研究資料の検討4
- 第5回 項目 テキスト購読および 研究資料の検討5
- 第6回 項目 テキスト購読および 研究資料の検討6
- 第7回 項目 テキスト購読および 研究資料の検討7
- 第8回 項目 テキスト購読および 研究資料の検討8
- 第9回 項目 テキスト購読および 研究資料の検討9
- 第10回 項目 テキスト購読および 研究資料の検討10
- 第11回 項目 テキスト購読および 研究資料の検討11
- 第12回 項目 テキスト購読および 研究資料の検討12
- 第13回 項目 テキスト購読および 研究資料の検討13
- 第14回 項目 テキスト購読および 研究資料の検討14
- 第15回 項目 テキスト購読および 研究資料の検討15

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	星野裕之				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	山田次郎				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	山本善積				

授業の概要 各自の設定した研究テーマと研究計画をもとに、関連の先行研究の調査やその到達点のつかみ方、研究計画の具体化等について指導を行う。

授業の一般目標 各自の設定した研究テーマに関連する先行研究を調べ、自らのテーマについての理解を深めるとともに、研究計画を具体化して必要な調査を行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の研究テーマについての社会的な意味やこれまでの先行研究の概要、問題点を説明できる。 思考・判断の観点： 先行研究等を踏まえて、各自の研究テーマを明確にし、必要な研究計画を立てられる。 関心・意欲の観点： 研究テーマに関わる諸問題に広く関心を持ち、主体的に考えることができる。

授業の計画（全体） 各自で先行研究を調べ、その概要、問題点を整理して発表する。これを踏まえて、研究計画を具体化し、必要な調査がすすめられるように指導する。

成績評価方法（総合） 各自の先行研究等に関する調査と授業での発表等を総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	入江和夫				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	五島淑子				

授業の概要 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備調査の計画を立て、それに基づいて予備調査を行い、その結果について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、調査の計画立案がある程度できる。研究テーマに関連する調査の基本的な方法論が理解でき、それを適切に実践できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマに関連する調査の基本的な方法論が理解できる。 思考・判断の観点： 研究テーマに関連する調査の妥当な方法論について考えることができる。 関心・意欲の観点： 研究テーマに関する調査の計画立案について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究テーマに関連した実験や調査を適切に実践できる基本的な能力を身につける。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備調査の計画立案を行い、それに基づいて予備調査を行い、その結果を適宜まとめていく。計画立案の仕方、調査の基本的な方法、得られた結果やその整理の仕方について、討論を交えながら、適宜検討し、本調査の研究計画立案に向けての準備をする。また、調査の基本的な方法について習得する。

連絡先・オフィスアワー goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 C 棟 4 階 422 号室 オフィスアワー：金曜日 16 時 10 分～17 時 40 分

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	友定啓子				

授業の概要 受講生の研究テーマに沿った文献に関する演習を行う。演習修士論文作成のための基礎的知識を得る。

授業の一般目標 研究テーマに関する実践や資料作成の方法論が理解できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマに関する資料作成の方法論や得られた結果の適切な整理の仕方について考えることができる。 思考・判断の観点：研究テーマに関する資料作成の妥当な方法論や得られた結果の適切な整理の仕方について考えることができる。 関心・意欲の観点：研究テーマに関する資料作成の妥当な方法論や得られた結果の適切な整理の仕方について考えることができる。 技能・表現の観点：研究テーマに関して適切に実践できる能力を身につける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第1回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討1
第2回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討2
第3回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討3
第4回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討4
第5回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討5
第6回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討6
第7回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討7
第8回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討8
第9回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討9
第10回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討10
第11回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討11
第12回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討12
第13回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討13
第14回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討14
第15回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討15

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	星野裕之				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	山田次郎				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	山本善積				

授業の概要 修士論文の作成に向けて、各自の研究テーマに応じた調査・分析の方法等についての指導を行う。

授業の一般目標 各自の研究テーマに応じて、課題を解明するための調査等の方法を理解し、実際に調査等を企画・実行する。また、調査等の結果の分析方法を理解し、主体的に分析、考察を進める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究課題に応じた調査・分析方法等を説明できる。 思考・判断の観点： 論理的に仮説をたてて、それを実証するための調査の在り方を述べることができる。さらに、実証に必要な分析の仕方を述べることができる。 関心・意欲の観点： 主体的に調査を企画し、分析をすすめることができる。

授業の計画(全体) 各自の研究テーマについて、解明する課題を明確にし、それに必要な調査・分析の方法について指導する。そして、分析方法も考慮して調査等を企画・実行する。

成績評価方法(総合) 研究テーマに関する課題整理、調査等の精緻さ、発表の丁寧さ、主体的な企画、分析などを総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	入江和夫				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	五島淑子				

授業の概要 研究テーマに関する予備実験や予備調査の結果を踏まえて、本調査の研究計画を立案し、それに基づいて本調査を実施し、得られた結果の整理を行う。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文や予備調査の結果を踏まえて、研究テーマに関する調査の計画立案ができる。研究テーマに関する調査を適切に実践できる能力を身につける。また、得られた結果の適切な整理の仕方を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマに関する実験や調査の方法論が理解できる。 思考・判断の観点：研究テーマに関する実験や調査の妥当な方法論や得られた結果の適切な整理の仕方について考えることができる。 関心・意欲の観点：研究計画の遂行について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：研究テーマに関する実験や調査を適切に実践できる能力を身につける。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関する予備実験や予備調査の結果を踏まえて、本実験や本調査の研究計画を立案し、それに基づいて本実験や本調査を実施する。そして、得られた結果の整理を行う。研究計画の立案、実験方法や結果の整理の方法については、適宜討論を交えながら、検討し、研究計画を遂行し、結果をまとめていく。

連絡先・オフィスアワー goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 C 棟 4 階 422 号室 オフィスアワー：金曜日 16 時 10 分～17 時 40 分

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	友定啓子				

授業の概要 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備実験や予備調査の計画を立て、それに基づいて予備実験や予備調査を行い、その結果について検討する。

授業の一般目標 ”研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、実験や調査の計画立案がある程度できる。研究テーマに関連する実験や調査の基本的な方法論が理解でき、それを適切に実践できる能力を身につける。”

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマに関連する実験や調査の基本的な方法論が理解できる。

思考・判断の観点： 研究テーマに関連する実験や調査の妥当な方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点： 研究テーマに関する実験、調査の計画立案について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究テーマに関連した実験や調査を適切に実践できる基本的な能力を身につける。

授業の計画(全体) 修士論文の研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、予備実験や予備調査の計画立案を行い、それに基づいて予備実験や予備調査を行い、その結果を適宜まとめていく。計画立案の仕方、実験・調査の基本的な方法、得られた結果やその整理の仕方について、討論を交えながら、適宜検討し、本実験や本調査の研究計画立案に向けての準備をする。また、実験・調査の基本的な方法について習得する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第1回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討1
第2回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討2
第3回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討3
第4回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討4
第5回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討5
第6回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討6
第7回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討7
第8回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討8
第9回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討9
第10回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討10
第11回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討11
第12回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討12
第13回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討13
第14回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討14
第15回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討15

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	星野裕之				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	山田次郎				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	山本善積				

授業の概要 各自の研究テーマに関連する社会的諸問題を調べるなど、広い視野からテーマの意味を考察し、先行研究などの学問的な面とあわせて、解明すべき課題を明確にする指導を行う。

授業の一般目標 研究テーマについて、社会的・学問的な観点で考察し、解明する課題を明確にする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自の研究テーマに関する社会的な諸問題を調べ、その問題点を説明できる。 思考・判断の観点：研究テーマの社会的な意味を考え、学問的な到達点も踏まえて解明する課題を述べることができる。 関心・意欲の観点：研究テーマに関連する諸問題に広く関心をもち、問題を整理・考察することができる。

授業の計画（全体） 研究テーマに関連する社会的な問題を調べ、その問題点を整理する。学問的な到達点も踏まえて、自らが解明する課題を考察する。

成績評価方法（総合） 研究テーマを広い視野から検討して意義付けができたか、解明すべき課題を整理・考察できたかなど、総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	入江和夫				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	五島淑子				

授業の概要 本実験や本調査で得られた結果をまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等についても習得する。

授業の一般目標 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現する方法論が理解できる。 思考・判断の観点： 研究結果から得られる見解を適切に考えることができる。

関心・意欲の観点： 研究をまとめることについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる。

授業の計画（全体） 本調査で得られた結果を最終的にまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等について習得する。

連絡先・オフィスアワー goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 C 棟 4 階 422 号室 オフィスアワー：金曜日 16 時 10 分～17 時 40 分

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	友定啓子				

授業の概要 保育記録等の資料を分析し、結果をまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等についても習得する。

授業の一般目標 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる能力を身につける。 思考・判断の観点： 研究結果から得られる見解を適切に考えることができる。

関心・意欲の観点： 研究をまとめることについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる。

授業の計画（全体） 資料分析で得られた結果を最終的にまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等について習得する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	星野裕之				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	山田次郎				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	山本善積				

授業の概要 修士論文の作成に向けて、調査結果等の分析の深め方、論考の進め方を指導する。

授業の一般目標 研究テーマに応じた解明すべき課題の確定、仮設の設定とそれに基づく調査、仮設を実証する分析と総合的考察といった研究の進め方を修得する。それを修士論文に表現できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 解明すべき課題とその解明のプロセスを説明することができる。
 思考・判断の観点： 分析と考察によって、自らの知見を導くことができる。

授業の計画（全体） 前半では修士論文の作成に向けて、追加調査等を行うとともにデータの分析をすすめる。後半では研究成果を修士論文にまとめる。また、それを発表会でわかりやすく発表する。

成績評価方法（総合） 得られた研究成果が修士論文として十分な内容を持つかを評価した上で、論文のまとめ方、発表会等でのプレゼンテーションなどを含めて総合的に評価する。

英語教育専修

開設科目	英語科教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	猫田和明				

授業の概要 英語教育諸領域についての知見を深めるため、文献講読を行う。文献（教科書の欄を参照）は英語教育の概論書であり、教授法、4 技能の指導、語彙・文法指導、学習者論、教材・メディア論、評価論、教師論、アクションリサーチ等幅広い分野を扱っている。 / 検索キーワード 英語教育、英語教授・学習

授業の一般目標 文献の購読を通して、英語教育諸領域における知識と思考力を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 英語教育諸領域における知識を高めることができる。 思考・判断の観点： 1. 英語教育諸領域における思考力を高めることができる。 関心・意欲の観点： 1. 英語教育諸領域におけるテーマへの関心を高めることができる。 態度の観点： 1. 他人との議論を通して、自身の理解の深化を図ることができる。

授業の計画（全体） 受講者のうち、各回の発表担当者は文献の割り当てられた部分の内容をまとめ、20 分程度で発表する。その後、内容について受講者全員で討議し、理解を深める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 3 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 4 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 5 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 6 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 7 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 8 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 9 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 10 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 11 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 12 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 13 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 14 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 15 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議

成績評価方法（総合） 授業内での発表、議論への参加度、レポート課題によって評価する。

教科書・参考書 教科書： Teaching English as a Second or Foreign Language, M. Celce-Murcia (Ed.), Heinle & Heinle, 2001 年 / 参考書： 授業内で紹介する。

連絡先・オフィスアワー nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室（教育 A354）

開設科目	英語科教育特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	猫田和明				

授業の概要 英語教育諸領域についての知見を深めるため、文献講読を行う。文献（教科書の欄を参照）は英語教育の概論書であり、教授法、4 技能の指導、語彙・文法指導、学習者論、教材・メディア論、評価論、教師論、アクションリサーチ等幅広い分野を扱っている。 / 検索キーワード 英語教育、英語教授・学習

授業の一般目標 文献の購読を通して、英語教育諸領域における知識と思考力を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 英語教育諸領域における知識を高めることができる。 思考・判断の観点： 1. 英語教育諸領域における思考力を高めることができる。 関心・意欲の観点： 1. 英語教育諸領域におけるテーマへの関心を高めることができる。 態度の観点： 1. 他人との議論を通して、自身の理解の深化を図ることができる。

授業の計画（全体） 受講者のうち、各回の発表担当者は文献の割り当てられた部分の内容をまとめ、20 分程度で発表する。その後、内容について受講者全員で討議し、理解を深める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 3 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 4 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 5 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 6 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 7 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 8 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 9 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 10 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 11 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 12 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 13 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 14 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議
- 第 15 回 項目 受講者の選択した教材による発表・討議

成績評価方法（総合） 授業内での発表、議論への参加度、レポート課題によって評価する。

教科書・参考書 教科書： Teaching English as a Second or Foreign Language, M. Celce-Murcia (Ed.), Heinle & Heinle, 2001 年 / 参考書： 授業内で紹介する。

連絡先・オフィスアワー nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室（教育 A354）

開設科目	英語科教育特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋俊章				

授業の概要 外国語としての英語教育に関する最新の論考をもとに、日本における英語教育の普遍性と独自性について考察する。

授業の一般目標 第 2 言語習得や 4 技能の指導等に関する最新の研究論文を簡潔に整理し、その内容を発表することが出来る。また、その内容について討論を行うことが出来る。

授業の計画 (全体) 毎週、1 ~ 2 つの第 2 言語習得や 4 技能の指導等に関する最新の研究論文を読む。担当者は、論文の内容を B 4 2 枚程度に簡潔に整理し、その内容について発表することが求められる。また、論文で取り上げられた内容について討論を行う。

成績評価方法 (総合) 発表の内容とテストの成績によって評価を行う。

教科書・参考書 参考書：(1) Gebhard, J. G. (2006) Teaching English As a Foreign or Second Language: A Teacher Self-development And Methodology Guide (Michigan Teacher Training (Paperback)) (2) Brown, H. D. (2006) Principles of Language Learning And Teaching, Peason Longman (the Fifth Edition)

連絡先・オフィスアワー bld10@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語科教育特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋俊章				

授業の概要 英語教育および（応用）言語学、（認知）心理学、第 2 言語習得研究等の研究成果を踏まえ、英語教材を文法、語彙、言語機能、題材文化等の観点から学習する。

授業の一般目標 英語教育および（応用）言語学、（認知）心理学、第 2 言語習得研究等の研究成果を踏まえ、英語教材を文法、語彙、言語機能、題材文化等の観点から分析・考察することが出来る。

授業の計画（全体） 英語教育および（応用）言語学、（認知）心理学、第 2 言語習得研究等の最新論文を読む。その内容に基づき、英語教材を文法、語彙、言語機能、題材文化等の観点から分析・考察する。言い換えれば、理論を当てはめれば、具体的にどのような教材でなければならないのかを検討する。

成績評価方法（総合） 発表の内容とテストの成績によって評価を行う。

教科書・参考書 参考書：(1) Gebhard, J. G. (2006) Teaching English As a Foreign or Second Language: A Teacher Self-development And Methodology Guide (Michigan Teacher Training (Paperback)) (2) Brown, H. D. (2006) Principles of Language Learning And Teaching, Peason Longman (the Fifth Edition)

連絡先・オフィスアワー bld10@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	松谷緑				

授業の概要 英語を通時的観点に立って観察する。どのような変化を経て今日の英語が成立したかの理解を深める。

授業の一般目標 英語学上の諸問題について、正しく観察し、分析するための考え方を学ぶ。言語事実を踏まえ、諸規則の綿密な観察ができること・英語を外国語として学ぶ学習者の疑問に答えられる知識と能力を培うことを目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。英語学上の諸問題について、正しく観察し、分析するための考え方が理解できる。 思考・判断の観点：英語学上の諸問題について、正しく観察し、分析できる。言語事実を踏まえ、諸規則の綿密な観察ができる。

関心・意欲の観点：英語学上の諸問題について、主体的に考えることができる。 態度の観点：学習のための時間を自ら積極的に作り出すとともに、学習を進めるにあたって生じる諸問題の解決に向けて自主的に取り組むことができる。 技能・表現の観点：理解した内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。英語学上の諸問題に関連した調査を適切に実践できる基本的な能力を身につける。

授業の計画（全体） 英語の成り立ちから、現代の体系に至るまでの変遷について論ずる。

成績評価方法（総合） 毎回の授業の取り組み・発表と期末のレポートとの総合評価

教科書・参考書 教科書：授業時に指示する

連絡先・オフィスアワー mmatsu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	松谷緑				

授業の概要 英語を通時的観点に立って観察する。どのような変化を経て今日の英語が成立したかの理解を深める。

授業の一般目標 英語学上の諸問題について、正しく観察し、分析できる。言語事実を踏まえた演習を通して、諸規則の綿密な観察ができること・英語を外国語として学ぶ学習者の疑問に答えられる知識と能力を培うことを目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。英語学上の諸問題について、正しく観察し、分析するための考え方が理解できる。 思考・判断の観点：英語学上の諸問題について、正しく観察し、分析できる。言語事実を踏まえ、諸規則の綿密な観察ができる。

関心・意欲の観点：英語学上の諸問題について、主体的に考えることができる。 態度の観点：学習のための時間を自ら積極的に作り出すとともに、学習を進めるにあたって生じる諸問題の解決に向けて自主的に取り組むことができる。 技能・表現の観点：理解した内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。英語学上の諸問題に関連した調査を適切に実践できる基本的な能力を身につける。

授業の計画（全体） 英語の成り立ちから、現代の体系に至るまでの変遷について論ずる。

成績評価方法（総合） 毎回の授業の取り組み・発表と期末のレポートとの総合評価

教科書・参考書 教科書：授業時に指示する

連絡先・オフィスアワー mmatsu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中尾佳行				

授業の概要 英語を主として共時的視点から考察する。音韻・語形・統語といった文内文法的特徴、及び会話の含意・談話・社会における言語使用などの文外文法的特徴を明らかにする。

教科書・参考書 教科書：プリント各種

備考 集中授業

開設科目	英語学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	前田満				

授業の概要 この授業でとり上げるのは、英語のモダリティ表現（法助動詞、仮定法など）の意味および用法に関わる諸問題である。モダリティ表現は話者の主観的見方や感情などを伝達するために用いられるという点で、ともすると人間には現れない話者の「こころ」を知るうえでカギとなる表現である。随所で、日本語のモダリティ表現を参照することによって、言語の性質や英語の文法の理解を深めるとともに、日本語と英語の文化的・社会的相違点などを浮き彫りにしてみたい。

授業の一般目標 この授業では、英語学の専門書を読解することによって、英語学の諸概念を学ぶのと同時に、英語の読解力の涵養もめざしている。まず、英語においてモダリティ表現がどのように使われているかを理解し、それを通じて自らの英文法の知識を深めてゆくことが求められる。さらに、日本語との比較により、英文法学習における新たな視点を得られるよう配慮したい。また、原文の専門書を読みこなす英語の「感覚」を身につけることも目標に含まれており、さらに、学生諸君の授業をプレゼンによって進め、プレゼンテーション能力の涵養も狙っている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 英語においてモダリティ表現がどのように使われているかを理解し、それを通じて自らの英文法の知識を深めてゆくことが求められる。 **思考・判断の観点：** 英語のモダリティについて学んだことを読解や作文など現実の英語使用の場面に生かすための応用力が求められる。また、言語学用語については、まずは英語学辞典などを用いて自ら調べ、授業のプレゼンに備えること。 **関心・意欲の観点：** 意欲を持って授業に参加し、授業の主題に関心をもっていただきたい。 **態度の観点：** 業に集中し、課された課題に十分な努力を払うこと。 **技能・表現の観点：** 授業のプレゼンやレポートをとおして表現力を高めること。

授業の計画（全体） 授業は基本的にテキストにそって行いが、必要であれば、他の資料などを用いて内容を補足する。まず、授業のきっかけとして、言語学で考えられているモダリティの概念をテキストおよびその他の資料を用いて概説する。英語において様々なモダリティがどのように表現されるかを学ぶ。最後に、英語と日本語のモダリティ表現を比較し、さらにモダリティ表現が現実の社会において果たす役割について考える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに
- 第 2 回 項目 演習 (1)
- 第 3 回 項目 演習 (2)
- 第 4 回 項目 演習 (3)
- 第 5 回 項目 演習 (4)
- 第 6 回 項目 演習 (5)
- 第 7 回 項目 演習 (6)
- 第 8 回 項目 演習 (7)
- 第 9 回 項目 演習 (8)
- 第 10 回 項目 演習 (9)
- 第 11 回 項目 演習 (10)
- 第 12 回 項目 演習 (11)
- 第 13 回 項目 演習 (12)
- 第 14 回 項目 演習 (13)
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） この授業では、おもに期末レポート、授業時間内に行うプレゼンおよび出席状況によって評価を行う。

教科書・参考書 教科書：プリントを活用する。 / 参考書：プリントを活用する。

開設科目	英米文学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武井暁子				

授業の概要 Charles Dickens, Oliver Twist を読む / 検索キーワード イギリス小説, チャールズ・ディケンズ

授業の一般目標 ディケンズ特有のユーモアと社会批判を理解する 論文の書き方を習得する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: Oliver Twist の特質、主題を理解する 思考・判断の観点: ディケンズが生きたヴィクトリア朝の社会問題を理解する 技能・表現の観点: 理解した内容をレポートする

授業の計画 (全体) ディケンズの生涯について概略を述べた後、担当者は 1 章分の人物関係とストーリーの概略、面白いと思った点などを発表する。毎回 2 章ずつ読み、ディスカッションする

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Chapters 1-2 内容 授業のやり方の説明
- 第 2 回 項目 Chapters 3-4 内容 発表
- 第 3 回 項目 Chapters 5-6 内容 発表
- 第 4 回 項目 Chapters 7-8 内容 発表
- 第 5 回 項目 Chapters 9-10 内容 発表
- 第 6 回 項目 Chapters 11-12 内容 発表
- 第 7 回 項目 Chapters 13-14 内容 発表
- 第 8 回 項目 Chapters 15-16 内容 発表
- 第 9 回 項目 Chapters 17-18 内容 発表
- 第 10 回 項目 Chapters 19-20 内容 発表
- 第 11 回 項目 Chapters 21-22 内容 発表
- 第 12 回 項目 Chapters 23-24 内容 発表
- 第 13 回 項目 Chapters 25-26 内容 発表
- 第 14 回 項目 Chapters 27-28 内容 発表
- 第 15 回 項目 Chapters 29-30 内容 発表

成績評価方法 (総合) 授業中の発表+ディスカッション+学期末に 6,000-8,000 字の論文提出

教科書・参考書 教科書: Oliver Twist, Charles Dickens, Penguin / 参考書: 授業中に指示

メッセージ 担当者は授業当日に分担箇所をレジュメにして出席者に配る ディスカッションでは積極的に発言すること。

連絡先・オフィスアワー akitakei@yamaguchi-u.ac.jp 面談希望はアポイントメントを取る

開設科目	英米文学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	武井暁子				

授業の概要 前期に続き Charles Dickens, Oliver Twist を読む / 検索キーワード イギリス小説, チャールズ・ディケンズ

授業の一般目標 ディケンズ特有のユーモアと社会批判を理解する 論文の書き方を習得する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: Oliver Twist の特質、主題を理解する 思考・判断の観点: ディケンズが生きたヴィクトリア朝の社会問題を理解する 技能・表現の観点: 理解した内容をレポートする

授業の計画 (全体) ディケンズの生涯について概略を述べた後、担当者は 1 章分の人物関係とストーリーの概略、面白いと思った点などを発表する。毎回 2 章ずつ読み、ディスカッションする

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Chapters 31-32 内容 発表
- 第 2 回 項目 Chapters 33-34 内容 発表
- 第 3 回 項目 Chapters 35-36 内容 発表
- 第 4 回 項目 Chapters 37-38 内容 発表
- 第 5 回 項目 Chapters 39-40 内容 発表
- 第 6 回 項目 Chapters 41-42 内容 発表
- 第 7 回 項目 Chapters 43-44 内容 発表
- 第 8 回 項目 Chapters 45-46 内容 発表
- 第 9 回 項目 Chapters 47-48 内容 発表
- 第 10 回 項目 Chapters 49-50 内容 発表
- 第 11 回 項目 Chapters 51-52 内容 発表
- 第 12 回 項目 Chapters 53-54 内容 発表
- 第 13 回 項目 Chapters 55-56 内容 発表
- 第 14 回 項目 Chapters 57-58 内容 発表
- 第 15 回 項目 Chapters 59-60 内容 発表 授業外指示 残りは自分で読む

成績評価方法 (総合) 授業中の発表+ディスカッション+学期末に 6,000-8,000 字の論文提出

教科書・参考書 教科書: Oliver Twist, Charles Dickens, Penguin / 参考書: 授業中に指示

メッセージ 担当者は授業当日に分担箇所をレジュメにして出席者に配る ディスカッションでは積極的に発言すること。

連絡先・オフィスアワー akitakei@yamaguchi-u.ac.jp 面談希望はアポイントメントを取る

開設科目	英米文学特論 III	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	増田 勉				

授業の概要 1. 英詩の韻律法について学ぶ。2 (後期、英米文学特論演習 III で、詩を用いて書かれたシェイクスピア劇を読む予定だが、その準備として、)シェイクスピア英語についての基礎的知識及びシェイクスピア全般についての概括的な知識を身につける。 / 検索キーワード prosody, scan, metre, foot, sonnet, poetic drama, iambic pentameter, blank verse, soliloquy, aside, folio, quarto

授業の一般目標 幅と奥行きのある英語教員になるためにも、英語と英文学について知識を広め、深める。

授業の計画 (全体) 前期の半分を韻律法の勉強にあて、残りの半分をシェイクスピア概観にあてる。

成績評価方法 (総合) 授業での発表、レポート等の評価を総合して判断。

教科書・参考書 教科書: プリントを配布する。 / 参考書: 授業で適宜回覧する予定である。

メッセージ この春教育学部を定年退職しましたが、引き続きお手伝いできて喜んでおります。授業は集中講義の形で行わせていただきます。

備考 集中授業

開設科目	英米文学特論演習 III	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	増田 勉				

授業の概要 シェイクスピアの最も有名な作品を原文で読む。 / 検索キーワード Shakespeare, Hamlet

授業の一般目標 幅と奥行きのある英語教員になるためにも、英語と英文学について知識を広め、深める。更に、高度の英文の読解力を養う。

授業の計画(全体) シェイクスピアの『ハムレット』を原文で読むが、全部は読み切れないので、重要部分を読んで行く。

成績評価方法(総合) 授業での発表、レポート等の評価を総合して判断。

教科書・参考書 教科書: Hamlet, W. Shakespeare, 研究社(小英文叢書), 1987年 / 参考書: ハムレット(研究社シェイクスピア選集8), W. Shakespeare (大場建治訳注), 研究社, 2004年; ハムレット, シェイクスピア, 福田恒存訳, 新潮社(新潮文庫), 2005年; その他にも多数あるが、授業で呈示する。

メッセージ この春教育学部を定年退職しましたが、またお手伝いできて嬉しいです。シェイクスピアを原文で読む体験はそうそうできないと思います。原文は確かに難しいですが、なんとかできます。挑戦してみてください。授業は集中授業の形で行いますが、原文を読む箇所は事前にご連絡いたします。

備考 集中授業

開設科目	比較文化学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	北西功一				

授業の概要 文化人類学における異文化理解のあり方について学ぶ。具体的にはアメリカ人類学者が第二次世界大戦期に敵国であった日本人を理解するために書かれた「菊と刀」を読み進めていく。自文化の理解と異文化の理解の関係について考えていく。 / 検索キーワード 文化相对主義 文化相对主義

授業の一般目標 文化人類学における異文化理解の基礎である文化相对主義を理解し、また文化相对主義に基づいた異文化理解を実践する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文化相对主義、自民族中心主義といった概念を理解する。 思考・判断の観点：文化相对主義に基づいて、異文化について考えることができる。 関心・意欲の観点：異文化理解に関心を持つ。 態度の観点：異文化を持つ人たちに対して偏見を持たずに接することができるようになる。

授業の計画（全体） ルース・ベネディクトの「菊と刀」を読み進めながら、異文化理解、日本人とアメリカ人の考え方や文化の違いについて考える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 第一章 研究課題 日本
- 第 2 回 項目 第二章 戦争中の日本人
- 第 3 回 項目 第三章 「各々其ノ所ヲ得」
- 第 4 回 項目 第四章 明治維新
- 第 5 回 項目 第五章 過去と世間に負い目を負う者
- 第 6 回 項目 第六章 万分の一の恩返し
- 第 7 回 項目 第七章 「義理ほどつらいものはない」
- 第 8 回 項目 第八章 汚名をすすぐ
- 第 9 回 項目 第九章 人情の世界
- 第 10 回 項目 第十章 徳のジレンマ
- 第 11 回 項目 第十一章 修養
- 第 12 回 項目 第十二章 子供は学ぶ
- 第 13 回 項目 第十三章 降伏後の日本人
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 期末レポートと授業時における参加度に基づいて評価する。

教科書・参考書 教科書：菊と刀, ルース・ベネディクト, 講談社, 2005 年

メッセージ まずは自分で文献を読んでみて、どれくらい理解できるか試してください。

連絡先・オフィスアワー kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 教育学部 2 階 266 号室 オフィスアワー 随時

開設科目	比較文化学特論演習	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	小粥良				

授業の概要 テリー・イーグルトンの『文化の概念』を読み、討議する。テーマを決めて、調査・分析を行い論述する。

授業の一般目標 文化について、人文・社会学系の学問で、現在どのようなことが問題とされているかを知る。文化に対する普遍主義的な立場とアイデンティティー・ポリティクスなどの個別主義的な立場の間の争点について洞察を深め、自身の文化研究に対する立脚点を模索する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：イーグルトンの著書で論じられている「文化」概念の歴史的展開と、現在の様々な文化に対する見解を理解する。 思考・判断の観点：イーグルトンの著書の内容を、今日の日本における「文化」を巡る言説と結びつけて論述することができる。 関心・意欲の観点：文化についての様々な言説を文献、インターネットで積極的に調査することができる。 態度の観点：英語のテキストを、常に授業前にきちんと下調べし、丹念に読んで考察して行くことができる。与えられた課題に積極的に取り組むことができる。 技能・表現の観点：難解な英文テキストをきちんと解釈して、読みこなすことができる。修士課程のレベルにふさわしい分析的・客観的な論述を行うことができる。

授業の計画(全体) テリー・イーグルトンの『文化の概念』を読み進めていく。毎回、訳を提出してもらい、その内容について討議する。その都度、指示を与え調査する課題を出す。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 テキストの読解 と討議 授業外指示 調査課題
- 第2回 項目 テキストの読解 と討議
- 第3回 項目 テキストの読解 と討議 授業外指示 調査課題
- 第4回 項目 テキストの読解 と討議
- 第5回 項目 テキストの読解 と討議 授業外指示 調査課題
- 第6回 項目 テキストの読解 と討議
- 第7回 項目 テキストの読解 と討議 授業外指示 調査課題
- 第8回 項目 テキストの読解 と討議
- 第9回 項目 テキストの読解 と討議 授業外指示 調査課題
- 第10回 項目 テキストの読解 と討議
- 第11回 項目 テキストの読解 と討議 授業外指示 調査課題
- 第12回 項目 テキストの読解 と討議
- 第13回 項目 テキストの読解 と討議 授業外指示 調査課題
- 第14回 項目 テキストの読解 と討議
- 第15回 項目 レポート提出

教科書・参考書 教科書：The Idea of Culture, Terry Eagleton, Blackwell Publishers, 2000年；教科書は当初、初めの部分をコピーして配布する。 / 参考書：キーワード辞典, レイモンド・ウィリアムズ著；岡崎康一訳, 晶文社, 1980年；レイモンド・ウィリアムズ『キーワード辞典』(晶文社)

メッセージ テキストは英文なので、指定された箇所を事前にしっかり読んでおくこと。

連絡先・オフィスアワー 小粥研究室(国際理解教育資料室向かい) 木曜日 16:00 - 17:00

開設科目	英語科教育実践研究	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	高橋俊章・猫田和明				

授業の概要 外国語としての英語教育における授業内容、方法、学習者、教具、評価などの観点から 英語科授業研究を行う

授業の一般目標 特定なテーマ(リスニング、文法など)に関して、実際の教材を用い、様々な観点(指導内容、指導方法、学習者要因、教具の利用方法、評価方法など)から分析し、考察することが出来る。

授業の計画(全体) 前年度までに学んだ理論的知識に基づき、特定なテーマ(リスニング、文法など)に関して、実際の教材を用い、様々な観点(指導内容、指導方法、学習者要因、教具の利用方法、評価方法など)から分析し、考察を行う。 理論的枠組みを簡潔に発表した後、毎週異なる観点から考察を行う。

連絡先・オフィスアワー bld10@yamaguchi-u.ac.jp nekoda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語科教育支援実践研究	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松谷緑、小粥良、北西功一、前田満、武井暁子				

授業の概要 学校あるいは地域社会、団体等において外国語および当該外国語圏の文化について指導教官の指導のもとで教育体験をする。あるいは実地に研修を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	高橋俊章				

授業の概要 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関連する論文を講読し、比較検討する際の基本的技法を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 修士論文で取り上げる英語教育の研究テーマに関係する基本的な知識を身につけている。内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。 思考・判断の観点： 内外の論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。 関心・意欲の観点： 先行研究や調査等において意欲的に取り組む。研究テーマについて、主体的に考えることができる。 態度の観点： これまで、明らかになっていなかった点を探求しようとし、得られた知見を今後の英語教育に応用しようとする態度を持つ。 技能・表現の観点： 文献調査の結果に基づいて、論理的で分かりやすい発表を行う。論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。”

授業の計画(全体) 英語教育のテーマに関する文献調査を行う。また、文献調査に基づいて、論理的で分かりやすい発表を行う。英語教育のテーマに関する文献調査を行う。修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する国内・外の論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について、討論を交えながら検討する。

成績評価方法(総合) 課題研究における発表の内容によって評価を行う。

連絡先・オフィスアワー bld10@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	高橋俊章				

授業の概要 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、研究計画を立て、それに基づいて実験・調査等を行い、その結果について検討する。

授業の一般目標 研究テーマに関する実験や調査を適切に実践できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマに関する調査や研究の方法論が理解できる。 思考・判断の観点： 研究テーマに関連する実験や調査の妥当な方法論について考えることができる。 関心・意欲の観点： 研究計画の遂行について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究テーマに関する実験や調査を適切に実践できる能力を身につける。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関する実験や調査を実施する。そして、得られた結果の整理を行う。

成績評価方法（総合） 課題研究における発表内容に基づいて評価を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	高橋俊章				

授業の概要 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、研究計画を立てる。

授業の一般目標 研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、実験や調査の計画立案がある程度できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマに関連する実験や調査の基本的な方法論が理解できる。

思考・判断の観点： 研究テーマに関連する実験や調査の妥当な方法論について考えることができる。

関心・意欲の観点： 研究テーマに関する実験、調査の計画立案について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究テーマに関連した実験や調査を適切に実践できる基本的な能力を身につける。

授業の計画（全体） 修士論文の研究テーマに関連する国内外の論文を参考に、実験や調査の計画立案を行うことが出来る。実験・調査の基本的な方法について習得する。

成績評価方法（総合） 課題研究における発表内容に基づいて評価を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	高橋俊章				

授業の概要 調査や実験で得られた結果をまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等についても習得する。

授業の一般目標 調査結果や研究結果から得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現する方法論が理解できる。 思考・判断の観点： 研究結果から得られる見解を適切に考えることができる。

関心・意欲の観点： 研究をまとめることについて、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現できる。

授業の計画（全体） 本実験や本調査で得られた結果を最終的にまとめ、修士論文として完成させる。また、口頭発表の仕方等について習得する。

成績評価方法（総合） 課題研究の発表内容に基づいて評価を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	猫田和明				

授業の概要 本授業は、各学生の興味・関心に応じて学位論文を書くために必要な指導を行う。(受け入れ可能なテーマについては事前に相談してください。)/検索キーワード 英語教育研究

授業の一般目標 論文の書き方についての一般的な事項を理解した上で、学位論文を書くための活動を行う。

授業の到達目標/知識・理解の観点: 1. 論文の書き方についての一般的な事項を理解している。 思考・判断の観点: 1. 自分の研究内容・方法について主体的に判断し、意思決定ができる。 関心・意欲の観点: 1. 問題意識をもって研究に取り組むことができる。 2. 自分の研究として責任をもち、意欲的に研究に取り組むことができる。 態度の観点: 1. 他人の意見に対して開かれた態度で議論を行うことができる。 技能・表現の観点: 1. 発表や論文の質を高めるために、必要な方法を選択・適用できる。

授業の計画(全体) 授業では、毎回、担当者を決めて自分の研究についての発表を20~30分程度でしてもらい、ゼミのメンバー全員で討議する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第2回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第3回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第4回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第5回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第6回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第7回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第8回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第9回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第10回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第11回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第12回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第13回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第14回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第15回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議

成績評価方法(総合) 論文作成への布石となる授業内での発表内容と論文作成に向けて取り組む姿勢を評価する。

連絡先・オフィスアワー nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室(教育 A354)

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	猫田和明				

授業の概要 本授業は、各学生の興味・関心に応じて学位論文を書くために必要な指導を行う。(受け入れ可能なテーマについては事前に相談してください。)/検索キーワード 英語教育研究

授業の一般目標 論文の書き方についての一般的な事項を理解した上で、学位論文を書くための活動を行う。

授業の到達目標/知識・理解の観点: 1. 論文の書き方についての一般的な事項を理解している。 思考・判断の観点: 1. 自分の研究内容・方法について主体的に判断し、意思決定ができる。 関心・意欲の観点: 1. 問題意識をもって研究に取り組むことができる。 2. 自分の研究として責任をもち、意欲的に研究に取り組むことができる。 態度の観点: 1. 他人の意見に対して開かれた態度で議論を行うことができる。 技能・表現の観点: 1. 発表や論文の質を高めるために、必要な方法を選択・適用できる。

授業の計画(全体) 授業では、毎回、担当者を決めて自分の研究についての発表を20~30分程度でしてもらい、ゼミのメンバー全員で討議する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第2回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第3回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第4回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第5回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第6回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第7回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第8回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第9回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第10回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第11回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第12回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第13回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第14回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第15回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議

成績評価方法(総合) 論文作成への布石となる授業内での発表内容と論文作成に向けて取り組む姿勢を評価する。

連絡先・オフィスアワー nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室(教育 A354)

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	猫田和明				

授業の概要 本授業は、各学生の興味・関心に応じて学位論文を書くために必要な指導を行う。（受け入れ可能なテーマについては事前に相談してください。） / 検索キーワード 英語教育研究

授業の一般目標 論文の書き方についての一般的な事項を理解した上で、学位論文を書くための活動を行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 論文の書き方についての一般的な事項を理解している。 思考・判断の観点：1. 自分の研究内容・方法について主体的に判断し、意思決定ができる。 関心・意欲の観点：1. 問題意識をもって研究に取り組むことができる。 2. 自分の研究として責任をもち、意欲的に研究に取り組むことができる。 態度の観点：1. 他人の意見に対して開かれた態度で議論を行うことができる。 技能・表現の観点：1. 発表や論文の質を高めるために、必要な方法を選択・適用できる。

授業の計画（全体） 授業では、毎回、担当者を決めて自分の研究についての発表を20～30分程度でしてもらい、ゼミのメンバー全員で討議する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第2回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第3回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第4回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第5回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第6回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第7回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第8回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第9回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第10回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第11回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第12回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第13回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第14回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第15回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議

成績評価方法（総合） 論文作成への布石となる授業内での発表内容と論文作成に向けて取り組む姿勢を評価する。

連絡先・オフィスアワー nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室（教育 A354）

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	猫田和明				

授業の概要 本授業は、各学生の興味・関心に応じて学位論文を書くために必要な指導を行う。（受け入れ可能なテーマについては事前に相談してください。） / 検索キーワード 英語教育研究

授業の一般目標 論文の書き方についての一般的な事項を理解した上で、学位論文を書くための活動を行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 論文の書き方についての一般的な事項を理解している。 思考・判断の観点：1. 自分の研究内容・方法について主体的に判断し、意思決定ができる。 関心・意欲の観点：1. 問題意識をもって研究に取り組むことができる。 2. 自分の研究として責任をもち、意欲的に研究に取り組むことができる。 態度の観点：1. 他人の意見に対して開かれた態度で議論を行うことができる。 技能・表現の観点：1. 発表や論文の質を高めるために、必要な方法を選択・適用できる。

授業の計画（全体） 授業では、毎回、担当者を決めて自分の研究についての発表を20～30分程度でしてもらい、ゼミのメンバー全員で討議する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第2回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第3回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第4回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第5回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第6回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第7回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第8回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第9回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第10回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第11回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第12回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第13回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第14回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
- 第15回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議

成績評価方法（総合） 論文作成への布石となる授業内での発表内容と論文作成に向けて取り組む姿勢を評価する。

連絡先・オフィスアワー nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室（教育 A354）

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	松谷緑				

授業の概要 修士論文の作成に向けて、各自のテーマに応じて、先行研究の検討・調査の仕方・英語論文の書き方等について指導を行う。

授業の一般目標 各自のテーマについて、研究を進める。言語学一般、英語の歴史や構造、意味と文体などについての基礎知識を確認するとともに、さまざまな言語現象について、詳細に観察し、正しく分析する力を養う。英語教師として必要な英語の資質を高めることを目指す。修士論文に向けて、英語論文の適切な書き方について学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。研究テーマに関連する調査の基本的な方法論が理解できる。 思考・判断の観点：内外の論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。研究テーマに関連する調査の妥当な方法論について考えることができる。研究テーマに関する調査の妥当な方法論や得られた結果の適切な整理の仕方について考えることができる。 関心・意欲の観点：研究テーマの位置づけについて、主体的に考えることができる。研究テーマに関する調査の計画立案について、主体的に考えることができる。研究計画の遂行について、主体的に考えることができる。 態度の観点：研究のための時間を自ら積極的に作り出すとともに、研究を進めるにあたって生じる諸問題の解決に向けて自主的に取り組むことができる。結果を科学的・客観的に捉えようとするすることができる。 技能・表現の観点：論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。研究テーマに関連した調査を適切に実践できる基本的な能力を身につける。

授業の計画（全体）言語学・英語学に関わるテーマ、文法 / 文体に関するもの、社会言語学、認知言語学などの分野のテーマを取り上げる予定である。日本語と英語を対照させつつ両者の相違についても考察する。定められたテーマについて、それに関する文献を読み、レポートしてもらい、それをもとに考察・意見交換を行う。テーマによっては数回にわたって取り上げ、理解を深めたい。資料についてはその都度指示する。

成績評価方法（総合）研究テーマに対する知識・理解や思考・判断力に加え、出席、研究への熱意や努力など、態度や意欲の観点も重視する。研究計画の立案に主体的に取り組もうとしたか、速やかに実質的な研究を開始することができたかも重視する。ゼミや発表会でのプレゼンテーションなどを含めて、総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー mmatsu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	松谷緑				

授業の概要 修士論文の作成に向けて、各自のテーマに応じて、先行研究の検討・調査の仕方・英語論文の書き方等について指導を行う。

授業の一般目標 各自のテーマについて、研究を進める。言語学一般、英語の歴史や構造、意味と文体などについての基礎知識を確認するとともに、さまざまな言語現象について、詳細に観察し、正しく分析する力を養う。英語教師として必要な英語の資質を高めることを目指す。修士論文に向けて、英語論文の適切な書き方について学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。研究テーマに関連する調査の基本的な方法論が理解できる。 思考・判断の観点：内外の論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。研究テーマに関連する調査の妥当な方法論について考えることができる。研究テーマに関する調査の妥当な方法論や得られた結果の適切な整理の仕方について考えることができる。 関心・意欲の観点：研究テーマの位置づけについて、主体的に考えることができる。研究テーマに関する調査の計画立案について、主体的に考えることができる。研究計画の遂行について、主体的に考えることができる。 態度の観点：研究のための時間を自ら積極的に作り出すとともに、研究を進めるにあたって生じる諸問題の解決に向けて自主的に取り組むことができる。結果を科学的・客観的に捉えようとするすることができる。 技能・表現の観点：論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。研究テーマに関連した調査を適切に実践できる基本的な能力を身につける。

授業の計画（全体）言語学・英語学に関わるテーマ、文法 / 文体に関するもの、社会言語学、認知言語学などの分野のテーマを取り上げる予定である。日本語と英語を対照させつつ両者の相違についても考察する。定められたテーマについて、それに関する文献を読み、レポートしてもらい、それをもとに考察・意見交換を行う。テーマによっては数回にわたって取り上げ、理解を深めたい。資料についてはその都度指示する。

成績評価方法（総合）研究テーマに対する知識・理解や思考・判断力に加え、出席、研究への熱意や努力など、態度や意欲の観点も重視する。研究計画の立案に主体的に取り組もうとしたか、速やかに実質的な研究を開始することができたかも重視する。ゼミや発表会でのプレゼンテーションなどを含めて、総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー mmatsu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	松谷緑				

授業の概要 修士論文の作成に向けて、各自のテーマに応じて、先行研究の検討・調査の仕方・英語論文の書き方等について指導を行う。

授業の一般目標 各自のテーマについて、研究を進める。言語学一般、英語の歴史や構造、意味と文体などについての基礎知識を確認するとともに、さまざまな言語現象について、詳細に観察し、正しく分析する力を養う。英語教師として必要な英語の資質を高めることを目指す。修士論文に向けて、英語論文の適切な書き方について学ぶ。

授業の到達目標
知識・理解の観点：内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。研究テーマに関連する調査の基本的な方法論が理解できる。研究結果やそこから得られる見解を、文章や口頭で適切に表現する方法論が理解できる。
思考・判断の観点：内外の論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。研究テーマに関連する調査の妥当な方法論について考えることができる。研究テーマに関する調査の妥当な方法論や得られた結果の適切な整理の仕方について考えることができる。
関心・意欲の観点：研究テーマの位置づけについて、主体的に考えることができる。研究テーマに関する調査の計画立案について、主体的に考えることができる。研究計画の遂行について、主体的に考えることができる。学習した内容について、主体的に考えることができる。
態度の観点：研究のための時間を自ら積極的に作り出すとともに、研究を進めるにあたって生じる諸問題の解決に向けて自主的に取り組むことができる。結果を科学的・客観的に捉えようとするすることができる。
技能・表現の観点：論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。研究テーマに関連した調査を適切に実践できる基本的な能力を身につける。

授業の計画（全体） 言語学・英語学に関わるテーマ、文法 / 文体に関するもの、社会言語学、認知言語学などの分野のテーマを取り上げる予定である。日本語と英語を対照させつつ両者の相違についても考察する。定められたテーマについて、それに関する文献を読み、レポートしてもらおう。それをもとに考察・意見交換を行う。テーマによっては数回にわたって取り上げ、理解を深めたい。資料についてはその都度指示する。

成績評価方法（総合） 研究テーマに対する知識・理解や思考・判断力に加え、出席、研究への熱意や努力など、態度や意欲の観点も重視する。研究計画の立案に主体的に取り組もうとしたか、速やかに実質的な研究を開始することができたかも重視する。ゼミや発表会でのプレゼンテーションなどを含めて、総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー mmatsu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	松谷緑				

授業の概要 修士論文の作成に向けて、各自のテーマに応じて、先行研究の検討・調査の仕方・英語論文の書き方等について指導を行う。

授業の一般目標 各自のテーマについて、研究を進める。言語学一般、英語の歴史や構造、意味と文体などについての基礎知識を確認するとともに、さまざまな言語現象について、詳細に観察し、正しく分析する力を養う。英語教師として必要な英語の資質を高めることを目指す。修士論文に向けて、英語論文の適切な書き方について学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内外の論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。研究テーマに関連する調査の基本的な方法論が理解できる。 思考・判断の観点：内外の論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。研究テーマに関連する調査の妥当な方法論について考えることができる。研究テーマに関する調査の妥当な方法論や得られた結果の適切な整理の仕方について考えることができる。 関心・意欲の観点：研究テーマの位置づけについて、主体的に考えることができる。研究テーマに関する調査の計画立案について、主体的に考えることができる。研究計画の遂行について、主体的に考えることができる。 態度の観点：研究のための時間を自ら積極的に作り出すとともに、研究を進めるにあたって生じる諸問題の解決に向けて自主的に取り組むことができる。結果を科学的・客観的に捉えようとするすることができる。 技能・表現の観点：論文の内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。研究テーマに関連した調査を適切に実践できる基本的な能力を身につける。

授業の計画（全体）言語学・英語学に関わるテーマ、文法 / 文体に関するもの、社会言語学、認知言語学などの分野のテーマを取り上げる予定である。日本語と英語を対照させつつ両者の相違についても考察する。定められたテーマについて、それに関する文献を読み、レポートしてもらい、それをもとに考察・意見交換を行う。テーマによっては数回にわたって取り上げ、理解を深めたい。資料についてはその都度指示する。

成績評価方法（総合）研究テーマに対する知識・理解や思考・判断力に加え、出席、研究への熱意や努力など、態度や意欲の観点も重視する。研究計画の立案に主体的に取り組もうとしたか、速やかに実質的な研究を開始することができたかも重視する。ゼミや発表会でのプレゼンテーションなどを含めて、総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー mmatsu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	武井暁子				

授業の概要 修士論文の作成にあたり、研究テーマに関連する研究書及び論文を講読し、理解を深めるとともに、研究テーマの設定や方法論等について検討する

授業の一般目標 研究テーマに関連する研究書及び論文を精読し、比較検討する際の基本的技法を理解する。研究テーマの位置づけや方法論について、広い視野から考える姿勢を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究書と論文を講読して、その方法論や内容を理解できる。 思考・判断の観点：研究書と論文を講読して比較検討し、研究テーマやその方法論について考えることができる。 関心・意欲の観点：研究テーマの位置づけについて、広い視野から考えることができる。 技能・表現の観点：過去の研究業績をふまえ、オリジナリティのある論文が書ける

授業の計画(全体) アポイントメントによる指導 1回につき原則 60分

成績評価方法(総合) 研究テーマを決定の上、論文を2点書く

連絡先・オフィスアワー akitakei@amaguchi-u.ac.jp 面談希望はアポイントメントを取る

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	武井暁子				

授業の概要 前期に引き続き、研究テーマに関連する研究書及び論文を参考に、修士論文執筆の計画を立て、それに基づいて必要な文献を選択する

授業の一般目標 研究テーマに関連する研究及び論文の中から、修士論文に必要な文献を選択する能力を身につける

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマに関連する批評理論や研究動向が理解できる 思考・判断の観点：研究テーマに関連する批評理論や研究動向に対して独自の方法論を確立する 関心・意欲の観点：研究テーマに関連した先行研究を精読する 技能・表現の観点：独自の方法論にもとづき、オリジナリティのある論文を書ける

授業の計画(全体) アポイントメントによる指導 原則1回60分

成績評価方法(総合) 研究テーマに関連する論文を2本書く

連絡先・オフィスアワー akitakei@yamaguchi-u.ac.jp 面談希望はアポイントメントをとる

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	武井暁子				

授業の概要 研究テーマに関する文献を整備し、修士論文作成に着手する

授業の一般目標 研究テーマに関連する文献を整備し、文献リスト及びノートを作る。修士論文の章、セクション構成を検討する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：修士論文作成に必要な文献が選択できる 思考・判断の観点：論文の章、セクションの構成が考えられる 技能・表現の観点：必要な文献、論文のプランに基づいて、論文が書ける

授業の計画(全体) アポイントメントによる指導 1回につき原則 60分

連絡先・オフィスアワー akitakei@yamaguchi-u.ac.jp 面談希望はアポイントメントを取る

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	武井暁子				

授業の概要 修士論文作成の最終段階に求められる指導、助言を行う

授業の一般目標 研究テーマにそって修士論文を完成させるとともに、口頭発表の技術を習得する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究テーマに沿った論文が書ける 思考・判断の観点：文献の引用が、論文の主張をサポートするものになっているか 技能・表現の観点：論文の主張を適切な英語で表現できるか

授業の計画（全体） アポイントメントによる指導 原則1回60分

連絡先・オフィスアワー akitakei@yamaguchi-u.ac.jp 面談希望はアポイントメントを取る

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	前田満				

授業の概要 英語学についての課題研究を指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	前田満				

授業の概要 英語学についての課題研究を指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	前田満				

授業の概要 英語学についての課題研究を指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	前田満				

授業の概要 英語学についての課題研究を指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	北西功一				

授業の概要 修士論文の作成に向けて論文調査を行い、研究テーマを決定する。

授業の一般目標 文献調査を通して、当該分野における研究の現状と問題となっていることを把握し、それに基づいて自分のおこなう研究テーマを設定することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文献調査を通して、当該分野の基本的な概念や語彙が理解できるようになる。 思考・判断の観点：文献研究によって適切な研究テーマを設定できる。 関心・意欲の観点：研究テーマに関心を持って取り組む。

授業の計画（全体） 研究テーマの設定に向けて文献研究を行い、それを毎週発表する。教員とコミュニケーションを密にしながら研究テーマを決めていく。

成績評価方法（総合） 適切なテーマを設定できたかどうかに基づいて評価する。

連絡先・オフィスアワー kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	北西功一				

授業の概要 設定した研究テーマについて、必要な調査・研究をおこなう。フィールドワークが必要となる場合はその計画を立てて、フィールドに向かう。

授業の一般目標 設定したテーマを研究するにあたって準備すべきことや、研究方法を理解し実行できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 文献調査を通して、当該分野の一般的な概念や語彙が理解できるようになる。 思考・判断の観点： どのような研究方法が適切な研究方法であるかを判断できる。 関心・意欲の観点： 研究テーマに関心を持って取り組む。

授業の計画（全体） 設定した研究テーマについて文献研究をおこなうとともに、必要とあればフィールドワークをおこなう。研究方法については教員と密なコミュニケーションを持った上で決定する。

成績評価方法（総合） 適切な研究方法で研究を始めることができたかということで評価する。

連絡先・オフィスアワー kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	北西功一				

授業の概要 研究に必要な資料やデータを収集する。またその分析を始める。

授業の一般目標 研究に必要な資料やデータを収集することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：集めた資料やデータが意味することを理解できる。 思考・判断の観点：何が必要なデータであるか、さらに、それを集めるのに適切な方法はどのようなものであるかを判断できる。 関心・意欲の観点：意欲を持って研究テーマに取り組む。

授業の計画（全体） 教員と密なコミュニケーションのもと、文献やフィールドワークによって研究に必要な資料やデータを集めるとともに、その分析を開始する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	北西功一				

授業の概要 集めた資料やデータに基づいて修士論文を完成させる。

授業の一般目標 集めた資料やデータを適切な方法で分析し、それを論文の形式で書くことができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：集めた資料やデータの意味を理解し、また当該研究分野の中で位置づけできる。 思考・判断の観点：適切な方法で資料やデータを分析できる。 関心・意欲の観点：意欲を持って研究に取り組む。 技能・表現の観点：適切な方法で論文を作成できる。

授業の計画（全体）これまで集めた資料やデータに基づいて、修士論文を作成する。

成績評価方法（総合）適切なレベルの修士論文が作成できたか。

連絡先・オフィスアワー kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	小粥良				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	小粥良				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	小粥良				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	小粥良				

学校教育専攻

